一般市民を対象にした「緩和ケア」に関する認識度調査

（平成２０年度調査）

報　告　書

平成 21 年 3 月

ＮＰＯ法人 日本緩和医療学会

厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業 Orange Balloon Project」

報 告 書 目 次

Ⅰ　調査の概要 …… 1

Ⅱ-1　調査結果の概要（郵送調査用） …… 9

１　あなたご自身のことについて …… 10
（１）自分自身のがんの経験の有無 …… 10
（１）－１　一番最初にがんと診断された時期 …… 12
（１）－２　がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無 …… 13
（２）現在の通院状況 …… 14
（３）医療職・非医療職別 …… 16

２　あなたのご家族について …… 18
（１）家族の中のがん経験者の有無 …… 18
（１）－１　家族の中のがん経験者との関係 …… 20
（１）－２　家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無 … 22

３　緩和ケアについて …… 24
（１）「緩和ケア」という言葉の認知 …… 24
（１）－１「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路 …… 27
（２）「緩和ケア」を受ける時期の認識 …… 30
（３）居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知 …… 33
（３）－１　「緩和ケア」が受けられると思う場所 …… 36
（４）周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知 …… 38
（５）周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無 …… 41

４　「緩和ケア」情報について …… 44
（１）「緩和ケア」について知りたい情報 …… 44
（２）「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段 …… 48

５　医療用麻薬について …… 52
（１）がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知 …… 52
（２）医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知 …… 55
（３）医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感 …… 58

６　「オレンジバルーンプロジェクト（ Orange Balloon Project ）」 …… 61
（１）「オレンジバルーンプロジェクト」の認知 …… 61
（１）－１「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路 …… 64

７　緩和ケアの考え方やイメージについて …… 65
（１）ア　緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する …… 66
（２）イ　緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる 69

（３）ウ　緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる　‥‥　72
（４）エ　緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　75
（５）オ　緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　78
（６）カ　緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　81
（７）キ　緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない　84
（８）ク　現在の技術では、がんの痛みの９０％は薬剤によってコントロールできると言われている　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　87
（９）ケ　緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、ＱＯＬは改善すると言われている　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　90

８　「オレンジバルーンプロジェクト」に期待すること　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　93

Ⅱ-2　調査結果の概要（シンポジウム調査用）　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　97

１　あなたご自身のことについて　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　98
（１）自分自身のがんの経験の有無　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　98
（１）－１　一番最初にがんと診断された時期　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　99
（１）－２　がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　100
（２）現在の通院状況　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　101
（３）医療職・非医療職別　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　102

２　あなたのご家族について　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　103
（１）家族の中のがん経験者の有無　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　103
（１）－１　家族の中のがん経験者との関係　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　104
（１）－２　家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無　‥　105

３　緩和ケアについて　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　106
（１）「緩和ケア」という言葉の認知　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　106
（１）－１「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　107
（２）「緩和ケア」を受ける時期の認識　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　109
（３）居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　110
（３）－１　「緩和ケア」が受けられると思う場所　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　111
（４）周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　112
（５）周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　113

４　「緩和ケア」情報について　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　114
（１）「緩和ケア」について知りたい情報　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　114
（２）「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　116

５　医療用麻薬について　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　118
（１）がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　118
（２）医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　119
（３）医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　120

６　「オレンジバルーンプロジェクト（ Orange Balloon Project ）」 …… 121
（１）「オレンジバルーンプロジェクト」の認知 …… 121
（１）－１「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路 …… 122

７　緩和ケアの考え方やイメージについて …… 123
（１）ア　緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する …… 124
（２）イ　緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる 125
（３）ウ　緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる …… 126
（４）エ　緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の
協力を得て行っている …… 127
（５）オ　緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では
中毒症状を起こさない …… 128
（６）カ　緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない …… 129
（７）キ　緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない 130
（８）ク　現在の技術では、がんの痛みの９０％は薬剤によってコントロール
できると言われている …… 131
（９）ケ　緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、
ＱＯＬは改善すると言われている …… 132

８　「オレンジバルーンプロジェクト」に期待すること …… 133

Ⅲ-1　自由回答一覧（郵送調査） …… 139

Ⅲ-2　自由回答一覧（シンポジウム調査） …… 178

Ⅳ-1　調査票（郵送調査用／単純集計結果付） …… 219

Ⅳ-2　調査票（シンポジウム調査用／単純集計結果付） …… 226

Ⅴ　2008 年度メンバー紹介 …… 234

Ⅰ　調 査 の 概 要

Ⅰ　調　査　の　概　要

1　調　査　目　的

がん対策基本法の中で重点課題のひとつとしてあげられている「緩和ケアの推進」のための前段階として，一般市民の「緩和ケア」に関する認知度や意見を把握し，今後の「緩和ケア」の正しい知識普及の参考とすることを目的する。

※　一般市民の意見を幅広く収集するために，「郵送調査」と「シンポジウム調査」の２本立てで調査を実施。

2　調　査　方　法

①　郵送調査（郵送配布郵送回収法）
（住民基本台帳で閲覧した対象者に郵送で調査を実施）

②　シンポジウム調査（会場内での自記式調査）
（シンポジウム参加者に会場で調査票を配布し，対象者自身に記入してもらい会場内で回収）

3　調　査　項　目

(1) 自分のがんの経験
(2) 家族のがんの経験
(3) 緩和ケアの認知度
(4) 緩和ケアについての情報
(5) 医療用麻薬の認知
(6) オレンジバルーンプロジェクトの認知
(7) 緩和ケアの考え方やイメージ
(8) シンポジウムの感想（シンポジウム調査のみ）

※　調査票は，①郵送調査，②シンポジウム調査の両調査共通。
但し，(8)はシンポジウム調査でのみ実施。

4　調　査　対　象

①　郵送調査
(1) 調査地域　全国
(2) 調査対象　満 20 歳以上の男女個人
(3) 標 本 数　6,000 人
(4) 抽出方法　住民基本台帳に基づく層化 2 段無作為抽出法
(5) 地　　点　150 地点

②　シンポジウム調査
(1) 調査対象　「緩和ケア」シンポジウムへの参加者

5　調　査　時　期

①　郵送調査
2008 年 11 月 21 日～2009 年 1 月 12 日
調査票投函：2008 年 11 月 21 日～11 月 26 日
督促葉書投函：2008 年 12 月 1 日～12 月 5 日

②　シンポジウム調査
2008 年 10 月 26 日～2009 年 2 月 7 日
〔実施日および実施会場については、８　シンポジウム調査の概要に記載〕

6　調査実施委託機関

社団法人　新情報センター

7　回　収　結　果

①　郵送調査
有効回収数(率)　2,215 人（36.9％）
※　回収調査票が無記入のものは有効回収から除外

②　シンポジウム調査
有効回収数　947 人
※　回収調査票が無記入のものは有効回収から除外

総　数（人）	947
〔会　場　別　回　収　数〕	
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ	114
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	324
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ	172
1月 25日 東京国際交流館	198
2月 7 日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	139

8　シンポジウム調査の概要

全て、厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業」Orange Balloon Project によるジンポジウムの中でアンケート調査を実施した。

1＜ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名＞　ＣＮＪがん医療セミナー
もっと知ってほしい「緩和ケア」のこと
－もう、体と心の痛みはがまんしないで－
＜開 催 日 程＞ 2008 年 10 月 26 日（日）13:00～
＜会　　場＞ 東京ウィメンズプラザホール（東京都）
＜主 な 内 容＞ 特別セッション、アンケート調査実施
＜来 場 者 数＞ １６０名（うち、調査票回収数は１１４票）

2＜ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名＞　日本対がん協会 50 周年記念シンポジウム
～みんなでがんと向き合おう～
＜開 催 日 程＞ 2008 年 11 月 9 日（日）13:30～16:00
＜会　　場＞ 東京ビッグサイト　７階国際会議場（東京都）
＜主 な 内 容＞ 参加者への普及啓発、アンケート調査実施
＜来 場 者 数＞ 一般参加６５６名（うち、調査票回収数は３２４票）

3＜ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名＞　市民公開シンポジウム　がんになったら「緩和ケア」
＜開 催 日 程＞ 2008 年 12 月 21 日（日）13:00～16:30
＜会　　場＞ 神戸ハーバーランドスペースシアター（兵庫県）
＜主 な 内 容＞ シンポジウム実施、一般市民への普及啓発、アンケート調査実施、風船配布（約 1000 個）
＜来 場 者 数＞ 一般参加３００名（うち、調査票回収数は１７２票）

4＜ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名＞　市民公開シンポジウム　がんになったら「緩和ケア」
＜開 催 日 程＞ 2009 年 1 月 25 日（日）13:00～16:30
＜会　　場＞ 東京国際交流館　３階国際交流会議場（東京都）
＜主 な 内 容＞ シンポジウム実施、一般市民への普及啓発、アンケート調査実施
＜来 場 者 数＞ 一般参加２２６名（事前応募３６３名）
（うち、調査票回収数は１９８票）

5＜ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名＞　第 23 回日本がん看護学会学術集会市民公開講座
～国民の視点に立ったがん医療・がん看護を考える～
＜開 催 日 程＞ 2009 年 2 月 7 日（土）18:00～19:30
＜会　　場＞ 沖縄コンベンションセンター（沖縄県）
＜主 な 内 容＞ シンポジウム実施、一般市民への普及啓発、アンケート調査実施
＜来 場 者 数＞ 一般参加１４２名（うち、調査票回収数は１３９票）

9　調査対象者の基本属性

①郵送調査

（１）年　齢

	総数	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	無回答
総　数　（人）	2215	180	328	362	435	491	400	19
構成比　（%）	100.0	8.1	14.8	16.3	19.6	22.2	18.1	0.9

（２）性　別

	総数	男性	女性	無回答
総　数　（人）	2215	964	1240	11
構成比　（%）	100.0	43.5	56.0	0.5

（３）性×年齢

	総数	男性 ２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	
総　数　（人）	2215	79	134	156	196	215	180	
構成比　（%）	100.0	3.6	6.0	7.0	8.8	9.7	8.1	
		女性 ２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	無回答
		101	194	206	239	276	218	21
		4.6	8.8	9.3	10.8	12.5	9.8	0.9

（４）居住地

	総数	北海道・東北	関東	中部・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	無回答
総　数　（人）	2215	275	678	418	367	229	227	21
構成比　（%）	100.0	12.4	30.6	18.9	16.6	10.3	10.2	0.9

①シンポジウム調査

（１）年　齢

	総数	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	無回答
総　数　（人）	947	2	93	169	176	156	188	124	39
構成比　（%）	100.0	0.2	9.8	17.8	18.6	16.5	19.9	13.1	4.1

（２）性　別

	総数	男性	女性	無回答
総　数　（人）	947	369	564	14
構成比　（%）	100.0	39.0	59.6	1.5

（３）性×年齢

	総数	男性 １０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	
総　数　（人）	947	1	26	71	41	44	94	85	
構成比　（%）	100.0	0.1	2.7	7.5	4.3	4.6	9.9	9.0	
		女性 １０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	無回答
		1	67	98	135	112	94	39	39
		0.1	7.1	10.3	14.3	11.8	9.9	4.1	4.1

（４）居住地

	総数	北海道・東北	関東	中部・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	無回答
総　数　（人）	947	18	594	36	170	15	94	20
構成比　（%）	100.0	1.9	62.7	3.8	18.0	1.6	9.9	2.1

（５）会場別

	総　数	10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ	11月9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	12月21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ	1月25日 東京国際交流館	2月 7 日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ
総　数　（人）	947	114	324	172	198	139
構成比　（%）	100.0	12.0	34.2	18.2	20.9	14.7

10　本報告書を読む際の注意

- 図表類の単位は％で，数表は横に足して合計となる。
  ％の合計数字の表示は省略している。
- ｎは回答者人数の合計（無回答も含む）。ｎの最大は，全員に質問したときは，郵送調査で 2215，シンポジウム調査で 947 である。一部の者に質問したとき（補問）や，分析の軸（＝表側）では，その都度個別にｎを表示している。
- ％数字は，原則として小数点以下第２位を四捨五入して小数点以下第１位まで算出。そのため，合計の数字が 100％ちょうどにならない場合もある。
- 複数回答（○はいくつでも）を認める質問の％数字は，その質問に回答すべきｎ全員を 100％として，選択肢（カテゴリー）ごとに個別に算出して％表示。従って，合計は 100％以上となる。
- 統計図表等に用いた符号は次のとおりである。
  －：回答者がいないもの
- （郵送調査に関して）調査結果には，統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。各回答の標本誤差は，各質問での回答者総数（ｎ）と各選択肢の回答率によって異なる。
  今回の母集団人口から層化二段無作為抽出として調査した場合の回答結果について，95％以上信頼できる統計的な誤差率の幅は，概略下表のとおり。
  （誤差にはその他に，回答者の回答ミスなど計算できない非標本誤差もある。）

ｎ ＼ 各回答の比率	10％（又は 90％）	20％（又は 80％）	30％（又は 70％）	40％（又は 60％）	50％
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.6
1,500	±1.5	±2.1	±2.4	±2.5	±2.2
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
100	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

見方例　‥‥　クロス表で，分析の軸（＝表側）に表示された，あるグループの回答者総数が 1,000 人で，そのうちある選択肢の回答率が 90％なら，その回答率の標本誤差の範囲は＋1.9 から－1.9％までの間であり，母集団での真実の値は，90％の可能性を最高に，かなりずれたとしても 91.9％から 88.1％の間におさまる。

- 調査結果の分析においては，全体平均と比べ，統計的に有意差のあるものを中心にふれている。なお，誤差を考慮し，ｎが 50 未満のものについてはふれていない場合がある。

11　本調査で用いた地域ブロック区分は次のとおりである。

	都道府県
北海道・東北	北海道
	青森
	岩手
	宮城
	秋田
	山形
	福島
関東	茨城
	栃木
	群馬
	埼玉
	千葉
	東京
	神奈川
中部・北陸	新潟
	富山
	石川
	福井
	山梨
	長野
	岐阜
	静岡
	愛知

	都道府県
近畿	三重
	滋賀
	京都
	大阪
	兵庫
	奈良
	和歌山
中国・四国	鳥取
	島根
	岡山
	広島
	山口
	徳島
	香川
	愛媛
	高知
九州・沖縄	福岡
	佐賀
	長崎
	熊本
	大分
	宮崎
	鹿児島
	沖縄

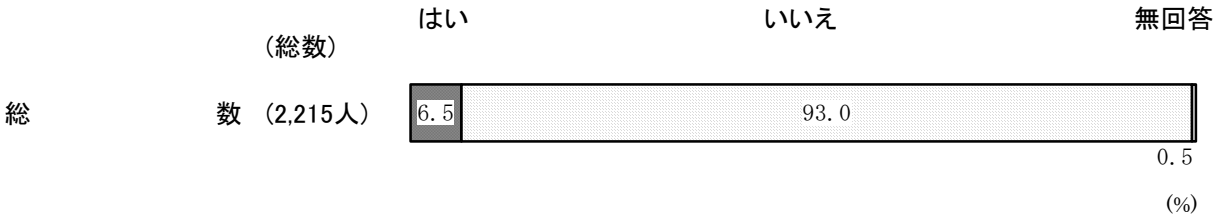
Ⅱ　調 査 結 果 の 概 要

（郵 送 調 査 用）

１　あなたご自身のことについて

（１）自分自身のがんの経験の有無

問１－４　あなたは、がんを経験されたことはありますか。（**○は１つ**）



がんの経験があるかをきいたところ、「はい」が 6.5%となっている。

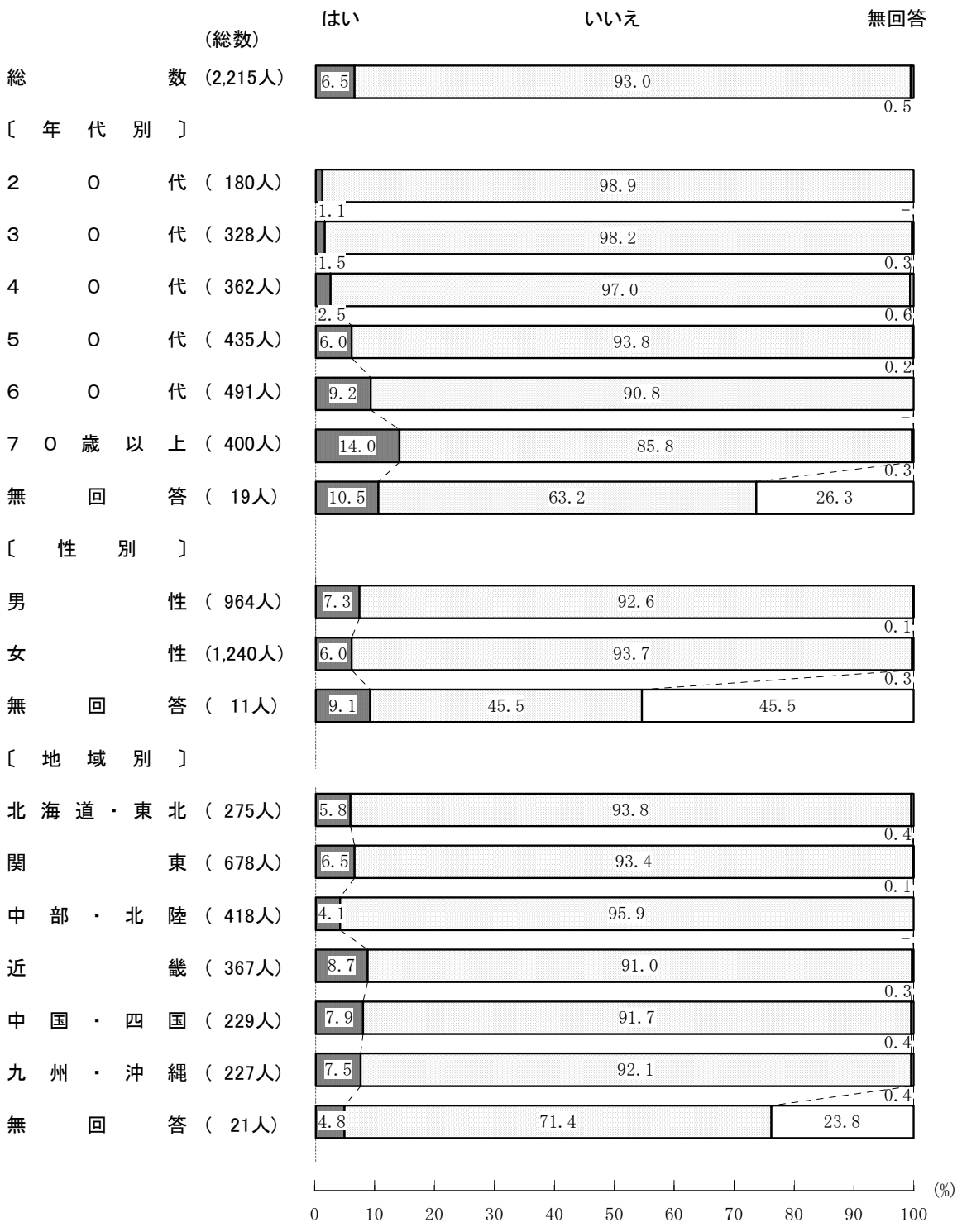
年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、60 代（9.2%）、70 歳以上（14.0%）で高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「はい」が中部・北陸（4.1%）でやや低くなっている。

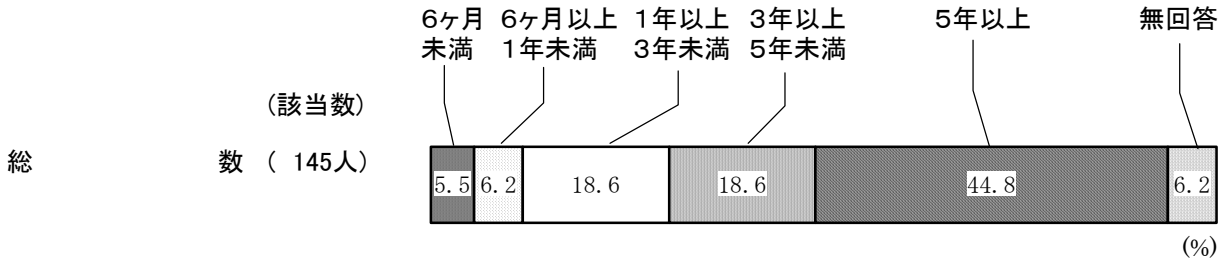
＜図１－４＞

図１－４　自分自身のがんの経験の有無



（１）－１　一番最初にがんと診断された時期

問１－４　補問１　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）
一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。（○は１つ）

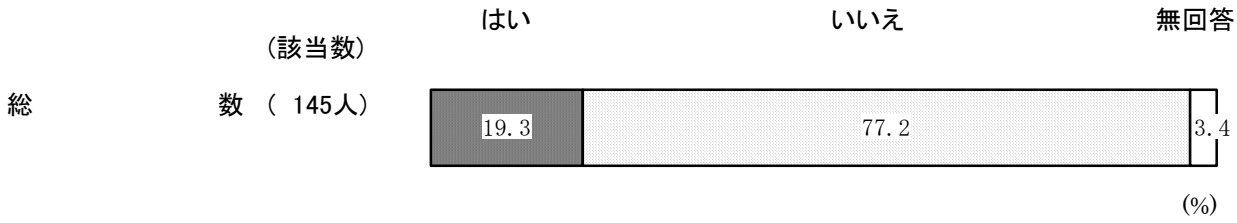


がんの経験があると答えた者（145 人）に、一番最初にがんと診断されたのは今からどの位前になるかをきいたところ、「６ヶ月未満」（5.5%）と「６ヶ月以上１年未満」（6.2%）を合わせた“１年未満”が（11.7%）１割強となっている。「１年以上３年未満」が 18.6%、「３年以上５年未満」が 18.6%、「５年以上」が 44.8%となっている。

※　サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

（１）－２　がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問１－４　補問２　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）
あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。
（○は１つ）

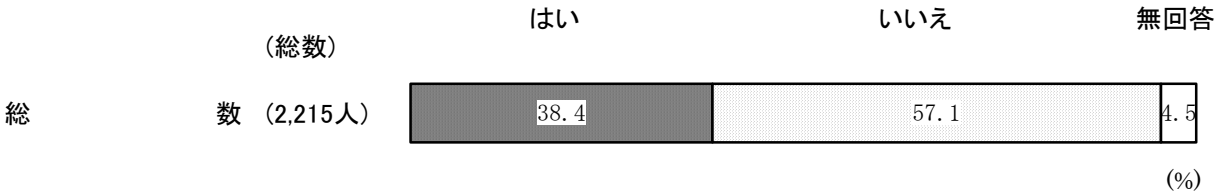


がんの経験があると答えた者（145 人）に、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が 19.3%、「いいえ」が 77.2%となっている。

※　サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

（２）現在の通院状況

問１－５　あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。
（○は１つ）



現在、がん以外の何らかの病気で通院しているかをきいたところ、「はい」が 38.4%、「いいえ」が 57.1%となっている。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、60 代（56.0%）、70 歳以上（64.5%）で過半数を占めている。

性別では差はみられない。

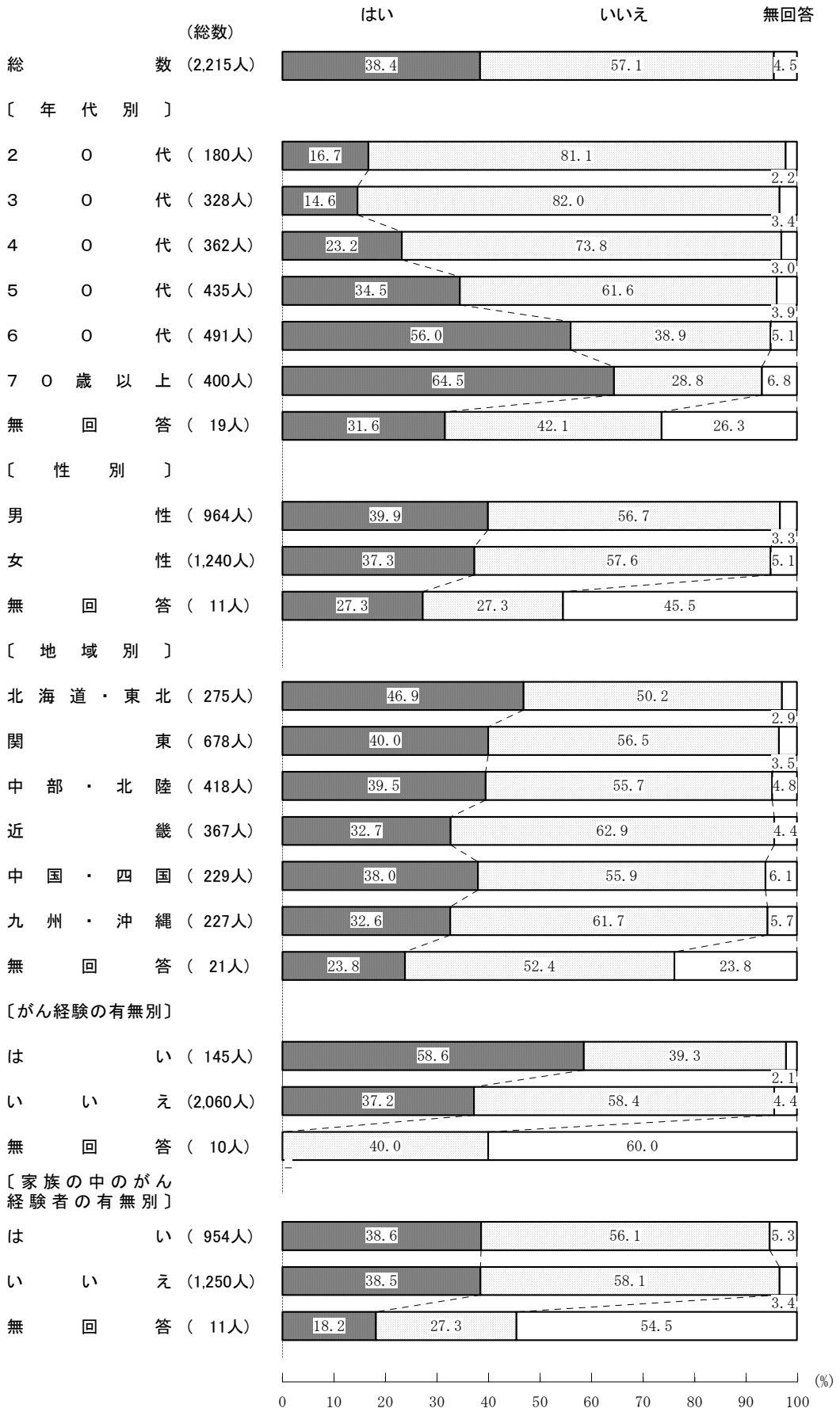
地域別にみると、「はい」が北海道・東北（46.9%）で最も高く、近畿（32.7%）と九州・沖縄（32.6%）で最も低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」（58.6%）が過半数となっている。

家族の中のがん経験者では差はみられない。

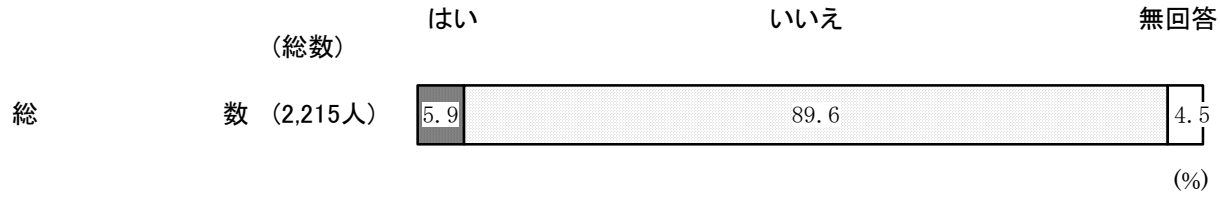
＜図１－５＞

図１－５　現在の通院状況


はい
いいえ
無回答
（総数）
総数 (2,215人)
38.4
57.1
4.5
〔年代別〕
２０代 (180人)
16.7
81.1
2.2
３０代 (328人)
14.6
82.0
3.4
４０代 (362人)
23.2
73.8
3.0
５０代 (435人)
34.5
61.6
3.9
６０代 (491人)
56.0
38.9
5.1
７０歳以上 (400人)
64.5
28.8
6.8
無回答 (19人)
31.6
42.1
26.3
〔性別〕
男性 (964人)
39.9
56.7
3.3
女性 (1,240人)
37.3
57.6
5.1
無回答 (11人)
27.3
27.3
45.5
〔地域別〕
北海道・東北 (275人)
46.9
50.2
2.9
関東 (678人)
40.0
56.5
3.5
中部・北陸 (418人)
39.5
55.7
4.8
近畿 (367人)
32.7
62.9
4.4
中国・四国 (229人)
38.0
55.9
6.1
九州・沖縄 (227人)
32.6
61.7
5.7
無回答 (21人)
23.8
52.4
23.8
〔がん経験の有無別〕
はい (145人)
58.6
39.3
2.1
いいえ (2,060人)
37.2
58.4
4.4
無回答 (10人)
40.0
60.0
〔家族の中のがん経験者の有無別〕
はい (954人)
38.6
56.1
5.3
いいえ (1,250人)
38.5
58.1
3.4
無回答 (11人)
18.2
27.3
54.5
(%)
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
100

（３）医療職・非医療職別

問１－６　あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。（**○は１つ**）

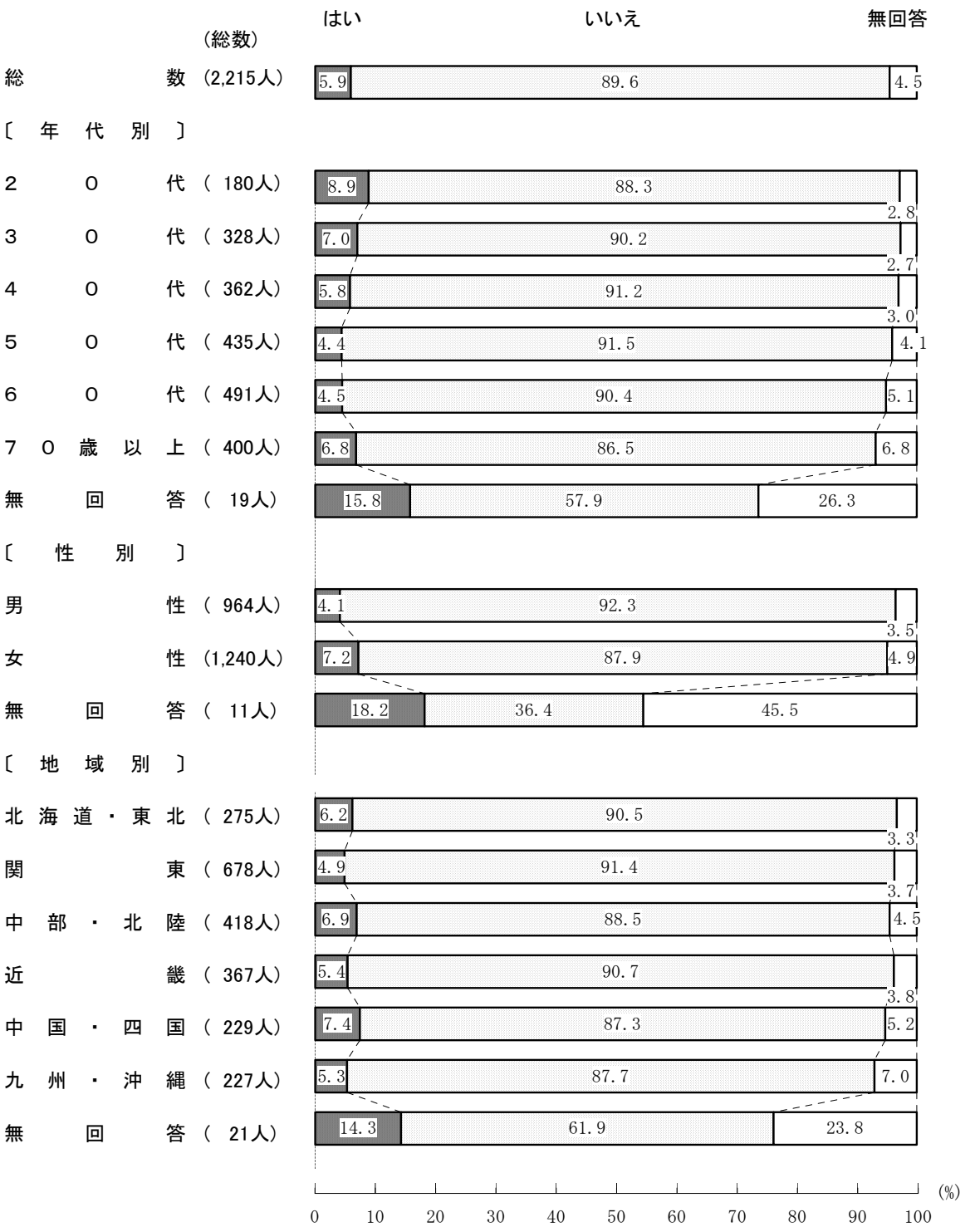


現在、医療職（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）に就いているかをきいたところ、「はい」が 5.9%である。

「はい」の割合は、年代別では大きな差はみられないが、性別にみると、女性（7.2%）が男性（4.1%）を 3.1 ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。　＜図１－６＞

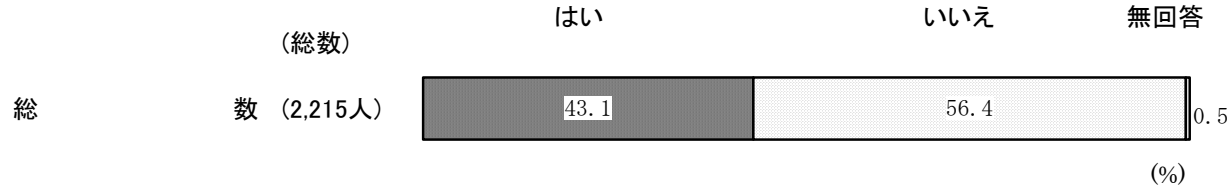
図１－６　医療職・非医療職別



２　あなたのご家族について

（１）家族の中のがん経験者の有無

問２－１　あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。（**○は１つ**）

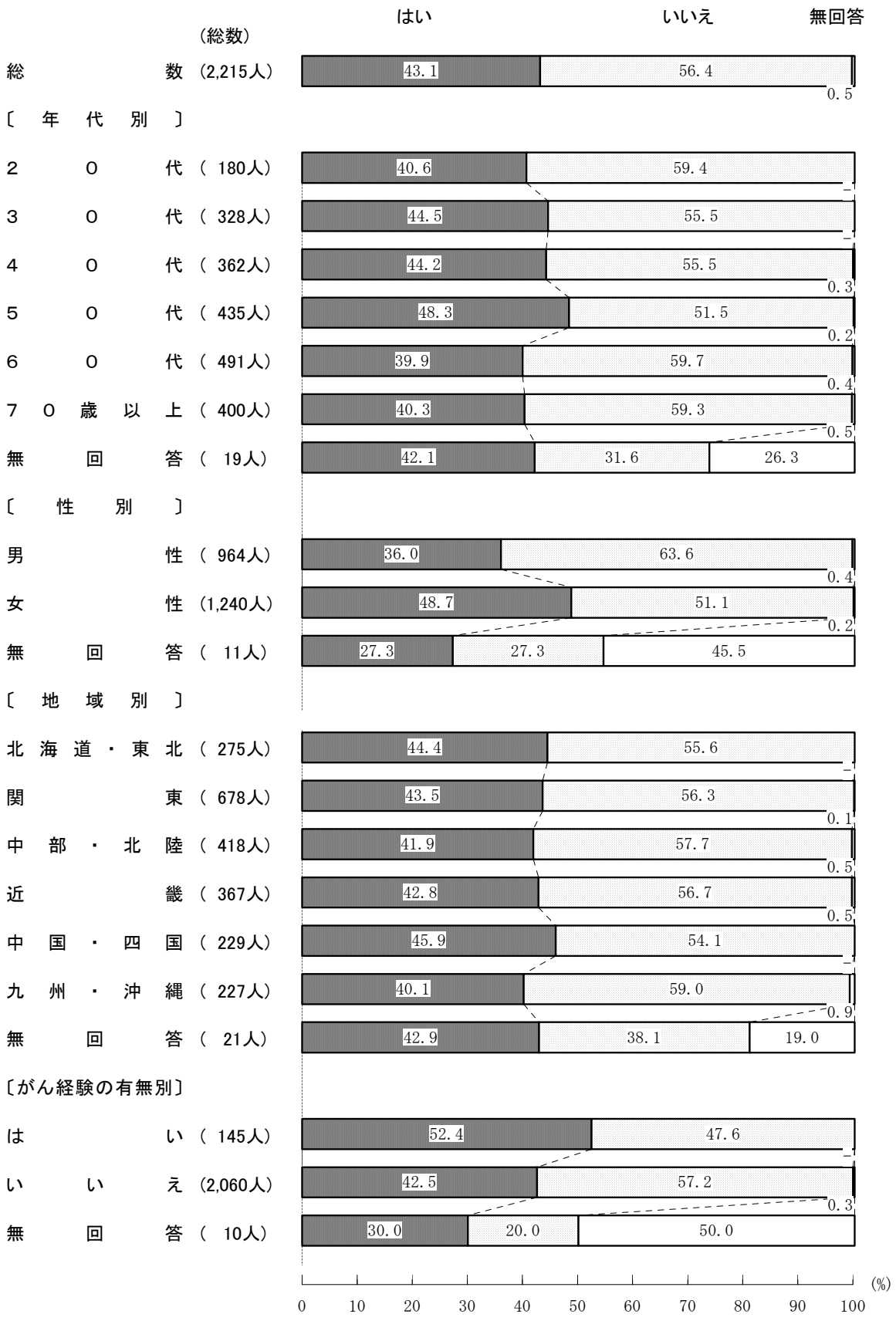


家族の中にがんの経験者がいるかをきいたところ、「はい」が 43.1%、「いいえ」が 56.4%となっている。

年代別にみると、「はい」が 50 代（48.3%）でやや高くなっている。
性別にみると、「はい」は女性（48.7%）が男性（36.0%）より 12.7 ポイント高くなっている。
地域別では差はみられない。
がん経験者に限定してみると、「はい」が 52.4%とほぼ半数を占めている。

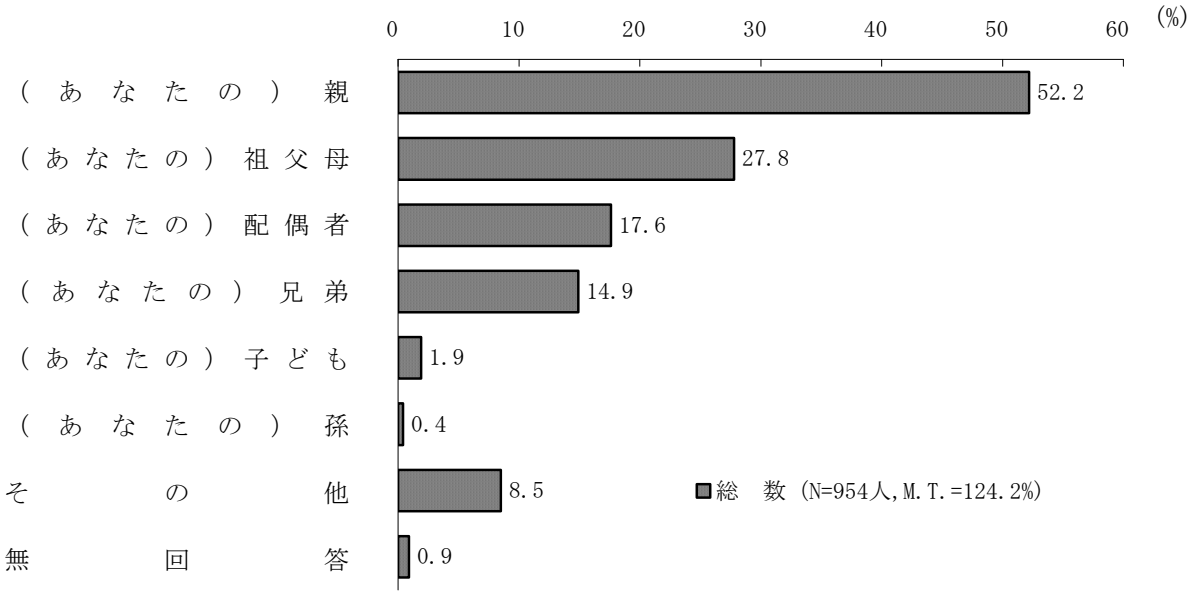
＜図２－１＞

図２－１　家族の中のがん経験者の有無



（1）－1　家族の中のがん経験者との関係

問２－１　補問１　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）
あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
（○はいくつでも）



家族の中にがんの経験者がいると答えた者（954 人）に、その人との関係をきいたところ、「(あなたの）親」が 52.2%と最も高く、以下、「(あなたの）祖父母」(27.8%)、「(あなたの）配偶者」(17.6%)、「(あなたの）兄弟」(14.9%)、「(あなたの）子ども」(1.9%)、「(あなたの）孫」(0.4%）の順となっている。

年代別にみると、「親」が 40 代（70.6%)、50 代（66.7%）で、「祖父母」が 20 代（75.3%)、30 代（59.6%）で、「配偶者」が 70 歳以上（51.6%）で、「兄弟」が 60 代（29.6%)、70 歳以上（27.3%）で、それぞれ高くなっている。

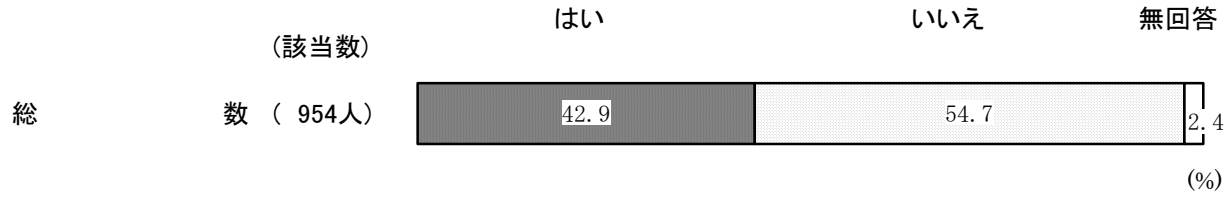
性別、地域別ともに差はみられない。　＜表２－１－１＞

表２－１－１　家族の中のがん経験者との関係

	該当数	（あなたの）親	（あなたの）祖父母	（あなたの）配偶者	（あなたの）兄弟	（あなたの）子ども	（あなたの）孫	その他	無回答	回答計
総　　数	954	52.2	27.8	17.6	14.9	1.9	0.4	8.5	0.9	124.2
問１－１〔年代別〕										
２０代	73	30.1	75.3	－	1.4	－	－	5.5	－	112.3
３０代	146	44.5	59.6	3.4	2.7	0.7	－	6.8	0.7	118.5
４０代	160	70.6	33.8	3.1	5.0	－	0.6	10.0	－	123.1
５０代	210	66.7	21.4	10.5	12.9	－	－	11.4	1.9	124.8
６０代	196	53.1	7.7	25.5	29.6	2.0	－	9.2	1.0	128.1
７０歳以上	161	32.3	4.3	51.6	27.3	8.1	1.9	5.0	1.2	131.7
無回答	8	25.0	25.0	37.5	－	－	－	12.5	－	100.0
問１－２〔性別〕										
男性	347	54.2	24.8	14.4	13.5	2.0	0.6	6.6	0.9	117.0
女性	604	51.3	29.5	19.2	15.7	1.8	0.3	9.6	1.0	128.5
無回答	3	－	33.3	66.7	－	－	－	－	－	100.0
問１－３〔地域別〕										
北海道・東北	122	50.0	30.3	13.9	16.4	1.6	－	13.1	2.5	127.9
関東	295	52.5	26.8	16.9	16.9	1.0	0.3	6.4	1.7	122.7
中部・北陸	175	53.1	30.9	17.1	13.7	1.7	－	9.7	－	126.3
近畿	157	50.3	27.4	21.7	10.8	1.9	－	9.6	－	121.7
中国・四国	105	51.4	32.4	20.0	10.5	1.9	1.0	6.7	－	123.8
九州・沖縄	91	57.1	18.7	15.4	17.6	5.5	2.2	7.7	1.1	125.3
外国	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.0
無回答	9	44.4	11.1	22.2	44.4	－	－	－	－	122.2

（１）－２　家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問２－１　補問２　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）
ご家族の方で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。
（○は１つ）



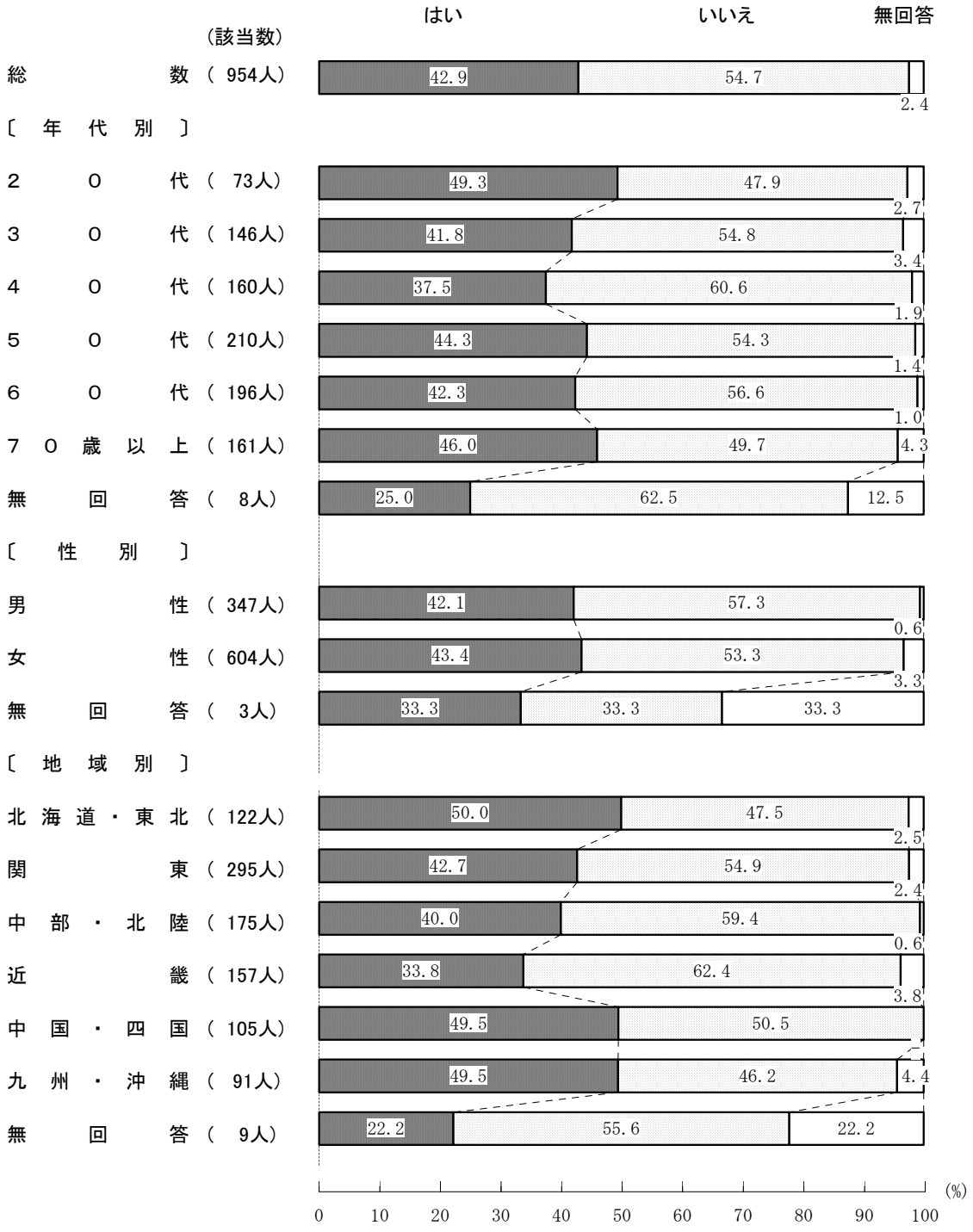
家族の中にがんの経験者がいると答えた者（954 人）に、その家族の人が、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が 42.9%、「いいえ」が 54.7%となっている。

自分自身ががんの経験があると答えた者（145 人）では、「はい（自分は受けたことがある）」の割合が 19.3%であるので、それに比べると、家族の中のがん経験者は「はい（家族は受けたことがある）」の割合が倍以上高くなっている。

年代別、性別ともに差はみられない。

地域別にみると、「はい」が近畿（33.8%）でやや低くなっている。　　＜図２－１－２＞

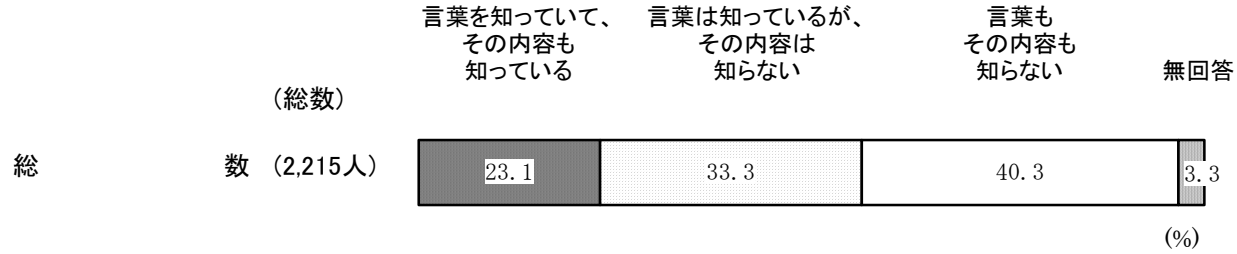
図２－１－２　家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無



３　緩和ケアについて

（１）「緩和ケア」という言葉の認知

問３－１　「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は１つ）



緩和ケアという言葉を知っているかをきいたところ、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が 23.1%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が 33.3%、「言葉もその内容も知らない」が 40.3%となっている。

年代別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」では差はみられない。一方、「言葉もその内容も知らない」が　20 代（52.2%）、30 代（47.3%）で高くなっている。

性別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が女性（27.2%）で高く、「言葉もその内容も知らない」が男性（50.1%）で高くなっている。

地域別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」では差はみられない。一方、「言葉もその内容も知らない」が中国・四国（31.0%）で、やや低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が 26.2%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が 40.7%、「言葉もその内容も知らない」が 29.0%で、“言葉を知っている”人の割合が高くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が 29.7%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が 36.9%、「言葉もその内容も知らない」が 31.1%で、“言葉を知っている”人の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が 28.8%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が 35.1%、「言葉もその内容も知らない」が 32.6%で、“言葉を知っている”人の割合が高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が 56.0%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が 22.7%、「言葉もその内容も知らない」が 10.7%で、“言葉を知っている”人の割合が全体平均よりかなり高くなっている。

＜図３－１（１）、図３－１（２）＞

図３－１（１）　「緩和ケア」という言葉の認知

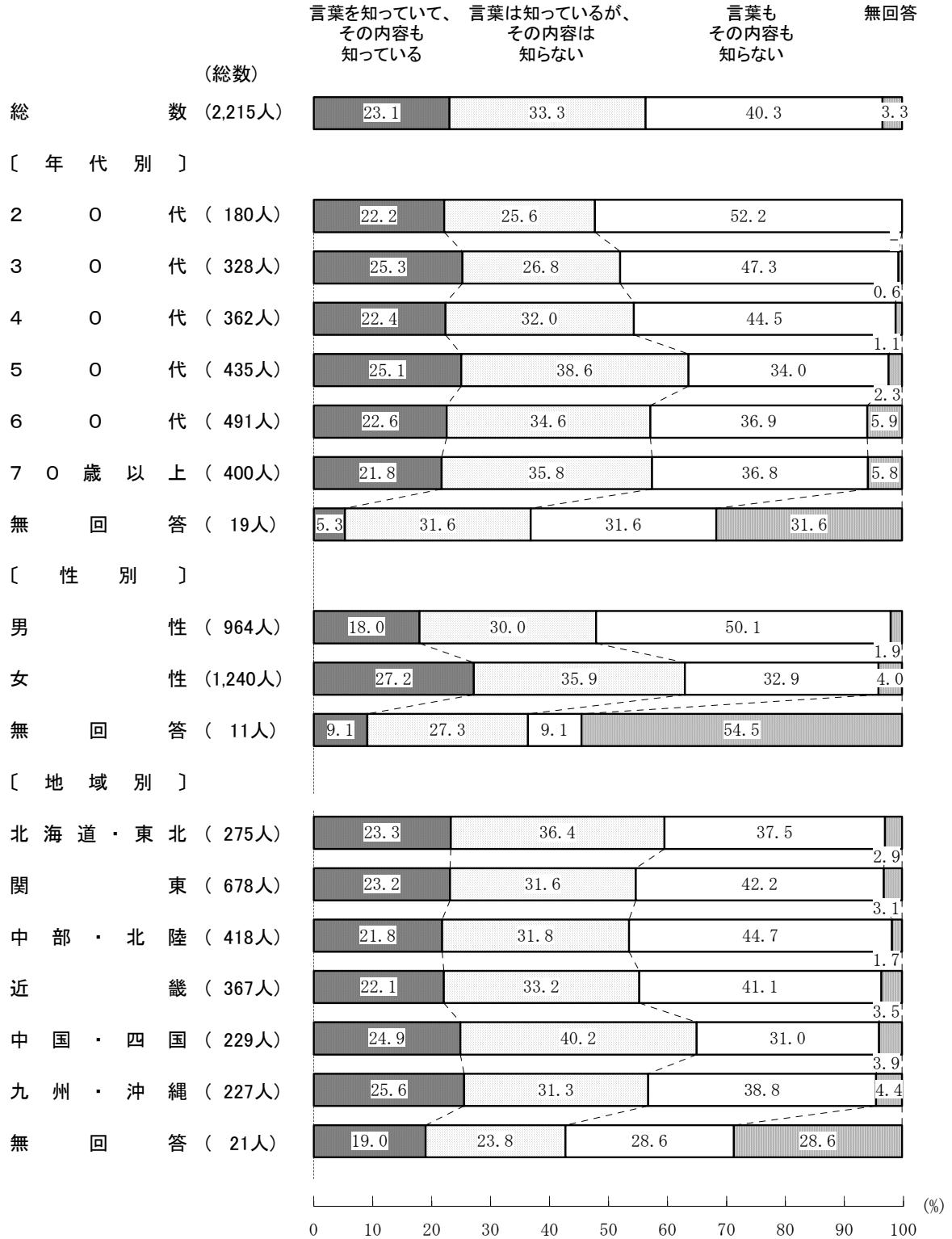
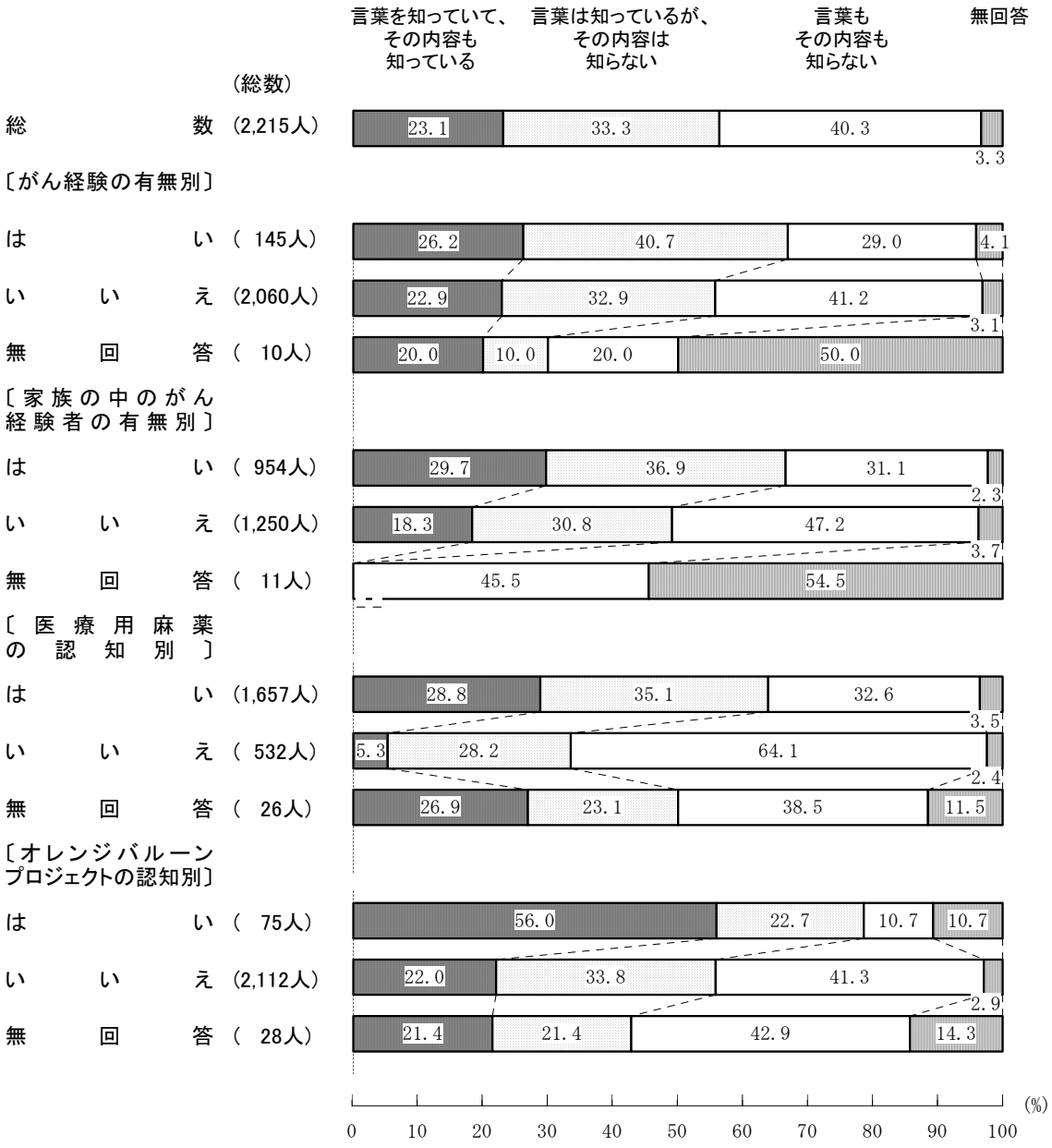


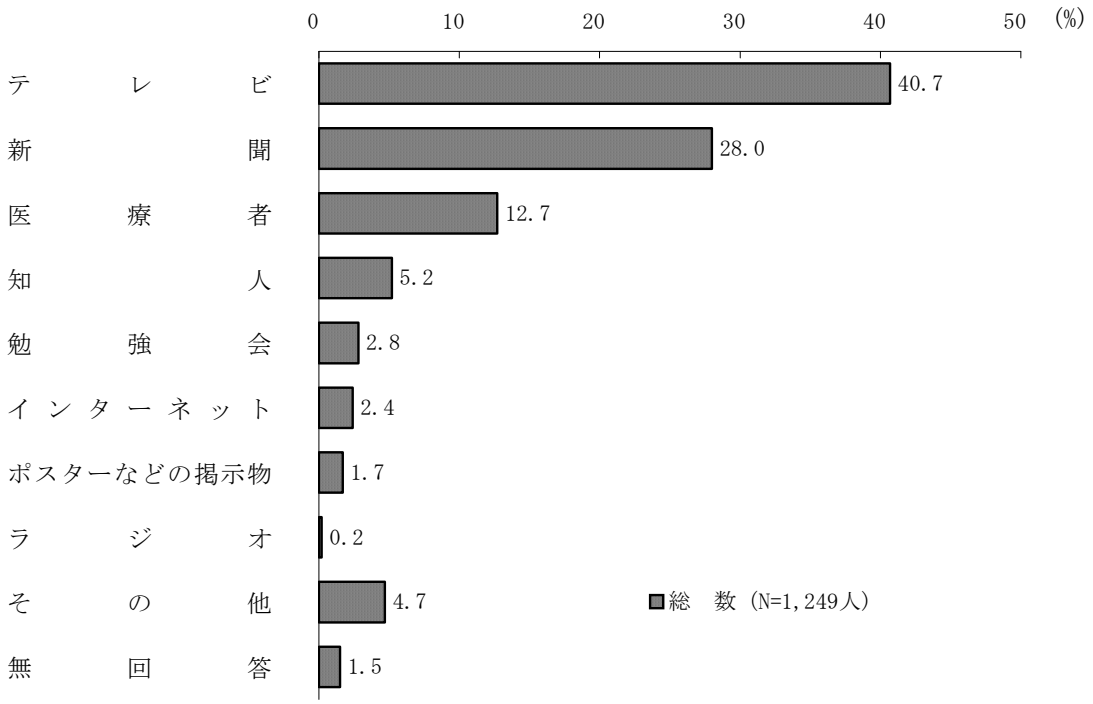
図３－１（２）　「緩和ケア」という言葉の認知



（1）－1「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

問３－１　補問１　（問３－１で１「言葉を知っていて、その内容も知っている」、２「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に）

「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになられましたか。（**○は１つ**）



緩和ケアという言葉を知っていると答えた者（1249 人）に、最初に何で知ったかをきいたところ、「テレビ」が 40.7%と最も高く、次いで「新聞」が 28.0%であげられている。以下は、「医療者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）」（12.7%）、「知人」（5.2%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（2.8%）などの順となっている。

年代別にみると、すべての年代で「テレビ」が最も高い割合を占めている。40 代以上では、次いで「新聞」が高いが、20 代、30 代では「新聞」と「医療者」の割合が拮抗している。また、20 代では「インターネット」（8.1%）が比較的高い。

性別では差はみられない。

地域別にみると、すべての地域で「テレビ」が最も高い割合を占めている。中国・四国では、次いで「医療者」（22.8%）が高いが、それ以外の地域では「新聞」が２番目にあげられている。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「テレビ」、「新聞」、「医療者」、「知人」という順位に変動はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人は医療者（23.4%）の割合が高く、“その内容は知らない”人は「テレビ」（49.4%）や「新聞」（30.1%）の割合が高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「医療者（28.8%）」が最も高い割合を占めている。　＜図３－１－１（１）、図３－１－１（２）＞

図３－１－１（１）　「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

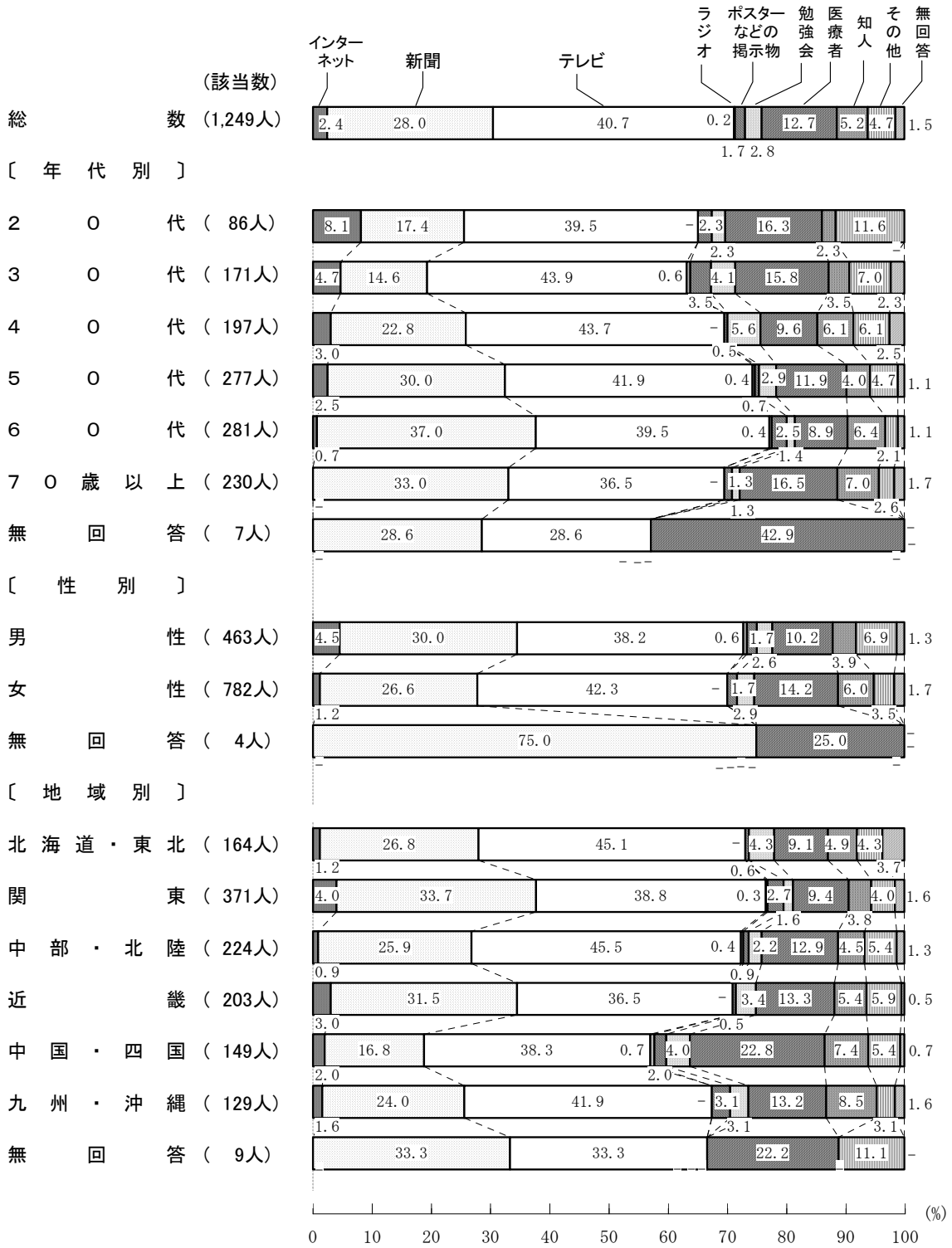
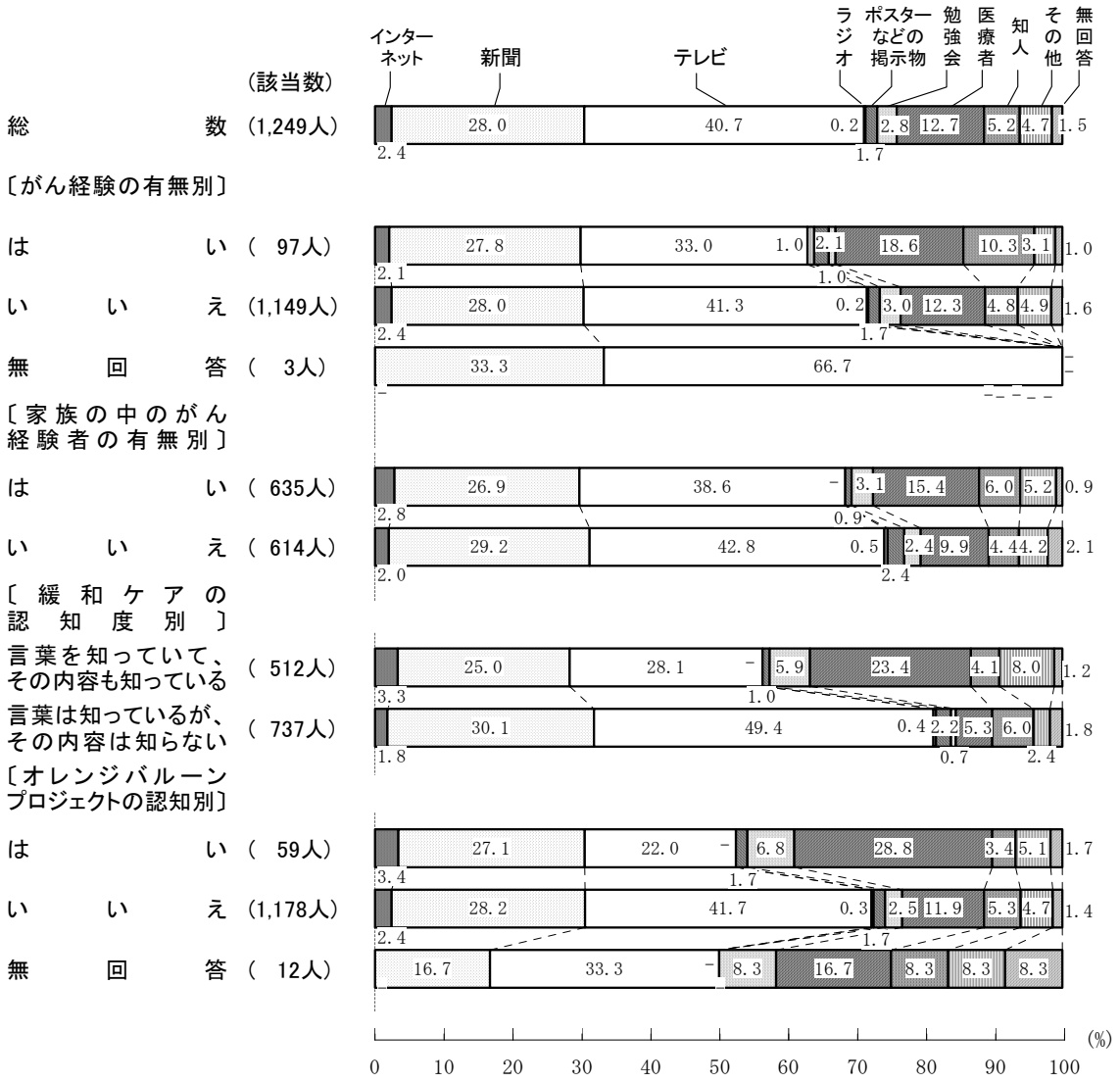
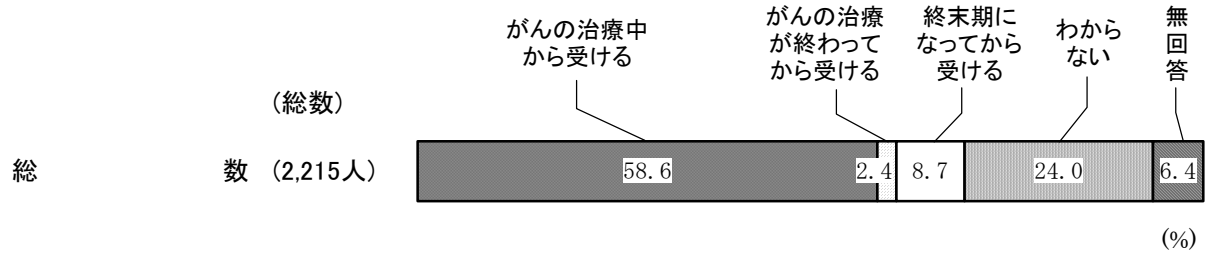


図３－１－１（２）　「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路



（２）「緩和ケア」を受ける時期の認識

問３－２　「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。
「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（**○は１つ**）



緩和ケアを受ける時期についてどのように考えるかをきいたところ、「がんの治療中から受ける」（58.6%）が最も高く、ほぼ６割を占めている。「がんの治療が終わってから受ける」が 2.4%、「終末期になってから受ける」が 8.7%である。また、「わからない」が 24.0%で、「無回答」（6.4%）と合わせると約３割となっている。

年代別にみると、「がんの治療中から受ける」が 30 代（70.7%）と 40 代（73.8%）で７割台、20 代（66.7%）と 50 代（62.5%）で６割台を占めて高くなっている。

性別にみると、「がんの治療中から受ける」は女性（62.6%）が男性（53.4%）を 9.2 ポイント上回っている。

地域別にみると、いずれの地域でも「がんの治療中から受ける」が過半数を占めて高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が全体平均より約 10 ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が 64.5%を占めて高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「がんの治療中から受ける」と「終末期になってから受ける」の割合がともに高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が 62.9%を占めて高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」の認知別ではほとんど差はみられない。

＜図３－２（１）、図３－２（２）＞

図３－２（１）　「緩和ケア」を受ける時期の認識

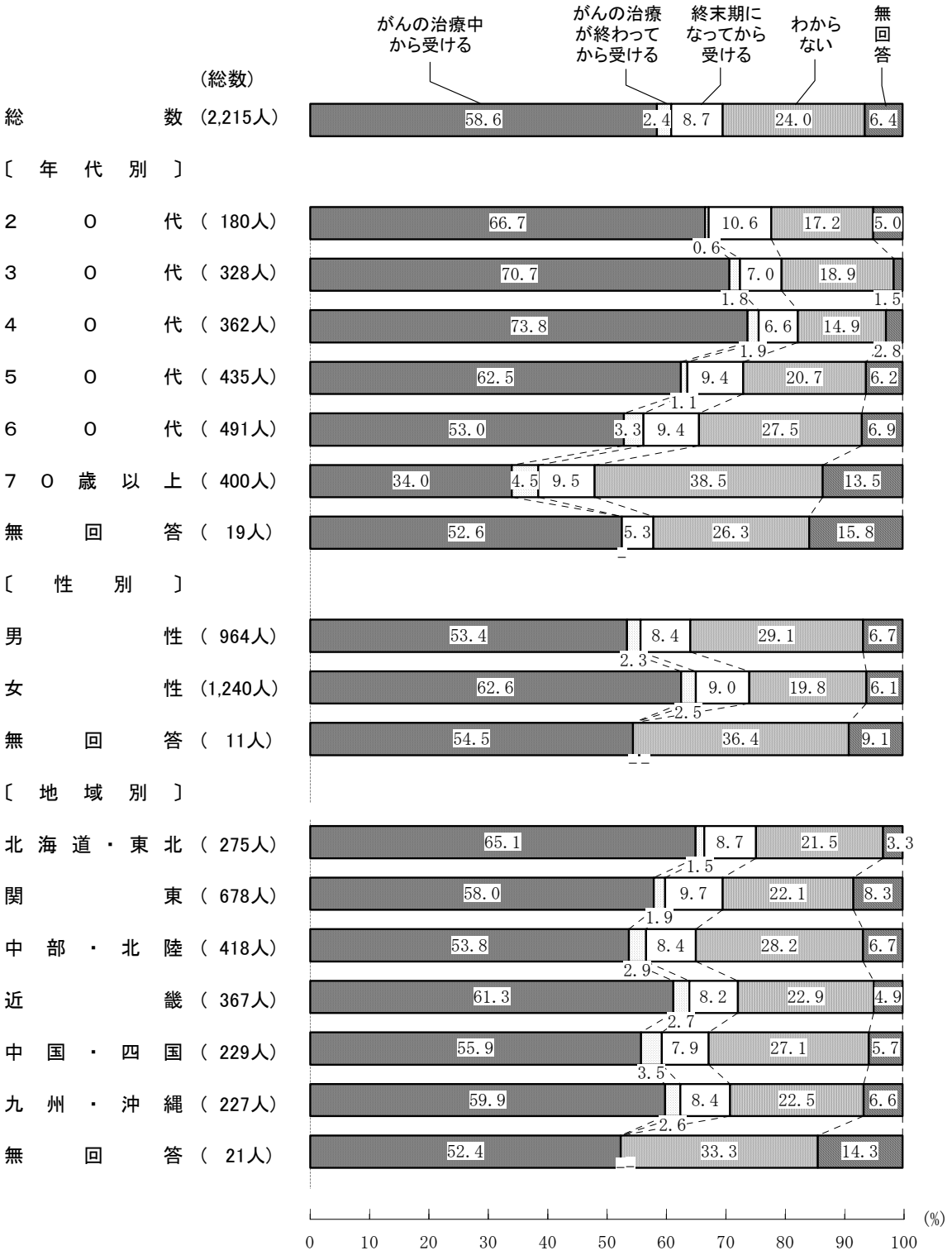
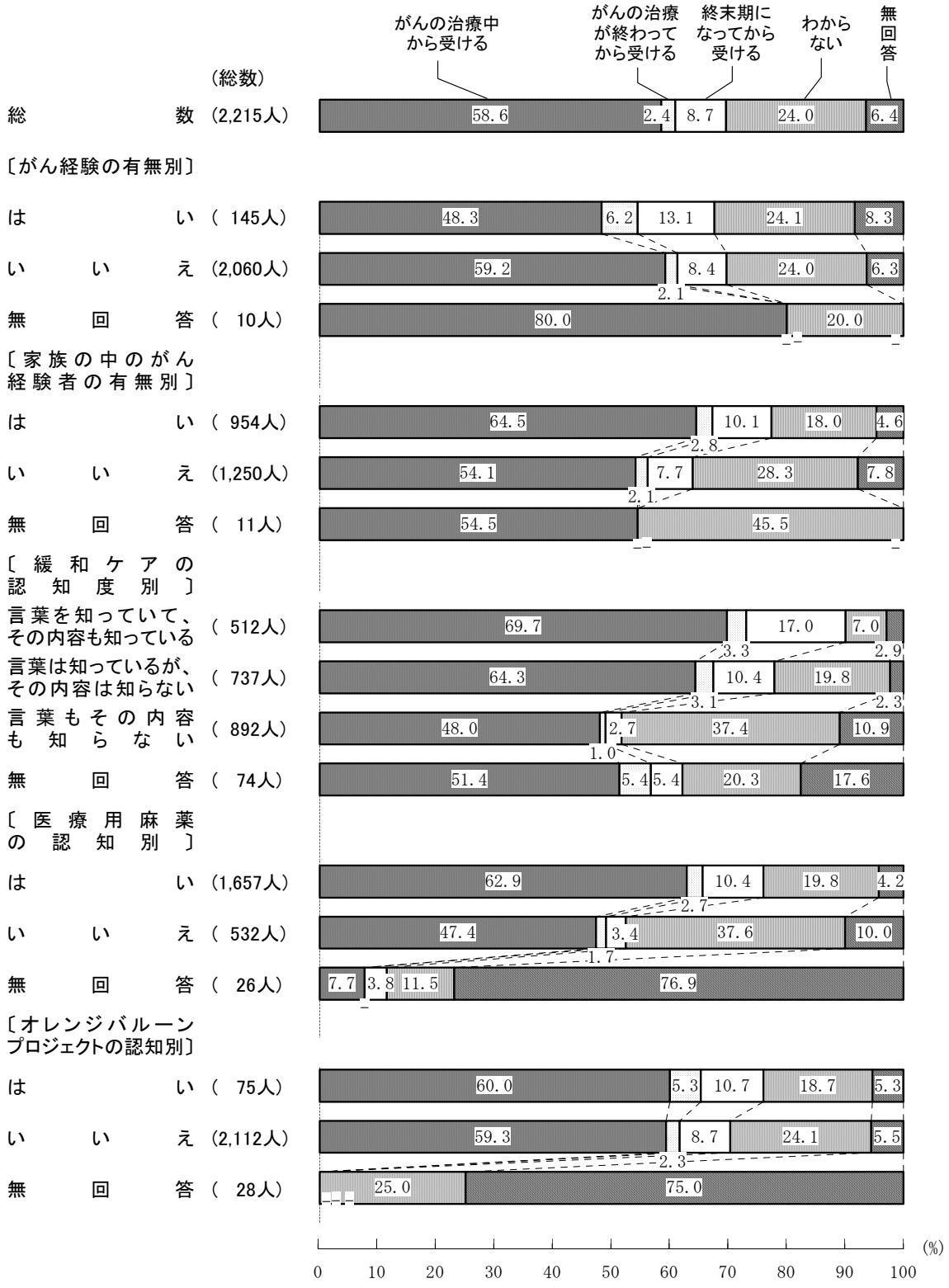
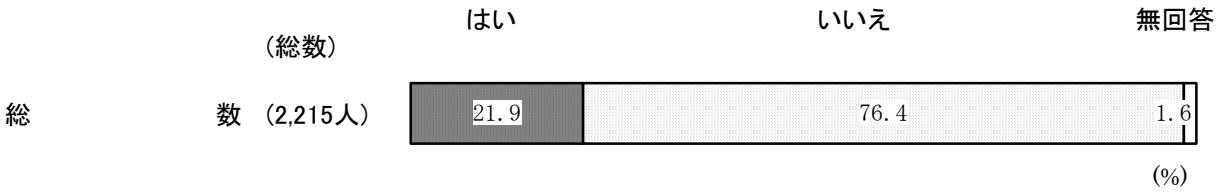


図３－２（２）　「緩和ケア」を受ける時期の認識



（３）居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

問３－３　お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。（**○は１つ**）



居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っているかをきいたところ、「はい」が 21.9%とほぼ２割台を占めている。

年代別にみると、「はい」が 70 歳以上（26.3%）で最も高い。

性別にみると、「はい」は女性（24.1%）が男性（18.9%）を 5.2 ポイント上回っている。

地域別にみると、「はい」が中国・四国（26.6%）や九州・沖縄（26.4%）で他の地域よりやや高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」が 27.6%である。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が 28.3%でほぼ３割を占めている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、“その内容も知っている”人では 52.9%と５割を占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が 25.7%と全体平均よりやや高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が 69.3%と高くなっている。　＜図３－３（１）、図３－３（２）＞

図３－３（１）　居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

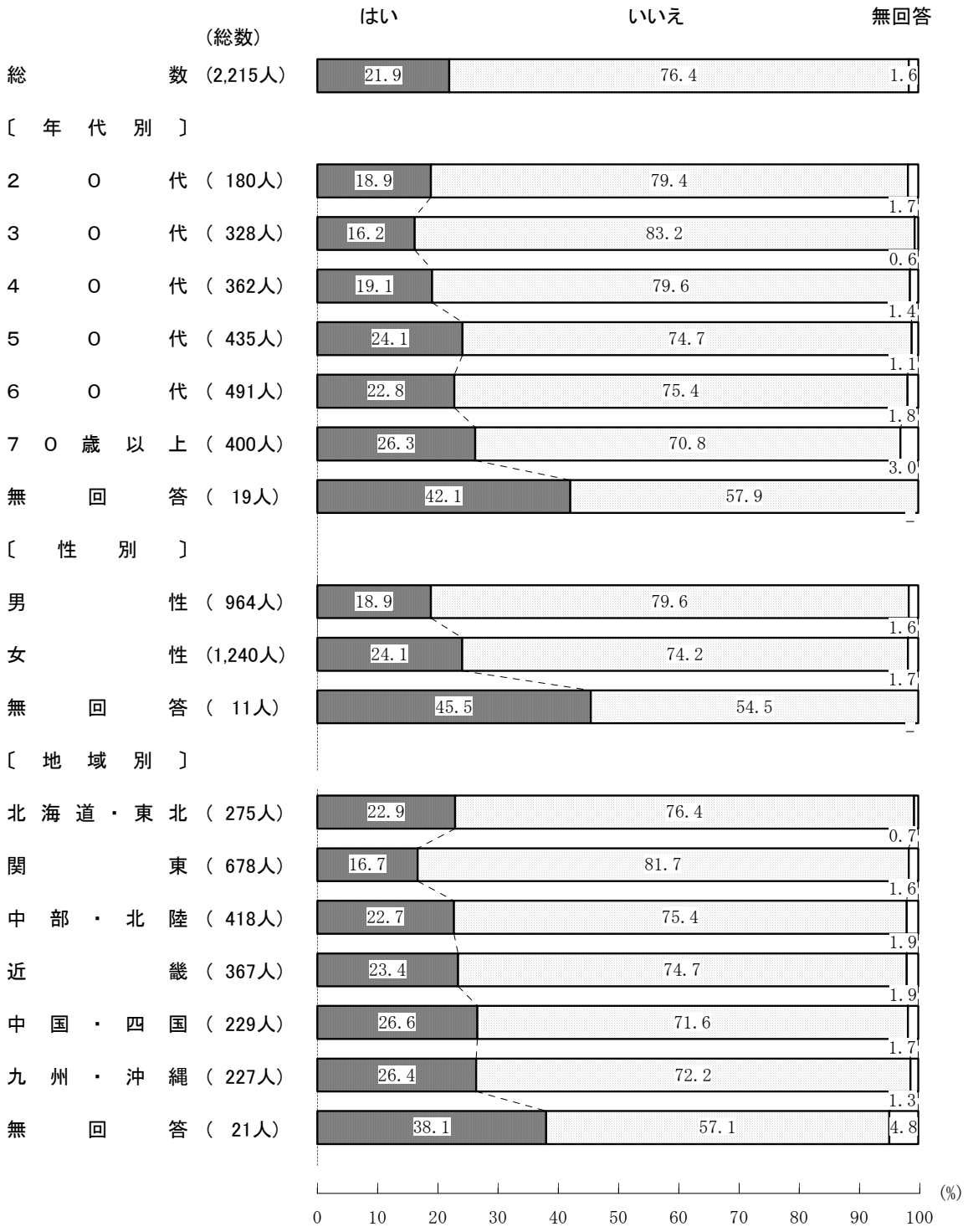
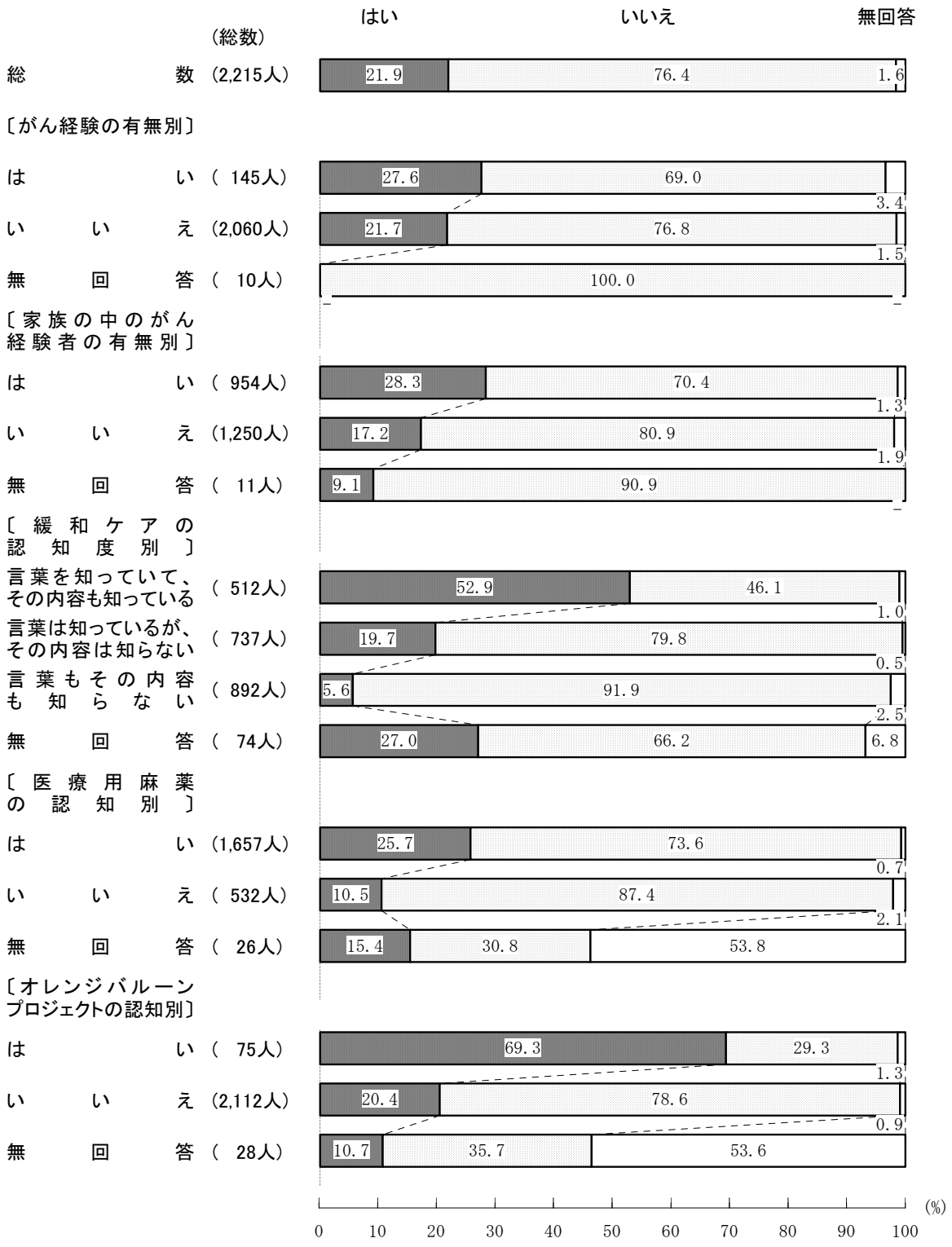
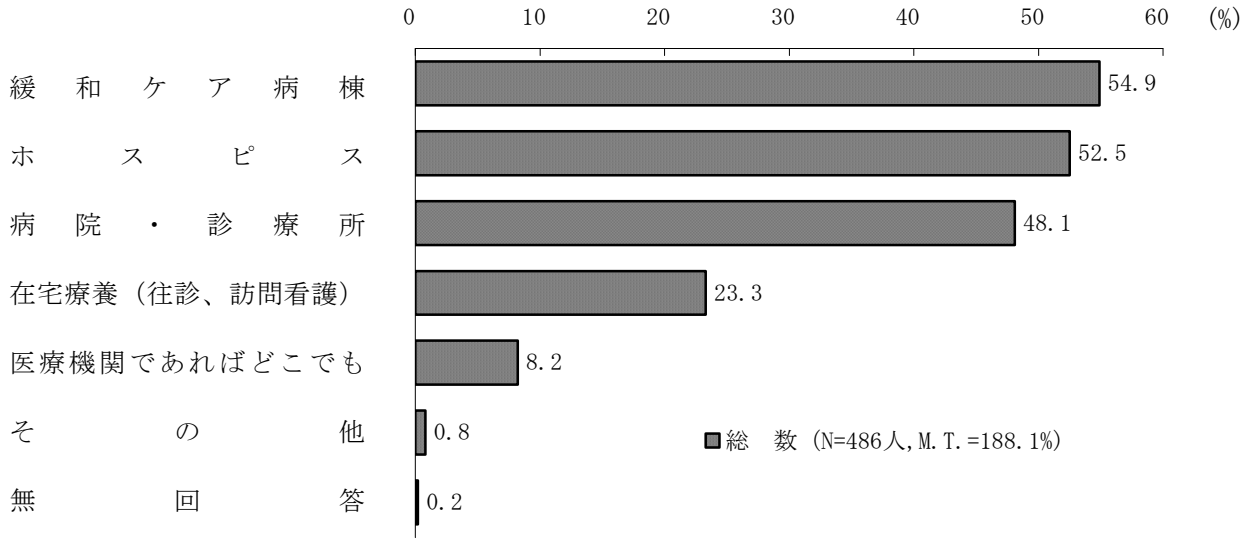


図３－３（２）　居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知



（３）－１　「緩和ケア」が受けられると思う場所

問３－３　補問１　（問３－３で１「はい」をお選びの方に）
「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（**○はいくつでも**）



居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っていると答えた者（486 人）に、「緩和ケア」が受けられると思う場所をきいたところ、「緩和ケア病棟」が 54.9%で最も高く、次いで「ホスピス」（52.5%）、「病院・診療所」（48.1%）の順となっており、上位３項目はすべて５割前後となっている。以下、「在宅療養（往診、訪問看護）」（23.3%）、「医療機関であればどこでも」（8.2%）の順となっている。

年代別にみると、「ホスピス」が 40 代（71.0%）、50 代（64.8%）で高くなっている。

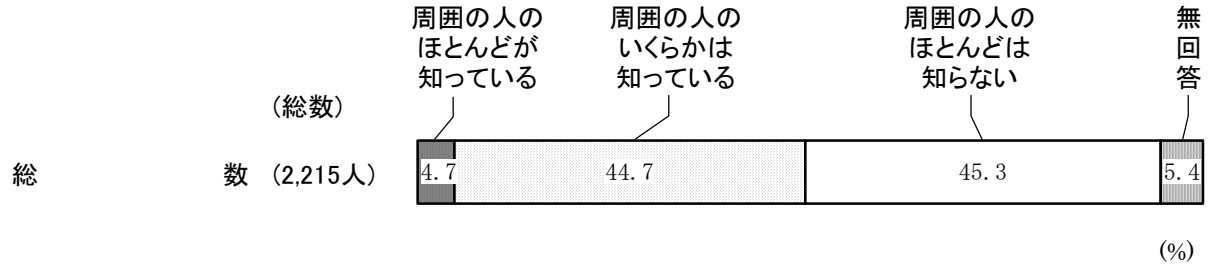
性別にみると、男性が「病院・診療所」（53.8%）、「緩和ケア病棟」（51.6%）、「ホスピス」（40.1%）の順であるのに対し、女性では「ホスピス」（60.9%）、「緩和ケア病棟」（57.2%）、「病院・診療所」（44.5%）と上位３項目の順位が逆転している。　＜表３－３－１＞

表３－３－１　「緩和ケア」が受けられると思う場所

	該当数	緩和ケア病棟	ホスピス	病院・診療所	在宅療養（往診、訪問看護）	医療機関であればどこでも	その他	無回答	回答計
総　　数	486	54.9	52.5	48.1	23.3	8.2	0.8	0.2	188.1
問１－１〔年代別〕									
２０代	34	64.7	61.8	58.8	35.3	11.8	2.9	－	235.3
３０代	53	64.2	56.6	50.9	28.3	1.9	1.9	－	203.8
４０代	69	63.8	71.0	49.3	29.0	7.2	1.4	－	221.7
５０代	105	61.0	64.8	44.8	25.7	5.7	1.0	－	202.9
６０代	112	50.0	50.9	40.2	20.5	10.7	－	－	172.3
７０歳以上	105	41.9	28.6	52.4	14.3	11.4	－	1.0	149.5
無回答	8	37.5	－	75.0	12.5	－	－	－	125.0
問１－２〔性別〕									
男性	182	51.6	40.1	53.8	13.7	13.2	0.5	－	173.1
女性	299	57.2	60.9	44.5	29.1	5.4	1.0	0.3	198.3
無回答	5	40.0	－	60.0	20.0	－	－	－	120.0

（４）周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

問３－４　あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（**○は１つ**）



自分の周囲の人は「緩和ケア」という言葉を知っているかをきいたところ、「周囲の人のほとんどが知っている」が 4.7%、「周囲の人のいくらかは知っている」が 44.7%、「周囲の人のほとんどは知らない」が 45.3%となっている。

年代別にみると、「周囲の人のほとんどが知っている」は 70 歳以上（9.0%）が他の年代よりも高く、「周囲の人のいくらかは知っている」が 50 代（52.0%）で、「周囲の人のほとんどは知らない」が 20 代（53.3%）、30 代（59.1%）、40 代（50.0%）で、それぞれ他の年代より高くなっている。

性別にみると、「周囲の人のほとんどが知っている」では男女差はみられないが、「周囲の人のいくらかは知っている」が女性（49.1%）で、「周囲の人のほとんどは知らない」が男性（52.2%）で、それぞれ高くなっている。

地域別にみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が中国・四国（51.1%）で高くなっている。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が半数近くを占めやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲の人のほとんどが知っている」、「周囲の人のいくらかは知っている」の割合が高くなっている。“その内容も知っている”人では、「周囲の人のほとんどが知っている」が 12.3%、「周囲の人のいくらかは知っている」が 68.9%を占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」（51.2%）が全体平均より 7.5 ポイント高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲の人のほとんどが知っている」が 17.3%、「周囲の人のいくらかは知っている」が 57.3%を占め、高くなっている。

＜図３－４（１）、図３－４（２）＞

図３－４（１）　周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

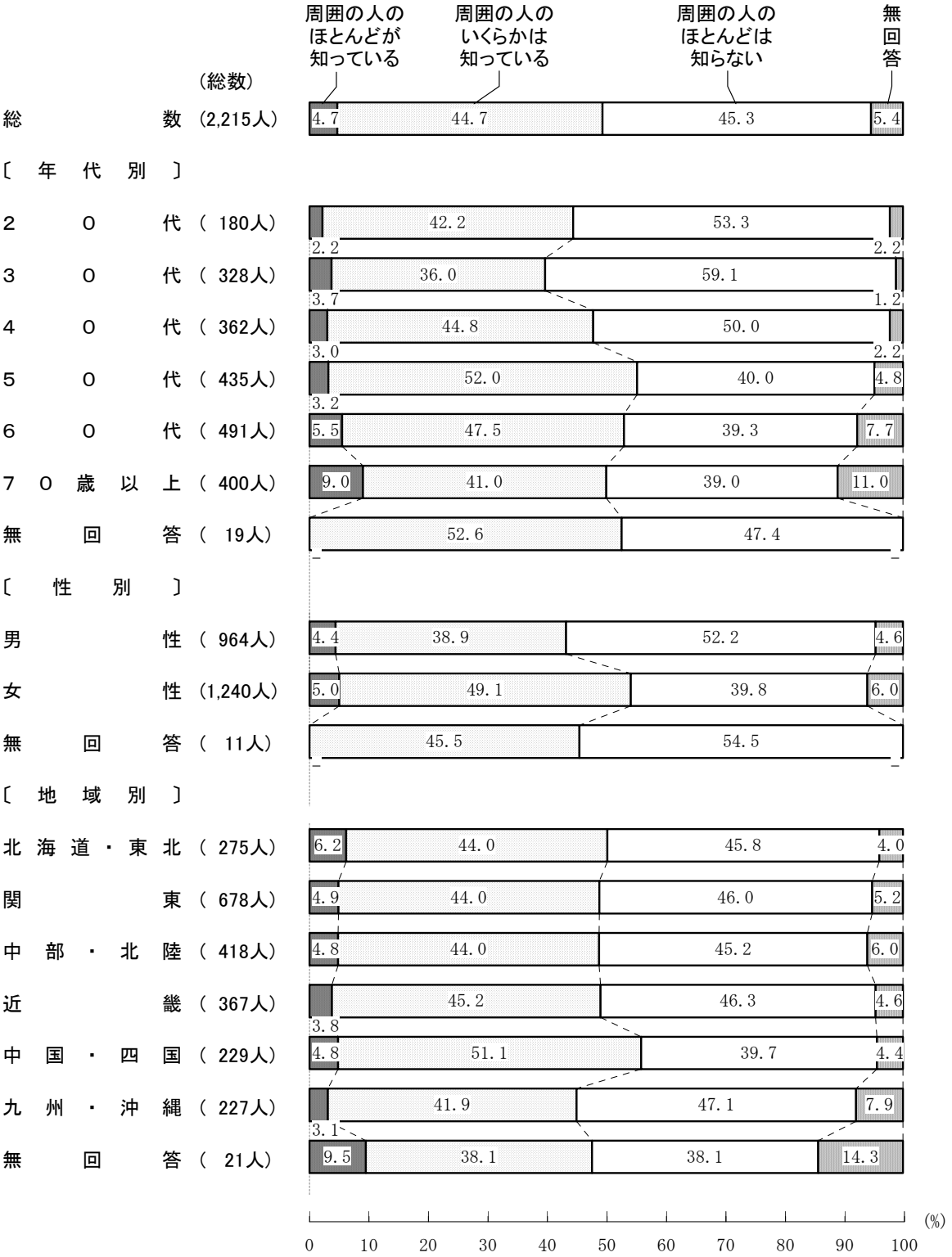
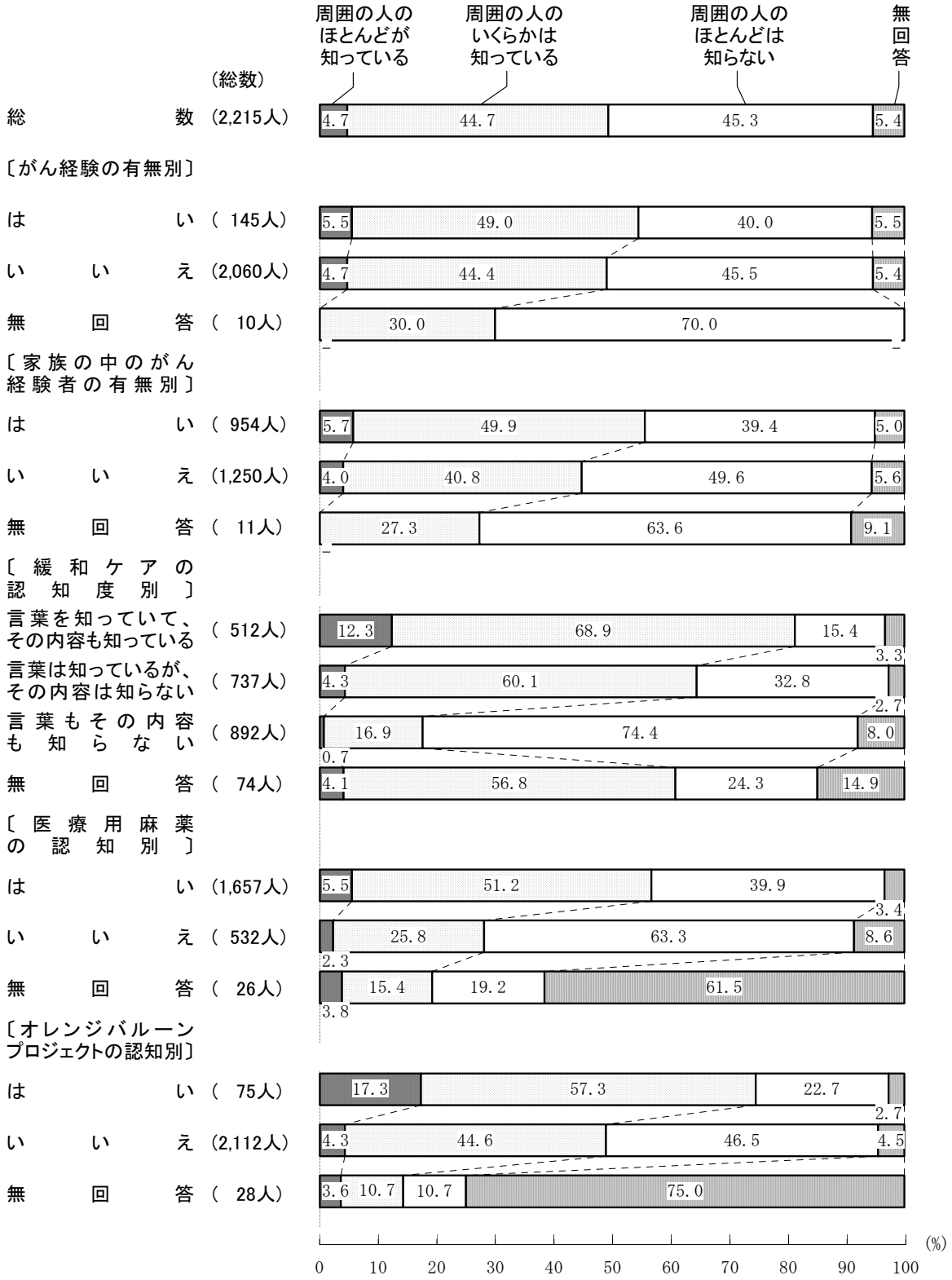
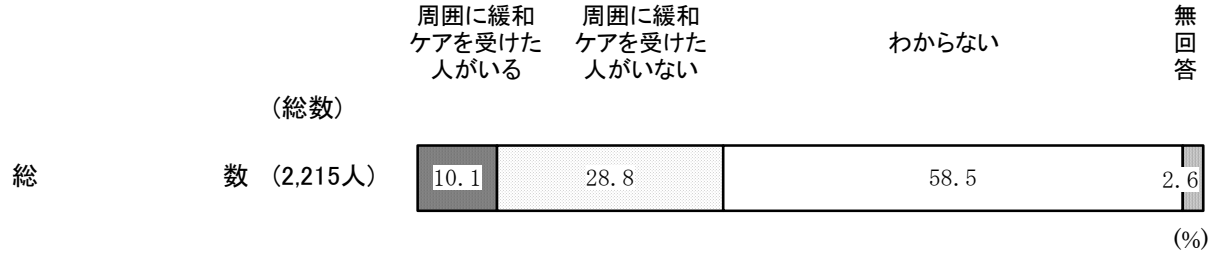


図３－４（２）　周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知



（５）周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

問３－５　あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。（○は１つ）



自分の周囲で「緩和ケア」を実際に受けた人がいるかをきいたところ、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が 10.1%、「周囲に緩和ケアを受けた人がいない」が 28.8%である。また、「わからない」（58.5%）と無回答（2.6%）を合わせると６割強を占めている。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合が高くなっており、70 歳以上（13.5%）で最も高くなっている。

性別にみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合は、女性（11.9%）が男性（7.7%）を 4.2 ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が 15.3%で、やや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が全体平均より 2 ポイント高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が 26.7%と４人に１人を占めている。　＜図３－５（１）、図３－５（２）＞

図３－５（１）　周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

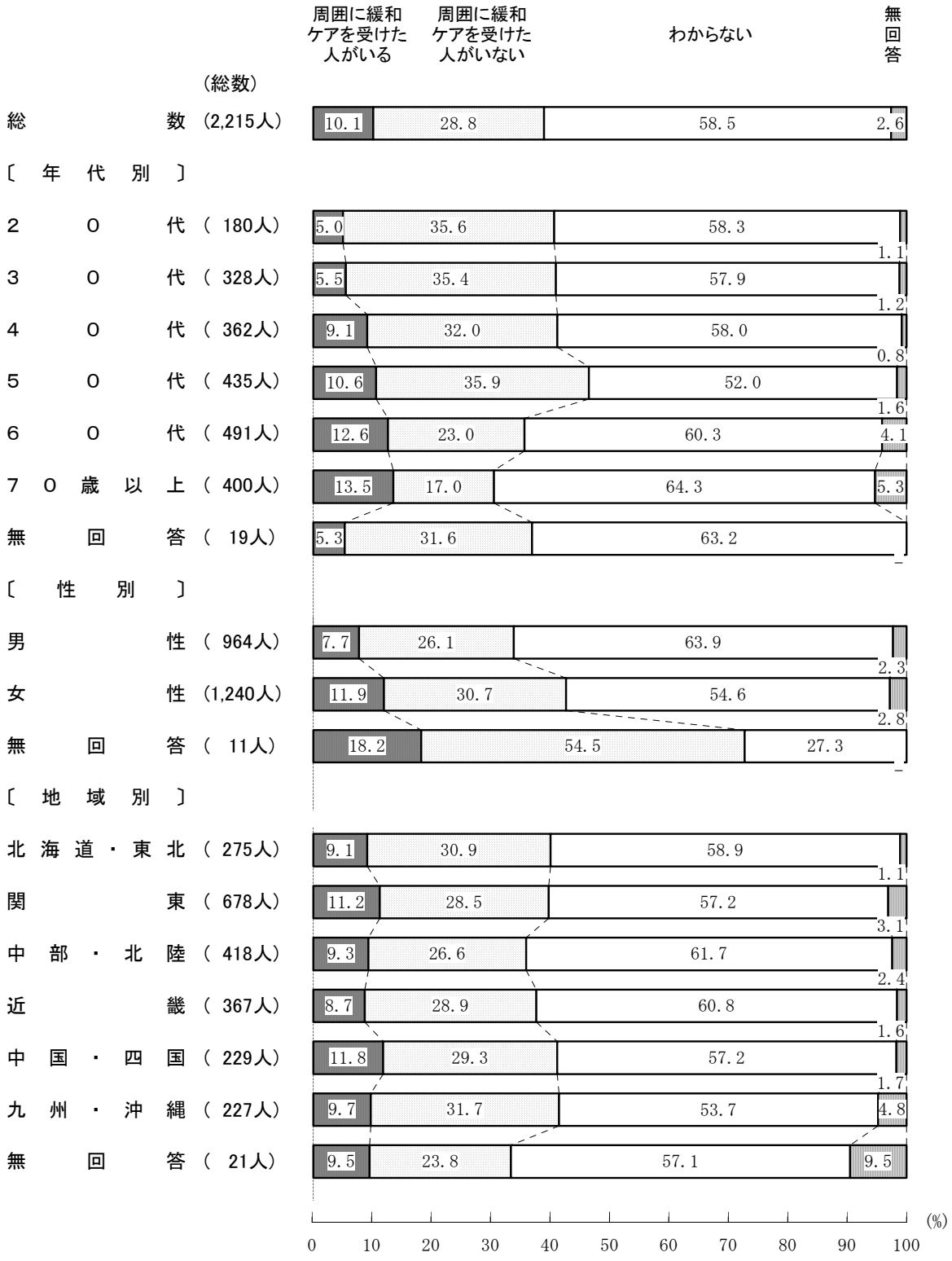
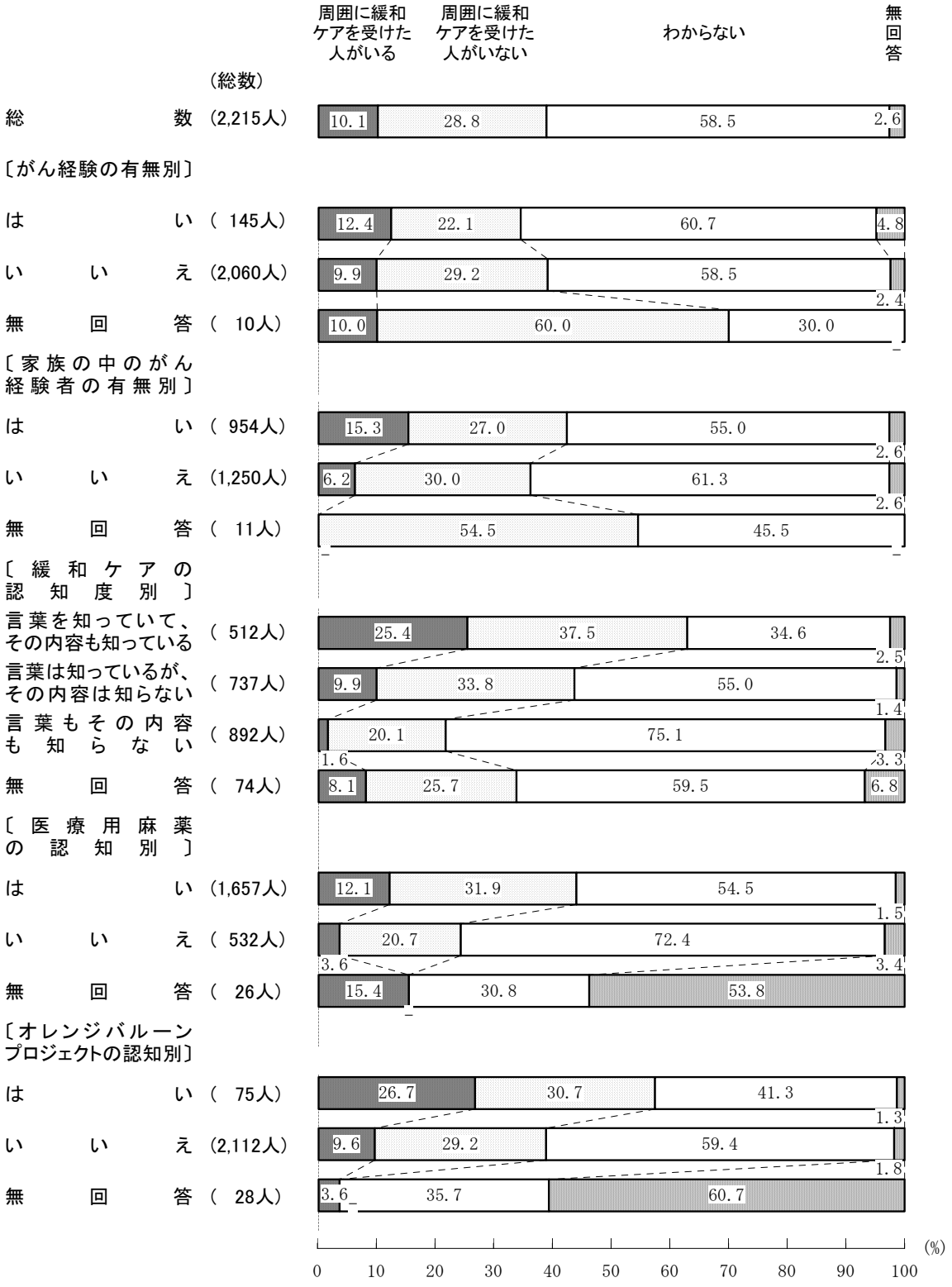


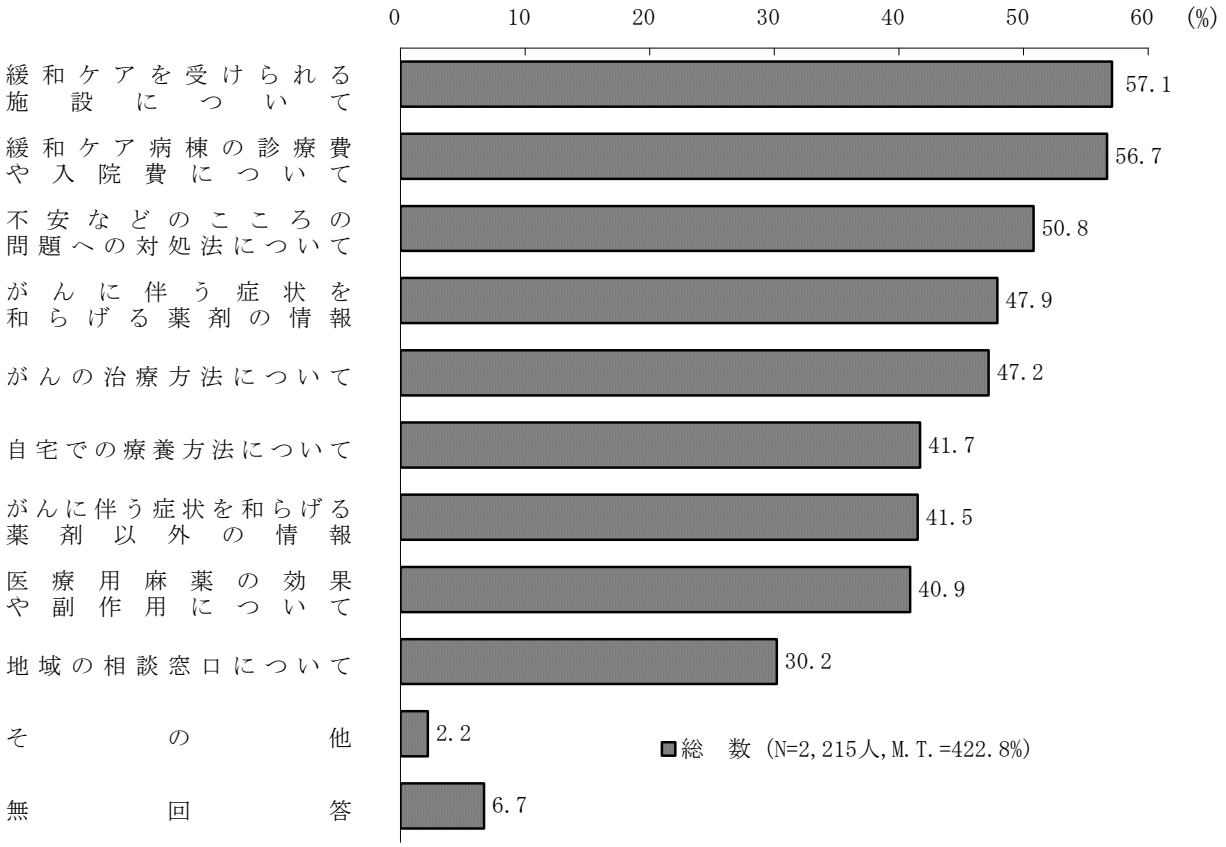
図３－５（２）　周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無



４　「緩和ケア」情報について

（１）「緩和ケア」について知りたい情報

問４－１　あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何ですか。（**○はいくつでも**）



「緩和ケア」について知りたい情報をきいたところ、「緩和ケアを受けられる施設について」が 57.1％と最も高く、以下、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」（56.7％）、「不安などのこころの問題への対処法について」（50.8％）、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」（47.9％）、「がんの治療方法について」（47.2％）などの順となっている。あげた者の割合が 40％以上になる選択肢が８項目もあり、「緩和ケア」について知りたい情報は相当あると言える。

年代別にみると、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんの治療方法について」が 20 代、30 代、40 代で、「緩和ケアを受けられる施設について」、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」が 30 代、40 代、50 代で、それぞれ高くなっている。また、「自宅での療養方法について」、「医療用麻薬の効果や副作用について」が 30 代で、「地域の相談窓口について」が 50 代で、それぞれ他の年代より高くなっている。

性別にみると、知りたい情報への関心度は女性で高くなる傾向が見られ、「緩和ケアを受けられる施設について」、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」、「医療用麻薬の効果や副作用について」はすべて、男性より女性で高くなっている。

地域別では、すべての項目で大きな特徴はみられない。

がん経験者に限定してみると、「不安などのこころの問題への対処法について」と「がんの治療方法について」が、全体平均より約 8 ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、全ての項目の割合はすべて、全体平均よりも高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「がんの治療方法について」を除く 8 項目すべてで、“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「がんの治療方法について」を除く 8 項目の全ての割合が全体平均より高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「緩和ケアを受けられる施設について」が全体平均より 18.4 ポイント低くなっている。

＜表４－１（１）＞

表４－１（１）　「緩和ケア」について知りたい情報

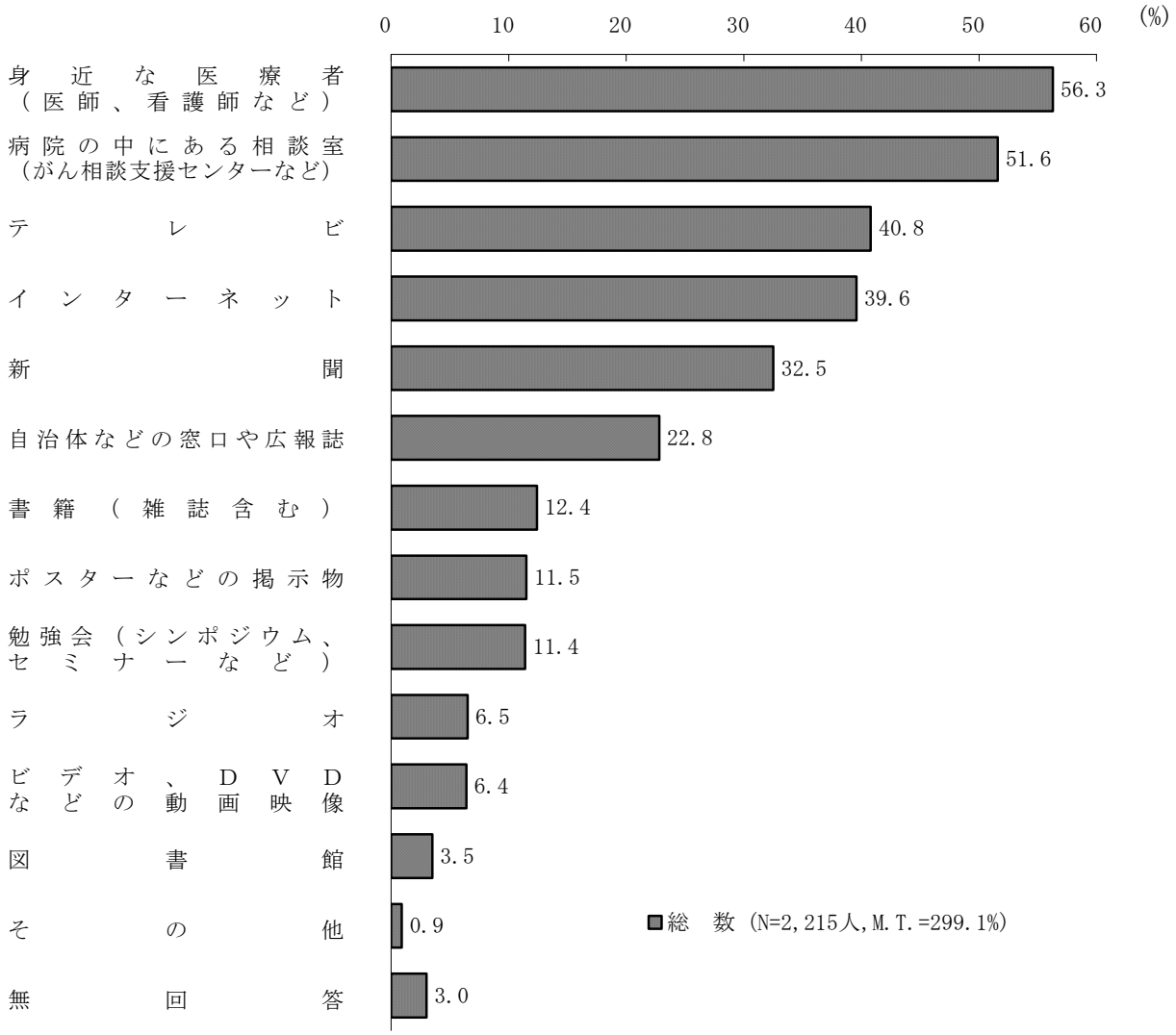
	総数	緩和ケアを受けられる施設について	緩和ケア病棟の診療費や入院費	不安などのこころの問題への対処法	がんの症状を和らげる薬剤の情報	がんの治療方法について	自宅での療養方法について	がんの症状和らげる薬剤以外の情報
総　　数	2215	57.1	56.7	50.8	47.9	47.2	41.7	41.5
問１－１〔年代別〕								
２０代	180	54.4	57.2	58.9	47.2	53.3	44.4	42.2
３０代	328	63.1	62.8	59.5	58.2	59.5	48.5	49.7
４０代	362	61.9	63.0	58.6	55.0	52.5	41.7	47.8
５０代	435	65.1	61.4	52.0	54.7	49.7	43.4	50.3
６０代	491	58.0	56.6	51.7	41.1	39.9	40.9	37.3
７０歳以上	400	39.5	40.5	31.0	35.0	36.3	33.5	25.0
無回答	19	47.4	57.9	42.1	36.8	36.8	47.4	26.3
問１－２〔性別〕								
男性	964	52.1	53.3	43.9	45.3	49.4	39.6	34.6
女性	1240	61.1	59.4	56.5	50.2	45.6	43.3	47.0
無回答	11	36.4	45.5	18.2	27.3	27.3	36.4	18.2
問１－３〔地域別〕								
北海道・東北	275	56.7	58.2	53.8	45.8	52.4	43.6	39.3
関東	678	57.5	58.0	50.6	50.4	47.5	41.3	43.8
中部・北陸	418	59.8	54.5	49.8	43.8	45.2	43.1	37.8
近畿	367	60.5	59.4	53.1	50.4	48.8	40.6	43.9
中国・四国	229	52.0	51.5	48.9	48.5	47.2	43.2	43.2
九州・沖縄	227	54.2	58.1	50.2	48.5	43.2	39.6	41.0
外国	－	－	－	－	－	－	－	－
無回答	21	19.0	28.6	23.8	23.8	23.8	23.8	14.3
問１－４〔がん経験の有無別〕								
はい	145	52.4	54.5	42.1	44.8	39.3	42.8	38.6
いいえ	2060	57.4	56.8	51.5	48.2	47.8	41.6	41.7
無回答	10	60.0	50.0	40.0	40.0	40.0	40.0	30.0
問２－１〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	954	60.8	60.3	55.0	53.8	50.1	44.3	47.2
いいえ	1250	54.2	54.0	47.7	43.7	45.0	39.7	37.4
無回答	11	63.6	45.5	36.4	27.3	45.5	36.4	18.2
問３－１〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	512	59.0	61.1	60.4	57.2	42.6	48.8	47.1
言葉は知っている、内容は知らない	737	63.2	60.2	52.5	51.0	49.9	43.1	46.3
言葉もその内容も知らない	892	52.0	51.5	44.3	41.7	49.0	37.1	34.8
無回答	74	43.2	52.7	45.9	28.4	29.7	32.4	36.5
問５－１〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1657	60.5	59.4	53.7	50.9	47.0	43.6	43.7
いいえ	532	48.5	50.2	44.0	40.8	49.6	36.8	36.3
無回答	26	15.4	15.4	3.8	3.8	11.5	15.4	7.7
問６－１〔オレンジバルーンプロジェクトの認知別〕								
はい	75	38.7	50.7	52.0	41.3	45.3	50.7	37.3
いいえ	2112	58.4	57.5	51.4	48.8	47.8	41.7	42.1
無回答	28	7.1	7.1	3.6	3.6	3.6	14.3	3.6

表４－１（１）つづき　「緩和ケア」について知りたい情報

	総数	医療用麻薬の効果や副作用について	地域の相談窓口について	その他	無回答	回答計
総　　数	2215	40.9	30.2	2.2	6.7	422.8
問１－１〔年代別〕						
２０代	180	46.1	25.0	3.3	5.6	437.8
３０代	328	54.6	29.0	3.7	2.7	491.2
４０代	362	44.2	32.0	3.0	3.6	463.3
５０代	435	44.4	34.5	1.1	3.0	459.5
６０代	491	35.8	31.2	1.8	7.9	402.4
７０歳以上	400	26.8	26.8	1.5	15.8	311.5
無回答	19	36.8	15.8	－	5.3	352.6
問１－２〔性別〕						
男性	964	37.4	29.4	1.9	7.1	394.0
女性	1240	43.7	31.0	2.5	6.4	446.7
無回答	11	18.2	9.1	－	9.1	245.5
問１－３〔地域別〕						
北海道・東北	275	39.6	26.5	2.5	4.7	423.3
関東	678	45.3	29.8	2.5	7.1	433.8
中部・北陸	418	40.7	31.6	1.7	6.2	414.1
近畿	367	39.5	32.4	1.6	5.7	436.0
中国・四国	229	38.4	33.2	3.1	7.4	416.6
九州・沖縄	227	36.6	29.1	2.2	7.5	410.1
外国	－	－	－	－	－	0.0
無回答	21	14.3	4.8	－	28.6	204.8
問１－４〔がん経験の有無別〕						
はい	145	37.9	31.7	2.8	7.6	394.5
いいえ	2060	41.2	30.1	2.2	6.6	425.1
無回答	10	10.0	20.0	－	10.0	340.0
問２－１〔家族の中のがん経験者の有無別〕						
はい	954	46.0	32.3	2.8	4.3	456.9
いいえ	1250	37.1	28.6	1.8	8.4	397.4
無回答	11	18.2	27.3	－	18.2	336.4
問３－１〔緩和ケアの認知度別〕						
言葉知っている、内容も知っている	512	48.8	33.0	3.5	2.7	464.3
言葉は知っている、内容は知らない	737	40.0	32.6	1.4	2.8	443.1
言葉もその内容も知らない	892	38.3	27.7	2.1	11.3	389.8
無回答	74	24.3	17.6	2.7	16.2	329.7
問５－１〔医療用麻薬の認知別〕						
はい	1657	43.4	31.7	2.5	4.0	440.4
いいえ	532	34.6	26.9	1.3	11.7	380.6
無回答	26	7.7	3.8	－	76.9	161.5
問６－１〔オレンジバルーンプロジェクトの認知別〕						
はい	75	37.3	32.0	4.0	6.7	396.0
いいえ	2112	41.5	30.5	2.2	5.6	427.5
無回答	28	3.6	3.6	－	85.7	135.7

（２）「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

問４－２　「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
（○はいくつでも）



「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものをきいたところ、「身近な医療者（医師、看護師など)」が 56.3%と最も高く、以下、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど)」（51.6%)、「テレビ」（40.8%)、「インターネット」（39.6%)、「新聞」（32.5%)、「自治体などの窓口や広報誌」（22.8%）などの順となっている。

年代別にみると、年代が低いほど、「インターネット」、「テレビ」、「ポスターなどの掲示物」の割合が高くなる傾向がみられる。「身近な医療者（医師、看護師など）」、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」が60代（62.5%、57.2%）で、「テレビ」が20代（53.3%）、30代（50.9%）で、「インターネット」が20代（74.4%）、30代（65.5%）、40代（53.0%）で、「新聞」が50代（38.4%）で、「ポスターなどの掲示物」が20代（23.9%）、30代（19.5%）で、それぞれ他の年代より高くなっている。

性別にみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（61.0%）、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（54.4%）、「自治体などの窓口や広報誌」（24.8%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（13.4%）の4項目では女性の割合が高くなっている。

地域別にみると、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」が中部・北陸（56.5%）で、「インターネット」が関東（46.5%）で、それぞれ高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（68.3%）が高くなっているが、「テレビ」（29.0%）、「インターネット」（26.9%）の割合が全体平均より低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（60.0%）、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（54.1%）、「インターネット」（42.7%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（13.7%）が高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「テレビ」、「ポスターなどの掲示物」、「ラジオ」、「ビデオ、ＤＶＤなどの動画映像」を除くそれ以外の項目は“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（58.1%）、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（53.6%）、「インターネット」（43.4%）、「新聞」（33.8%）、「自治体などの窓口や広報誌」（23.9%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（13.0%）がすべて高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（26.7%）が高くなっている。　＜表４－２（１）＞

表４－２（１）　「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

	総数	身近な医療者	病院の中にある相談室	テレビ	インターネット	新聞	自治体などの窓口や広報誌	書籍（雑誌含む）	ポスターなどの掲示物
総　　数	2215	56.3	51.6	40.8	39.6	32.5	22.8	12.4	11.5
問１－１〔年代別〕									
２０代	180	48.9	39.4	53.3	74.4	32.2	17.2	18.3	23.9
３０代	328	52.7	49.4	50.9	65.5	33.5	24.4	17.7	19.5
４０代	362	51.7	50.8	44.8	53.0	30.7	19.6	15.5	13.0
５０代	435	55.6	55.4	41.1	41.6	38.4	26.0	11.0	11.3
６０代	491	62.5	57.2	36.7	23.6	34.6	26.7	11.6	7.1
７０歳以上	400	60.0	48.3	28.8	8.3	24.5	19.3	5.3	4.0
無回答	19	57.9	52.6	21.1	31.6	26.3	15.8	10.5	5.3
問１－２〔性別〕									
男性	964	50.4	48.1	42.5	41.6	33.2	20.4	10.8	10.8
女性	1240	61.0	54.4	39.7	38.1	32.0	24.8	13.6	12.2
無回答	11	54.5	36.4	9.1	36.4	18.2	18.2	18.2	－
問１－３〔地域別〕									
北海道・東北	275	57.1	50.5	43.3	34.9	33.5	22.5	14.5	9.5
関東	678	57.4	52.5	39.2	46.5	32.0	23.3	13.3	13.3
中部・北陸	418	54.1	56.5	43.5	34.4	35.6	22.7	12.0	10.5
近畿	367	56.1	51.0	40.6	43.6	31.1	24.3	13.4	10.4
中国・四国	229	60.3	46.7	43.7	35.4	32.8	24.5	10.5	11.8
九州・沖縄	227	53.3	48.9	37.0	34.4	29.5	19.8	8.8	13.2
外国	－	－	－	－	－	－	－	－	－
無回答	21	52.4	28.6	14.3	14.3	23.8	4.8	9.5	－
問１－４〔がん経験の有無別〕									
はい	145	68.3	58.6	29.0	26.9	29.0	17.9	9.7	7.6
いいえ	2060	55.6	51.1	41.7	40.5	32.8	23.2	12.5	11.8
無回答	10	30.0	40.0	30.0	40.0	20.0	30.0	30.0	10.0
問２－１〔家族の中のがん経験者の有無別〕									
はい	954	60.0	54.1	38.9	42.7	32.4	24.7	13.9	11.4
いいえ	1250	53.5	49.7	42.3	37.3	32.6	21.3	11.1	11.5
無回答	11	63.6	45.5	27.3	36.4	27.3	36.4	27.3	18.2
問３－１〔緩和ケアの認知度別〕									
言葉知っている、内容も知っている	512	60.9	60.9	34.6	48.8	33.4	22.9	15.8	9.6
言葉は知っている、内容は知らない	737	60.0	57.3	42.2	37.0	33.6	22.9	11.8	9.1
言葉もその内容も知らない	892	50.6	41.5	44.2	38.0	31.6	22.3	11.0	14.8
無回答	74	58.1	51.4	28.4	20.3	24.3	28.4	12.2	9.5
問５－１〔医療用麻薬の認知別〕									
はい	1657	58.1	53.6	40.7	43.4	33.8	23.9	12.7	10.7
いいえ	532	52.4	47.2	42.7	29.7	29.7	20.7	12.0	14.5
無回答	26	23.1	11.5	3.8	－	3.8	－	3.8	－
問６－１〔オレンジバルーンプロジェクトの認知別〕									
はい	75	53.3	60.0	34.7	34.7	37.3	18.7	10.7	10.7
いいえ	2112	57.0	51.9	41.5	40.3	32.7	23.3	12.6	11.7
無回答	28	14.3	3.6	－	－	－	－	－	－

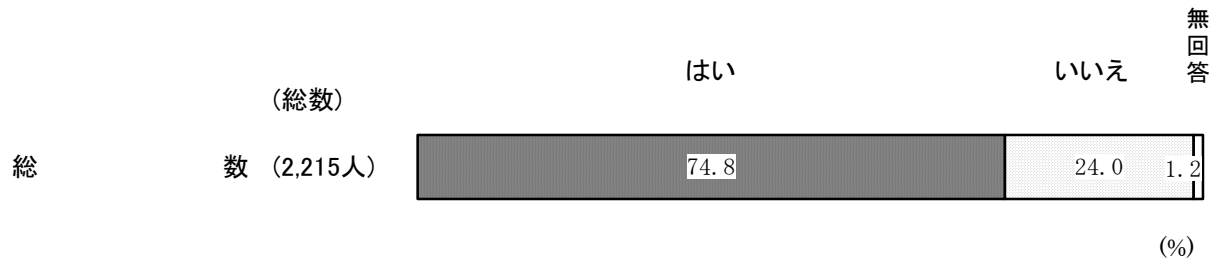
表４－２（１）つづき　「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

	総数	勉強会	ラジオ	ビデオ、ＤＶＤなどの動画映像	図書館	その他	無回答	回答計
総　　数	2215	11.4	6.5	6.4	3.5	0.9	3.0	299.1
問１－１〔年代別〕								
２０代	180	11.7	7.8	5.0	7.2	2.2	1.7	343.3
３０代	328	8.2	8.5	6.4	5.2	1.5	0.6	344.2
４０代	362	12.7	4.7	8.6	2.5	0.8	1.9	310.2
５０代	435	13.8	7.1	7.4	1.6	0.7	1.6	312.6
６０代	491	14.5	6.9	7.1	4.7	－	3.9	297.1
７０歳以上	400	7.0	5.3	3.3	1.8	1.0	6.8	223.3
無回答	19	－	－	－	5.3	－	5.3	231.6
問１－２〔性別〕								
男性	964	9.0	7.5	7.8	2.9	0.9	2.9	288.9
女性	1240	13.4	5.9	5.3	3.9	0.8	3.1	308.0
無回答	11	－	－	－	9.1	－	－	200.0
問１－３〔地域別〕								
北海道・東北	275	13.5	4.0	6.2	3.6	0.4	2.5	296.0
関東	678	8.7	6.0	6.6	3.7	0.9	3.1	306.5
中部・北陸	418	11.2	9.1	6.5	3.1	0.5	2.9	302.6
近畿	367	12.5	6.3	7.1	4.6	1.6	2.5	304.9
中国・四国	229	13.5	4.8	6.1	2.6	1.7	2.2	296.5
九州・沖縄	227	14.1	9.3	5.3	2.2	－	3.5	279.3
外国	－	－	－	－	－	－	－	0.0
無回答	21	4.8	－	－	4.8	－	19.0	176.2
問１－４〔がん経験の有無別〕								
はい	145	8.3	5.5	5.5	4.1	0.7	4.1	275.2
いいえ	2060	11.7	6.7	6.5	3.4	0.9	2.9	301.1
無回答	10	10.0	－	－	－	－	10.0	250.0
問２－１〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	954	13.7	7.1	6.6	3.2	1.0	2.2	312.1
いいえ	1250	9.7	6.0	6.2	3.6	0.7	3.5	289.0
無回答	11	9.1	18.2	9.1	9.1	－	9.1	336.4
問３－１〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	512	19.1	4.7	6.4	5.1	1.6	1.4	325.2
言葉は知っている、内容は知らない	737	11.4	6.5	5.8	3.5	0.3	0.7	302.2
言葉もその内容も知らない	892	6.6	7.6	6.5	2.7	1.0	5.4	283.7
無回答	74	16.2	6.8	9.5	1.4	－	8.1	274.3
問５－１〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1657	13.0	6.0	6.6	3.6	0.8	1.4	308.5
いいえ	532	6.8	8.6	5.8	3.0	0.9	4.3	278.4
無回答	26	3.8	－	－	3.8	－	73.1	126.9
問６－１〔オレンジバルーンプロジェクトの認知別〕								
はい	75	26.7	9.3	5.3	9.3	2.7	－	313.3
いいえ	2112	11.0	6.5	6.5	3.3	0.8	2.0	301.2
無回答	28	－	－	－	3.6	－	82.1	103.6

５　医療用麻薬について

（１）がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

問５－１　がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。（**○は１つ**）



がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることを知っているかをきいたところ、「はい」が 74.8%とほぼ４人に３人である。

年代別にみると、「はい」が 50 代（83.7%）にもっとも多く、60 代（78.2%）、40 代（74.9%）、30 代（72.6%）と続いている。

性別にみると、「はい」が女性（76.5%）でやや高くなっている。

地域別では差はみられない。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が、（家族の中にがんの経験者が）いない人より約 9 ポイント高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、“その内容も知っている”人では、93.2%に達している。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が 88.0%と高くなっている。　＜図５－１（１）、図５－１（２）＞

図５－１（１）　がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

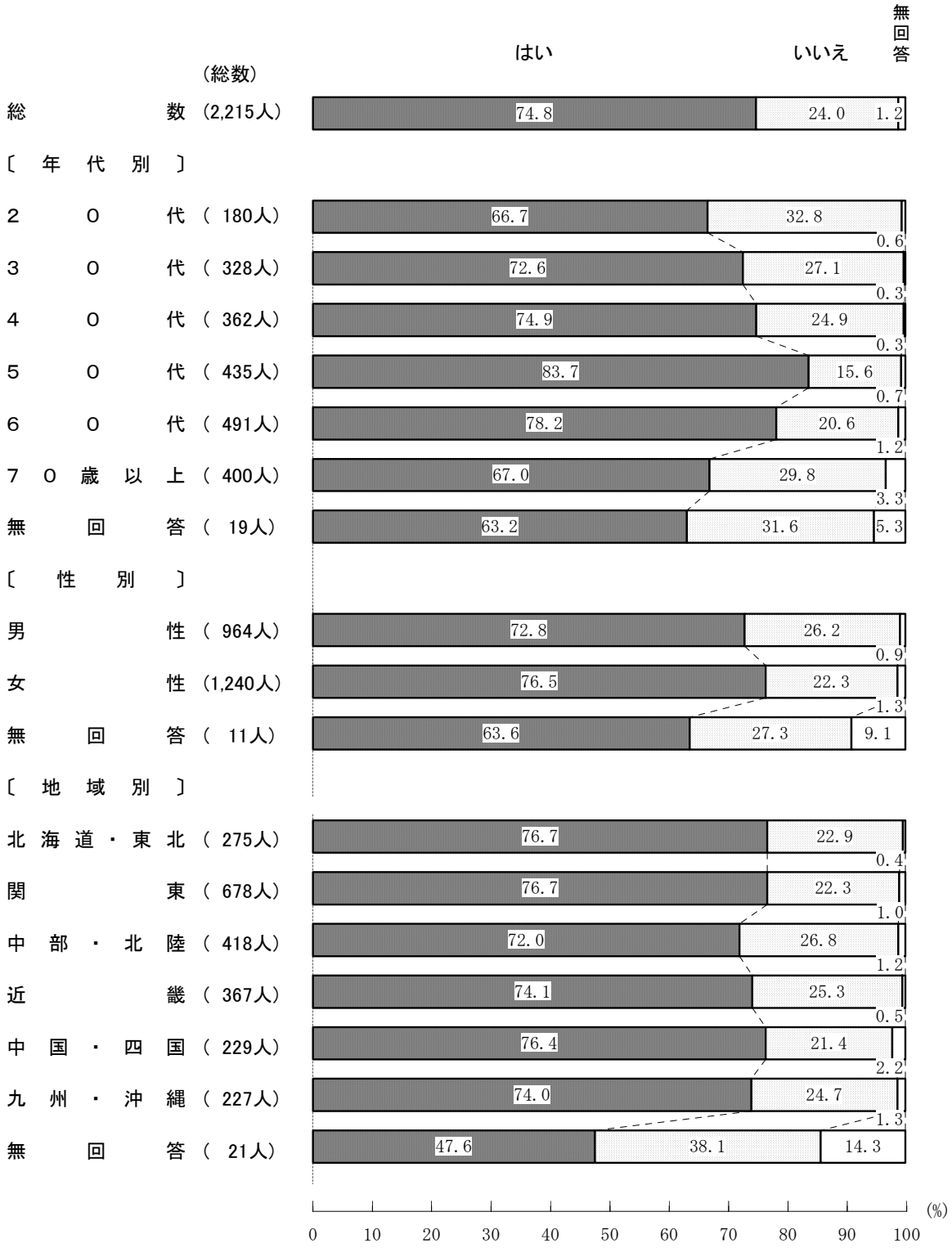
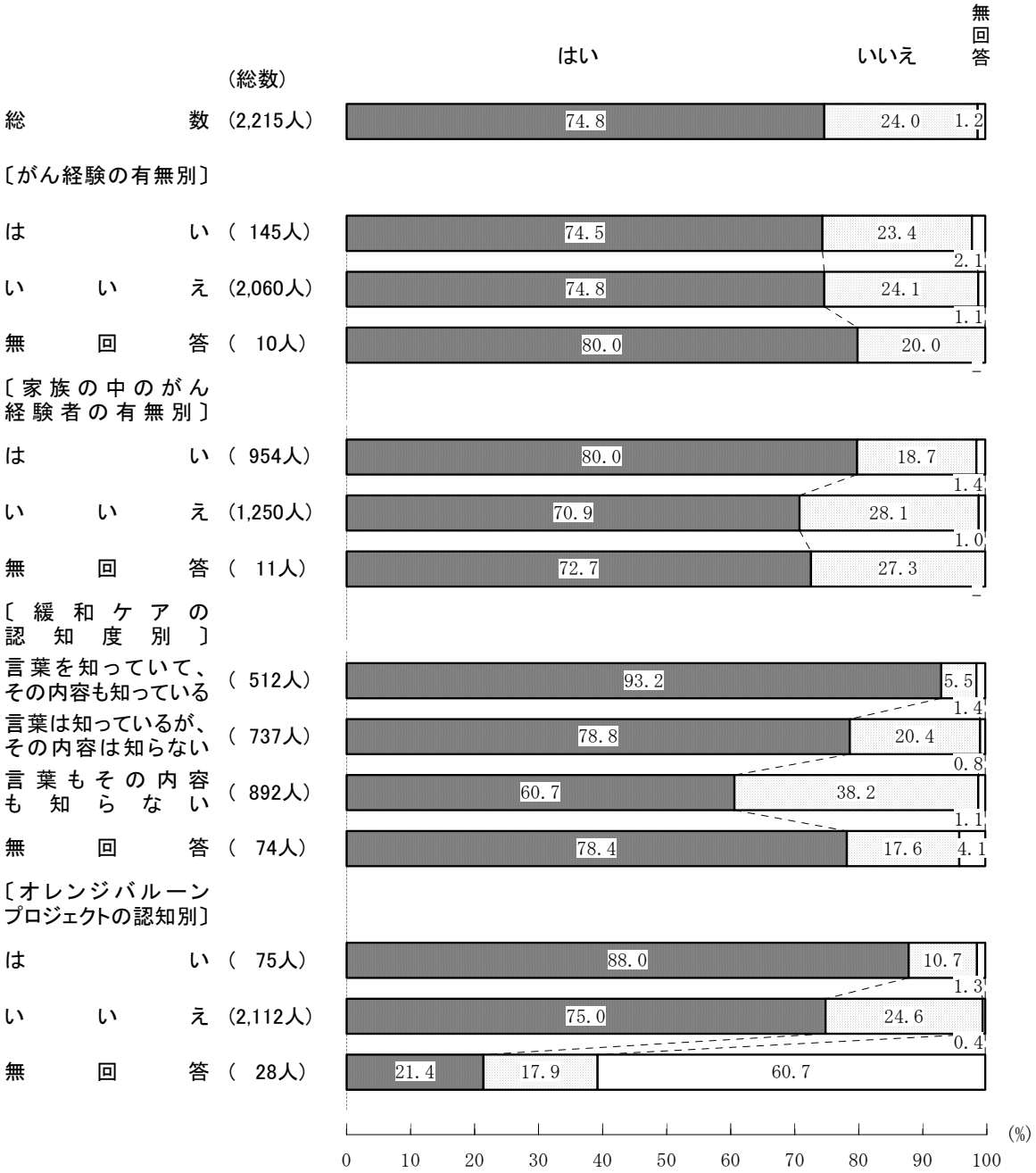
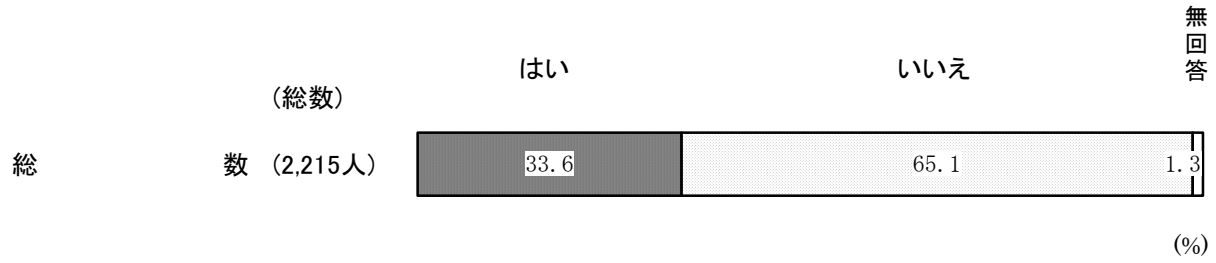


図５－１（２）　がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知



（２）医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

問５－２　あなたは、がんの痛みの９０％は医療用麻薬によって取ることができると言われていることをご存じですか。（**○は１つ**）



がんの痛みの９０％は医療用麻薬によって取ることができると言われていることを知っているかをきいたところ、「はい」が 33.6%で、３人に１人の割合となっている

年代別にみると、「はい」が 60 代（43.2%）、70 歳以上（41.3%）で高くなっている。
性別にみると、「はい」が女性（35.9%）が男性（30.6%）を 5.3 ポイント上回っている。
地域別では差はみられない。
がん経験者に限定してみると、「はい」が 39.3%を占めている。
家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が 39.2%を占めている。
緩和ケアの認知度別にみると、「はい」が“その内容も知っている”人の 60.0%に達している。
医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が 44.2%と高くなっている。
「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が 72.0%を占めており高くなっている。　＜図５－２（１）、図５－２（２）＞

図５－２（１）　医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

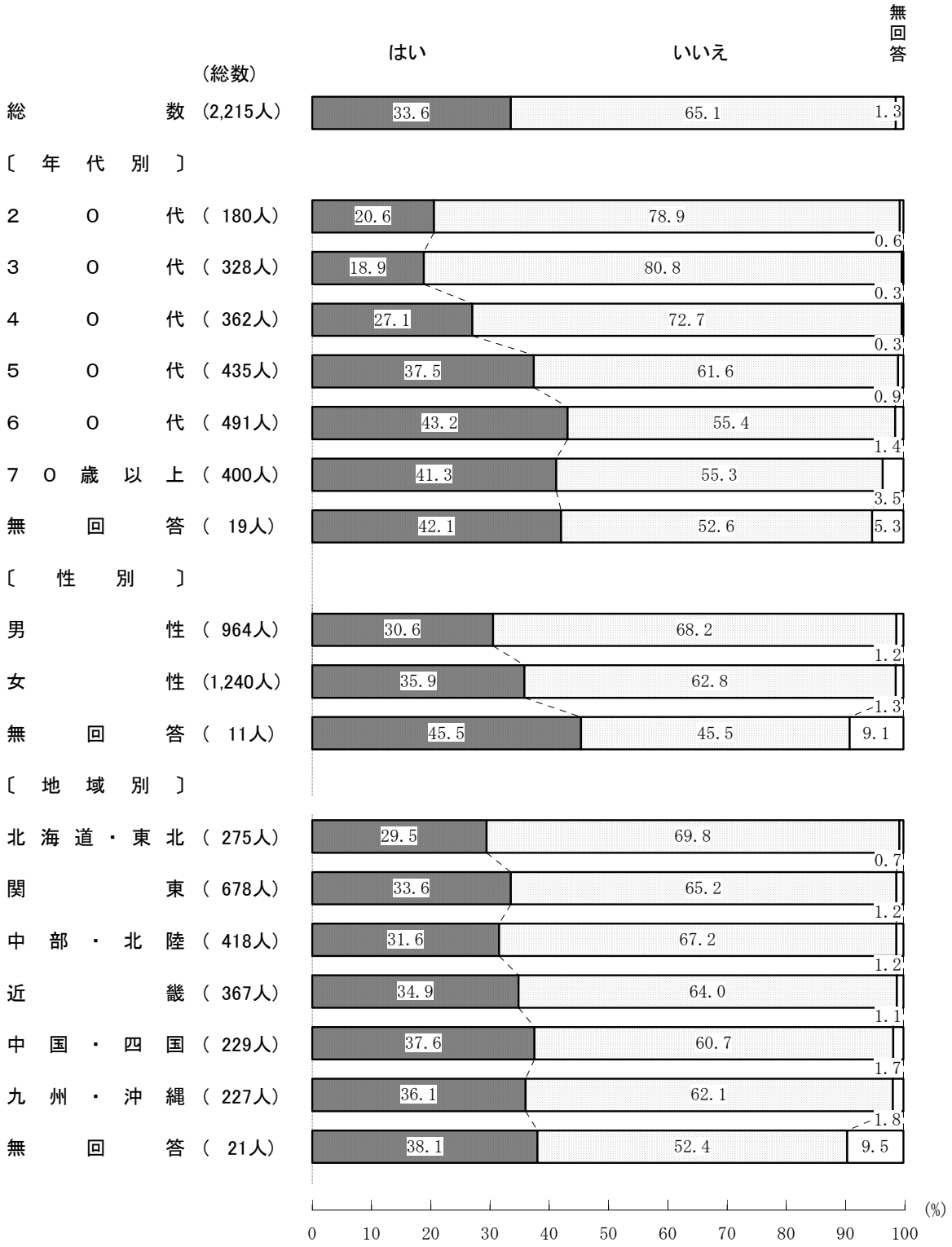
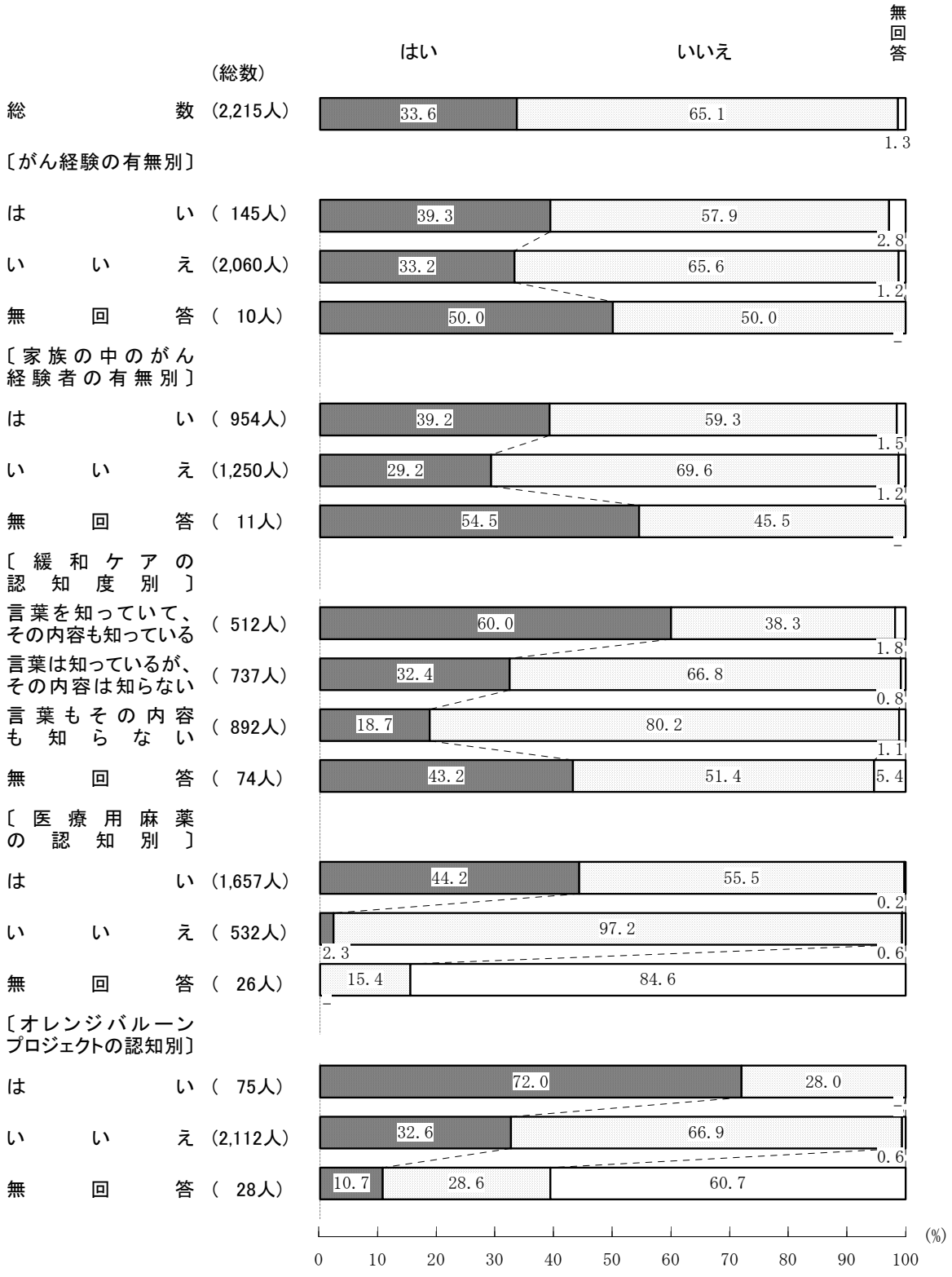
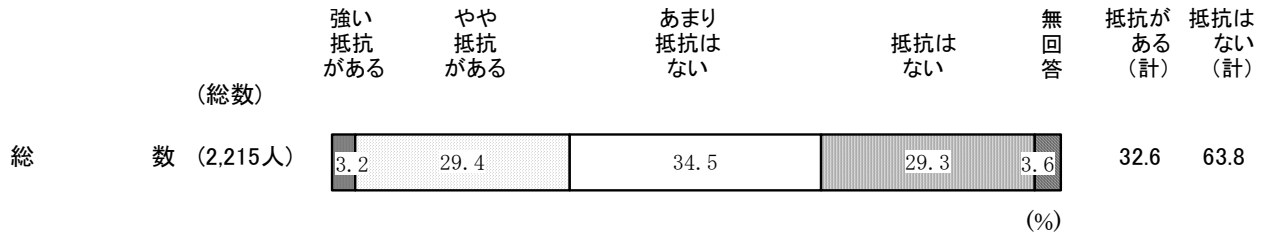


図５－２（２）　医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知



（３）医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

問５－３　あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。
（○は１つ）



がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗があるかをきいたところ、『抵抗がある（計）』が 32.6%（「強い抵抗がある」3.2%＋「やや抵抗がある」29.4%）、『抵抗はない（計）』が 63.8%（「あまり抵抗はない」34.5%＋「抵抗はない」29.3%）となっている。

年代別にみると、年代が低くなるほど『抵抗がある（計）』の割合が高くなる傾向がみられ、20 代で 45.6%と最も高くなっている。

性別にみると、『抵抗がある（計）』は女性（34.9%）が男性（29.6%）を 5.3 ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

がん経験者の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、『抵抗がある（計）』が“その内容も知っている”人で 26.4%と低くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、『抵抗がある（計）』が 31.9%で、知らない人より 4.8 ポイント低くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、『抵抗がある（計）』が 42.7%で、知らない人より約 10 ポイント高くなっている。　＜図５－３（１）、図５－３（２）＞

図５－３（１）　医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

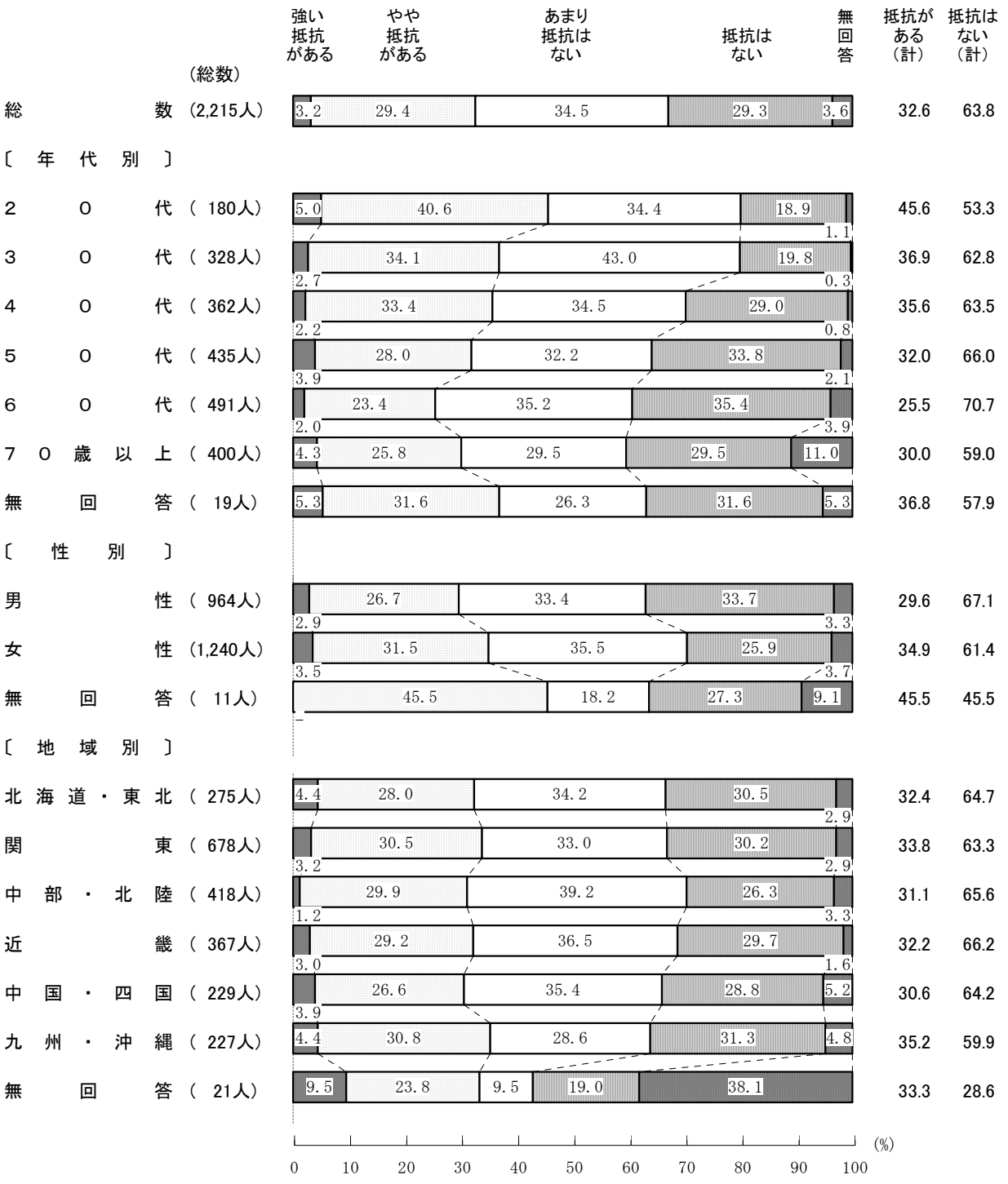
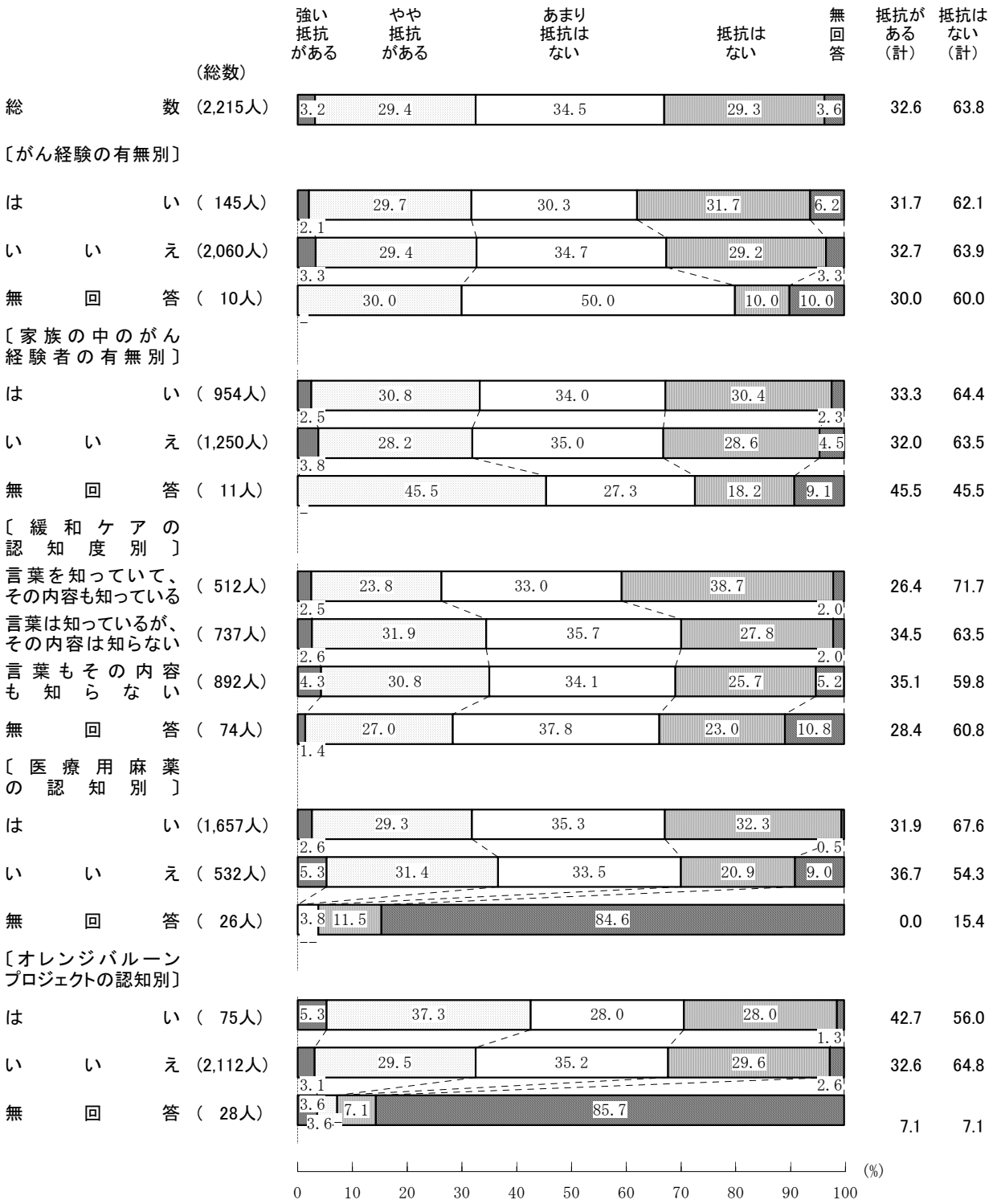


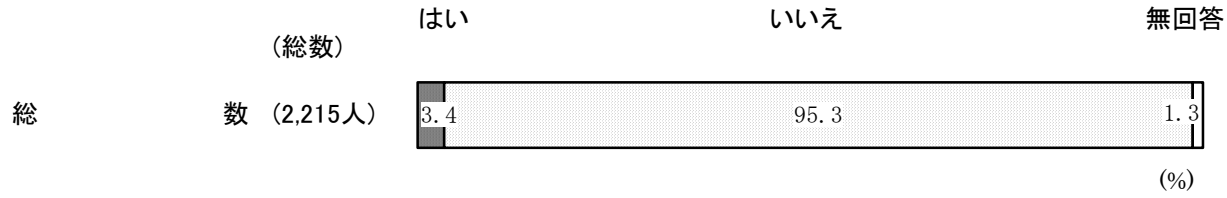
図５－３（２）　医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感



６　「オレンジバルーンプロジェクト（ Orange Balloon Project ）」

（１）「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

問６－１　国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。（**○は１つ**）



「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っているかをきいたところ、「はい」が 3.4%とほぼ 30 人に１人の割合となっている。

年代別にみると、「はい」が 60 代（5.7%）、70 歳以上（5.8%）でやや高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「はい」が近畿（5.7%）でやや高くなっている。

がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人では　「はい」が 8.2%とやや高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」（4.0%）がやや高い。

＜図６－１（１）、図６－１（２）＞

図６－１（１）　「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

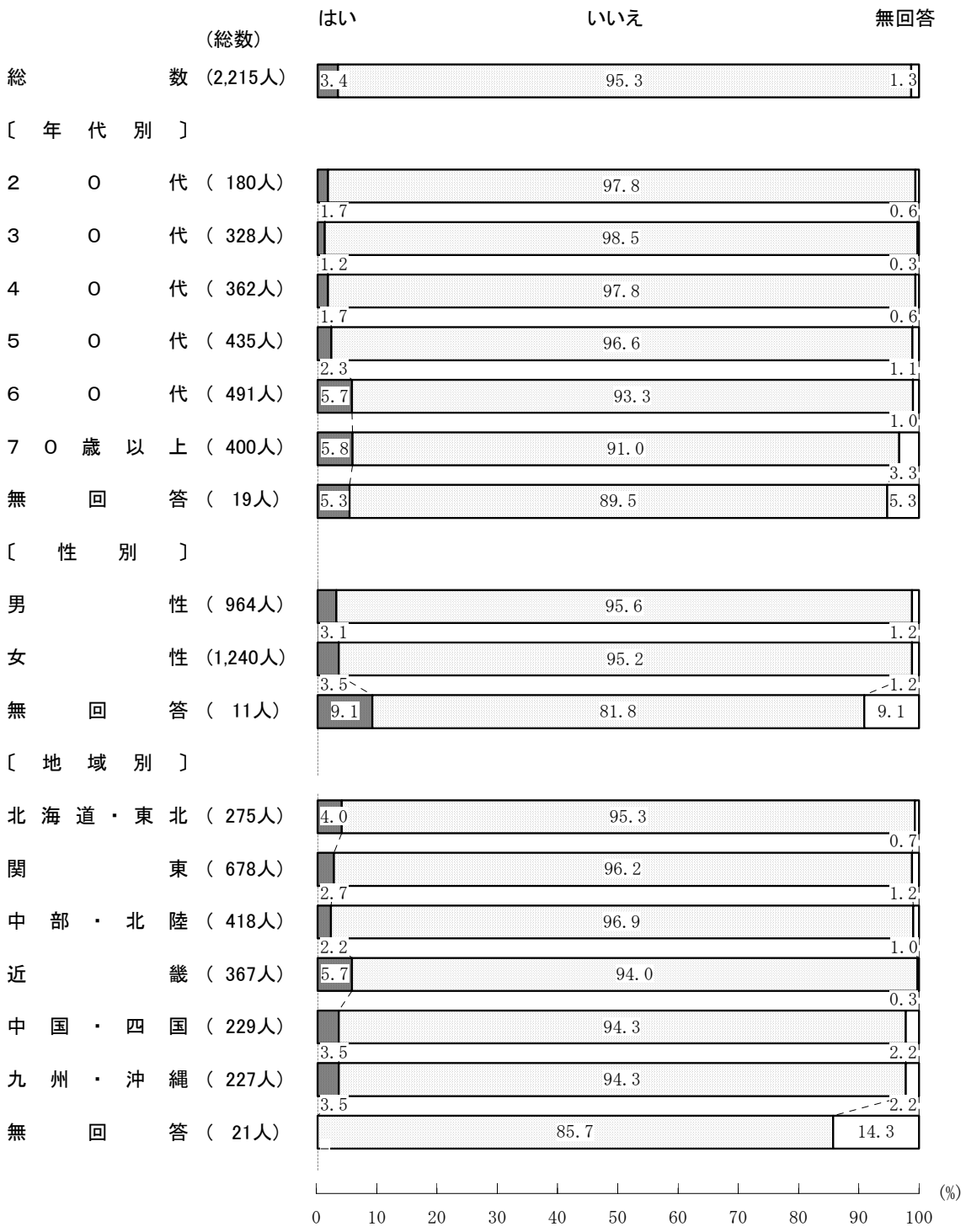
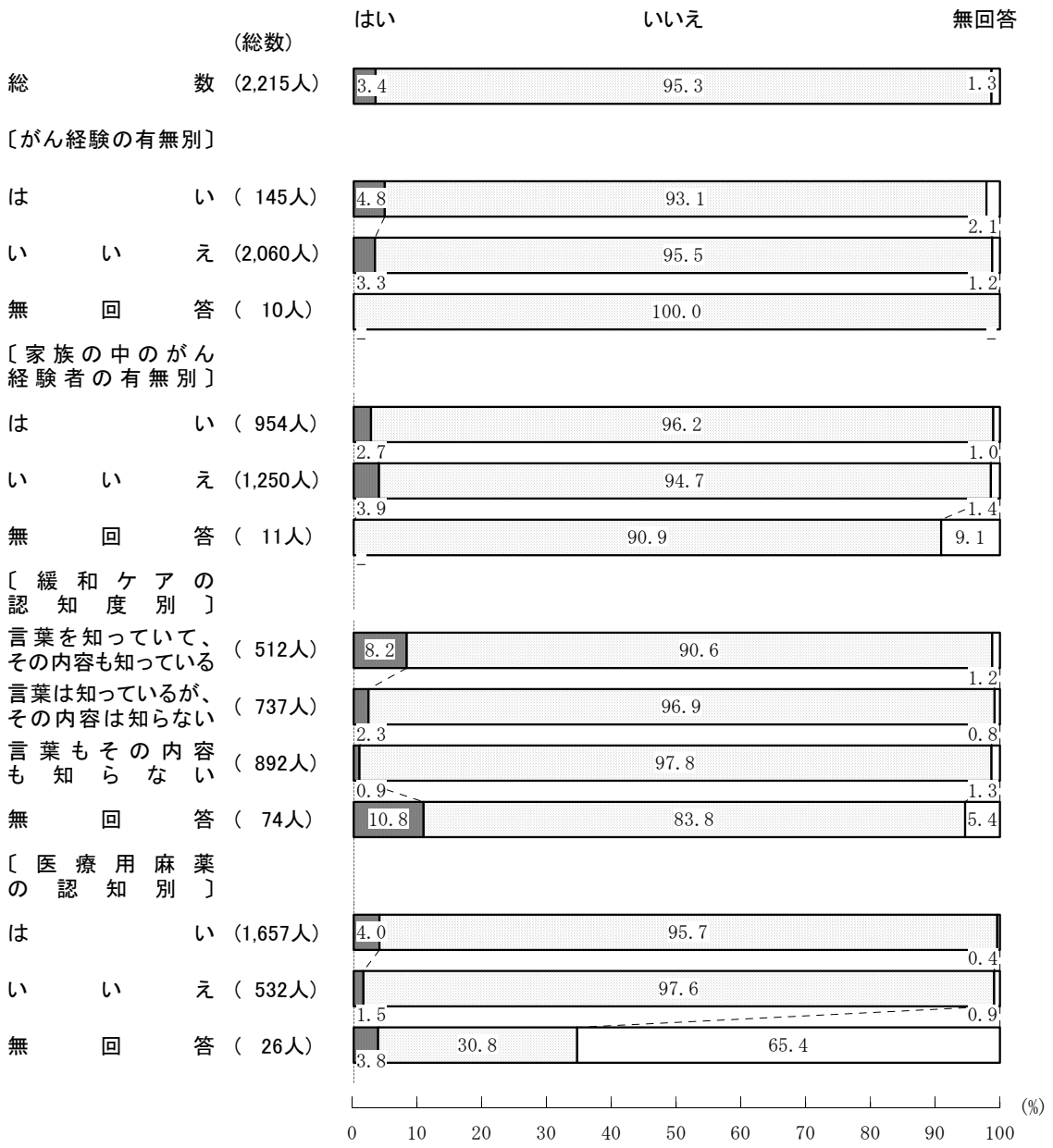


図６－１（２）　「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

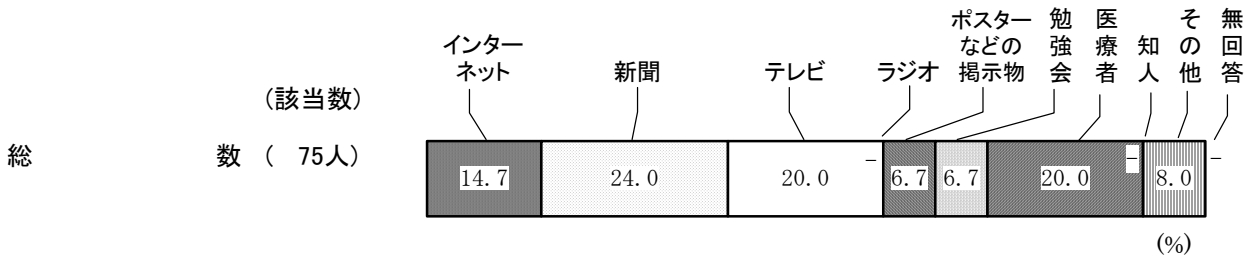


（1）－1「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路

問６－１　補問１　（問６－１で１「はい」をお選びの方に）

「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになられましたか。

（○は１つ）



実数（人）	該当数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
総　数	75	11	18	15	－	5	5	15	－	6	－

「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っていると答えた者（75 人）に、最初に何で知ったかをきいたところ、「インターネット」が 14.7%、「新聞」が 24.0%、「テレビ」が 20.0%、「ポスターなどの掲示物」が 6.7%、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど)」が 6.7%、「医療者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)」が 20.0%となっている。「ラジオ」、「知人」と答えた者はいなかった。

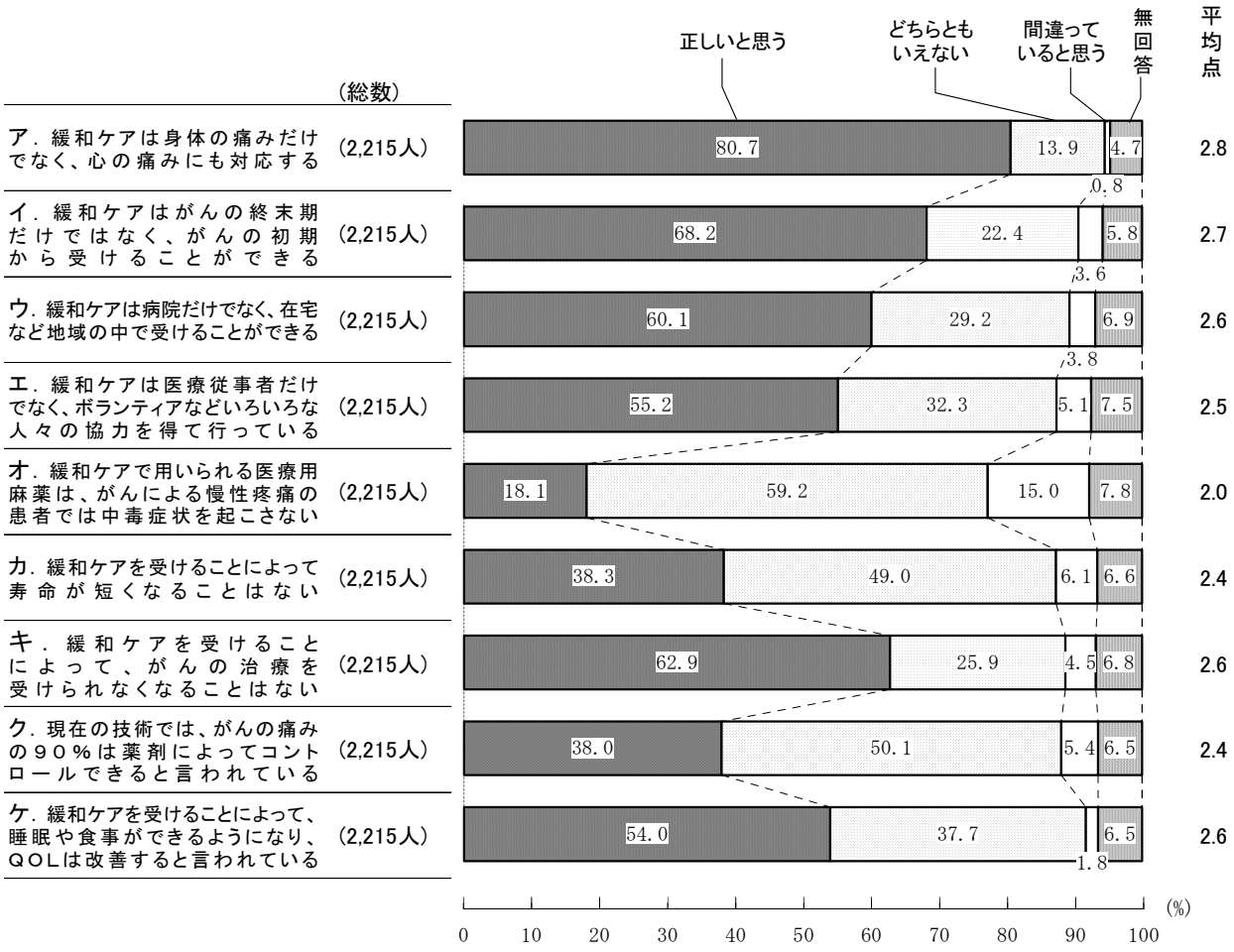
※　サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

7　緩和ケアの考え方やイメージについて

問７　次の「緩和ケア」について書かれている（ア）～（ケ）の各文章を読んで、あなたのお考えに近いものに○をお付けください。（**ア～ケまで、それぞれ○は１つずつ**）

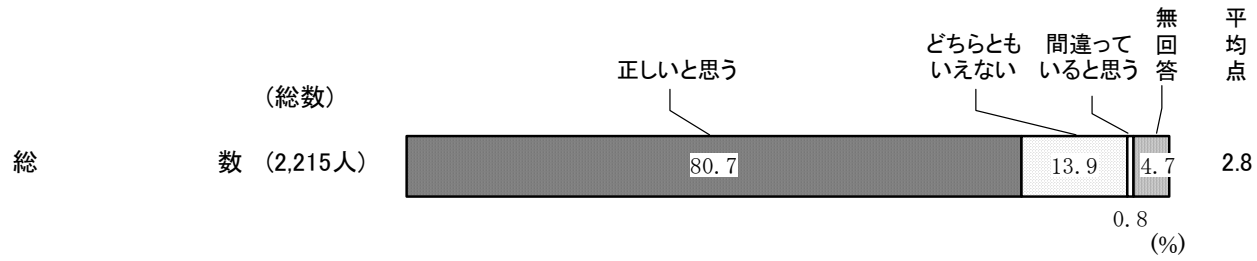
＜グラフ右横の平均点について＞

「正しい」＝３点、「どちらともいえない」＝２点、「間違っていると思う」＝１点として数値を積算し、その積算数値を無回答を除く回答者数で割ったもの（小数点１位で表示）。



（ア）～（ケ）の中で、最も「正しいと思う」の割合が高いものは（ア）（80.7%）で、以下、（イ）（68.2%）、（キ）（62.9%）の順となっている。一方、最も「正しいと思う」の割合が低いものは（オ）（18.1%）で、以下、（ク）（38.0%）、（カ）（38.3%）の順となっている。

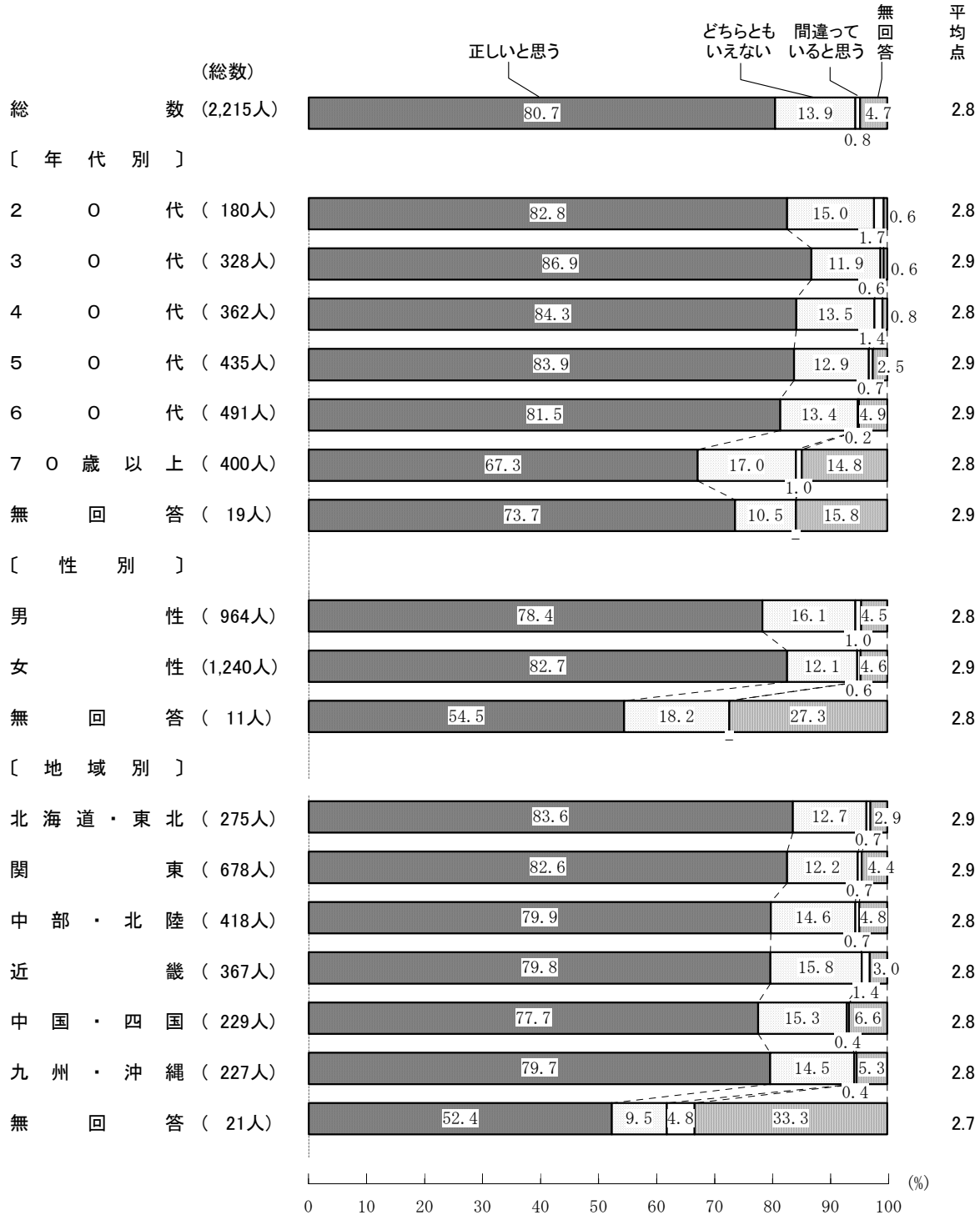
（１）ア　緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



上記（１）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 80.7%、「どちらともいえない」が 13.9%、「間違っていると思う」が 0.8%となっている。

＜図７－１（１）、図７－１（２）＞

図７－１（１）　ア　緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する

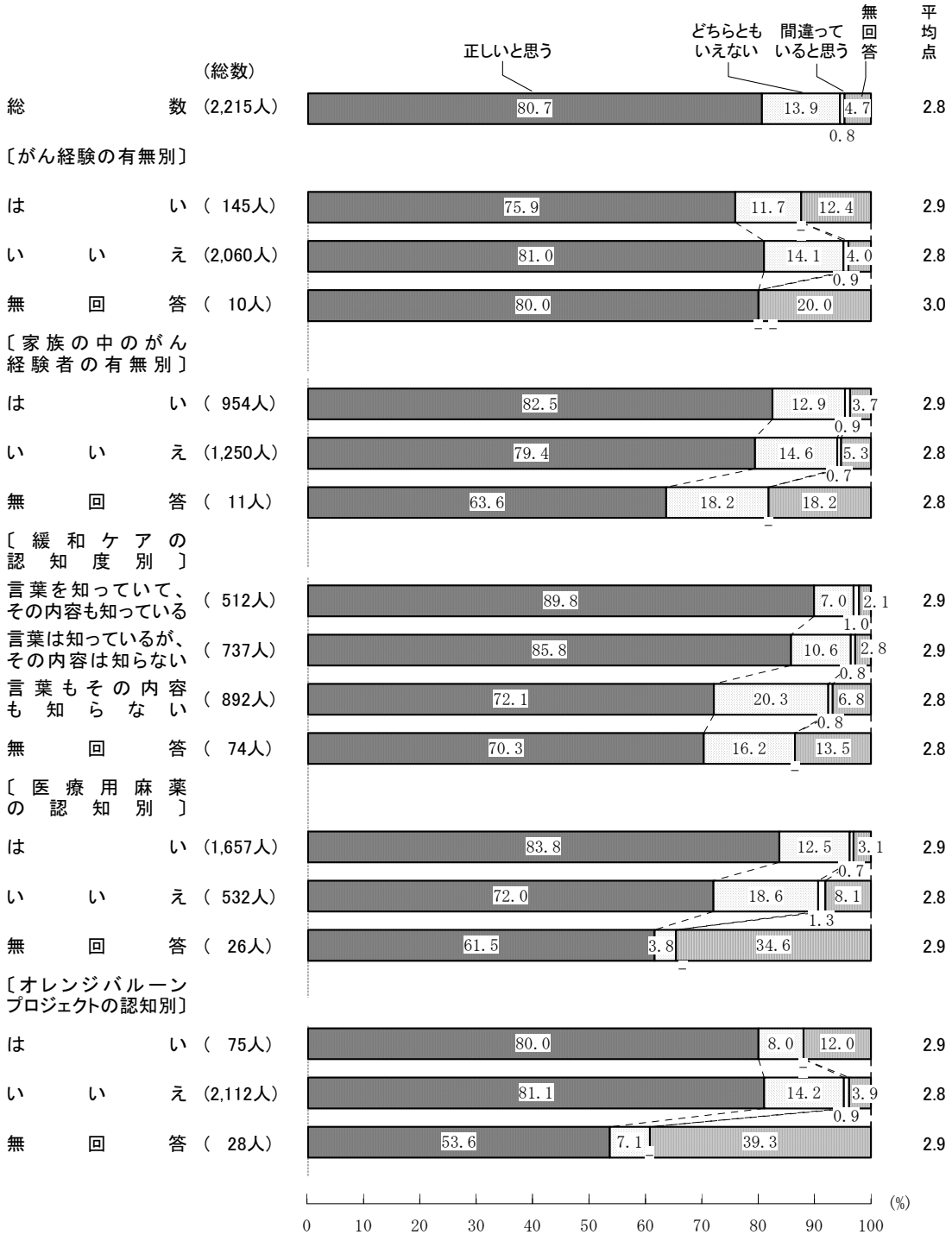


年代別にみると、「正しいと思う」が 30 代（86.9%）で最も高く、40 代（84.3%）、50 代（83.9%）、20 代（82.8%）、60 代（81.5%）と続いている。

性別にみると、「正しいと思う」は女性（82.7%）が男性（78.4%）を 4.3 ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

図７－１（２）　ア　緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



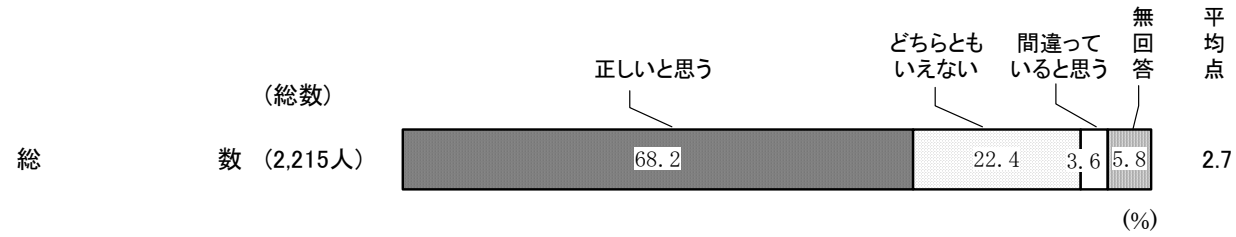
がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“その内容も知っている”で高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 83.8%と高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」の認知別では差はみられない。

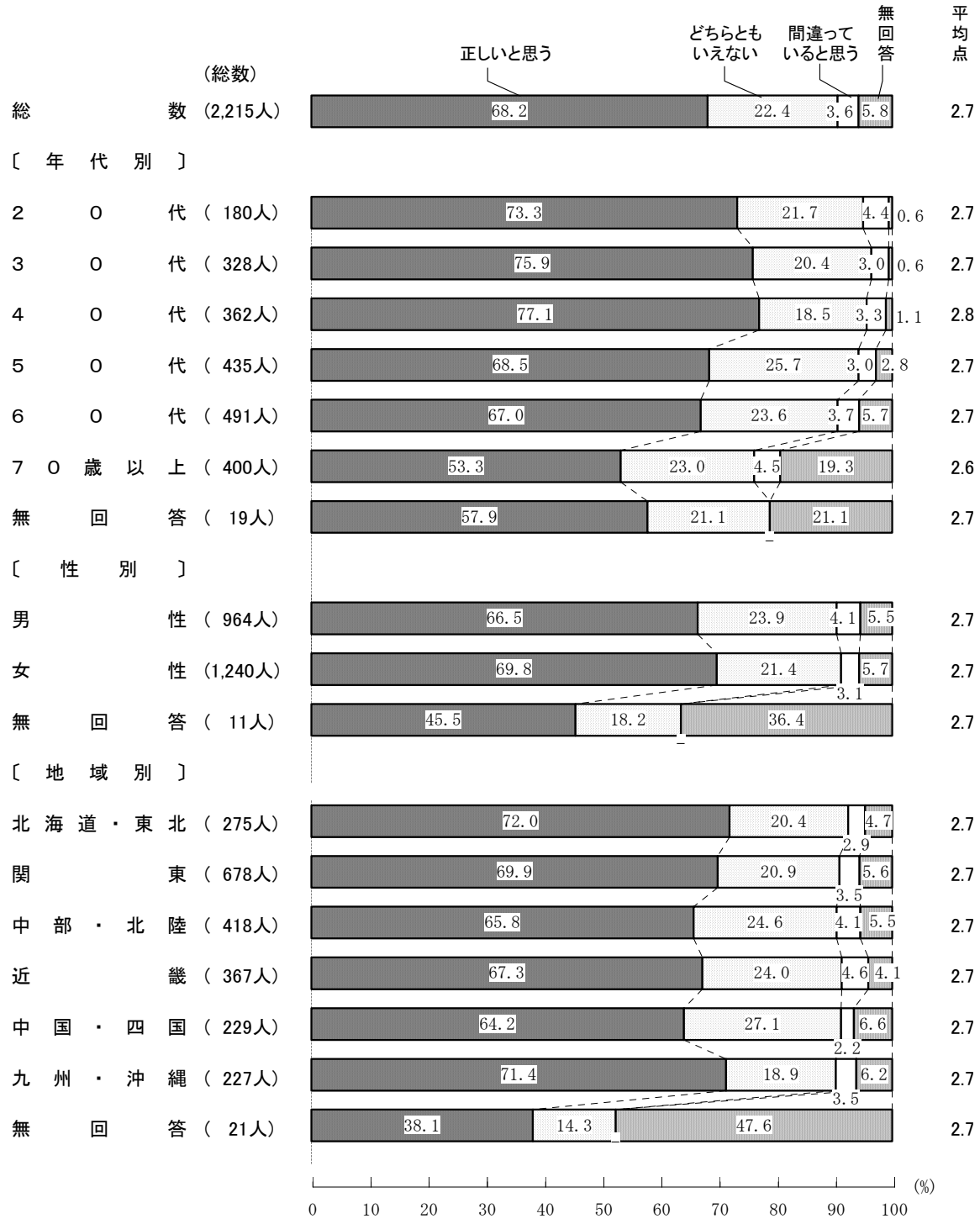
（２）イ　緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる



上記（２）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 68.2%、「どちらともいえない」が 22.4%、「間違っていると思う」が 3.6%となっている。

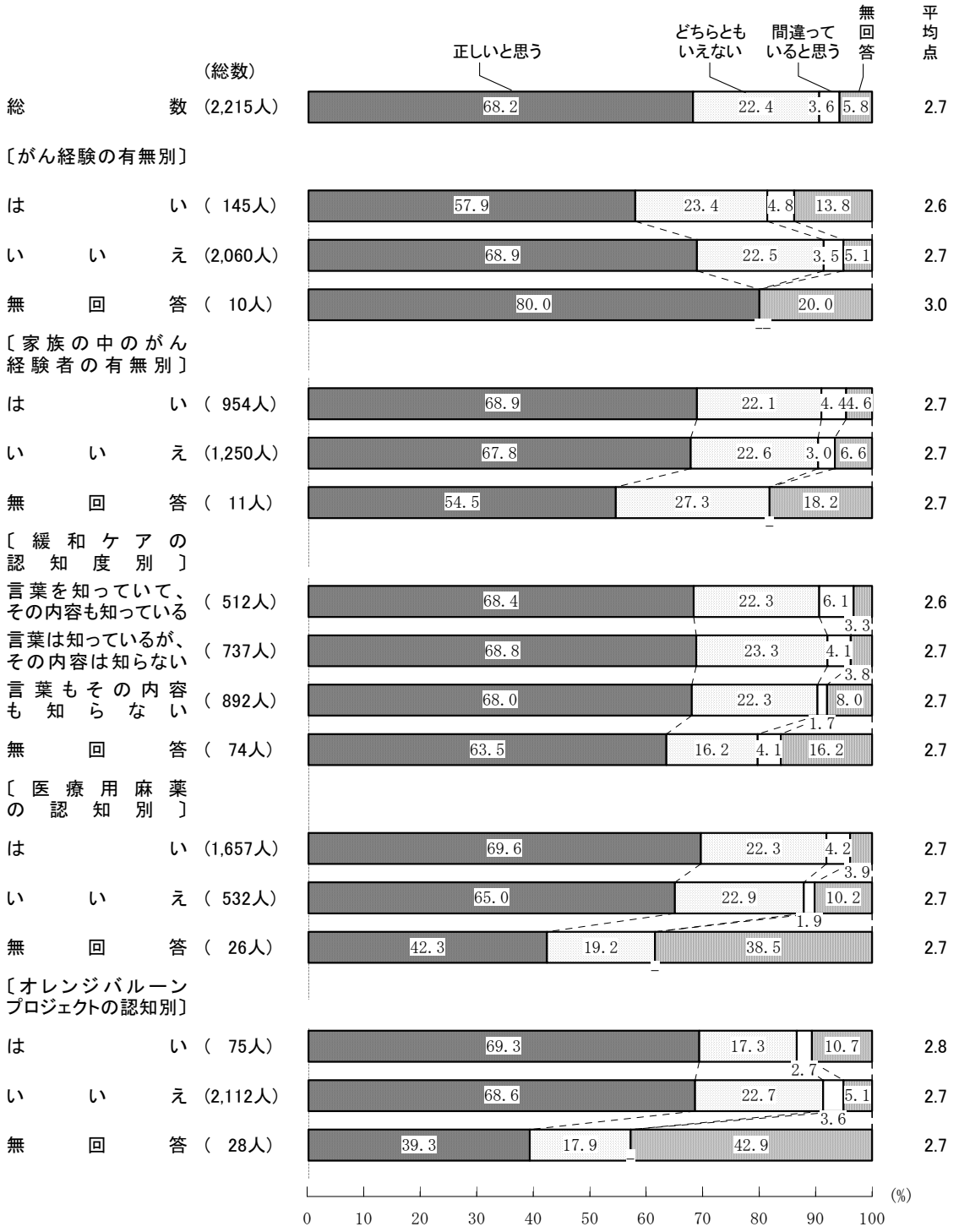
＜図７－２（１）、図７－２（２）＞

図７－２（１）　イ　緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる



年代別にみると、「正しいと思う」が 30 代（75.9%）と 40 代（77.1%）で高くなっている。
性別、地域別ともに差はみられない。

図７－２（２）　イ　緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」（57.9%）が、（がん経験の）ない人より 11 ポイント低くなっている。

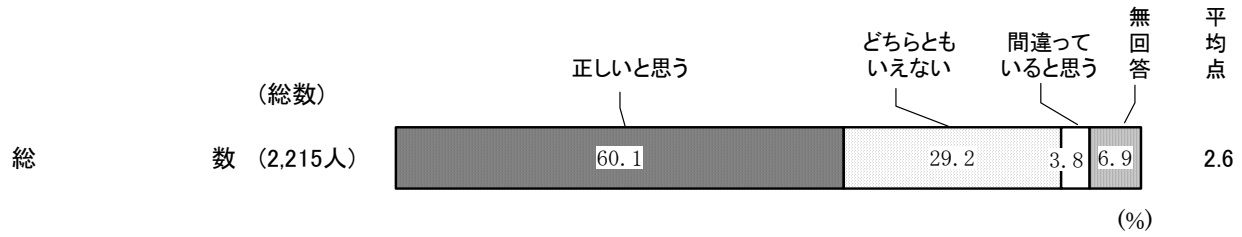
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別では差はみられない。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」（69.6%）が、知らない人より 4.6 ポイント高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」の認知別では差はみられない。

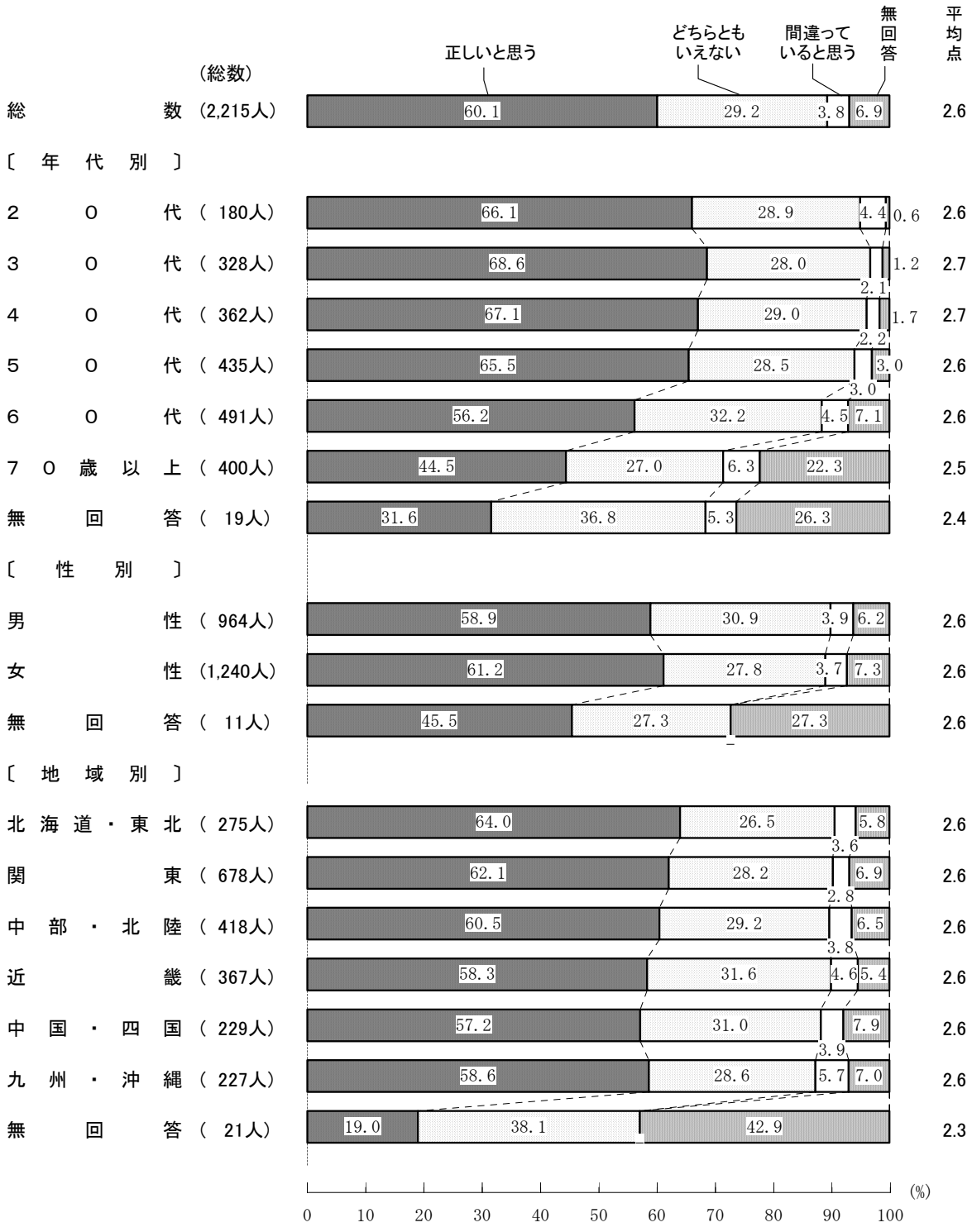
（３）ウ　緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



上記（３）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 60.1%、「どちらともいえない」が 29.2%、「間違っていると思う」が 3.8%となっている。

＜図７－３（１）、図７－３（２）＞

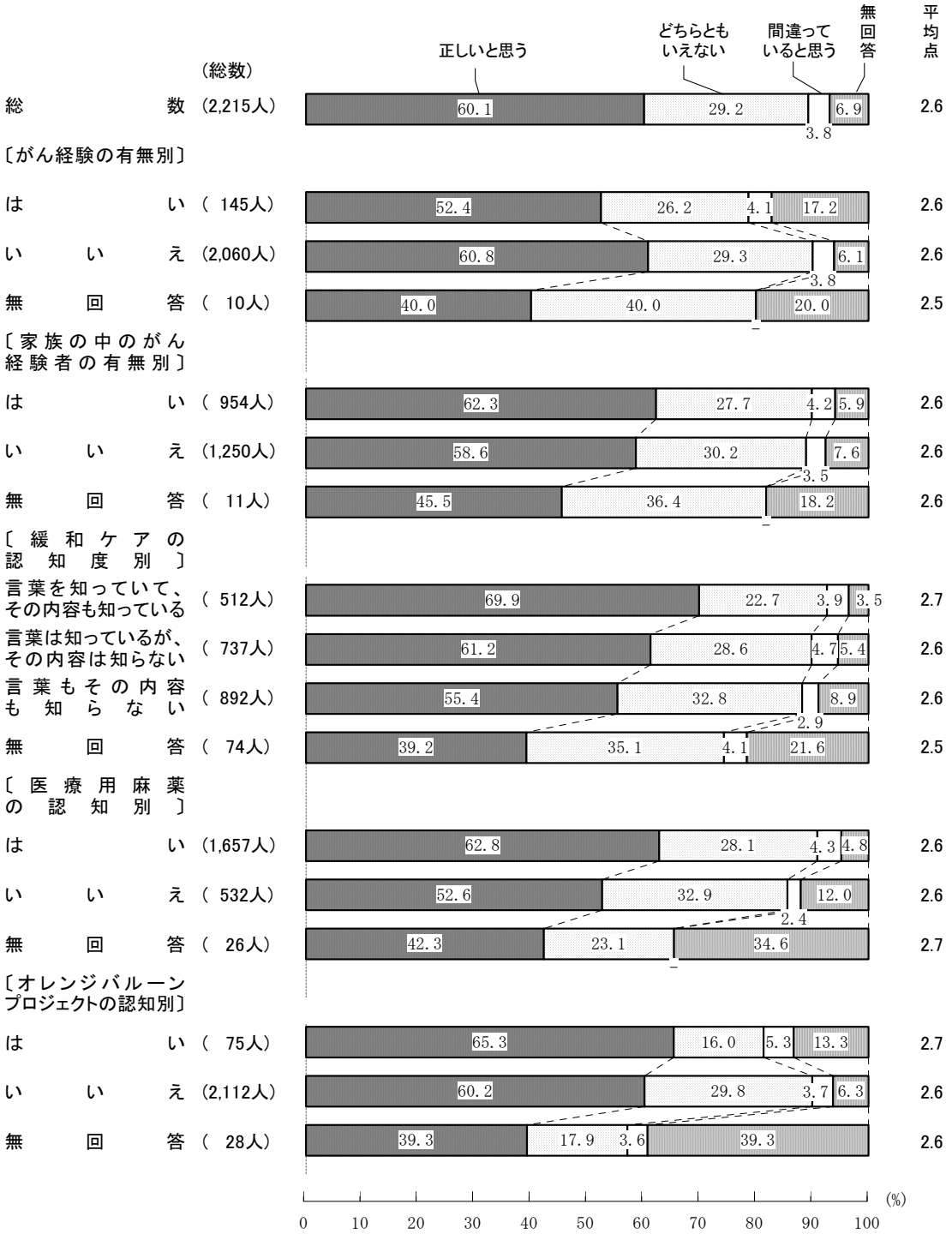
図７－３（１）　ウ　緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



年代別にみると、「正しいと思う」が 20 代（66.1%）、30 代（68.6%）、40 代（67.1%）、50 代（65.5%）で高くなっている。

性別、地域別ともに差はみられない。

図７－３（２）　ウ　緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」の割合が 52.4%で、全体平均より 7.7 ポイント低くなっている。

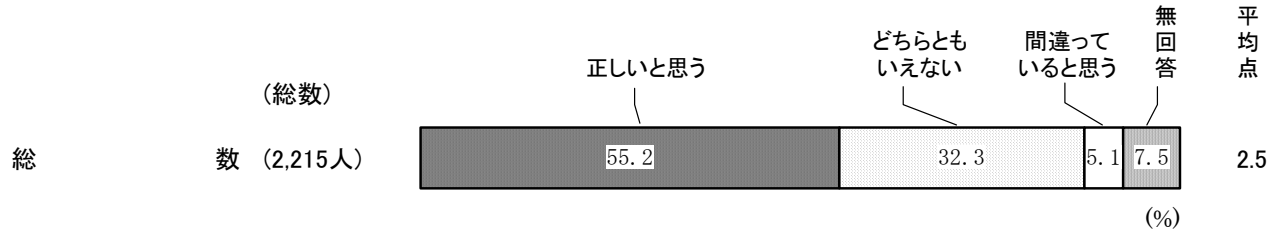
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」の割合が“その内容も知っている”で 69.9%と全体平均より約 10 ポイント高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 62.8%と高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」(65.3%) が、知らない人より 5.1 ポイント高くなっている。

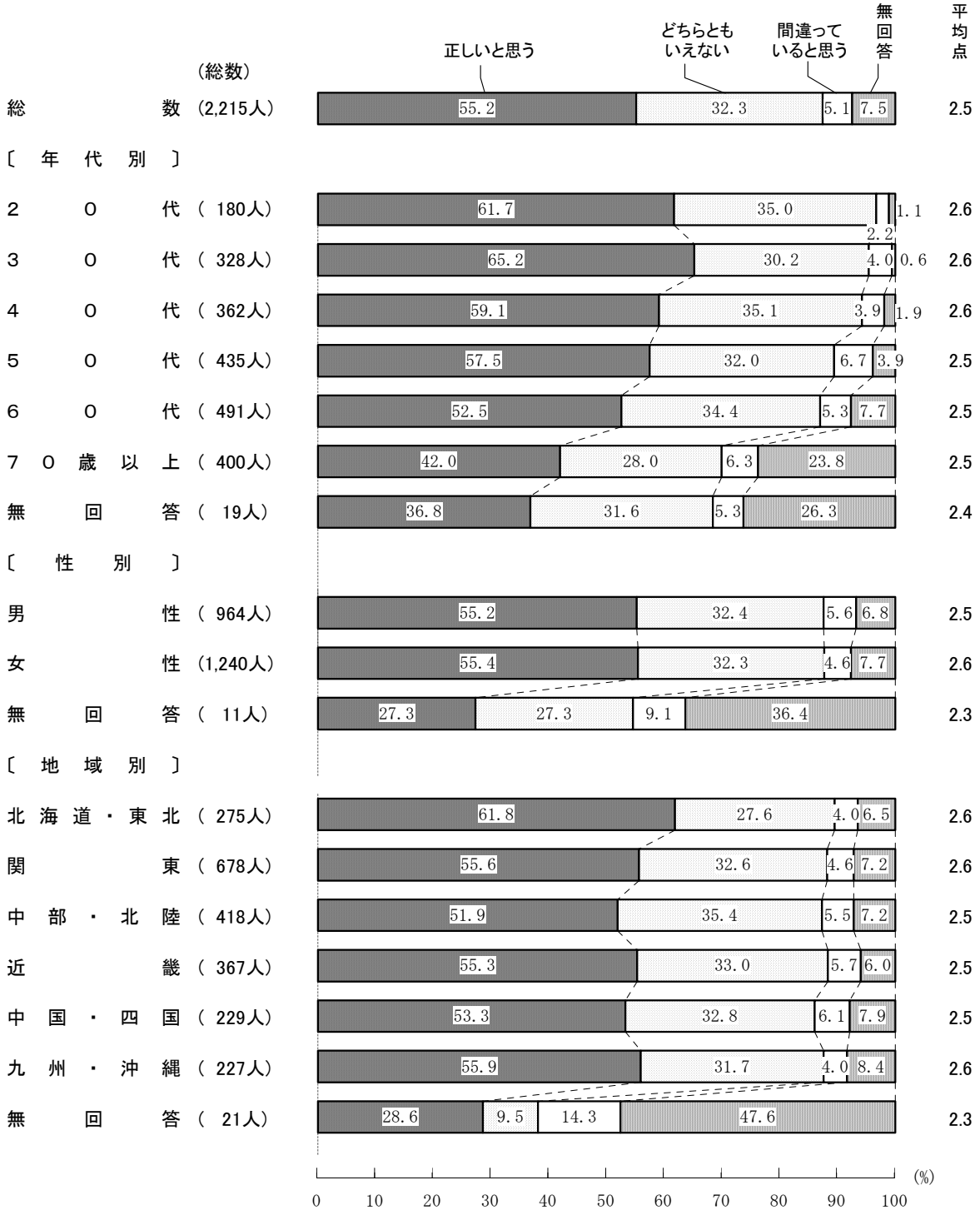
（４）エ　緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている



上記（４）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 55.2%、「どちらともいえない」が 32.3%、「間違っていると思う」が 5.1%となっている。

＜図７－４（１）、図７－４（２）＞

図７－４（１）　エ　緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている

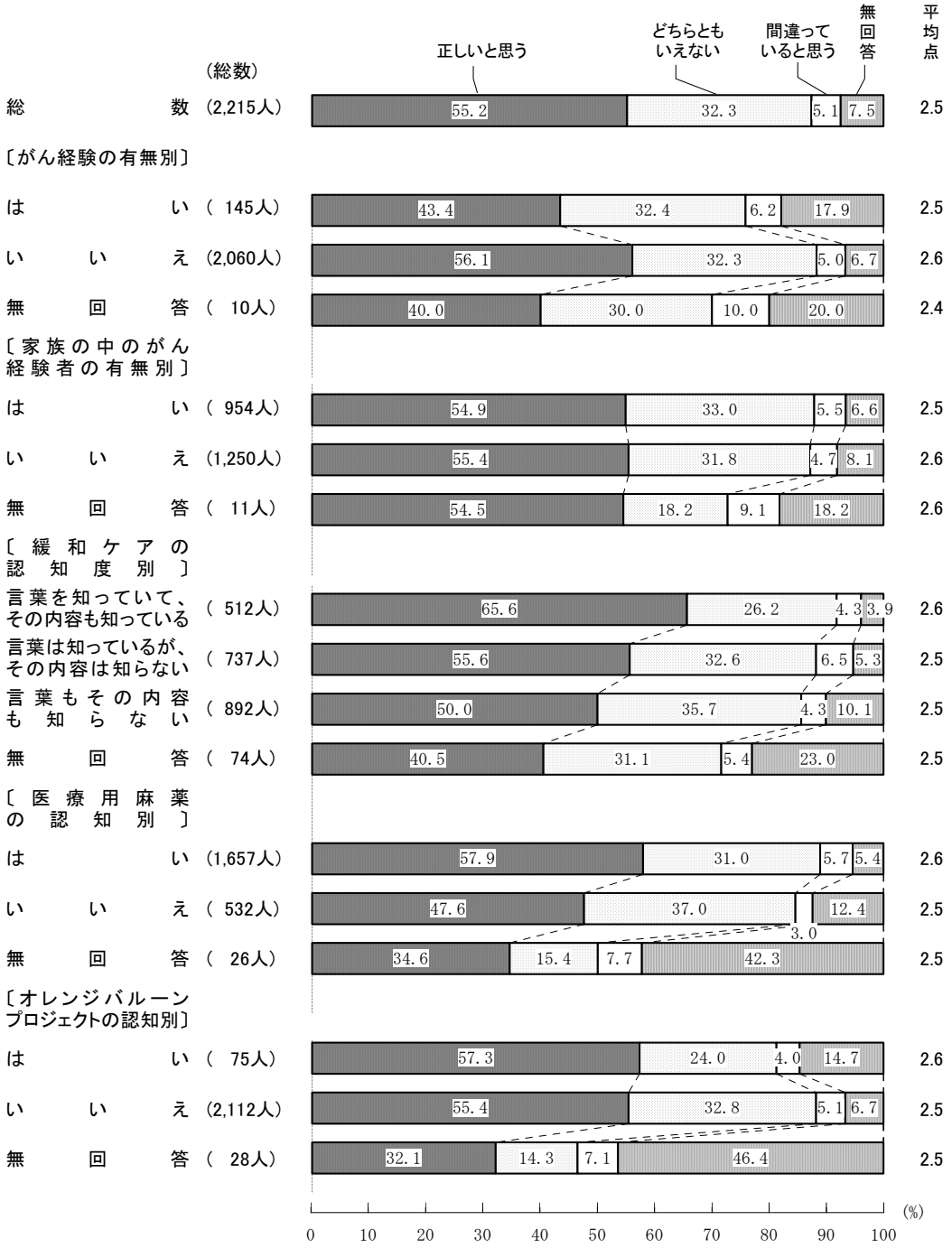


年代別にみると、「正しいと思う」が 30 代（65.2%）で高くなっており、20 代（61.7%）、40 代（59.1%）が続いている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「正しいと思う」が北海道・東北（61.8%）で高くなっていおり、全体平均を 6.6 ポイント上回っている。

図７－４（２）　エ　緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」（43.4%）が、（がん経験の）ない人より 12.7 ポイント低くなっている。

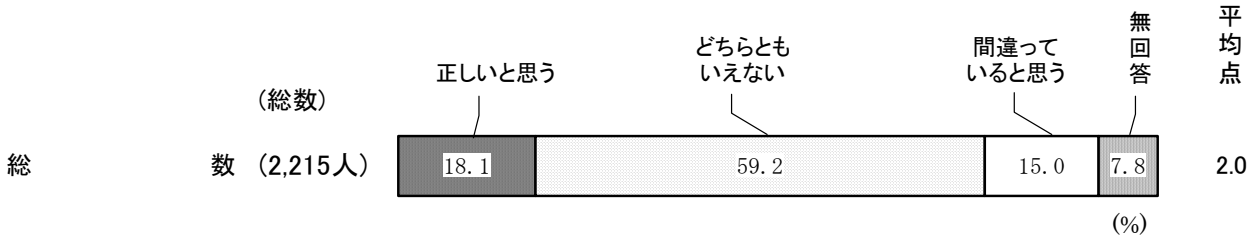
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」の割合が“その内容も知っている”で 65.6%と高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 57.9%と知らない人より約 10 ポイント高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」（57.3%）が、知らない人より約 2 ポイント高くなっている。

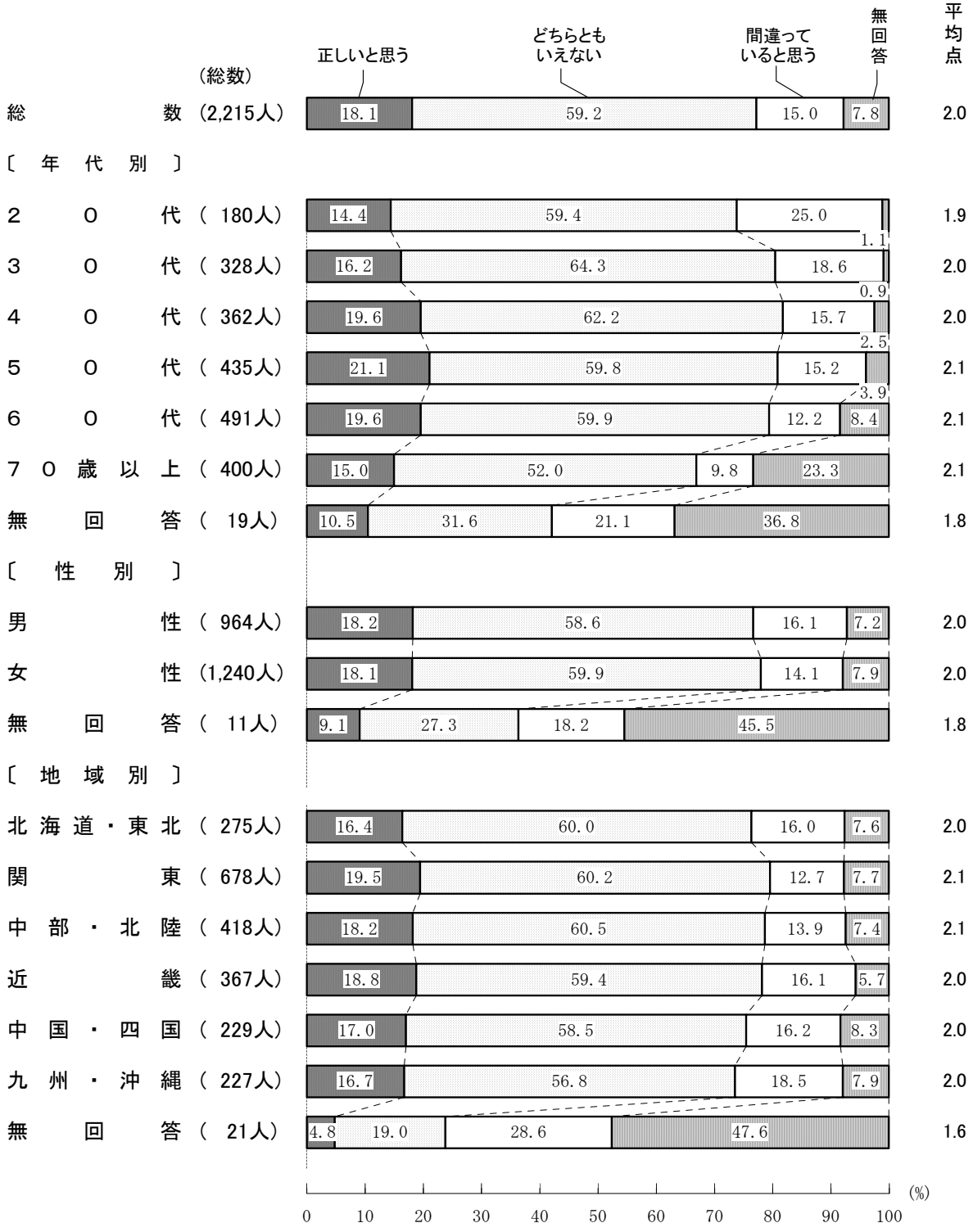
（５）オ　緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない



上記（５）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 18.1%、「どちらともいえない」が 59.2%、「間違っていると思う」が 15.0%となっている。

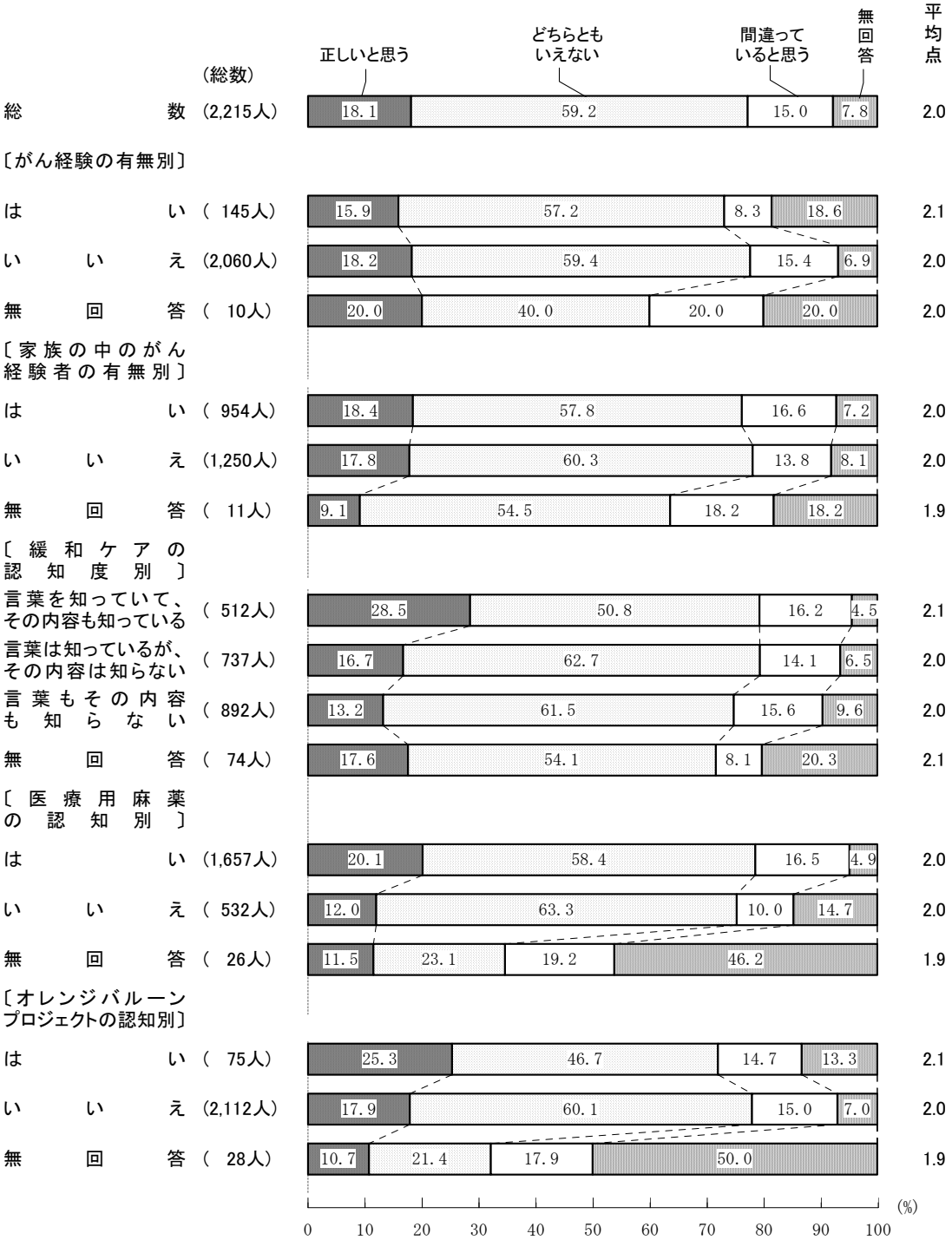
＜図７－５（１）、図７－５（２）＞

図７－５（１）　オ　緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない



年代別にみると、「間違っていると思う」が 20 代（25.0%）、30 代（18.6%）で高くなっている。性別、地域別ともに差はみられない。

図７－５（２）　オ　緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない



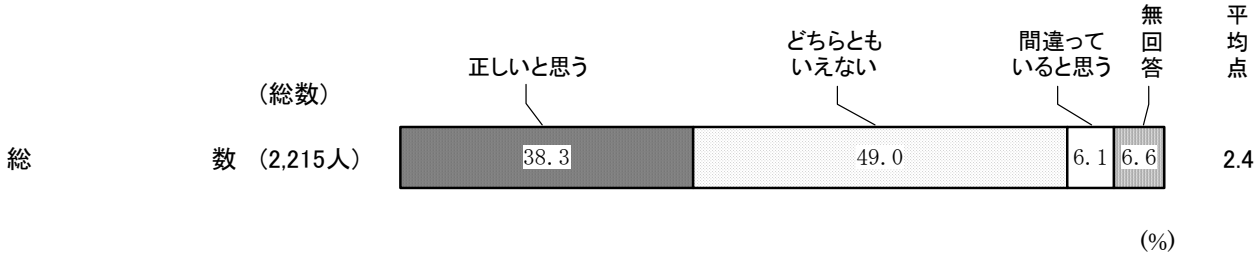
がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“内容も知っている”（28.5%）で高くなっており、全体平均を 10.4 ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」（20.1%）、「間違っていると思う」（16.5%）が、ともに高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」（25.3%）が、知らない人より 7.4 ポイント高くなっている。

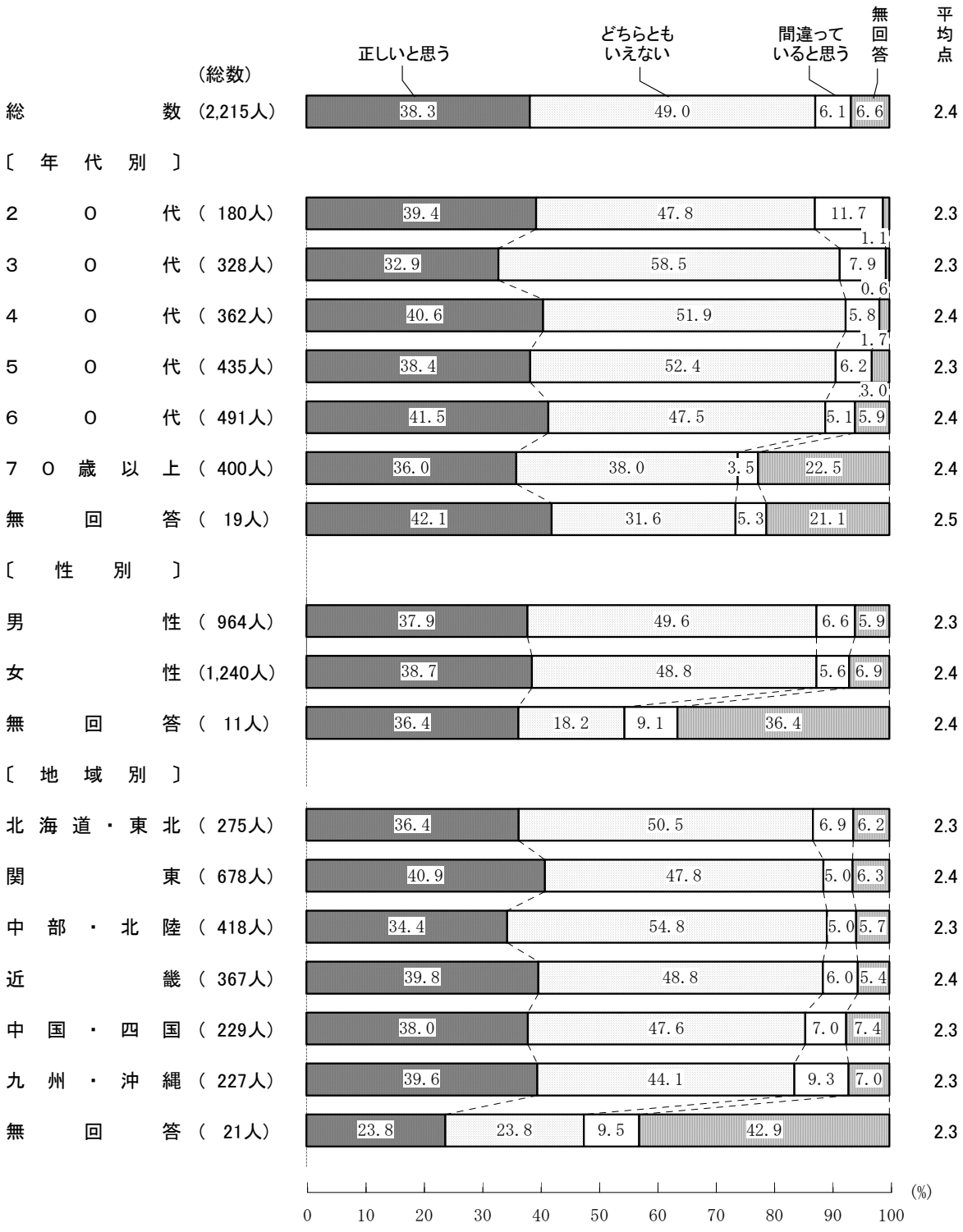
（６）カ　緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



上記（６）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 38.3%、「どちらともいえない」が 49.0%、「間違っていると思う」が 6.1%となっている。

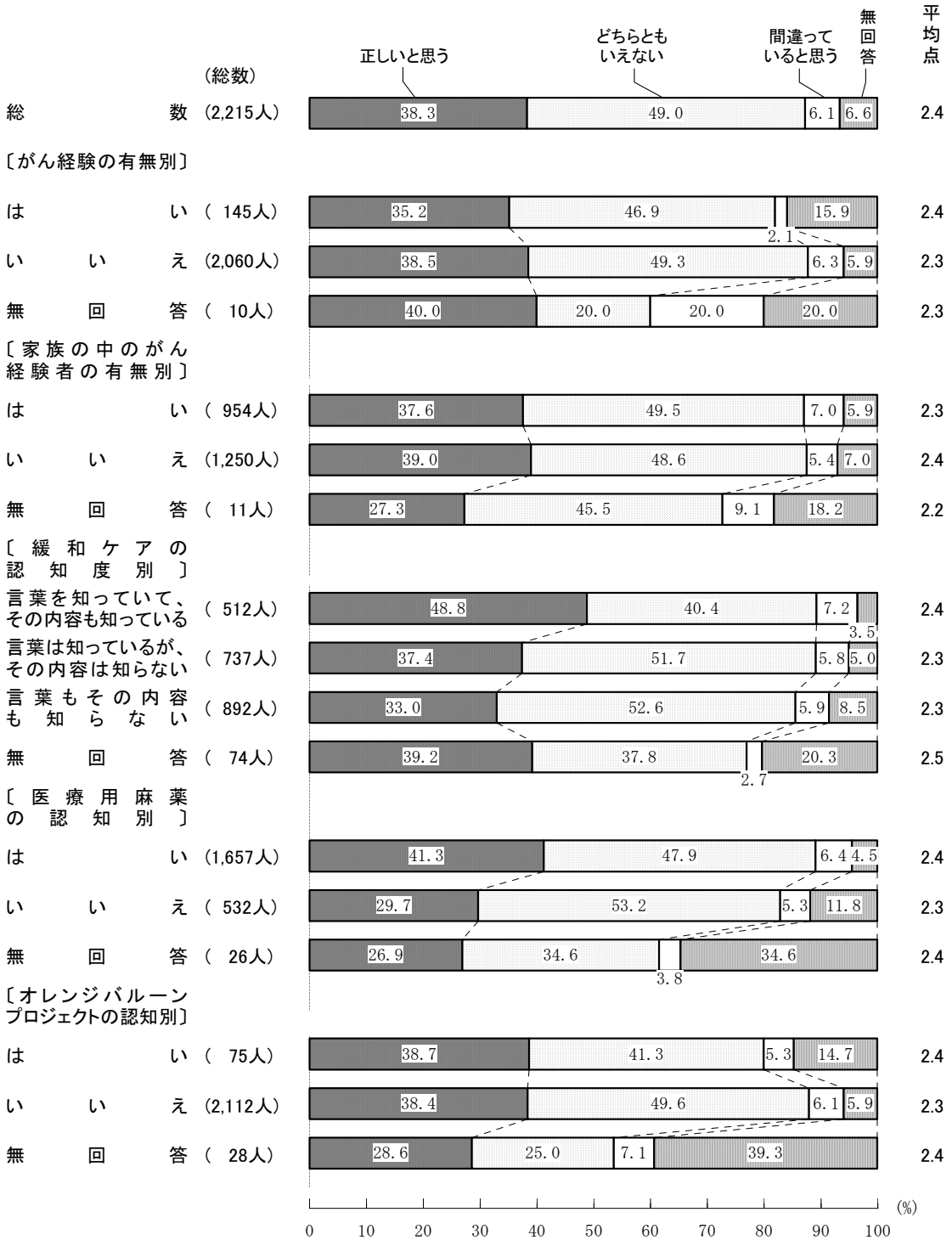
＜図７－６（１）、図７－６（２）＞

図７－６（１）　カ　緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



年代別にみると、「正しいと思う」が 30 代（32.9%）で低くなっている。
性別では差はみられない。
地域別にみると、「正しいと思う」が中部・北陸（34.4%）で低くなっている。

図７－６（２）　カ　緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない

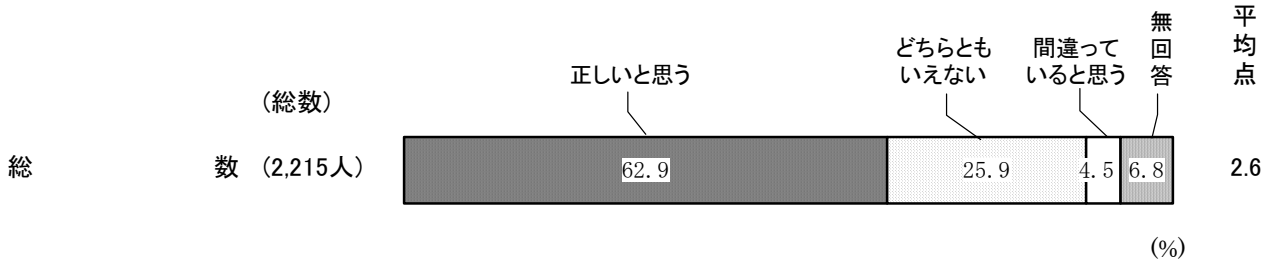


がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“その内容も知っている”（48.8%）で全体平均を10.5 ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 41.3%と高くなっている。「オレンジバルーンプロジェクト」の認知別では差はみられない。

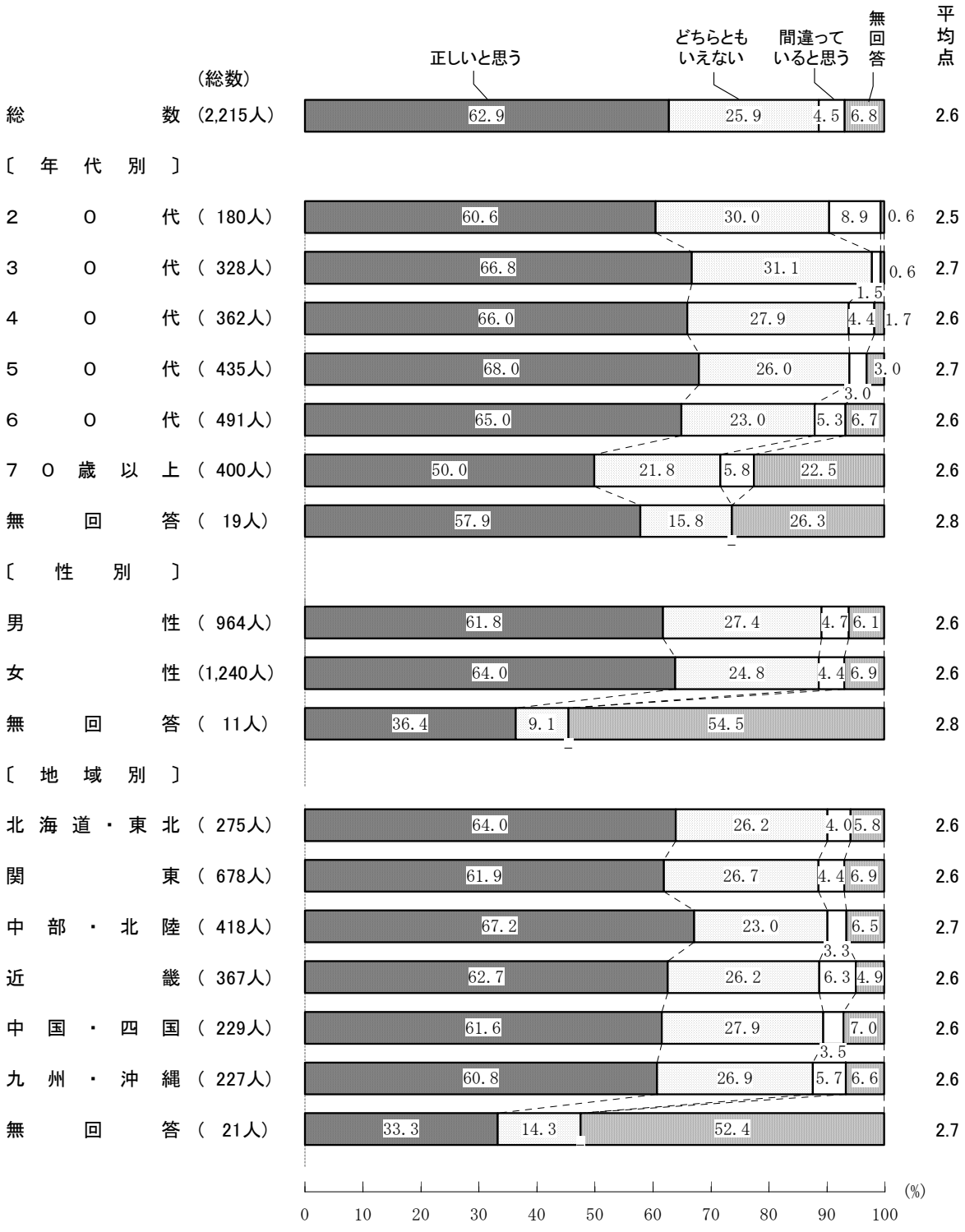
（７）キ　緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



上記（７）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 62.9%、「どちらともいえない」が 25.9%、「間違っていると思う」が 4.5%となっている。

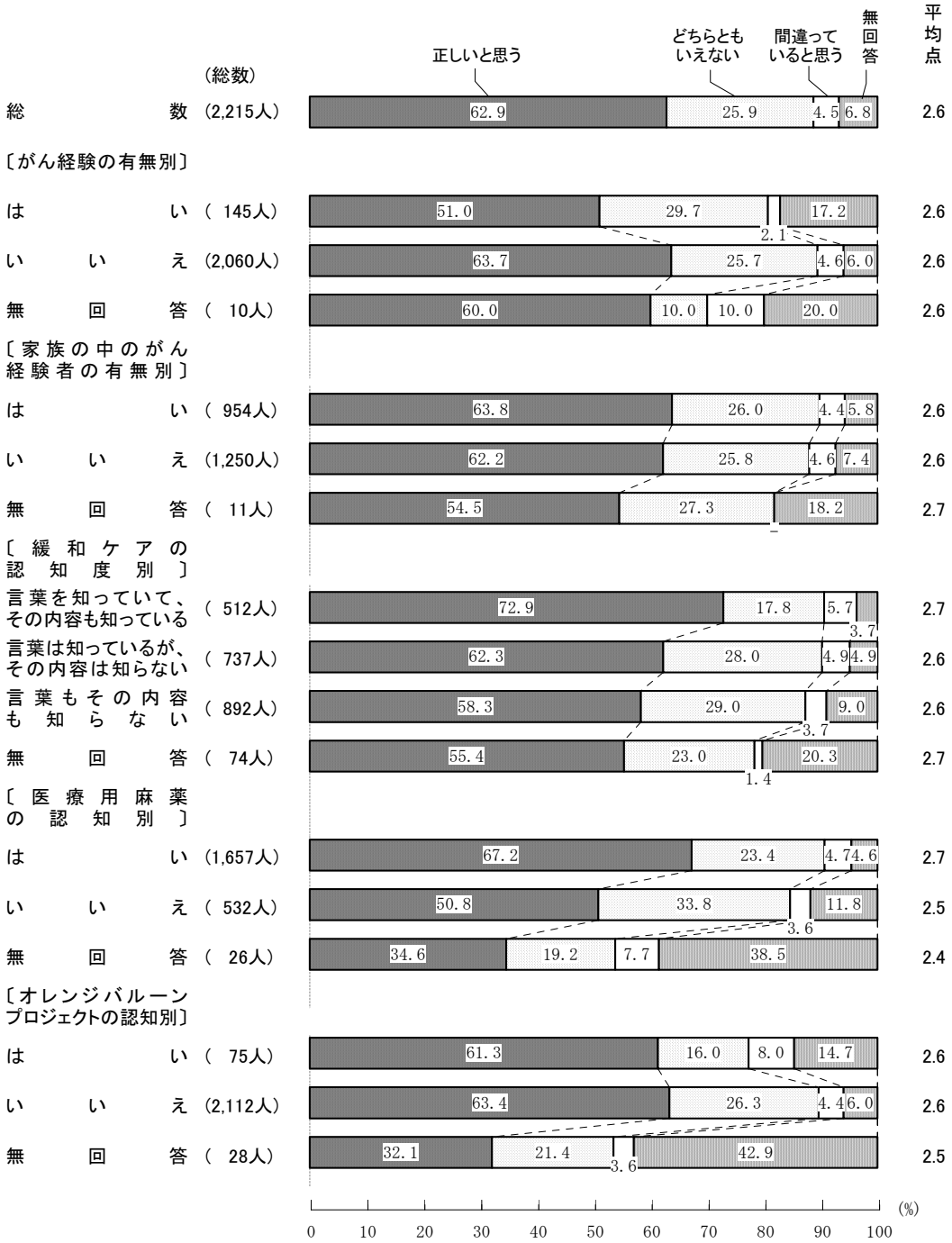
＜図７－７（１）、図７－７（２）＞

図７－７（１）　キ　緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



年代別にみると、「正しいと思う」が 50 代（68.0%）でやや高くなっている。
性別では差はみられない。
地域別にみると、「正しいと思う」が中部・北陸（67.2%）で高くなっている。

図７－７（２）　キ　緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」（51.0%）が、（がん経験の）ない人より 12.7 ポイント低くなっている。

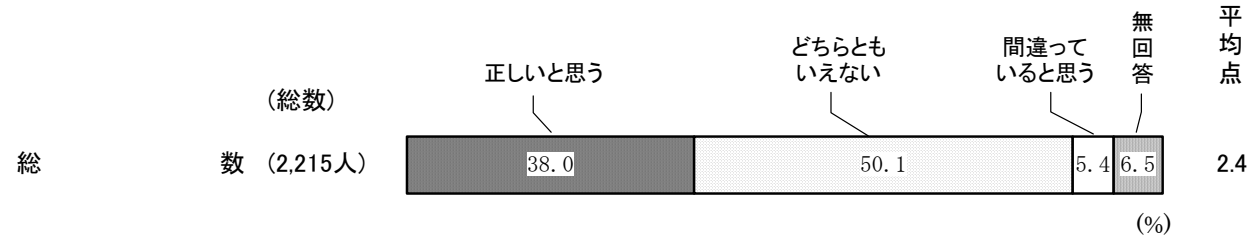
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“内容も知っている”（72.9%）で高くなっており、全体平均を 10 ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 67.2%と高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」（61.3%）が、知らない人より 2.1 ポイント低くなっている。

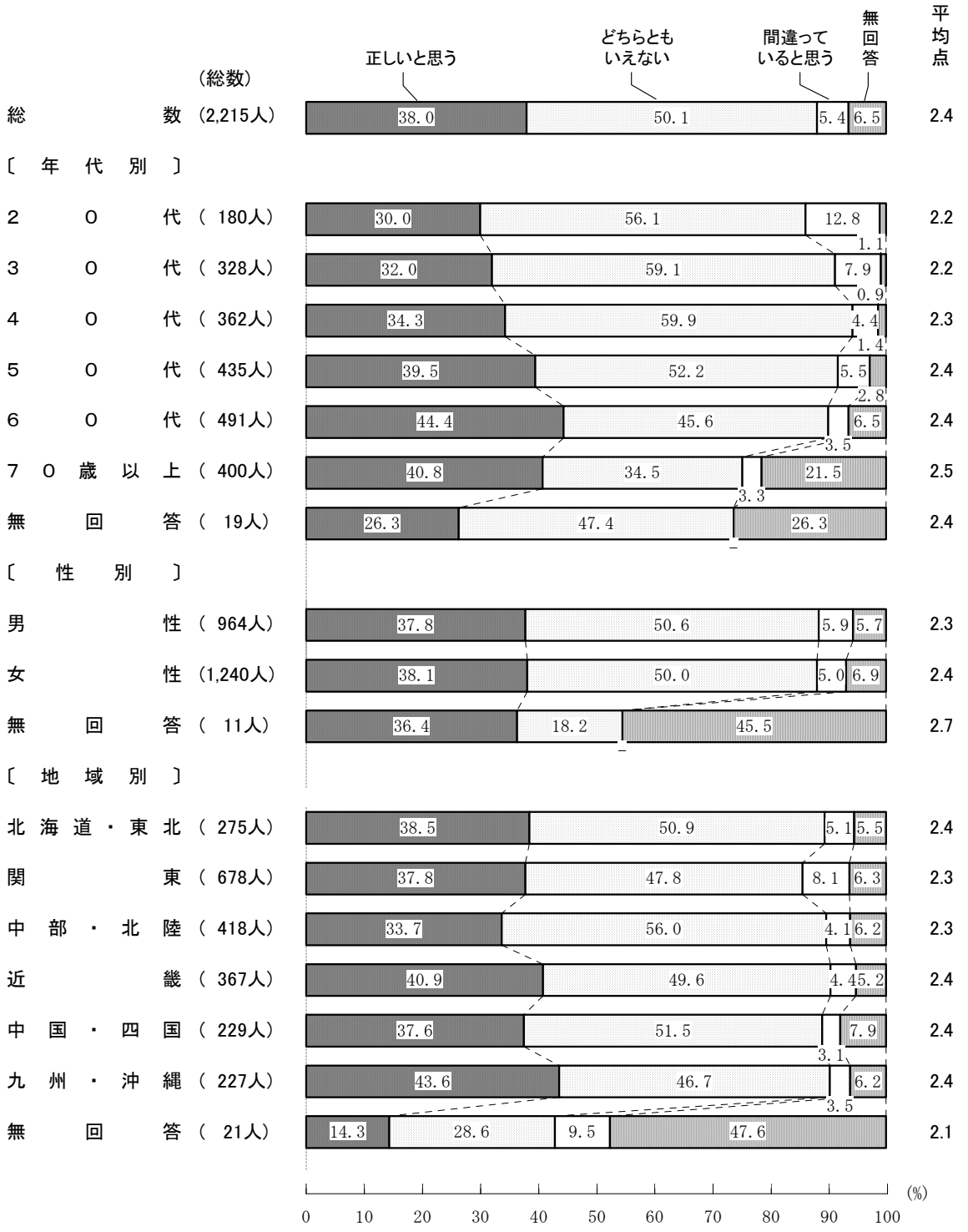
（８）ク　現在の技術では、がんの痛みの９０%は薬剤によってコントロールできると言われている



上記（８）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 38.0%、「どちらともいえない」が 50.1%、「間違っていると思う」が 5.4%となっている。

＜図７－８（１）、図７－８（２）＞

図７－８（１）　ク　現在の技術では、がんの痛みの９０%は薬剤によってコントロールできると言われている

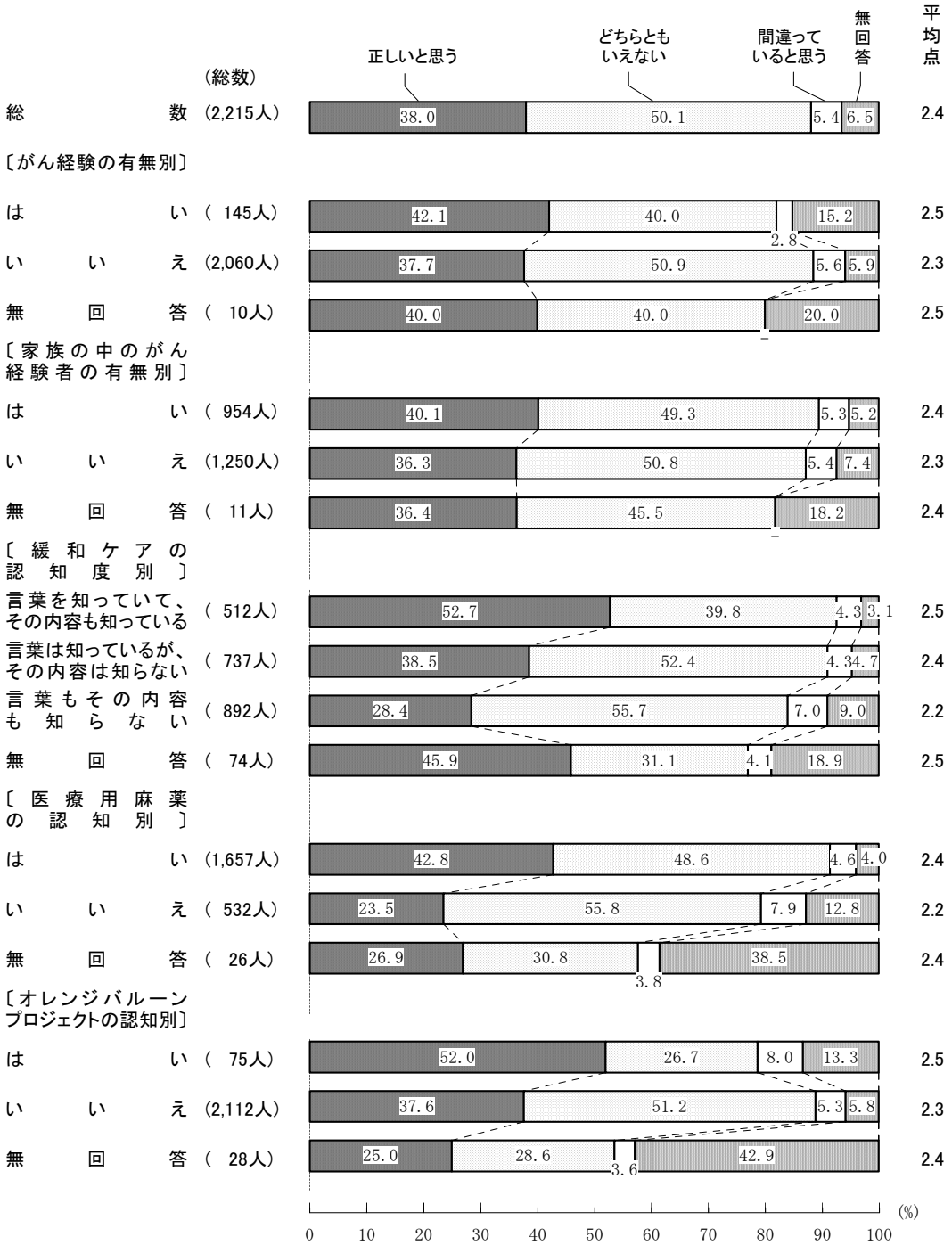


年代別にみると、年代が高くなるほど「正しいと思う」の割合が高くなっており、60代（44.4%）で高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「正しいと思う」が中部・北陸（33.7%）で低くなっている。

図７－８（２）　ク　現在の技術では、がんの痛みの９０%は薬剤によってコントロールできると言われている



がん経験者の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

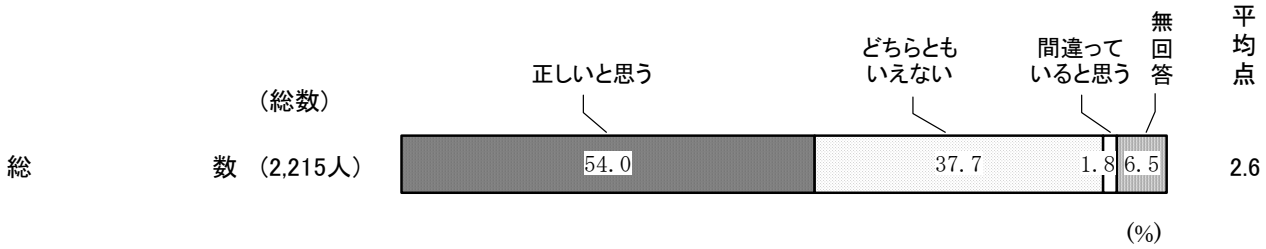
緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“内容を知っている”で 52.7%と全体平均より 14.7 ポイント高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 42.8%と高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 52.0%と高くなっている。

（９）ケ　緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、ＱＯＬ(※)は改善すると言われている

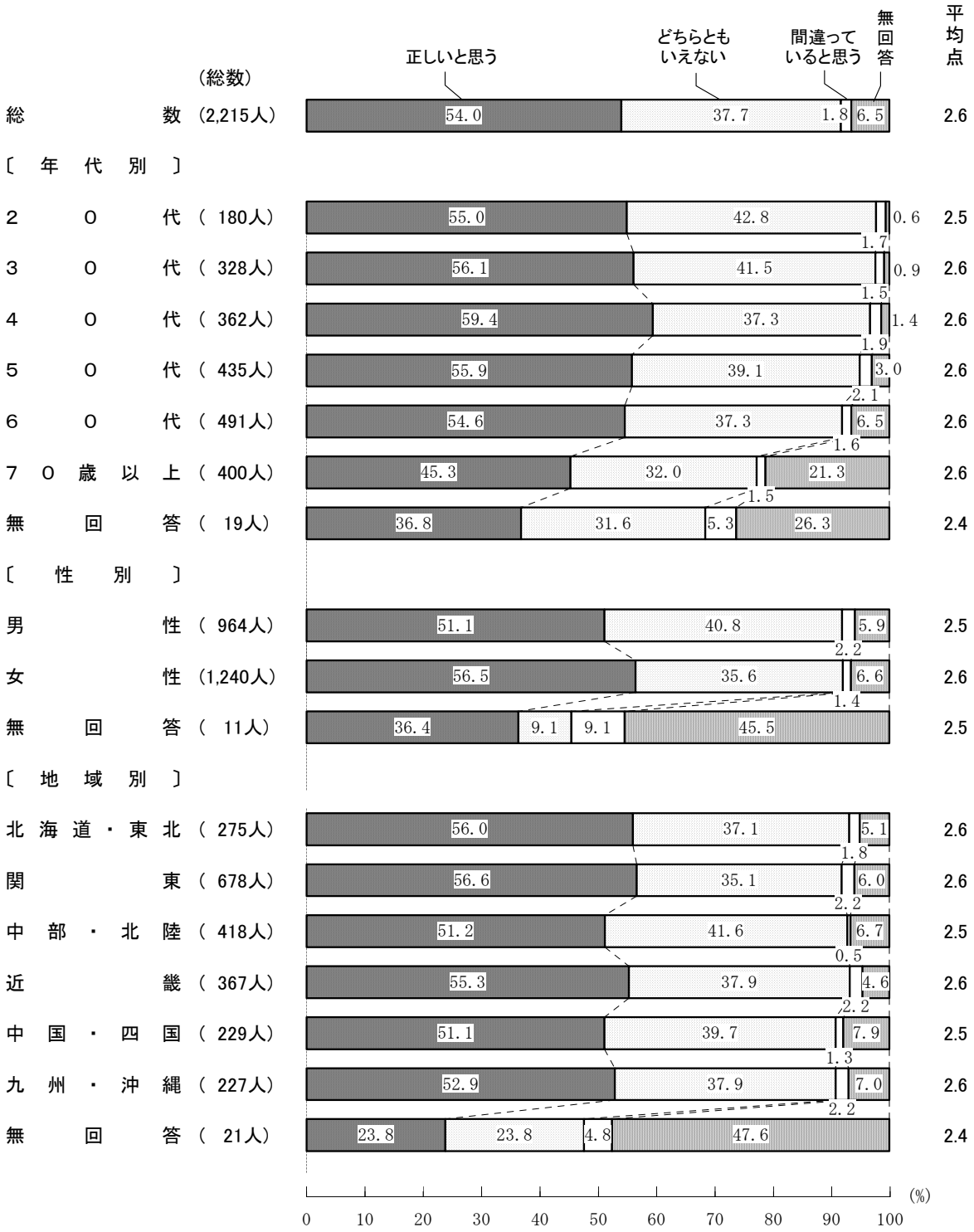
※　ＱＯＬ ⇒ Quality of Life（クォリティ・オヴ・ライフ）の略。生命、人生、生活の質を指す。いかに充実した生活が送れているかを示すもの。）



上記（９）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 54.0%、「どちらともいえない」が 37.7%、「間違っていると思う」が 1.8%となっている。

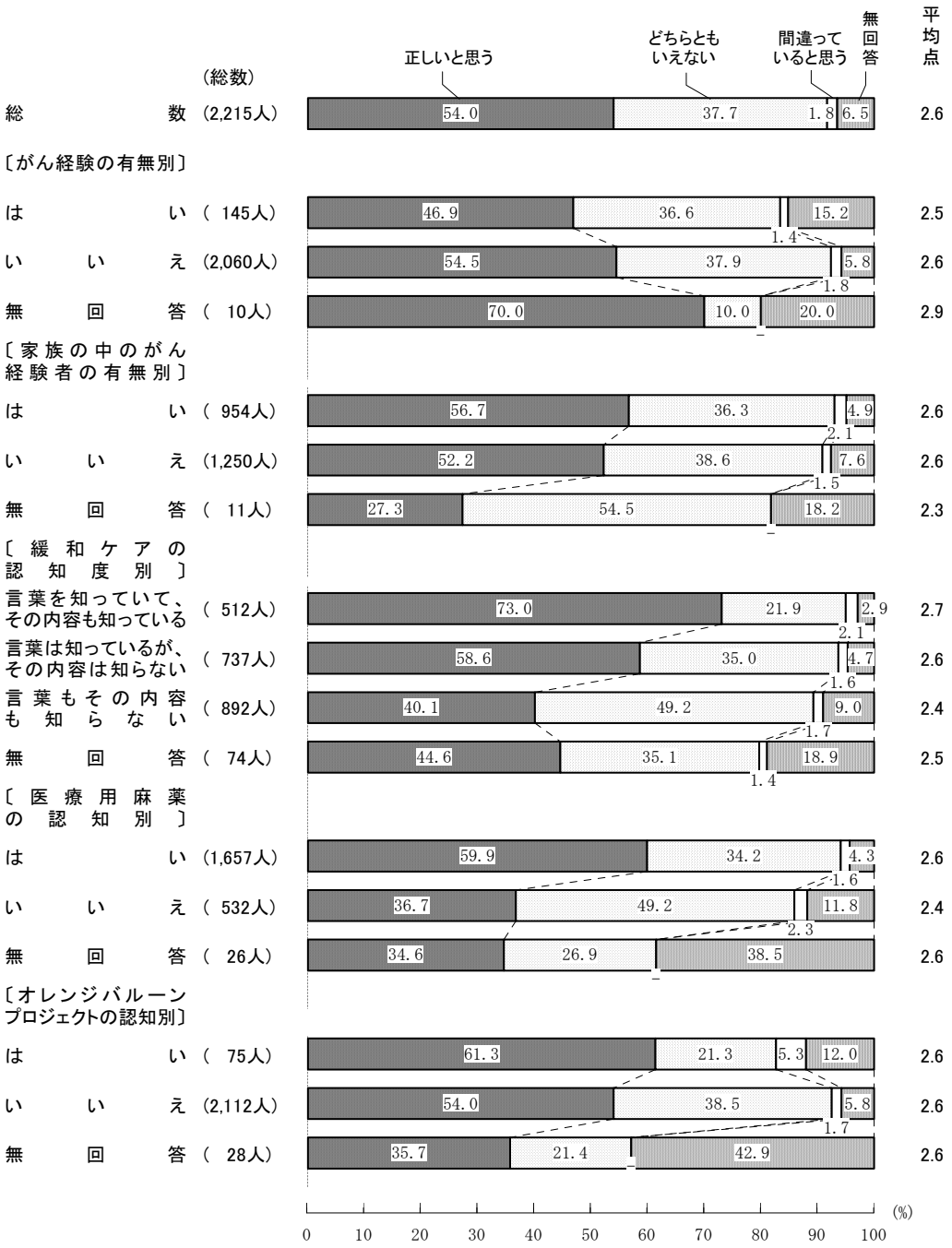
＜図７－９（１）、図７－９（２）＞

図７－９（１）　ケ　緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、ＱＯＬは改善すると言われている



年代別にみると、「正しいと思う」が 40 代（59.4%）で高くなっている。
性別にみると、「正しいと思う」が女性（56.5%）で高くなっている。
地域別では差はみられない。

図７－９（２）　ケ　緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、ＱＯＬは改善すると言われている



がん経験者に限定してみると、「はい」が 46.9%で、全体平均より 7.1 ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「正しいと思う」が 56.7%と高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“内容も知っている”（73.0%）で高くなっており、全体平均を 19 ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 59.9%と高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 61.3%と知らない人より 7.3 ポイント高くなっている。

８　「オレンジバルーンプロジェクト」に期待すること

問８　緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

問8（自由回答）の分類結果／郵送調査

回答有り 611人／集計数 2,215人中　　**複数回答**

分類軸	内　　容	回答数
OBP	・OBPのPR（周知）をもっとしてほしい！ ・OBPの周知を徹底してほしい（わかりやすく）！ ・OBPのことを知りたい。 ・OBPがあることを知る機会を作ってほしい！	152
OBP	・OBPを地方（田舎）にも普及してほしい。 ・OBPを高齢者にも普及してほしい。	9
OBP	・OBPは初めて聞いた（聞いたことがなかった）。 ・OBPを知らなかった。	59
OBP	よくわからない（OBPについて）。	11
OBP	・がんばってください。 ・期待しています。事業の発展を期待している。 ・よい活動だ。 ・活動を進めてほしい。 ・ご苦労様（お疲れ様）です。	49
OBP	テレビ（CMなど）で放送してほしい。	21
OBP	OBPの名前についての注文（長い、なぜ英語か、変な名前だ等）。	4
OBP	がん告知＝死　というイメージを変えるプロジェクトであってほしい。	5
OBP	公的施設、病院、職場、学校などで話を聞く（学習する）機会がほしい。	5
OBP	（その他） OBP　への要望、提案、質問	26
OBP	（その他） OBP　への批判、苦情、文句	3
OBP	（その他） OBP　その他	3

つづき

分類軸	内　　容	回答数
緩和ケア	・緩和ケアの正しい知識の普及を（偏見がある人がいる）！ ・緩和ケアの周知、広報を！	100
緩和ケア	・緩和ケアについて知りたい。 ・緩和ケアについての情報を知りたい。 ・「緩和ケア」に関する情報をキャッチしたい。	25
緩和ケア	・緩和ケアは初めて知った。 ・緩和ケアを（よく）知らなかった。関心がなかった。	30
緩和ケア	・「緩和ケア」を受けたい（現在、もしくはがんになったら）。 ・もっと身近に「緩和ケア」を。 ・誰もが「緩和ケア」を受けられるとよい。	23
緩和ケア	・「緩和」という言葉がわかりにくい。 ・緩和ケアの名前がよくない。	5
緩和ケア	テレビ（CMなど）で放送してほしい。	13
緩和ケア	緩和ケアについて、（自治体、学校、職場などで）学習する機会がほしい。	5
緩和ケア	・医師（医療関係者）は患者に「緩和ケア」の説明をしてほしい。 ・医療用語を使わないで、「緩和ケア」というものを伝えてほしい。 ・医者の説明だけでは不安。	7
緩和ケア	・がんの痛み（苦しみ）を解消するために尽力を！ ・痛みを軽くすることが一番。 ・がん＝痛みというイメージを無くして！	33
緩和ケア	・心の緩和ケアが大切である。 ・心の痛みや不安をケアする普及をしてほしい。	32
緩和ケア	・患者の家族に対するケアやサポートが大切。 ・大切な人をがんで亡くした人へのケアを。	17
緩和ケア	・がん告知時（後）の心のケアを。 ・がんを申告されると、本人も家族も不安・・・。	9
緩和ケア	・患者の（緩和）ケアは家族でしたい。家族にしてほしい。 ・患者の（緩和）ケアは家でしたい。家でされたい。	4
緩和ケア	・地域差などの格差に関係なく（平等に）受けられるようにしてほしい。 ・緩和ケアの医療設備を充実してほしい、増やしてほしい。 ・近くに「緩和ケア」が受けられる施設があればよい。 ・どの医療機関でも緩和ケアが行えるようにしてほしい。	56
緩和ケア	・QOL（生活の質）の考え方は大切。 ・QOL（生活の質）の向上を！普及を！ ・終末期には安らかに過ごせるようにしてほしい。 ・がん（痛み）で苦しんでいる患者が少しでも充実した日々を過ごすことができるような配慮を望む。 ・生活レベルでできることできないことを教えてほしい。	41
緩和ケア	・（家計の）経済的負担の軽減を。 ・健康保険が使えるようにしてほしい。 ・財政的な援助を。援助が足りていない。	13
緩和ケア	（その他） 緩和ケア（に関すること）　への要望、提案、質問	25
緩和ケア	（その他） 緩和ケア（に関すること）　への批判、苦情、文句	4
緩和ケア	（その他） 緩和ケア（に関すること）　その他	3

つづき

分類軸	内　　容	回答数
がん	・どこに行けば(聞けば)よいのかという情報がほしい。 ・癌の専門医(病院)の情報がほしい。 ・薬や治療の情報がほしい。 ・がんについて知りたい、勉強したい。	12
がん	・がんにならないための情報を！ ・がんを未然に防いでほしい！ ・がんになる前の検診をしてほしい！ ・早期発見をしてほしい！	11
がん	医療用麻薬についての要望や質問 （正しく使用できる医師を養成してほしい等）	11
がん	(医療用麻薬以外の)薬についての要望	5
がん	・がんは告知するべき(されるべき)。 ・がんの告知について。	4
がん	(自身の)がんの経験談、(自身の)がんによる辛さ	8
がん	・(家族の)がんの経験談、(家族の)がんによる辛さ ・(友人の)がんの経験談、(友人の)がんによる辛さ	49
がん	・がんは怖い。 ・がん＝死　のイメージがある。	5
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関しての要望、提案、質問	10
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関しての批判、苦情、文句	2
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)　その他	3
医療全般	安楽死について(安楽死を認めてほしい　等)	3
医療全般	・医療者の教育をしてほしい。 ・医療者が正しく理解すべき。 ・医師は勉強をしてほしい。	11
医療全般	(その他)医療全般　に関しての要望、提案、質問	5
医療全般	(その他)医療全般　に関しての批判、苦情、文句	4
医療全般	(その他)医療全般　その他	1

つづき

分類軸	内　　容	回答数
調 査 （アンケート）	アンケートの中身が難しい（緩和ケアがよくわからない）。	11
調 査 （アンケート）	アンケートは意味がない。	2
調 査 （アンケート）	・アンケートの質問についてのコメント（疑問） ・アンケートの記入についてのコメント	8
調 査 （アンケート）	・「緩和ケア調査」は役に立つ。 ・このアンケートが役に立つことを希望。	3
調 査 （アンケート）	・何で私が選ばれたのか。 ・まともなアンケートなのか（不安である）。	2
調 査 （アンケート）	返送（提出）が遅くなった。	5
調 査 （アンケート）	（その他） 調査・アンケート	3
その他	その他	2
	総 計	972

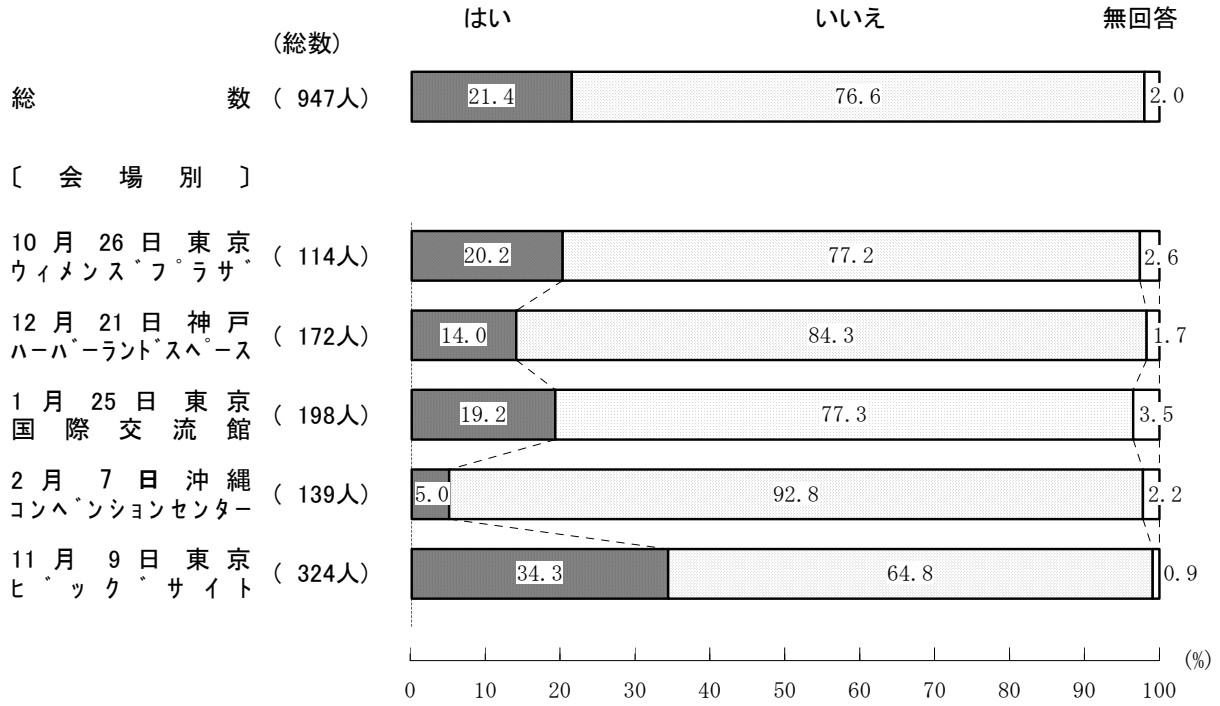
Ⅱ　調 査 結 果 の 概 要

（シンポジウム調査用）

１　あなたご自身のことについて

（１）自分自身のがんの経験の有無

問１－４　あなたは、がんを経験されたことはありますか。（○は１つ）

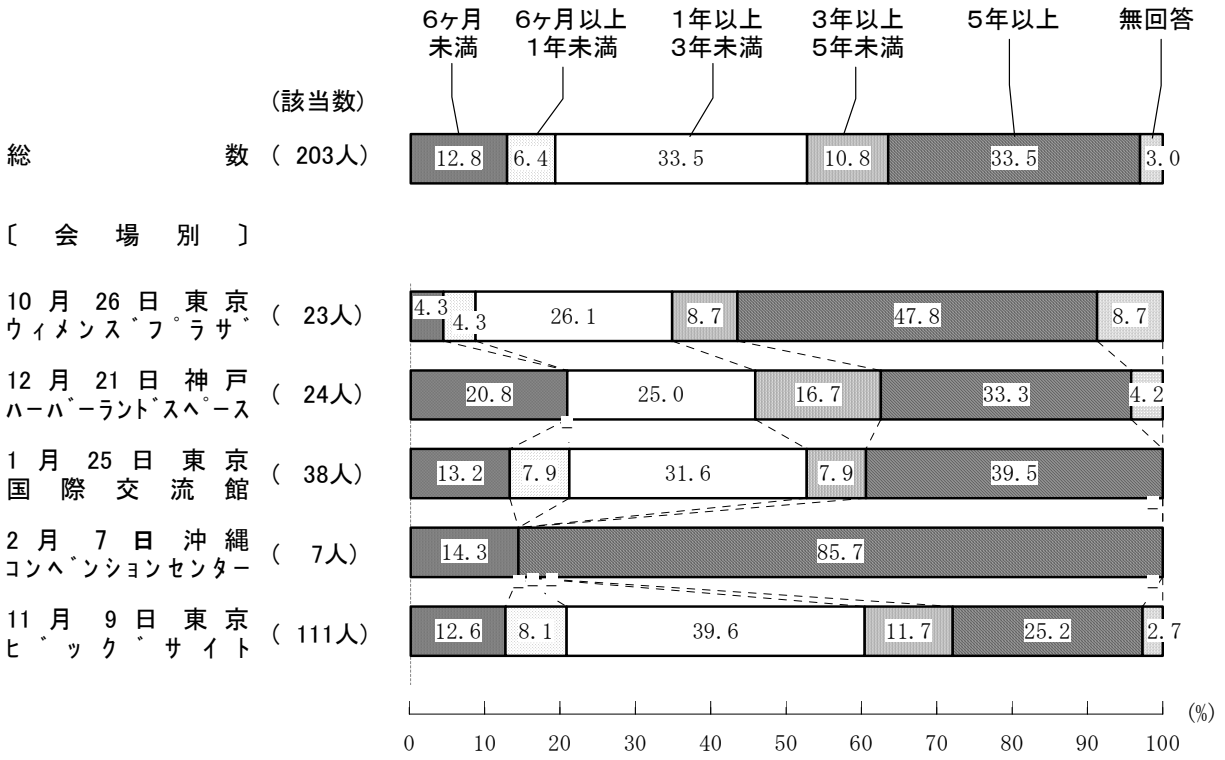


がんの経験があるかをきいたところ、「はい」が 21.4%となっている。

会場別にみると、「はい」が【東京ビッグサイト】（34.3%）で３人に１人を占め高くなっており、一方、【沖縄コンベンション】（5.0%）、【神戸ハーバーランド】（14.0%）で低くなっている。

（１）－１　一番最初にがんと診断された時期

問１－４　補問１　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）
一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。（○は１つ）

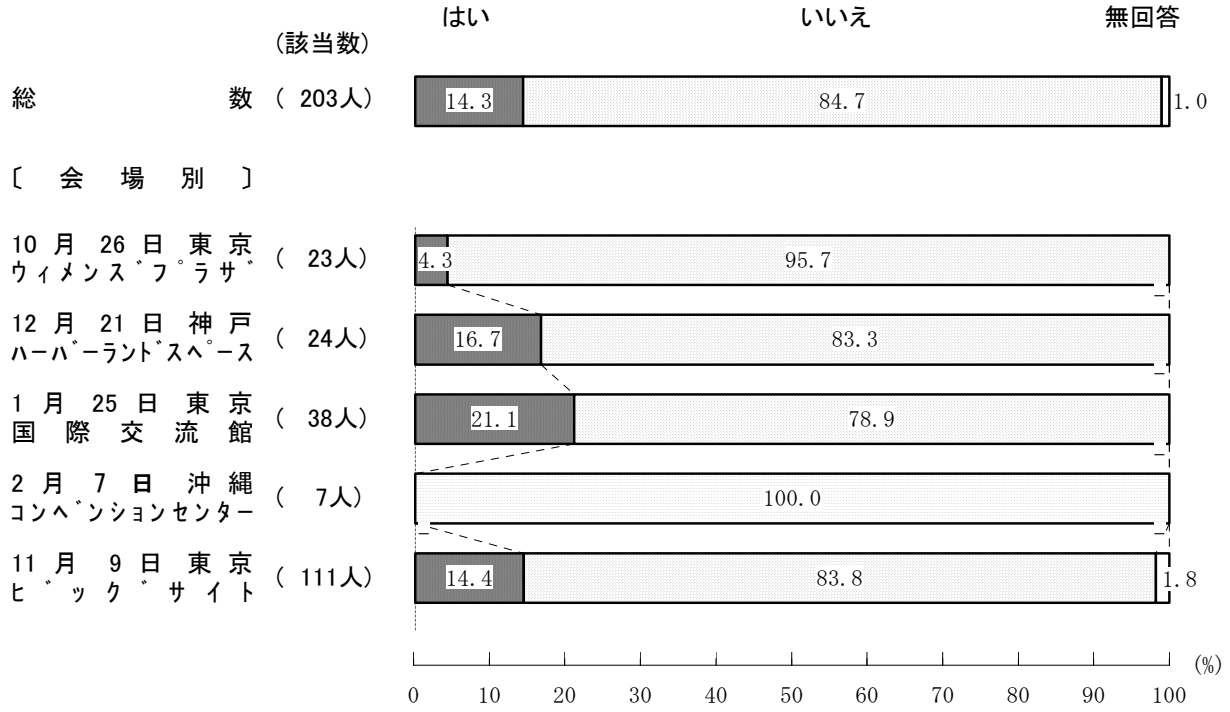


がんの経験があると答えた者（203 人）に、一番最初にがんと診断されたのは今からどの位前になるかをきいたところ、「６ヶ月未満」（12.8%）と「６ヶ月以上１年未満」（6.4%）を合わせた“１年未満”が 19.2%で約２割となっている。また、「１年以上３年未満」（33.5%）、「３年以上５年未満」（10.8%）、「５年以上」（33.5%）を合わせた“１年以上”が 77.8%で４人に３人以上を占めている。

※　サンプル数が少ないため、会場別では記述せず。

（１）－２　がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問１－４　補問２　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）
あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。
（○は１つ）

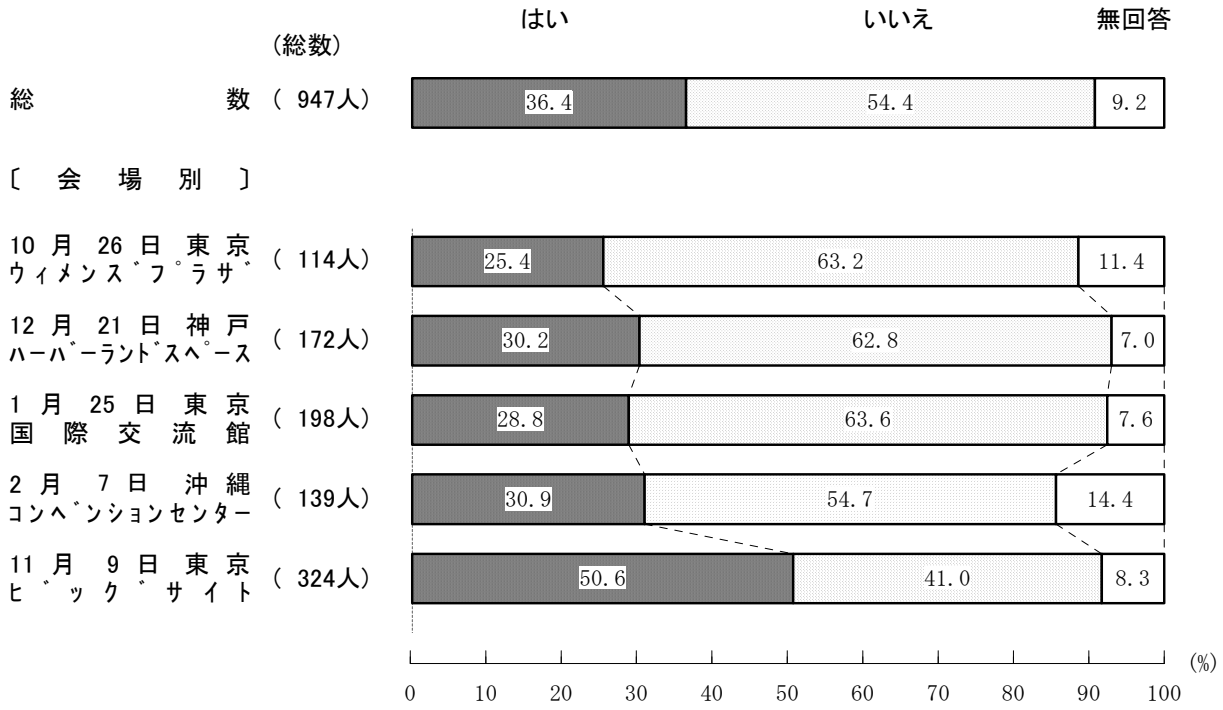


がんの経験があると答えた者（203 人）に、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が 14.3%、「いいえ」が 84.7%となっている。

※　サンプル数が少ないため、会場別では記述せず。

（２）現在の通院状況

問１－５　あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。
（○は１つ）

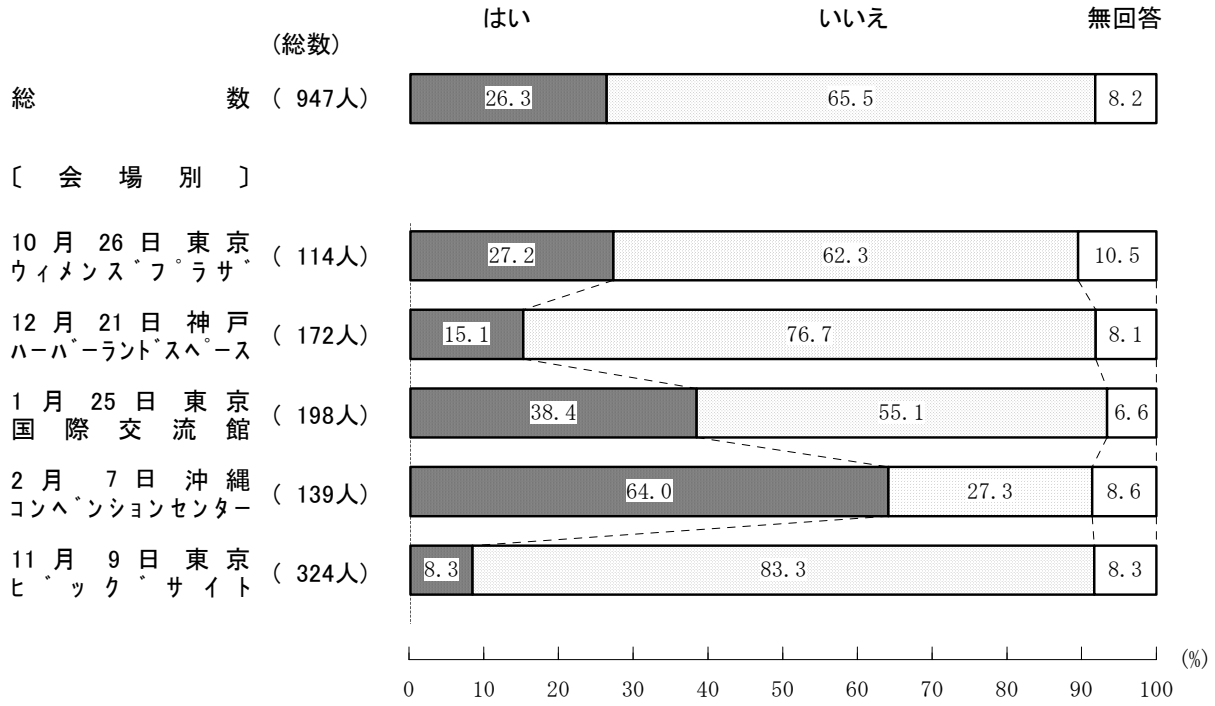


現在、がん以外の何らかの病気で通院しているかをきいたところ、「はい」が 36.4%、「いいえ」が 54.4%となっている。

会場別にみると、「はい」が【東京ビッグサイト】（50.6%）で２人に１人を占め高くなっており、一方、【東京ウィメンズ】（25.4%）で低くなっている。

（３）医療職・非医療職別

問１－６　あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。（○は１つ）



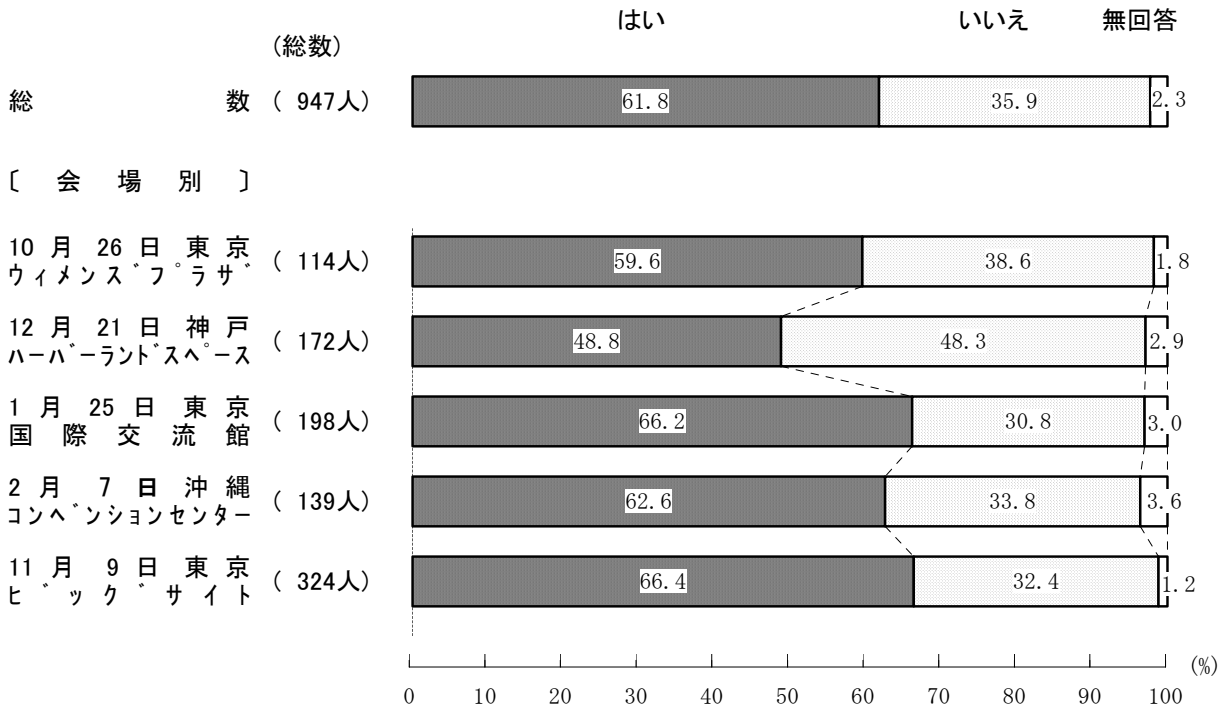
現在、医療職（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）に就いているかをきいたところ、「はい」が 26.3%で４人に１人を占めている。

会場別にみると、「はい」が【沖縄コンベンション】（64.0%）で３人に２人近くを占め高くなっており、一方、【東京ビッグサイト】（8.3%）、【神戸ハーバーランド】（15.1%）で低くなっている。

２　あなたのご家族について

（１）家族の中のがん経験者の有無

問２－１　あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。（○は１つ）

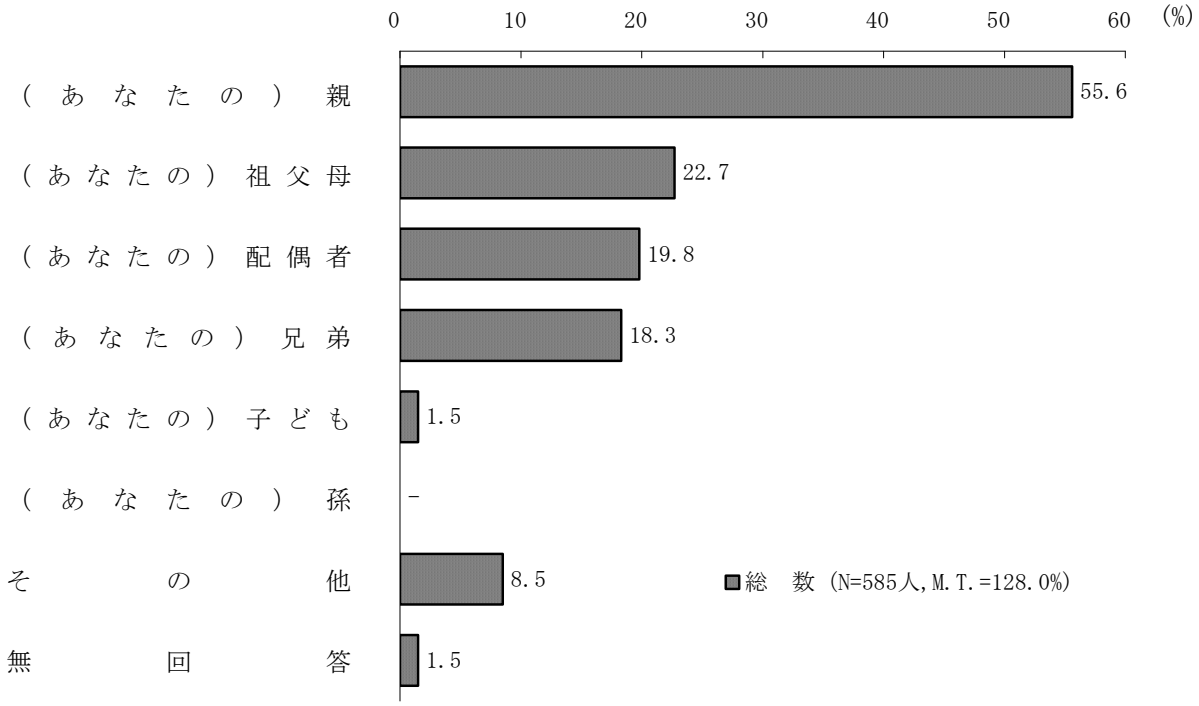


家族の中にがんの経験者がいるかをきいたところ、「はい」が 61.8%で６割強を占め、「いいえ」が 35.9%となっている。

会場別にみると、「はい」が【神戸ハーバーランド】（48.8%）で低くなっている。

（1）－1　家族の中のがん経験者との関係

問２－１　補問１　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）
あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
（○はいくつでも）



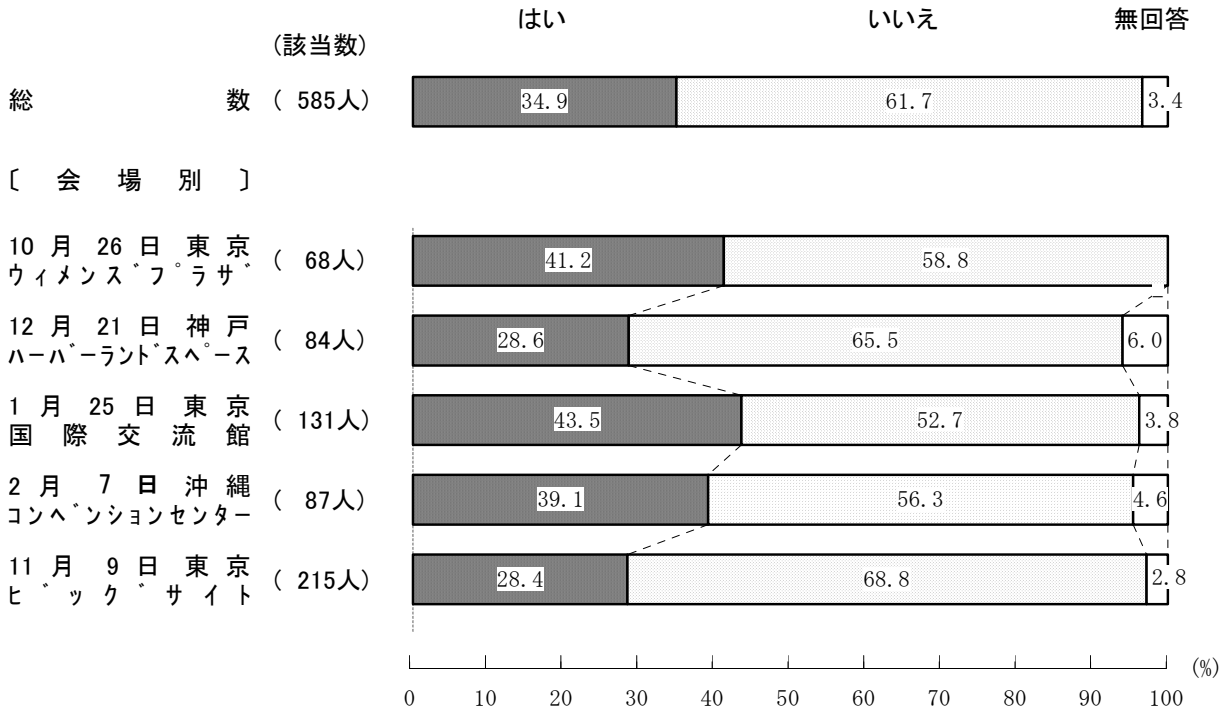
家族の中にがんの経験者がいると答えた者（585 人）に、その人との関係をきいたところ、「(あなたの）親」が 55.6%と最も高く、以下、「(あなたの）祖父母」(22.7%)、「(あなたの）配偶者」(19.8%)、「(あなたの）兄弟」(18.3%)、「(あなたの）子ども」(1.5%）の順となっている。「(あなたの）孫」と答えた者はいなかった。

会場別にみると、「配偶者」、「兄弟」はともに【東京ビッグサイト】(30.7%、25.6%）で高くなっている。

	該当数	(あなたの)親	(あなたの)祖父母	(あなたの)配偶者	(あなたの)兄弟	(あなたの)子ども	(あなたの)孫	その他	無回答	回答計
【　総　　数　】	585	55.6	22.7	19.8	18.3	1.5	－	8.5	1.5	128.0
〔会場別〕										
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	68	58.8	25.0	16.2	10.3	2.9	－	10.3	4.4	127.9
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽ	84	52.4	29.8	9.5	16.7	－	－	8.3	2.4	119.0
1月 25日 東京国際交流館	131	59.5	27.5	16.8	12.2	1.5	－	10.7	1.5	129.8
2月 7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	87	52.9	26.4	10.3	17.2	1.1	－	13.8	1.1	123.0
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	215	54.4	14.9	30.7	25.6	1.9	－	4.7	0.5	132.6

（１）－２　家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問２－１　補問２　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）
ご家族の方で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。
（○は１つ）



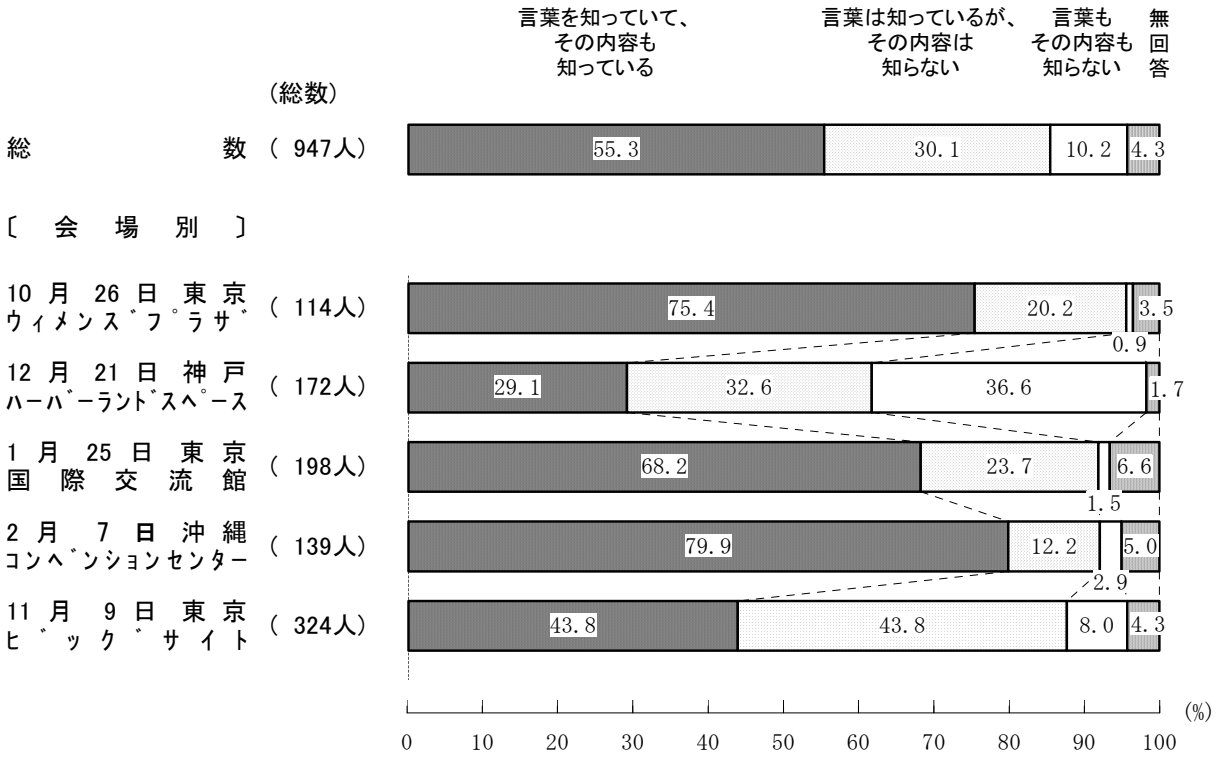
家族の中にがんの経験者がいると答えた者（585 人）に、その家族の人が、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が 34.9%、「いいえ」が 61.7%となっている。

会場別にみると、「はい」が【東京国際交流館】（43.5%）で最も高くなっており、一方、【東京ビッグサイト】（28.4%）で最も低くなっている。

３　緩和ケアについて

（１）「緩和ケア」という言葉の認知

問３－１　「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は１つ）



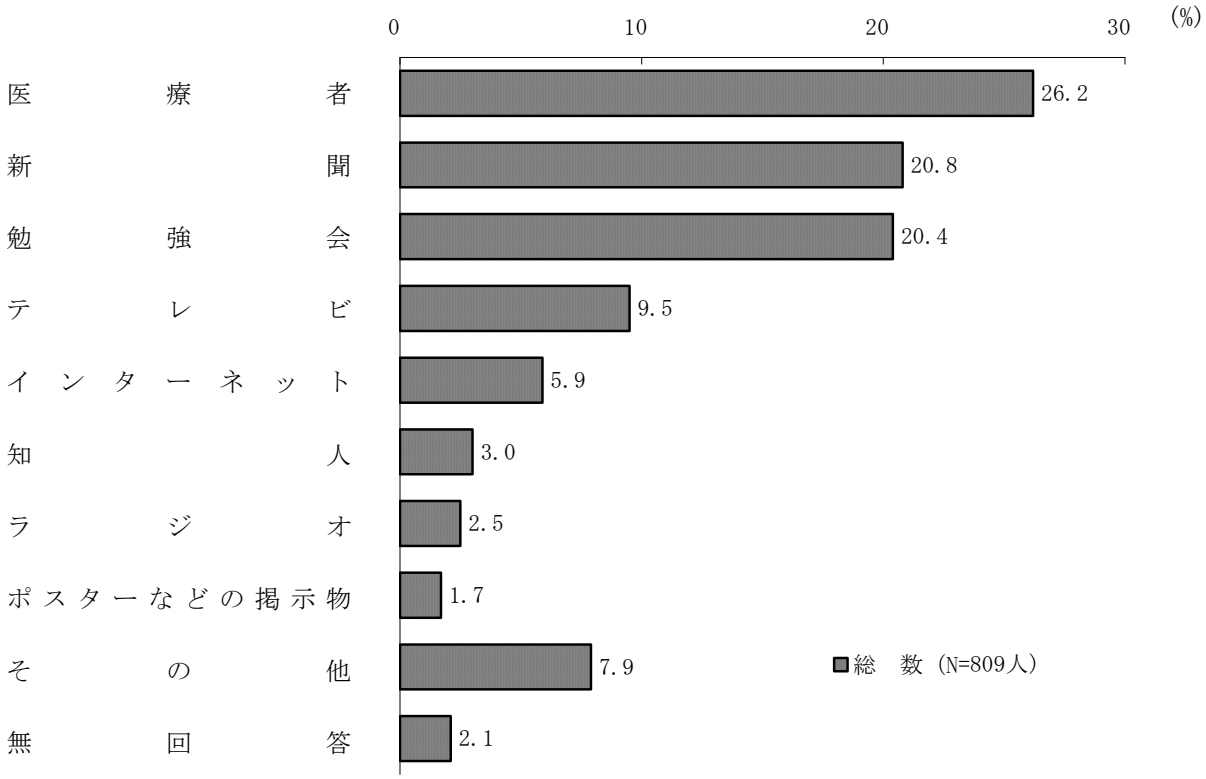
緩和ケアという言葉を知っているかをきいたところ、「言葉を知っていて、その内容も知っている」（55.3%）と「言葉は知っているが、その内容は知らない」（30.1%）を合わせた“言葉を知っている”が 85.4%となっている。また、「言葉もその内容も知らない」が 10.2%となっている。

会場別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が【沖縄コンベンション】（79.9%）、【東京ウィメンズ】（75.4%）、【東京国際交流館】（68.2%）で、いずれも７割～８割近くを占めており高くなっている。一方、「言葉もその内容も知らない」が【神戸ハーバーランド】（36.6%）で３人に１人を占めており高くなっている。

（１）－１「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

問３－１　補問１　（問３－１で１「言葉を知っていて、その内容も知っている」、２「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に）

「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになられましたか。（**○は１つ**）

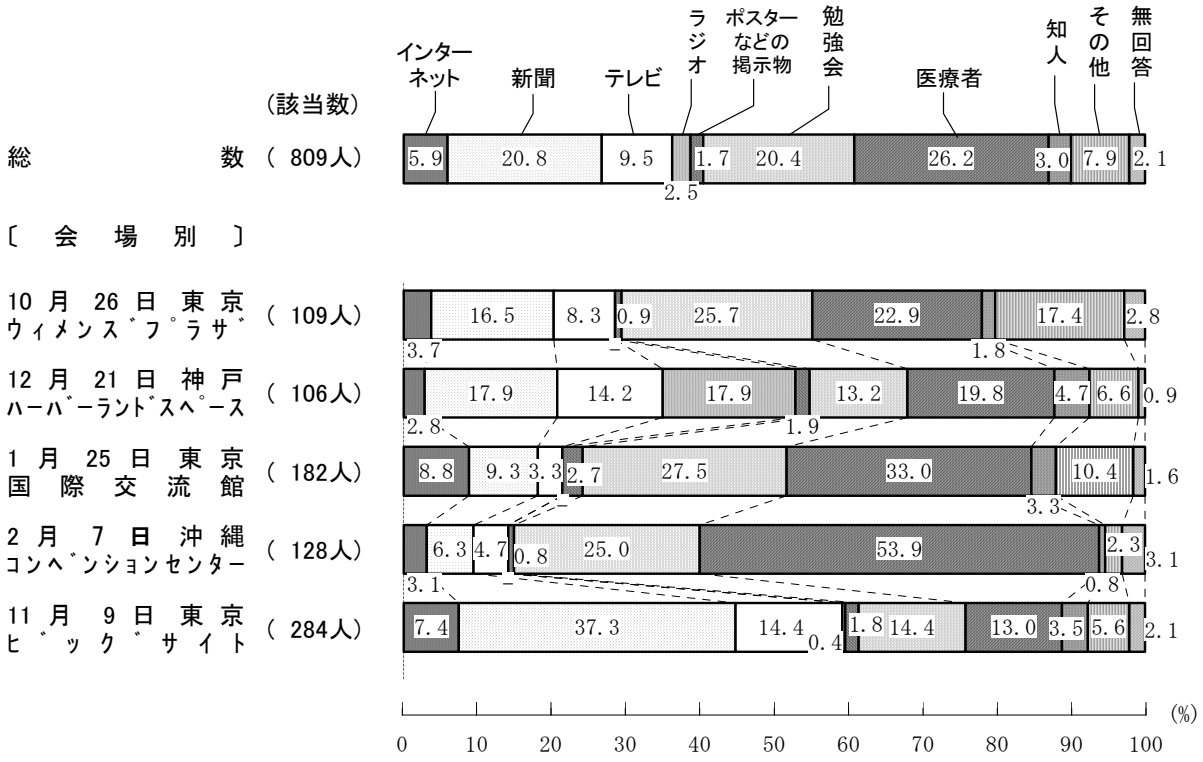


緩和ケアという言葉を知っていると答えた者（809 人）に、最初に何で知ったかをきいたところ、「医療者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）」が 26.2%と最も高く、次いで「新聞」が 20.8%であげられている。以下は、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（20.4%）、「テレビ」（9.5%）、「インターネット」（5.9%）などの順となっている。

会場別にみると、「新聞」、「テレビ」が【東京ビッグサイト】（37.3%、14.4%）で、「ラジオ」が【神戸ハーバーランド】（17.9%）で、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」が【東京国際交流館】（27.5%）で、「医療者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）」が【沖縄コンベンション】（53.9%）で、それぞれ最も高くなっている。

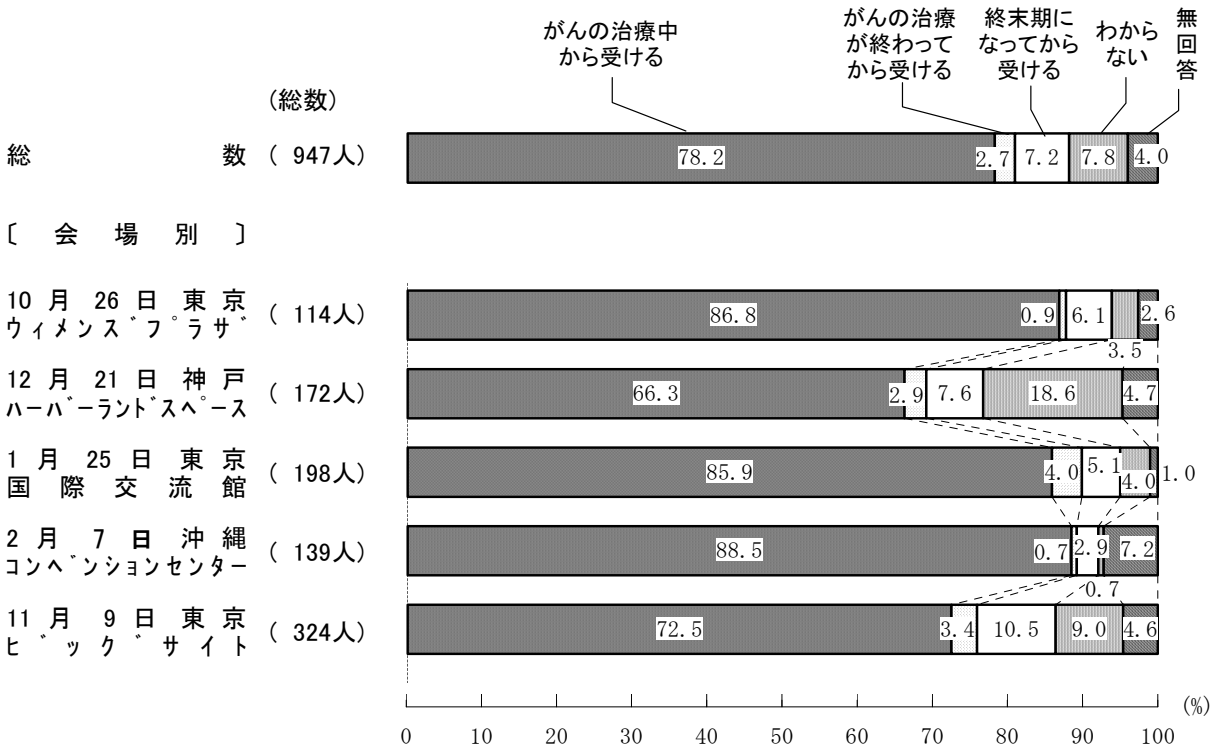
＜図３－１－１＞

図３－１－１　「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路



（２）「緩和ケア」を受ける時期の認識

問３－２　「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。
「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（○は１つ）

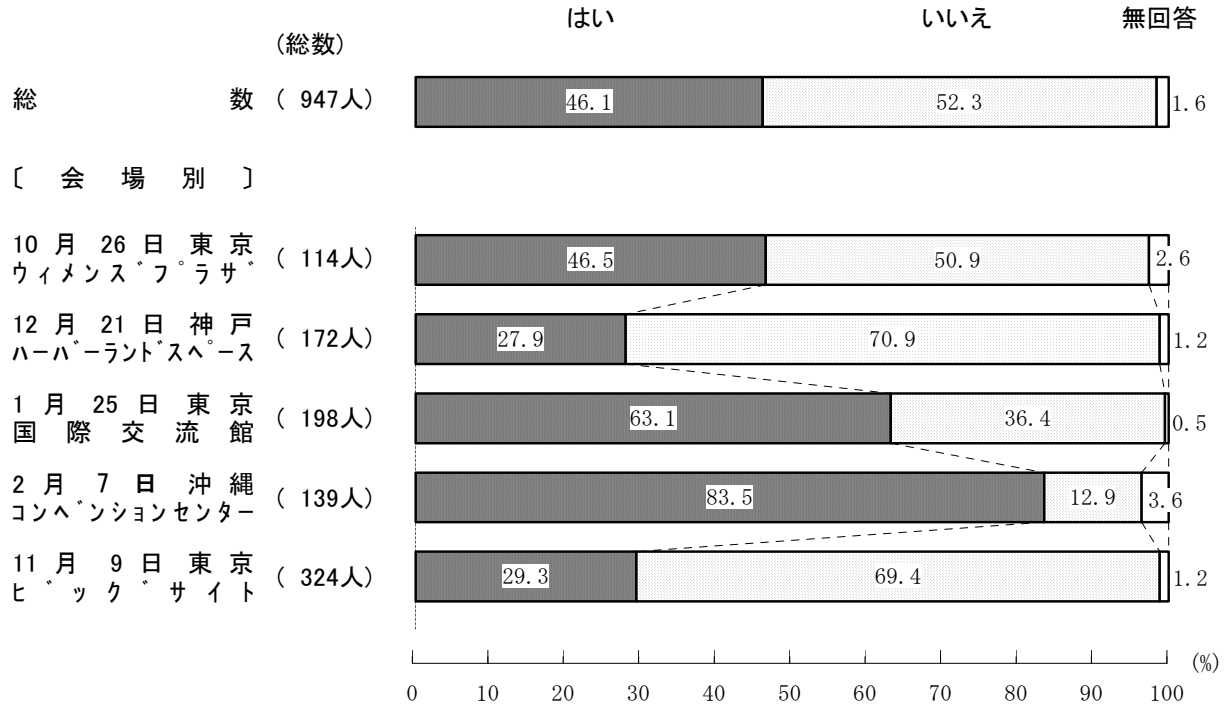


緩和ケアを受ける時期についてどのように考えるかをきいたところ、「がんの治療中から受ける」（78.2%）が最も高く８割弱を占めている。「がんの治療が終わってから受ける」が 2.7%、「終末期になってから受ける」が 7.2%である。また、「わからない」が 7.8%となっている。

会場別にみると、「がんの治療中から受ける」が【沖縄コンベンション】（88.5%）、【東京ウィメンズ】（86.8%）、【東京国際交流館】（85.9%）といずれも８割台後半と高くなっており、一方、他の会場に比べると【神戸ハーバーランド】（66.3%）で低くなっている。

（３）居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

問３－３　お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。（○は１つ）

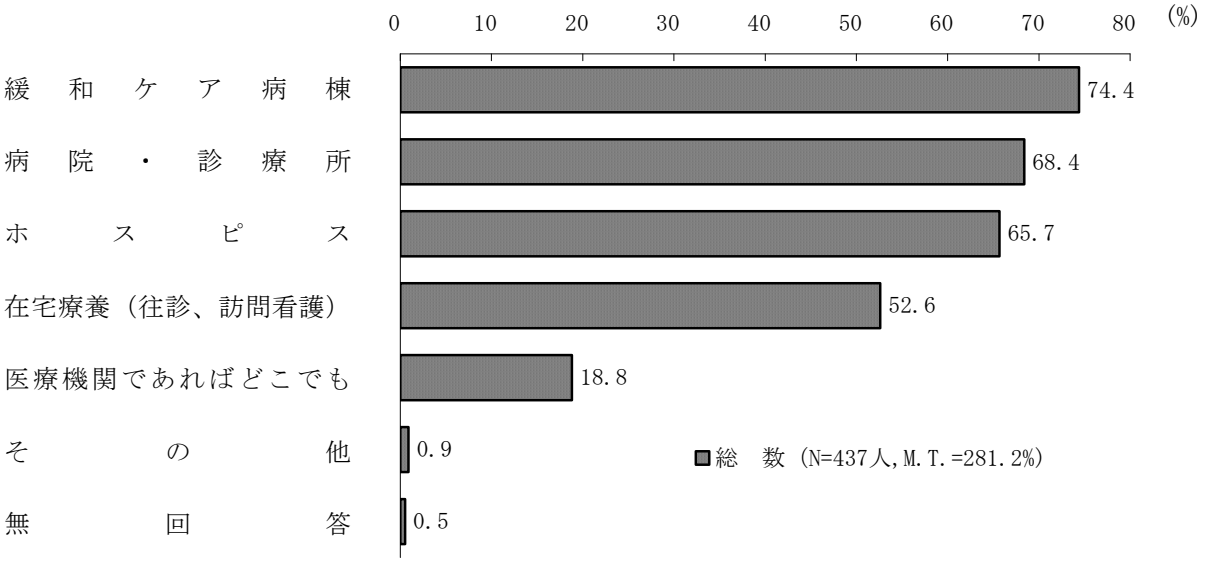


居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っているかをきいたところ、「はい」が 46.1%、「いいえ」が 52.3%となっており、「いいえ」が「はい」を 6.2 ポイント上回っている。

会場別にみると、「はい」が【沖縄コンベンション】（83.5%）、【東京国際交流館】（63.1%）で高くなっており、一方、【神戸ハーバーランド】（27.9%）、【東京ビッグサイト】（29.3%）で低くなっている。

（3）－1　「緩和ケア」が受けられると思う場所

問３－３　補問１　（問３－３で１「はい」をお選びの方に）
「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（**○はいくつでも**）



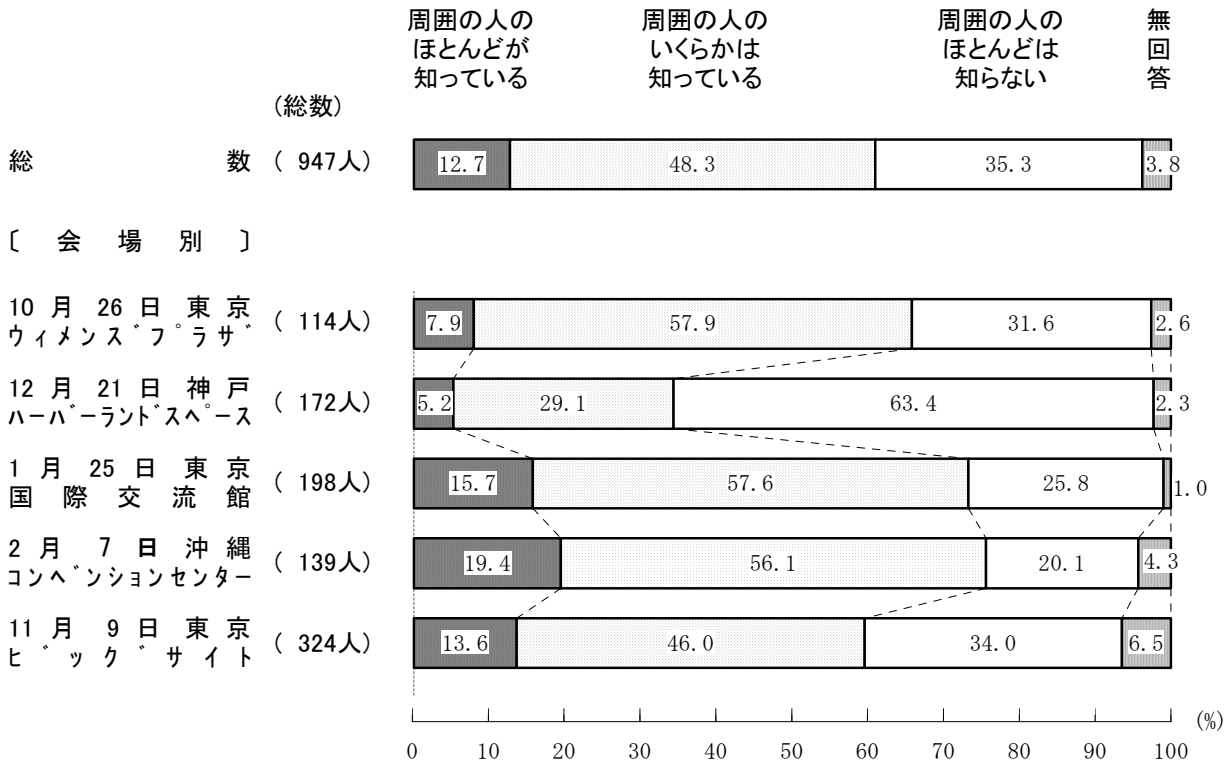
居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っていると答えた者（437 人）に、「緩和ケア」が受けられると思う場所をきいたところ、「緩和ケア病棟」が 74.4%で最も高く、次いで「病院・診療所」（68.4%）、「ホスピス」（65.7%）、「在宅療養（往診、訪問看護）」（52.6%）、「医療機関であればどこでも」（18.8%）の順となっている。

会場別にみると、「ホスピス」、「在宅療養（往診、訪問看護）」、「医療機関であればどこでも」が【沖縄コンベンション】（80.2%、62.1%、33.6%）で最も高くなっており、一方、「緩和ケア病棟」、「ホスピス」が【東京ビッグサイト】（62.1%、44.2%）で最も低くなっている。

	該当数	緩和ケア病棟	病院・診療所	ホスピス	在宅療養（往診、訪問看護）	医療機関であればどこでも	その他	無回答	回答計
＊＊【　総　　数　】＊＊	437	74.4	68.4	65.7	52.6	18.8	0.9	0.5	281.2
〔会場別〕									
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	53	83.0	73.6	71.7	60.4	18.9	－	－	307.5
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽ	48	72.9	62.5	62.5	52.1	14.6	2.1	－	266.7
1月 25日 東京国際交流館	125	74.4	74.4	67.2	56.8	14.4	1.6	1.6	290.4
2月17日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	116	81.0	62.9	80.2	62.1	33.6	0.9	－	320.7
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	95	62.1	67.4	44.2	31.6	8.4	－	－	213.7

（４）周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

問３－４　あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は１つ）

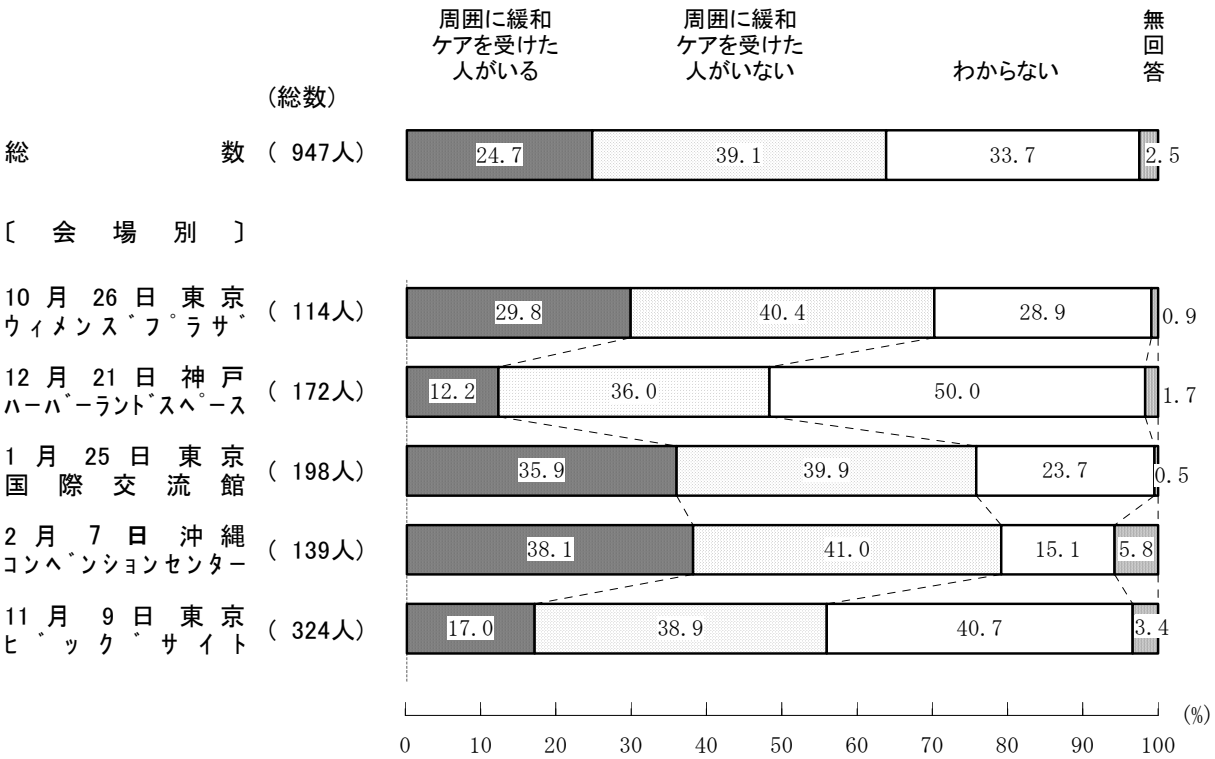


自分の周囲の人は「緩和ケア」という言葉を知っているかをきいたところ、「周囲の人のほとんどが知っている」が 12.7%、「周囲の人のいくらかは知っている」が 48.3%、「周囲の人のほとんどは知らない」が 35.3%となっている。

会場別にみると、「周囲の人のほとんどが知っている」が【沖縄コンベンション】（19.4%）で最も高く、一方、【神戸ハーバーランド】（5.2%）で最も低くなっている。

（５）周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

問３－５　あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。（○は１つ）



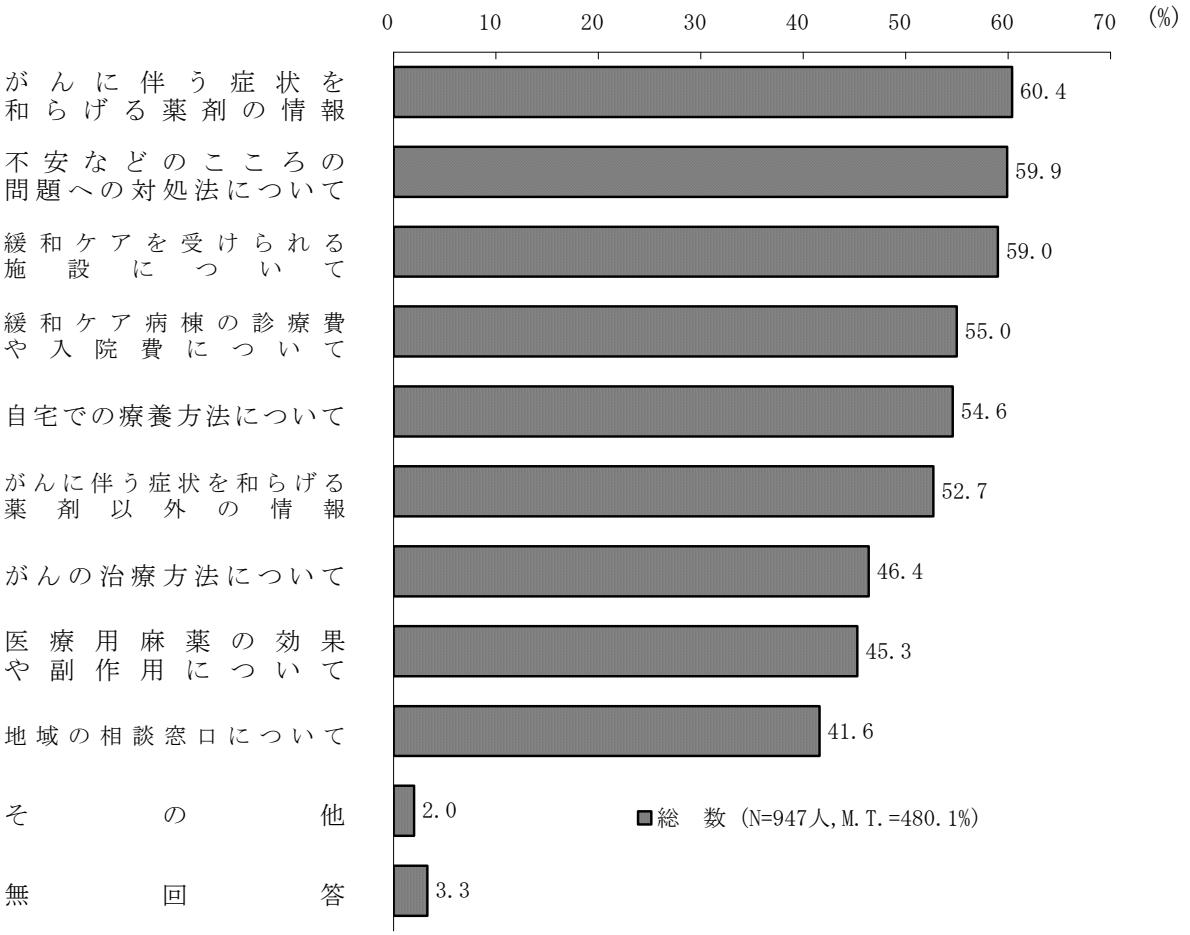
自分の周囲で「緩和ケア」を実際に受けた人がいるかをきいたところ、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が 24.7%、「周囲に緩和ケアを受けた人がいない」が 39.1%である。また、「わからない」（33.7%）と無回答（2.5%）を合わせると 36.2%となっている。

会場別にみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が【沖縄コンベンション】（38.1%）、【東京国際交流館】（35.9%）で高くなっており、一方、【神戸ハーバーランド】（12.2%）、【東京ビッグサイト】（17.0%）で低くなっている。

４　「緩和ケア」情報について

（１）「緩和ケア」について知りたい情報

問４－１　あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何ですか。（**○はいくつでも**）



「緩和ケア」について知りたい情報をきいたところ、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」が 60.4%と最も高く、以下、「不安などのこころの問題への対処法について」（59.9%）、「緩和ケアを受けられる施設について」（59.0%）、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」（55.0%）、「自宅での療養方法について」（54.6%）、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」（52.7%）などの順となっている。あげた者の割合が 40%以上になる選択肢が９項目、50%以上になる選択肢が６項目もあり、「緩和ケア」について知りたい情報は相当あると言える。

＜表４－１＞

表４－１　「緩和ケア」について知りたい情報

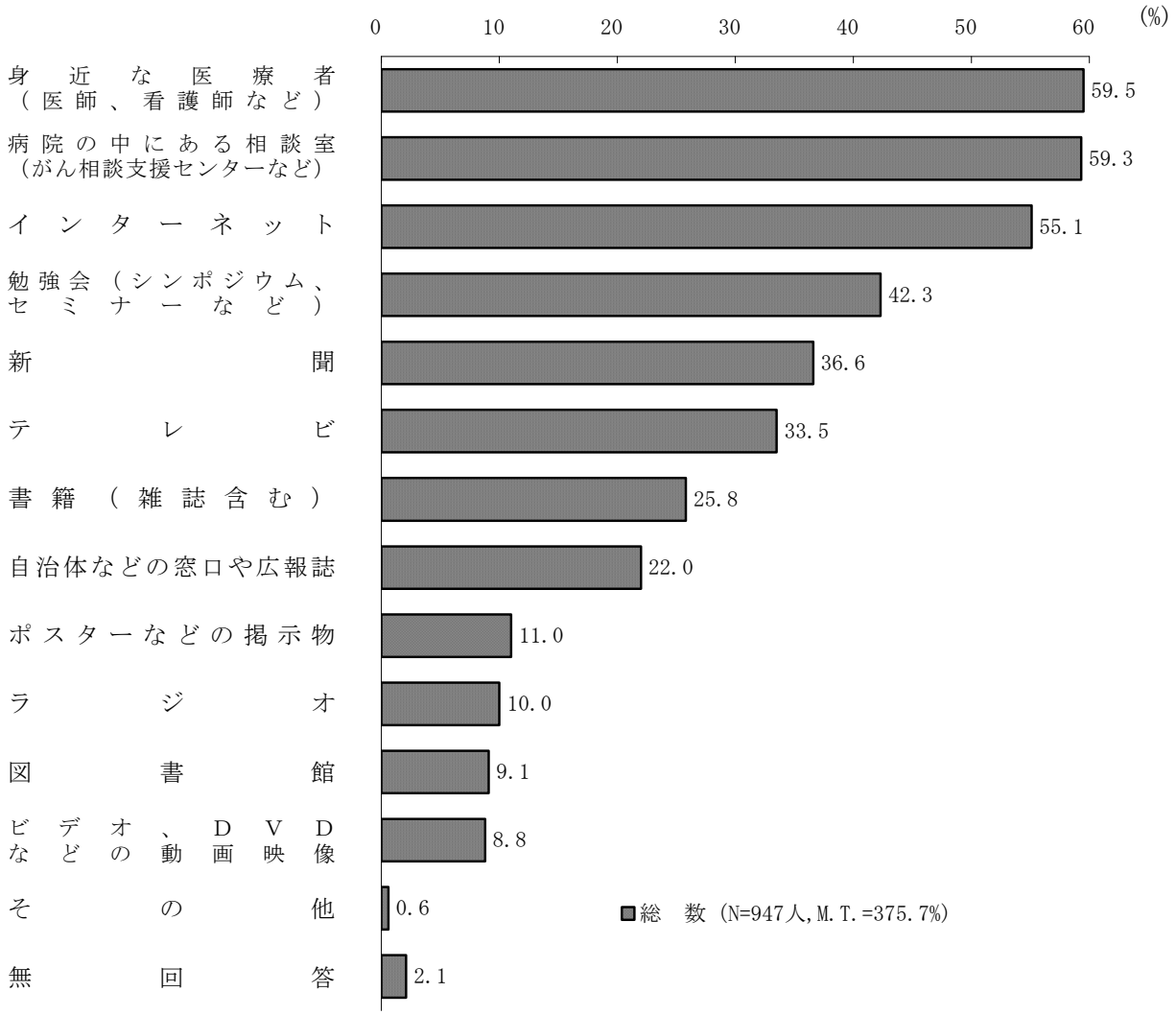
	総数	がんの症状を和らげる薬剤の情報	不安などのこころの問題への対処法	緩和ケアを受けられる施設について	緩和ケア病棟の診療費や入院費	自宅での療養方法について	がんの症状和らげる薬剤以外の情報	がんの治療方法について
＊＊【　総　　数　】＊＊	947	60.4	59.9	59.0	55.0	54.6	52.7	46.4
〔会場別〕								
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	114	68.4	68.4	66.7	63.2	64.9	66.7	44.7
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽ	172	51.7	52.3	51.7	48.8	48.3	36.6	58.7
1月 25日 東京国際交流館	198	58.1	64.6	57.1	51.5	57.1	57.6	33.8
2月 7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	139	54.7	65.5	45.3	56.8	61.2	51.1	42.4
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	324	66.0	55.6	67.3	56.8	50.0	54.0	49.7

	総数	医療用麻薬の効果や副作用について	地域の相談窓口について	その他	無回答	回答計
＊＊【　総　　数　】＊＊	947	45.3	41.6	2.0	3.3	480.1
〔会場別〕						
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	114	62.3	57.0	1.8	0.9	564.9
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽ	172	34.9	33.1	1.7	4.7	422.7
1月 25日 東京国際交流館	198	44.4	42.9	2.5	1.0	470.7
2月 7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	139	36.0	57.6	3.6	10.1	484.2
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	324	49.4	33.0	1.2	1.9	484.9

会場別にみると、上位９項目のうち６項目＜「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」、「不安などのこころの問題への対処法について」、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」、「自宅での療養方法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」、「医療用麻薬の効果や副作用について」＞は【東京ウィメンズ】で最も高くなっている。一方、上記と同じ６項目は【神戸ハーバーランド】で最も低くなっている。

（２）「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

問４－２　「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
（○はいくつでも）



「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものをきいたところ、「身近な医療者（医師、看護師など）」が 59.5%と最も高く、以下、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（59.3%）、「インターネット」（55.1%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（42.3%）、「新聞」（36.6%）、「テレビ」（33.5%）、「書籍（雑誌含む）」（25.8%）などの順となっている。

＜表４－２＞

表４－２　「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

	総数	身近な医療者	病院の中にある相談室	インターネット	勉強会	新聞	テレビ	書籍（雑誌含む）	自治体などの窓口や広報誌
＊＊【　総　　数　】＊＊	947	59.5	59.3	55.1	42.3	36.6	33.5	25.8	22.0
〔会場別〕									
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	114	55.3	66.7	75.4	56.1	34.2	36.0	40.4	22.8
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽ	172	62.2	41.9	48.3	24.4	37.8	40.1	17.4	16.9
1月 25日 東京国際交流館	198	55.1	63.6	64.6	53.0	27.3	25.8	26.3	21.2
2月 7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	139	63.3	64.0	56.8	47.5	34.5	38.1	23.0	27.3
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	324	60.5	61.4	45.1	38.3	43.5	31.8	25.9	22.5

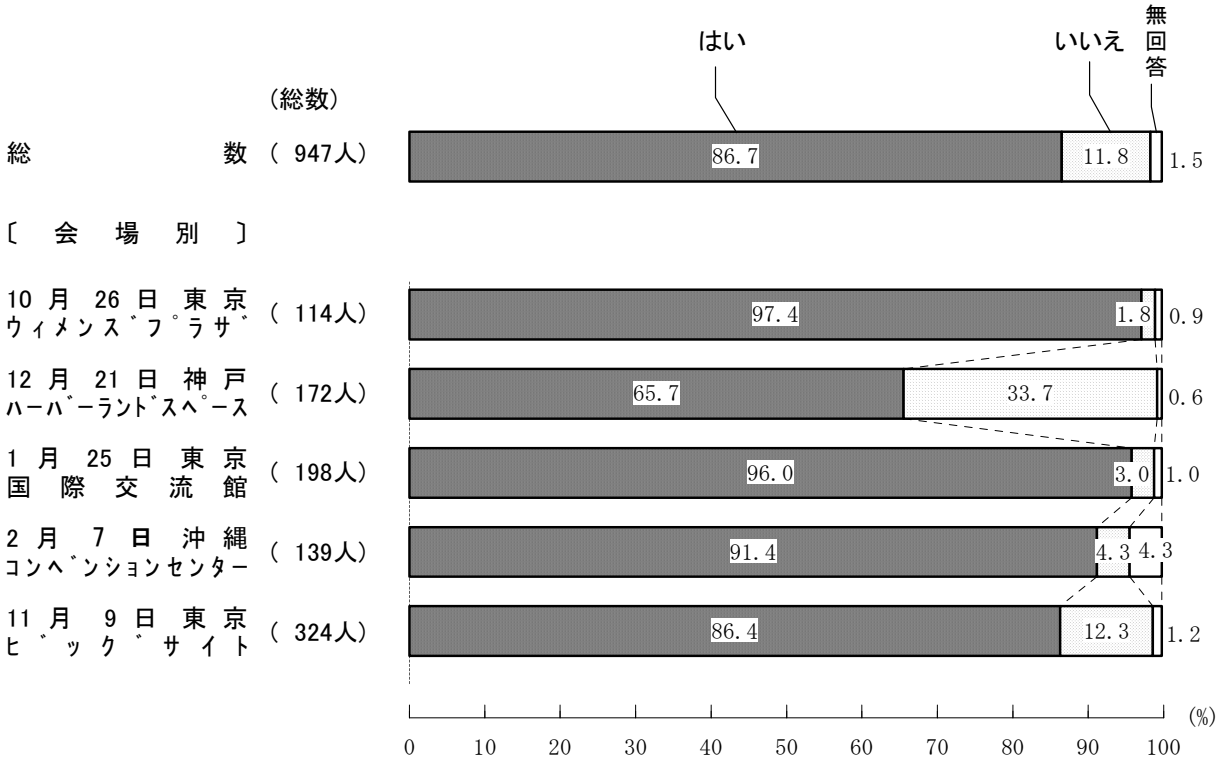
	総数	ポスターなどの掲示物	ラジオ	図書館	ビデオ、ＤＶＤなどの動画映像	その他	無回答	回答計
＊＊【　総　　数　】＊＊	947	11.0	10.0	9.1	8.8	0.6	2.1	375.7
〔会場別〕								
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	114	7.9	7.0	13.2	13.2	0.9	0.9	429.8
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽ	172	11.0	22.1	7.0	3.5	1.2	1.7	335.5
1月 25日 東京国際交流館	198	14.6	3.5	6.1	7.1	－	2.0	370.2
2月 7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	139	18.7	17.3	10.8	14.4	－	5.8	421.6
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	324	6.5	5.6	9.9	8.6	0.9	1.2	361.7

会場別にみると、上位５項目のうち３項目＜「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）、「インターネット」、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」＞は【東京ウィメンズ】で最も高くなっている。

５　医療用麻薬について

（１）がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

問５－１　がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。（○は１つ）

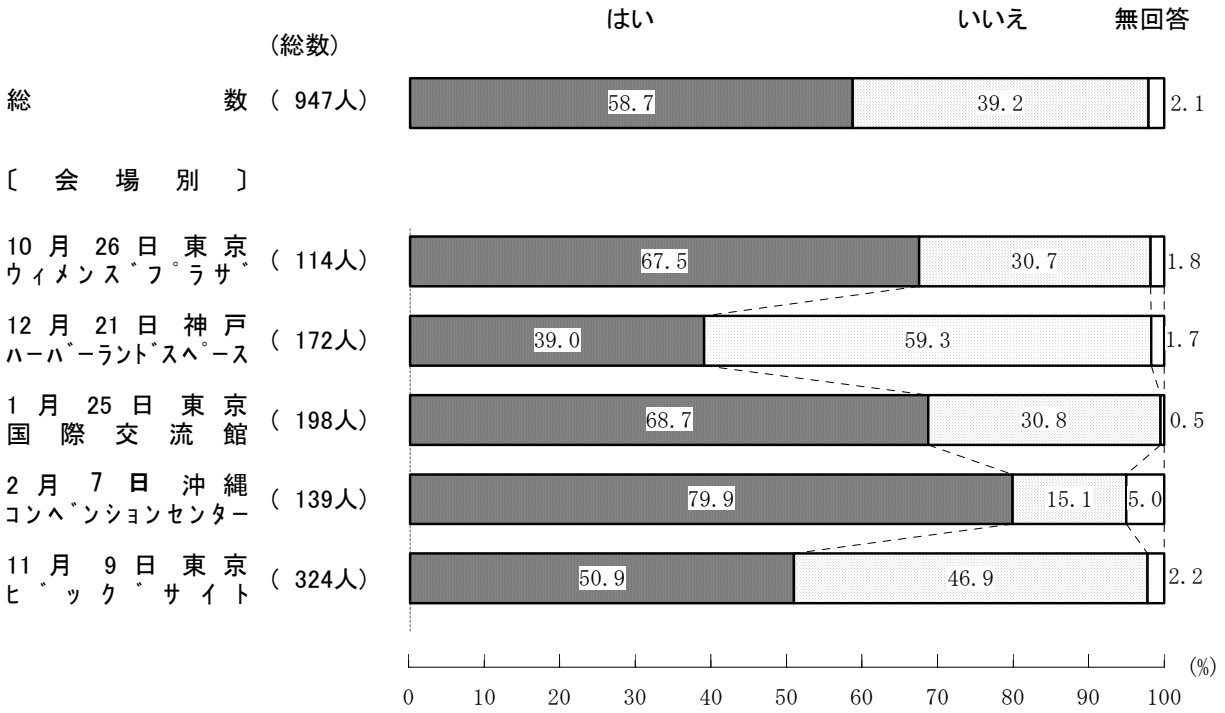


がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることを知っているかをきいたところ、「はい」が 86.7%となっている。

会場別にみると、「はい」が【東京ウィメンズ】（97.4%）、【東京国際交流館】（96.0%）で、いずれも９割台後半と高くなっており、一方、【神戸ハーバーランド】（65.7%）で最も低くなっている。

（２）医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

問５－２　あなたは、がんの痛みの９０％は医療用麻薬によって取ることができると言われていることをご存じですか。（○は１つ）

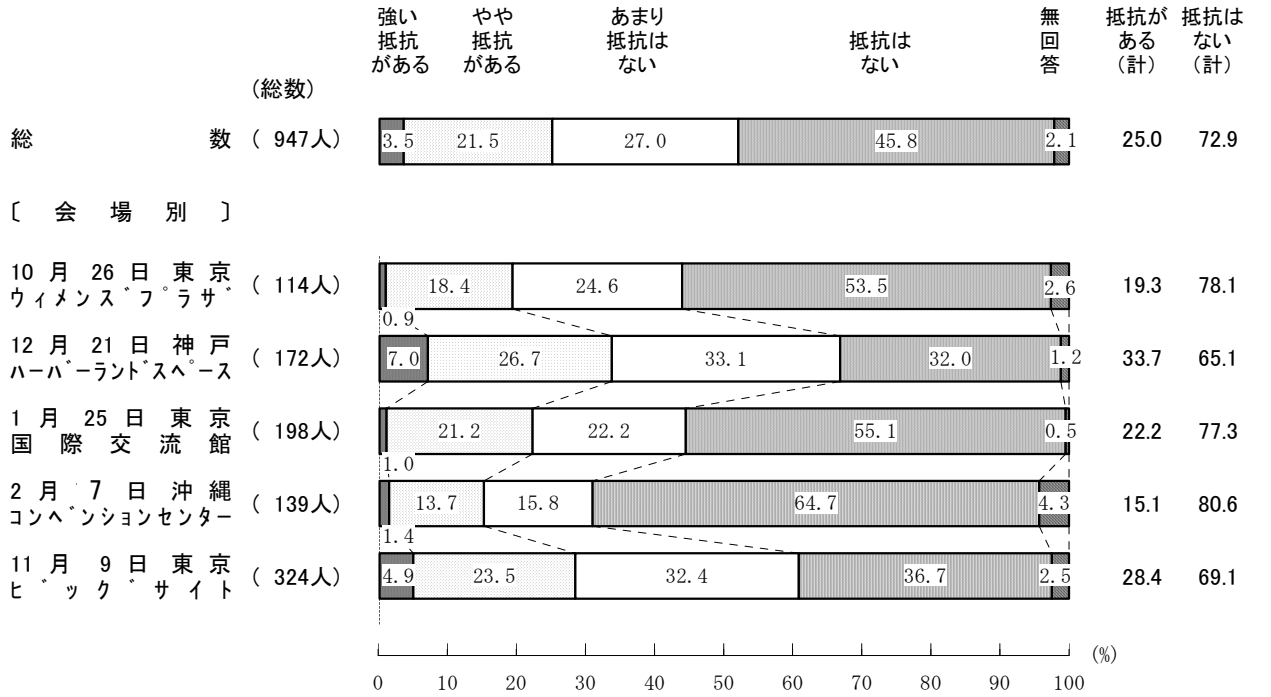


がんの痛みの９０％は医療用麻薬によって取ることができると言われていることを知っているかをきいたところ、「はい」が 58.7%で６割弱を占めている。

会場別にみると、「はい」が【沖縄コンベンション】（79.9%）で８割近くを占め最も高くなっており、一方、【神戸ハーバーランド】（39.0%）で最も低くなっている。

（３）医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

問５－３　あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。
（○は１つ）



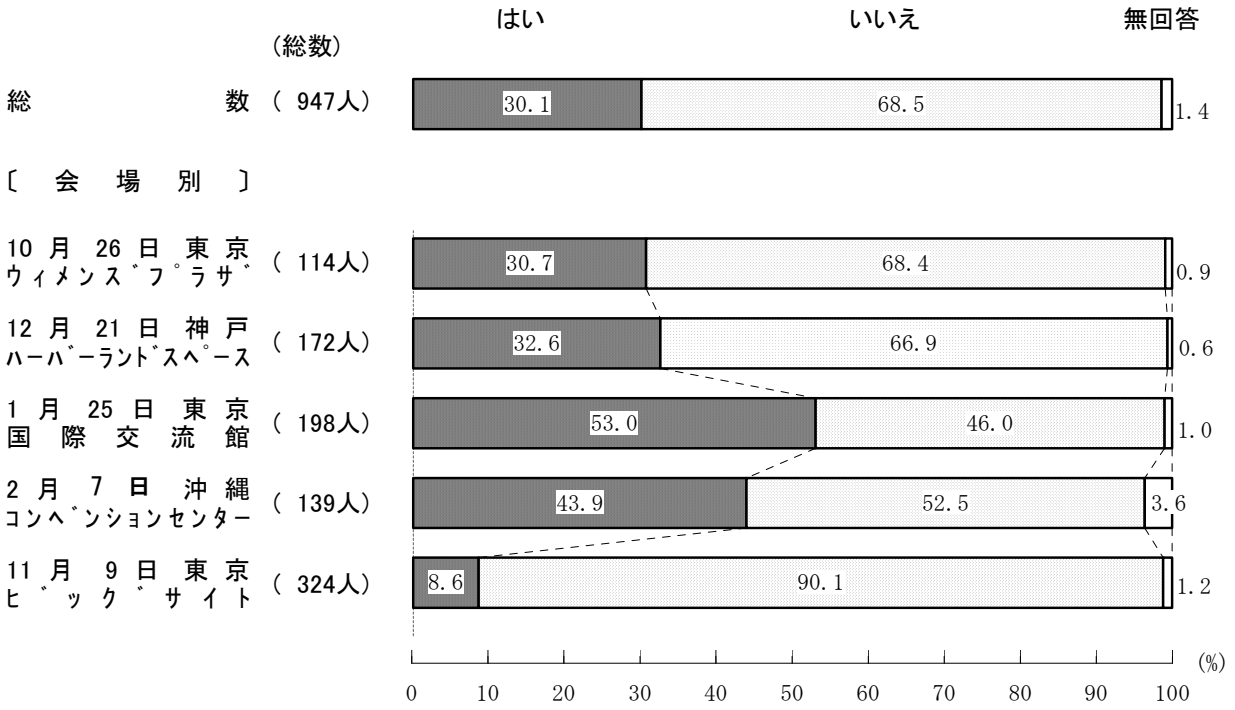
がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗があるかをきいたところ、『抵抗がある（計）』が 25.0%（「強い抵抗がある」3.5%＋「やや抵抗がある」21.5%）、『抵抗はない（計）』が 72.9%（「あまり抵抗はない」27.0%＋「抵抗はない」45.8%）となっている。

会場別にみると、『抵抗がある（計）』が【神戸ハーバーランド】（33.7%）、【東京ビッグサイト】（28.4%）で高くなっている。一方、『抵抗はない（計）』が【沖縄コンベンション】（80.6%）、【東京ウィメンズ】（78.1%）、【東京国際交流館】（77.3%）で高くなっている。

６　「オレンジバルーンプロジェクト（ Orange Balloon Project ）」

（１）「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

問６－１　国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。（○は１つ）

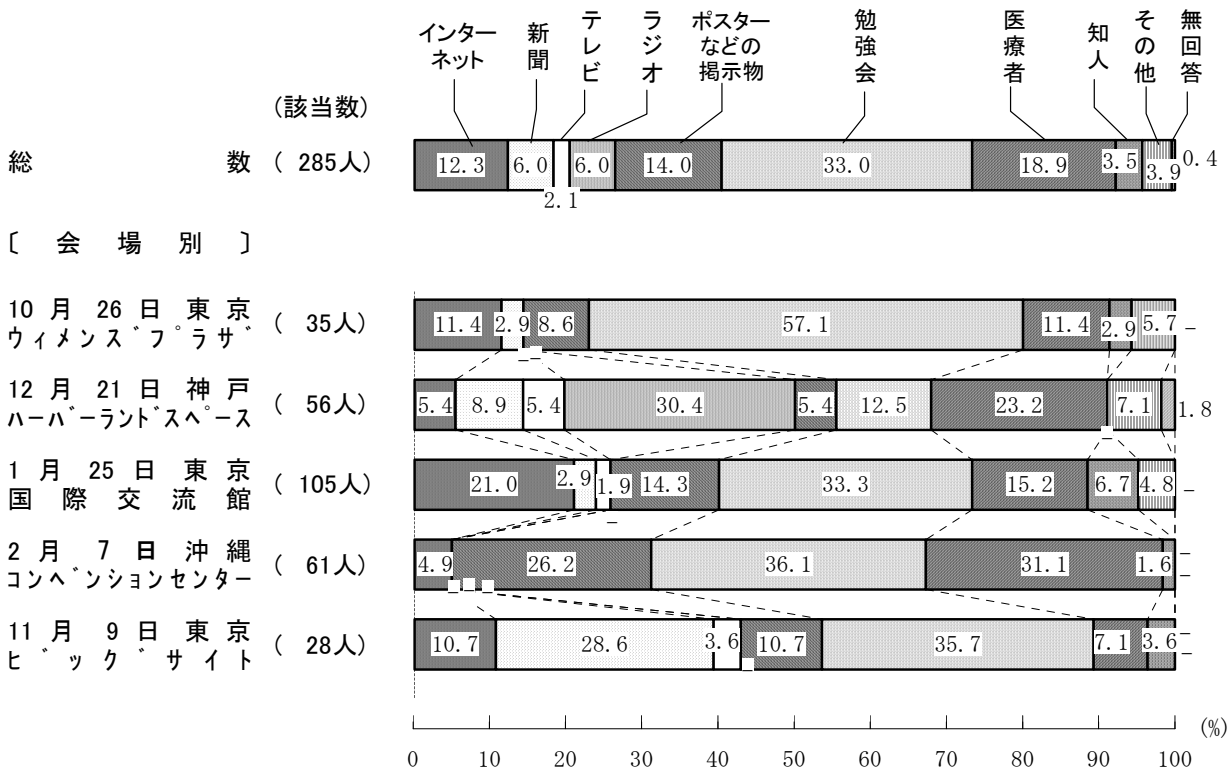


「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っているかをきいたところ、「はい」が 30.1%と３割を占めている。

会場別にみると、「はい」が【東京国際交流館】（53.0%）で最も高くなっており、一方、【東京ビッグサイト】（8.6%）で最も低くなっている。

（１）－１「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路

問６－１　補問１　（問６－１で１「はい」をお選びの方に）
「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになられましたか。
（○は１つ）



「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っていると答えた者（285人）に、最初に何で知ったかをきいたところ、「インターネット」が12.3%、「新聞」が6.0%、「テレビ」が2.1%、「ラジオ」が6.0%、「ポスターなどの掲示物」が14.0%、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」が33.0%、「医療者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）」が18.9%、「知人」が3.5%となっている。

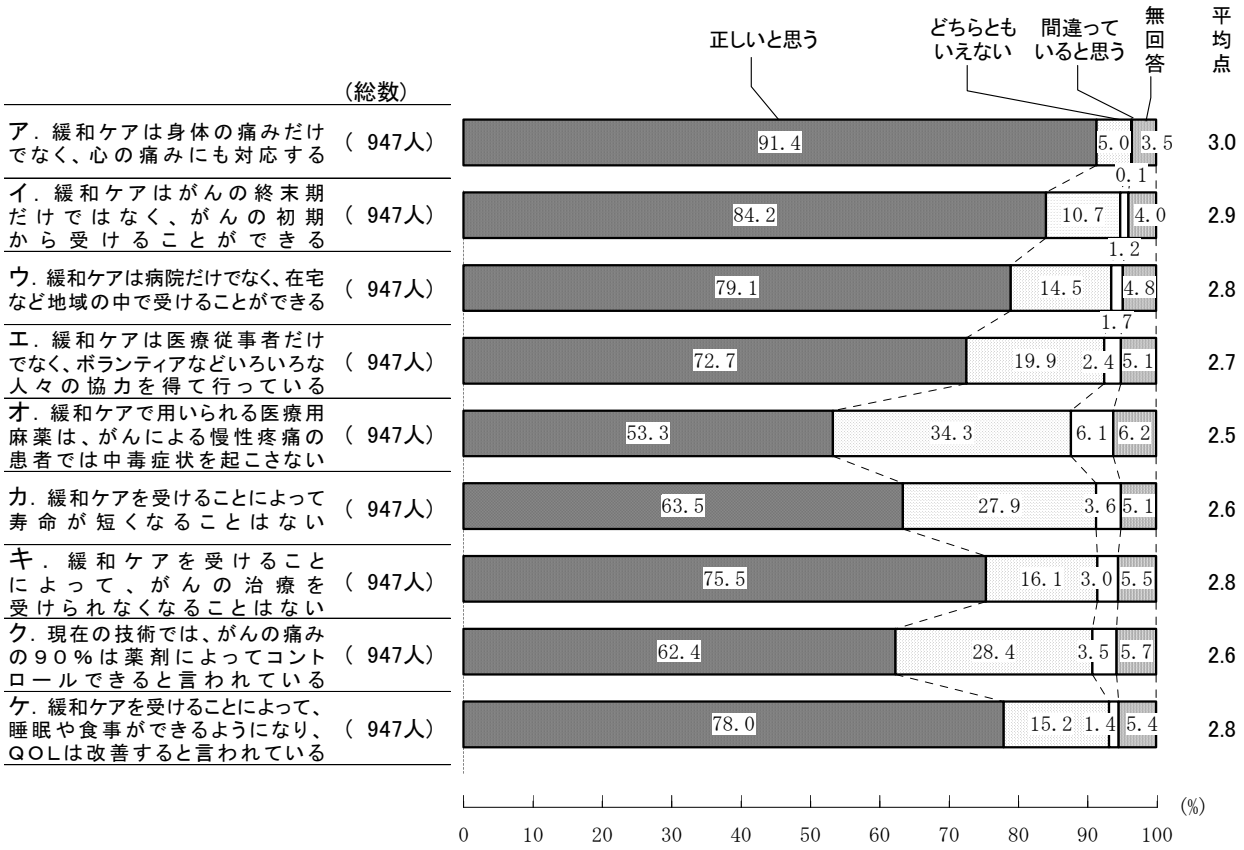
※　サンプル数が少ないため、会場別では記述せず。

7　緩和ケアの考え方やイメージについて

問７　次の「緩和ケア」について書かれている（ア）～（ケ）の各文章を読んで、あなたのお考えに近いものに○をお付けください。（**ア～ケまで、それぞれ○は１つずつ**）

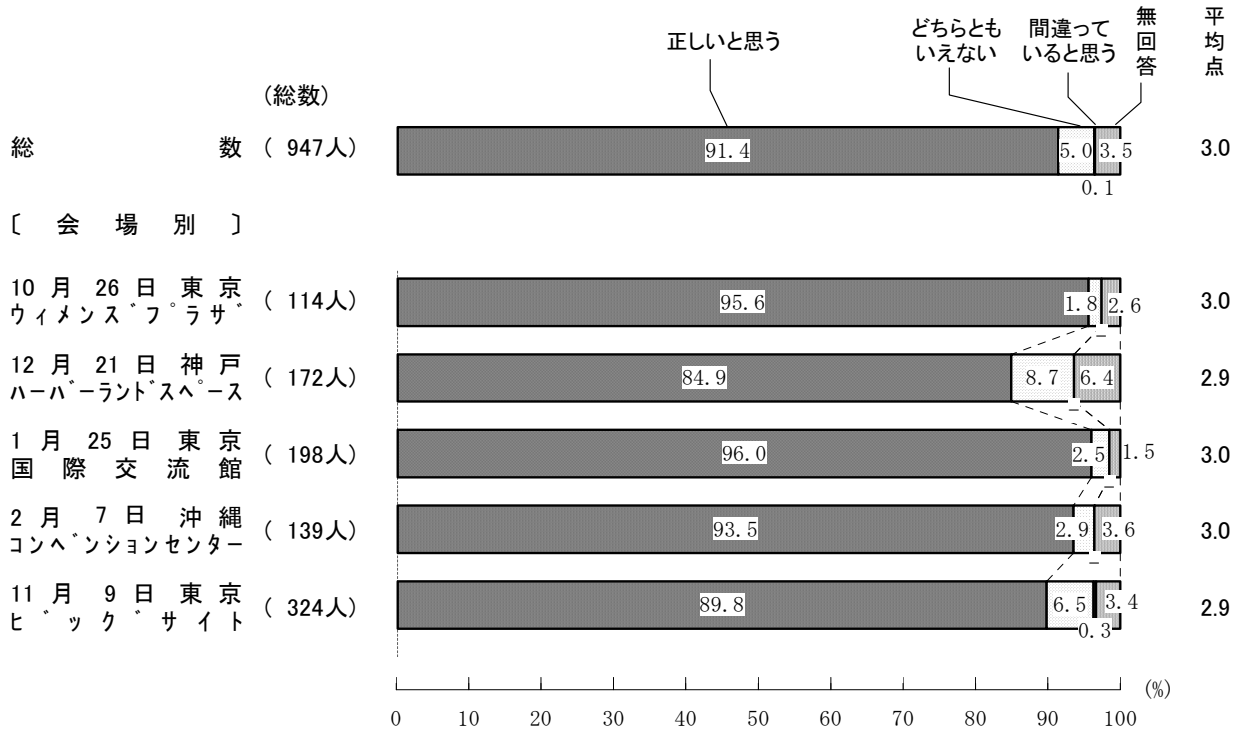
＜グラフ右横の平均点について＞

「正しい」＝３点、「どちらともいえない」＝２点、「間違っていると思う」＝１点として数値を積算し、その積算数値を無回答を除く回答者数で割ったもの（小数点１位で表示）。



（ア）～（ケ）の中で、最も「正しいと思う」の割合が高いものは（ア）（91.4%）で、以下、（イ）（84.2%）、（ウ）（79.1%）の順となっている。一方、最も「正しいと思う」の割合が低いものは（オ）（53.3%）で、以下、（ク）（62.4%）、（カ）（63.5%）の順となっている。

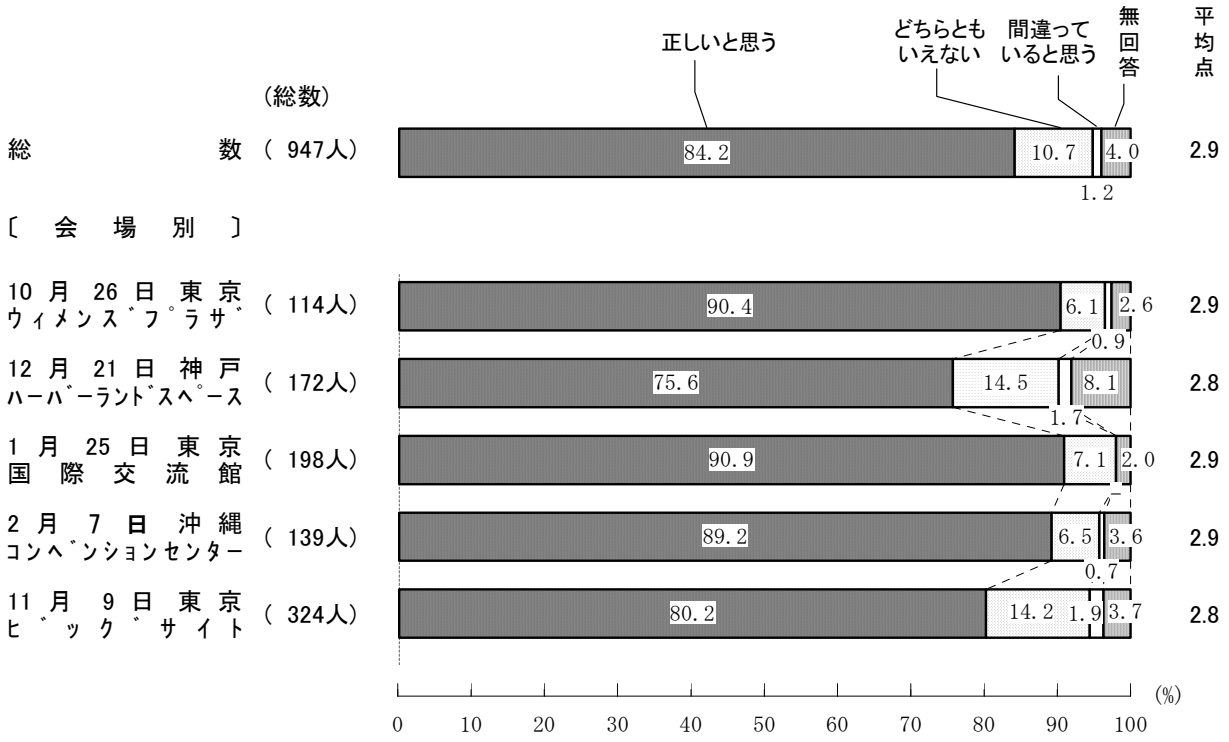
（１）ア　緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



上記（１）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 91.4%、「どちらともいえない」が 5.0%、「間違っていると思う」が 0.1%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」は【神戸ハーバーランド】（84.9%）で最も低くなってはいるものの、どの会場でも８～９割台を占めている。

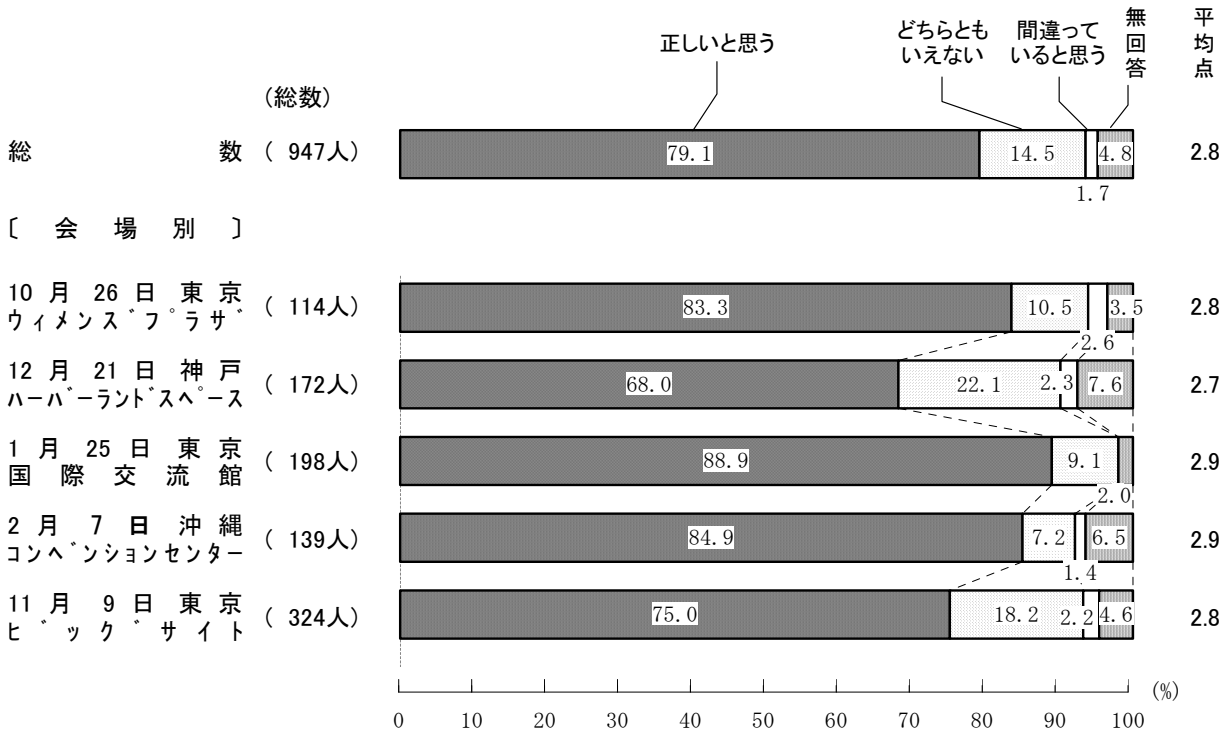
（２）イ　緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる



上記（２）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 84.2%、「どちらともいえない」が 10.7%、「間違っていると思う」が 1.2%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【神戸ハーバーランド】（75.6%）で最も低くなってはいるが、それ以外の４会場では８～９割台を占めている。。

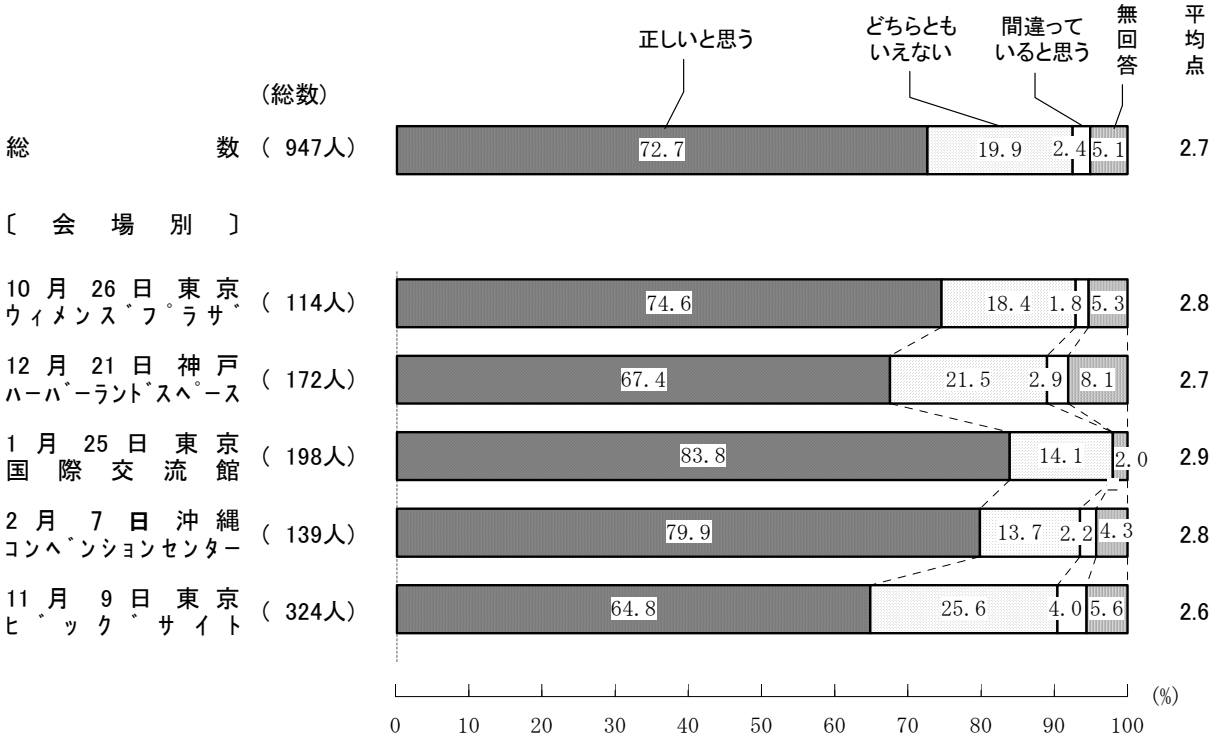
（３）ウ　緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



上記（３）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 79.1%、「どちらともいえない」が 14.5%、「間違っていると思う」が 1.7%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【神戸ハーバーランド】(68.0%)、【東京ビッグサイト】(75.0%)、で低くなってはいるが、それ以外の３会場では８割台を占めている。。

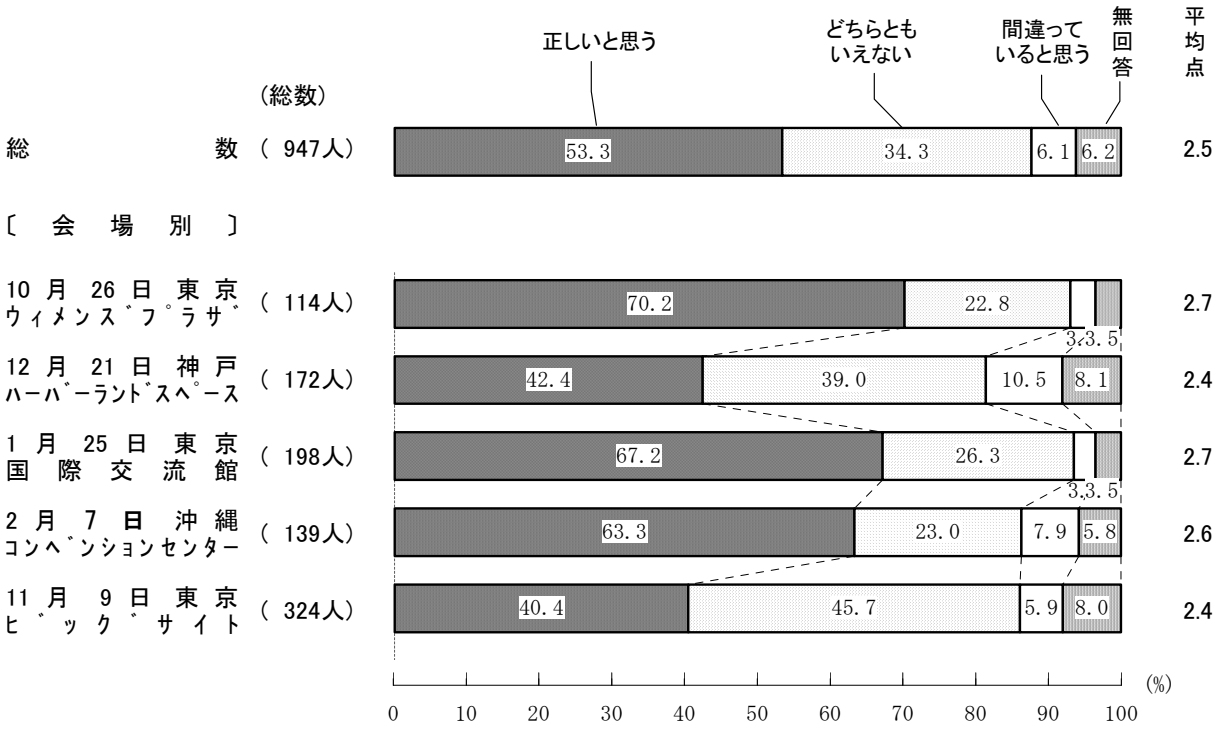
4）エ　緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている



上記（4）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 72.7%、「どちらともいえない」が 19.9%、「間違っていると思う」が 2.4%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【東京国際交流館】（83.8%）で最も高くなっており、【東京ビッグサイト】（64.8%）で最も低くなっている。

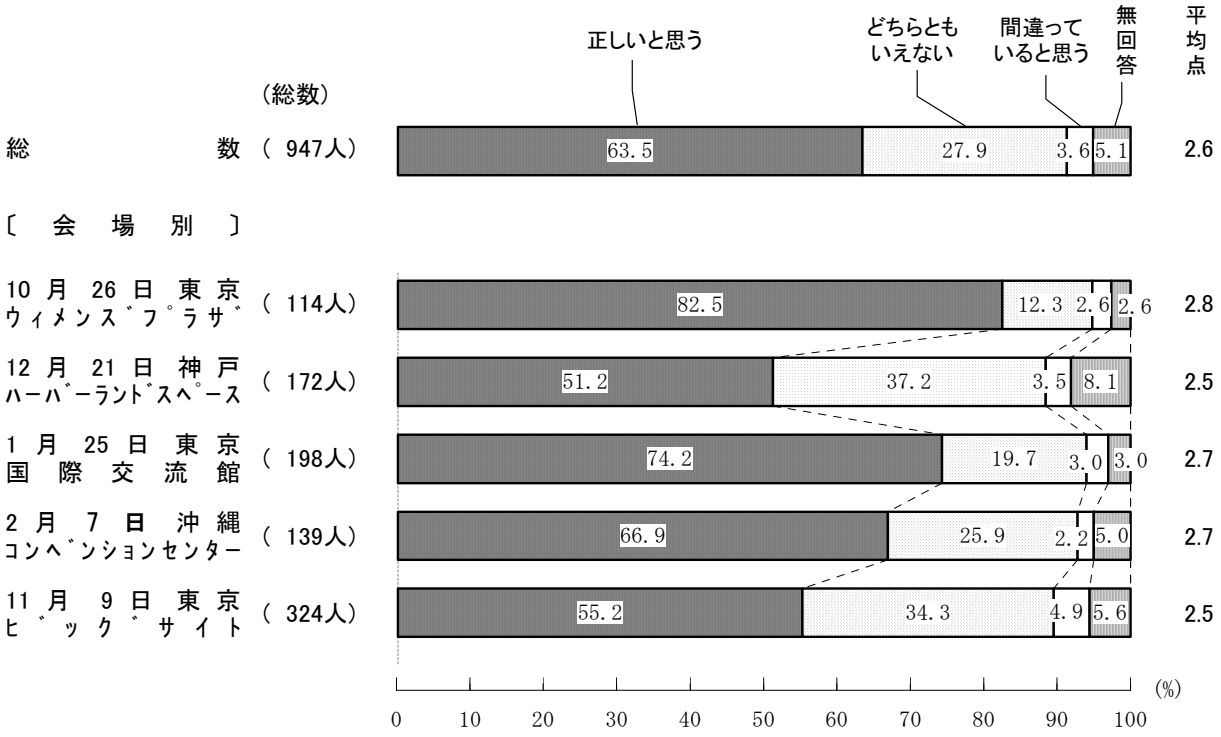
（５）オ　緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない



上記（５）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」と答えた者の割合が 53.3%、「どちらともいえない」と答えた者の割合が 34.3%、「間違っていると思う」と答えた者の割合が 6.1%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【東京ウィメンズ】（70.2%）、【東京国際交流館】（67.2%）、【沖縄コンベンション】（63.3%）で高くなっており、【東京ビッグサイト】（40.4%）、【神戸ハーバーランド】（42.4%）で低くなっている。

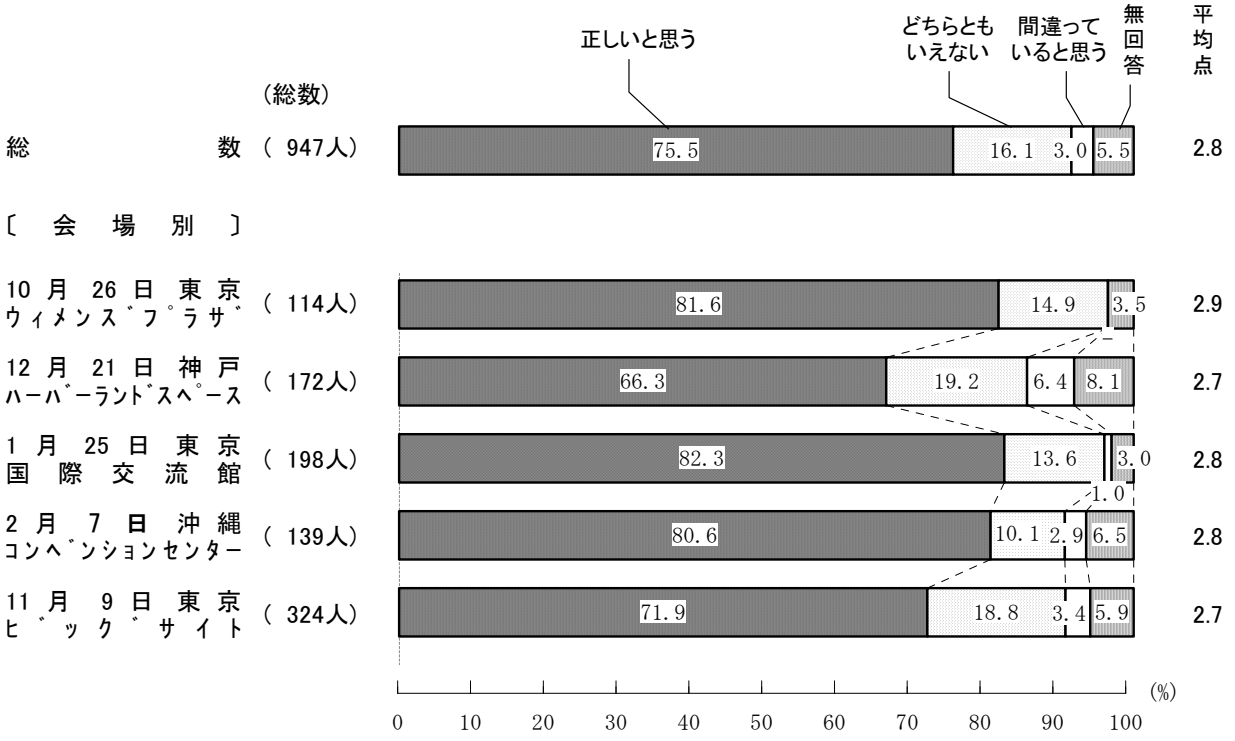
（６）カ　緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



上記（６）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 63.5%、「どちらともいえない」が 27.9%、「間違っていると思う」が 3.6%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【東京ウィメンズ】（82.5%）、【東京国際交流館】（74.2%）で高くなっており、【神戸ハーバーランド】（51.2%）、【東京ビッグサイト】（55.2%）で低くなっている。

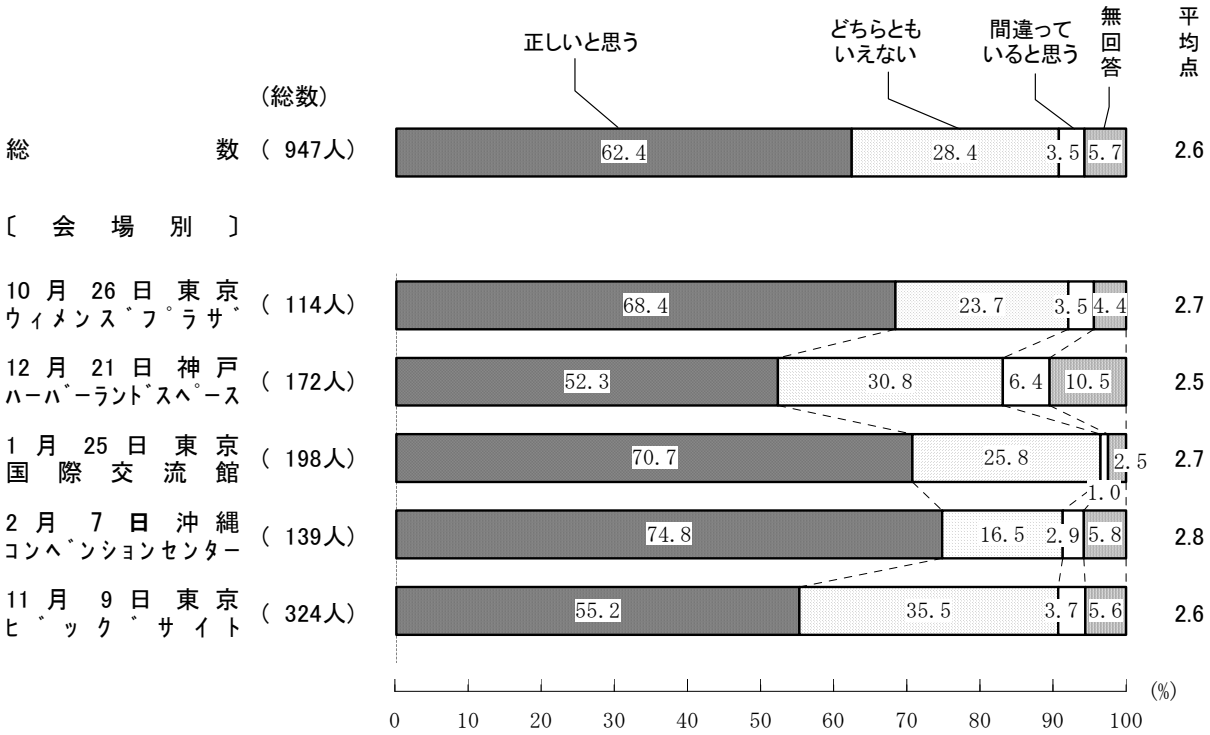
（7）キ　緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



上記（7）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 75.5%、「どちらともいえない」が 16.1%、「間違っていると思う」が 3.0%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【東京国際交流館】（82.3%）で最も高くなっており、【神戸ハーバーランド】（66.3%）で最も低くなっている。

（８）ク　現在の技術では、がんの痛みの９０％は薬剤によってコントロールできると言われている

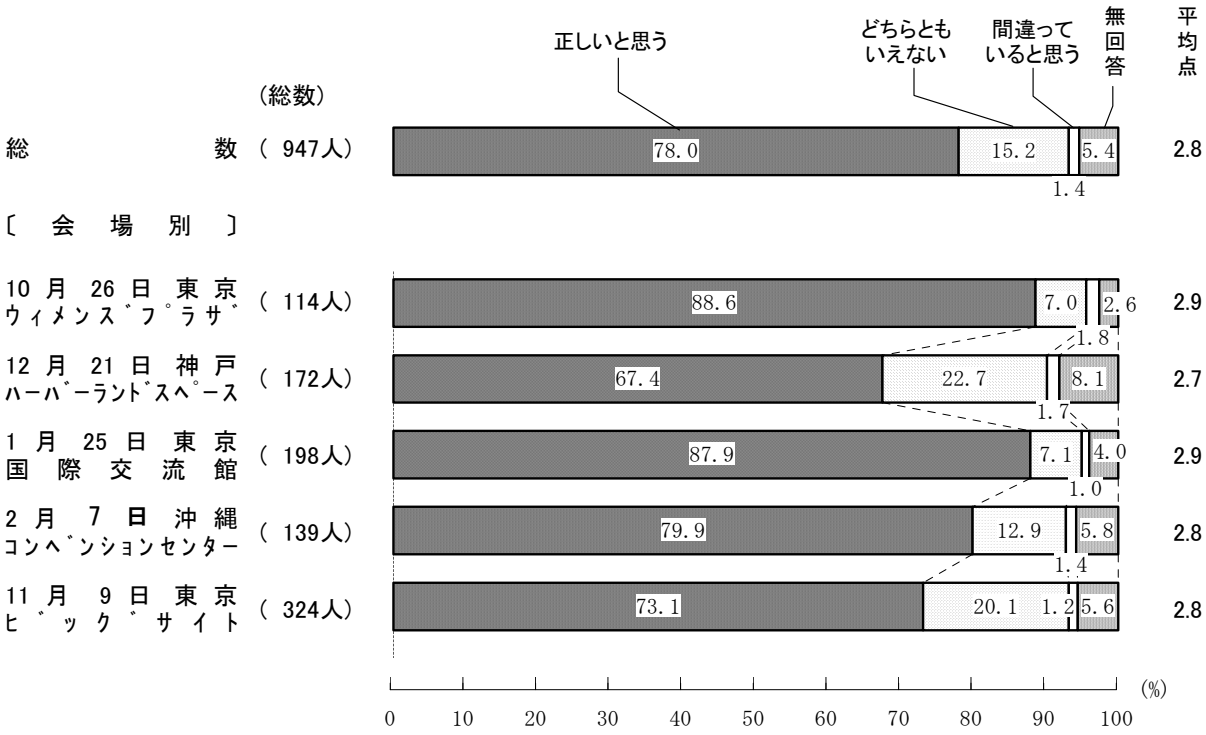


上記（８）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 62.4%、「どちらともいえない」が 28.4%、「間違っていると思う」が 3.5%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【沖縄コンベンション】（74.8%）、【東京国際交流館】（70.7%）で高くなっており、【神戸ハーバーランド】（52.3%）、【東京ビッグサイト】（55.2%）で低くなっている。

（９）ケ　緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、ＱＯＬ(※)は改善すると言われている

※　ＱＯＬ ⇒ Quality of Life（クォリティ・オヴ・ライフ）の略。生命、人生、生活の質を指す。いかに充実した生活が送れているかを示すもの。）



上記（９）についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が 78.0%、「どちらともいえない」が 15.2%、「間違っていると思う」が 1.4%となっている。

会場別にみると、「正しいと思う」が【東京ウィメンズ】（88.6%）、【東京国際交流館】（87.9%）で高くなっており、【神戸ハーバーランド】（67.4%）、【東京ビッグサイト】（73.1%）で低くなっている。

８　「オレンジバルーンプロジェクト」に期待すること

問８　緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

問8（自由回答）の分類結果／シンポジウム調査

回答有り 318人／集計数 947人中　　**複数回答**

分類軸	内　　容	回答数
OBP	・OBPのPR（周知）をもっとしてほしい！ ・OBPの周知を徹底してほしい（わかりやすく）！ ・OBPのことを知りたい。 ・OBPがあることを知る機会を作ってほしい！	79
OBP	・OBPを地方（田舎）にも普及してほしい。 ・OBPを高齢者にも普及してほしい。	10
OBP	・OBPは初めて聞いた（聞いたことがなかった）。 ・OBPを知らなかった。	8
OBP	よくわからない（OBPについて）。	2
OBP	・がんばってください。 ・期待しています。事業の発展を期待している。 ・よい活動だ。 ・活動を進めてほしい。 ・ご苦労様（お疲れ様）です。	27
OBP	テレビ（CMなど）で放送してほしい。	9
OBP	公的施設、病院、職場、学校などで話を聞く（学習する）機会がほしい。	4
OBP	シンポジウム、フォーラム、セミナー、講座を行ってほしい。	15
OBP	医療従事者（医者・看護婦など）への啓発・啓蒙をしてほしい。	13
OBP	（その他） OBP　への要望、提案、質問	18
OBP	（その他） OBP　その他	2

つづき

分類軸	内　　容	回答数
緩和ケア	・緩和ケアの正しい知識の普及を（偏見がある人がいる）！ ・緩和ケアの周知、広報を！	59
緩和ケア	・緩和ケアについて知りたい。 ・緩和ケアについての情報を知りたい。 ・「緩和ケア」に関する情報をキャッチしたい。	10
緩和ケア	・緩和ケアは初めて知った。 ・緩和ケアを（よく）知らなかった。関心がなかった。	2
緩和ケア	・「緩和ケア」を受けたい（現在、もしくはがんになったら）。 ・もっと身近に「緩和ケア」を。 ・誰もが「緩和ケア」を受けられるとよい。	3
緩和ケア	・「緩和」という言葉がわかりにくい。 ・緩和ケアの名前がよくない。	3
緩和ケア	テレビ（CMなど）で放送してほしい。	5
緩和ケア	緩和ケアについて、（自治体、学校、職場などで）学習する機会がほしい。	1
緩和ケア	・医師（医療関係者）は患者に「緩和ケア」の説明をしてほしい。 ・医療用語を使わないで、「緩和ケア」というものを伝えてほしい。 ・医者の説明だけでは不安。	3
緩和ケア	・がんの痛み（苦しみ）を解消するために尽力を！ ・痛みを軽くすることが一番。 ・がん＝痛みというイメージを無くして！	2
緩和ケア	・心の緩和ケアが大切である。 ・心の痛みや不安をケアする普及をしてほしい。	7
緩和ケア	・患者の家族に対するケアやサポートが大切。 ・大切な人をがんで亡くした人へのケアを。	3
緩和ケア	・がん告知時（後）の心のケアを。 ・がんを申告されると、本人も家族も不安・・・。	1
緩和ケア	・患者の（緩和）ケアは家族でしたい。家族にしてほしい。 ・患者の（緩和）ケアは家でしたい。家でされたい。	5
緩和ケア	・地域差などの格差に関係なく（平等に）受けられるようにしてほしい。 ・緩和ケアの医療設備を充実してほしい、増やしてほしい。 ・近くに「緩和ケア」が受けられる施設があればよい。 ・どの医療機関でも緩和ケアが行えるようにしてほしい。	35
緩和ケア	・QOL（生活の質）の考え方は大切。 ・QOL（生活の質）の向上を！普及を！ ・終末期には安らかに過ごせるようにしてほしい。 ・がん（痛み）で苦しんでいる患者が少しでも充実した日々を過ごすことができるような配慮を望む。 ・生活レベルでできることできないことを教えてほしい。	6
緩和ケア	・（家計の）経済的負担の軽減を。 ・健康保険が使えるようにしてほしい。 ・財政的な援助を。援助が足りていない。	8
緩和ケア	・緩和ケア＝終末期医療（ターミナルケア）というイメージや誤解がある。 ・緩和ケア＝終末期医療（ターミナルケア）というイメージを変えてほしい。	21
緩和ケア	・医療従事者（医者・看護婦など）は、緩和ケアについてもっと知るべき。 ・医療従事者（医者・看護婦など）に、緩和ケアについて啓蒙してほしい。	40
緩和ケア	（その他） 緩和ケア（に関すること）　への要望、提案、質問	24

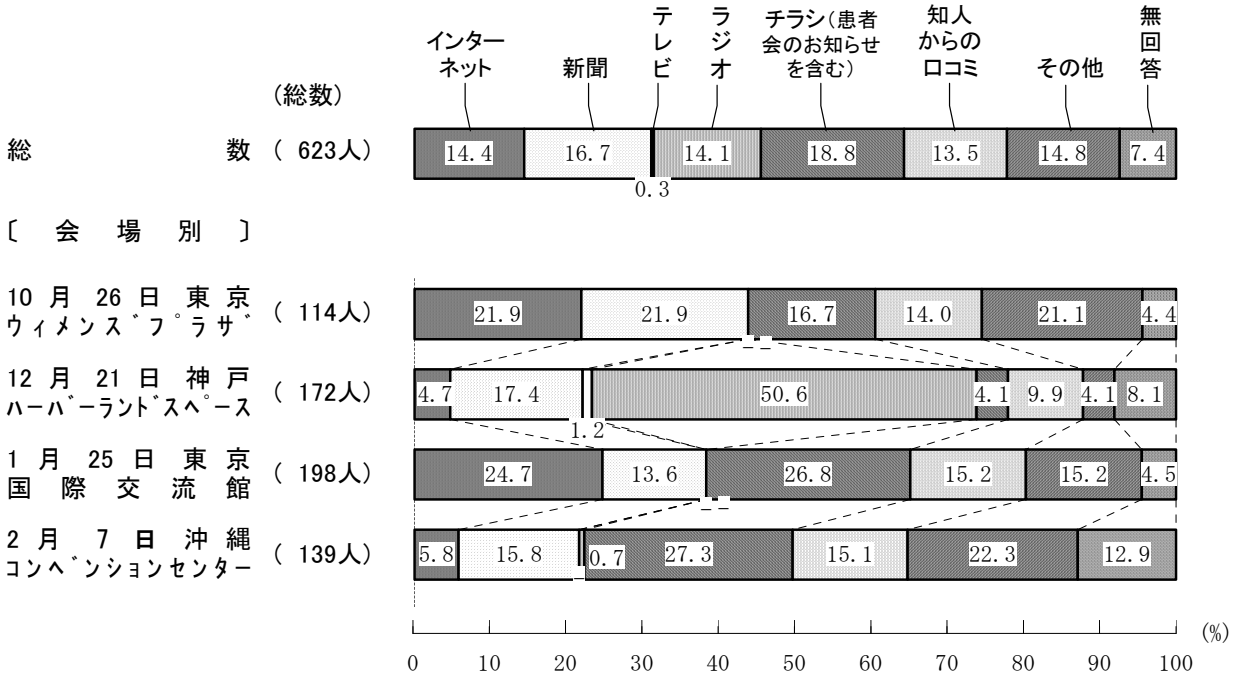
つづき

分類軸	内　　容	回答数
がん	・がんにならないための情報を！ ・がんを未然に防いでほしい！ ・がんになる前の検診をしてほしい！ ・早期発見をしてほしい！	2
がん	医療用麻薬についての要望や質問 （医療用麻薬の正しい知識の普及をしてほしい、医師は医療用麻薬を正しく使用してほしい　等）	7
がん	（医療用麻薬以外の）薬についての要望	3
がん	（自身の）がんの経験談、（自身の）がんによる辛さ	8
がん	・（家族の）がんの経験談、（家族の）がんによる辛さ ・（友人の）がんの経験談、（友人の）がんによる辛さ	12
がん	（その他） がん（治療、施設、医療者、政策）に関しての要望、提案、質問	3
がん	（その他） がん（治療、施設、医療者、政策）に関しての批判、苦情、文句	3
医療全般	・医療者の教育をしてほしい。 ・医療者が正しく理解すべき。 ・医師は勉強をしてほしい。	3
医療全般	（その他）医療全般　に関しての要望、提案、質問	3
医療全般	（その他）医療全般　に関しての批判、苦情、文句	1
	総 計	470

９　シンポジウムの感想について

（１）今回のシンポジウムの最初の認知経路

問９－１　今回のシンポジウムの情報は、最初に何でお知りになられましたか。（○は１つ）



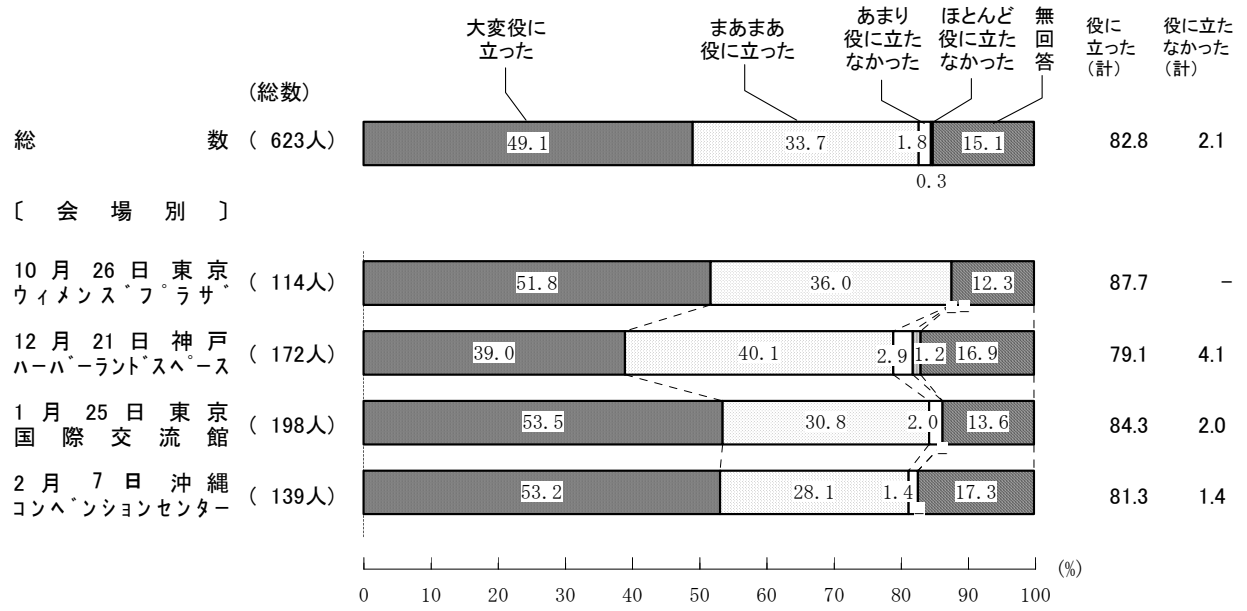
※　【東京ビッグサイト】の調査票には、問９－１以降の質問は記載せず。

今回のシンポジウムの情報を最初に何で知ったかをきいたところ、「インターネット」が 14.4%、「新聞」が 16.7%、「テレビ」が 0.3%、「ラジオ」が 14.1%、「チラシ（患者会からのお知らせを含む）」が 18.8%、「知人からの口コミ」が 13.5%となっている。

会場別にみると、「インターネット」が【東京国際交流館】（24.7%）で、「ラジオ」が【神戸ハーバーランド】（50.6%）で、「チラシ（患者会からのお知らせを含む）」が【沖縄コンベンション】（27.3%）、【東京国際交流館】（26.8%）で、それぞれ最も高くなっている。

（２）今回のシンポジウムの有益度

問９－２　今回参加されたシンポジウムはあなたの役に立ちましたか。（○は１つ）



今回のシンポジウムは役に立ったかをきいたところ、『役に立った（計）』が 82.8%（「大変役に立った」49.1%＋「まあまあ役に立った」33.7%）、『役に立たなかった（計）』が 2.1%（「あまり役に立たなかった」1.8%＋「ほとんど役に立たなかった」0.3%）となっている。ちなみに、「無回答」は 15.1%となっている。

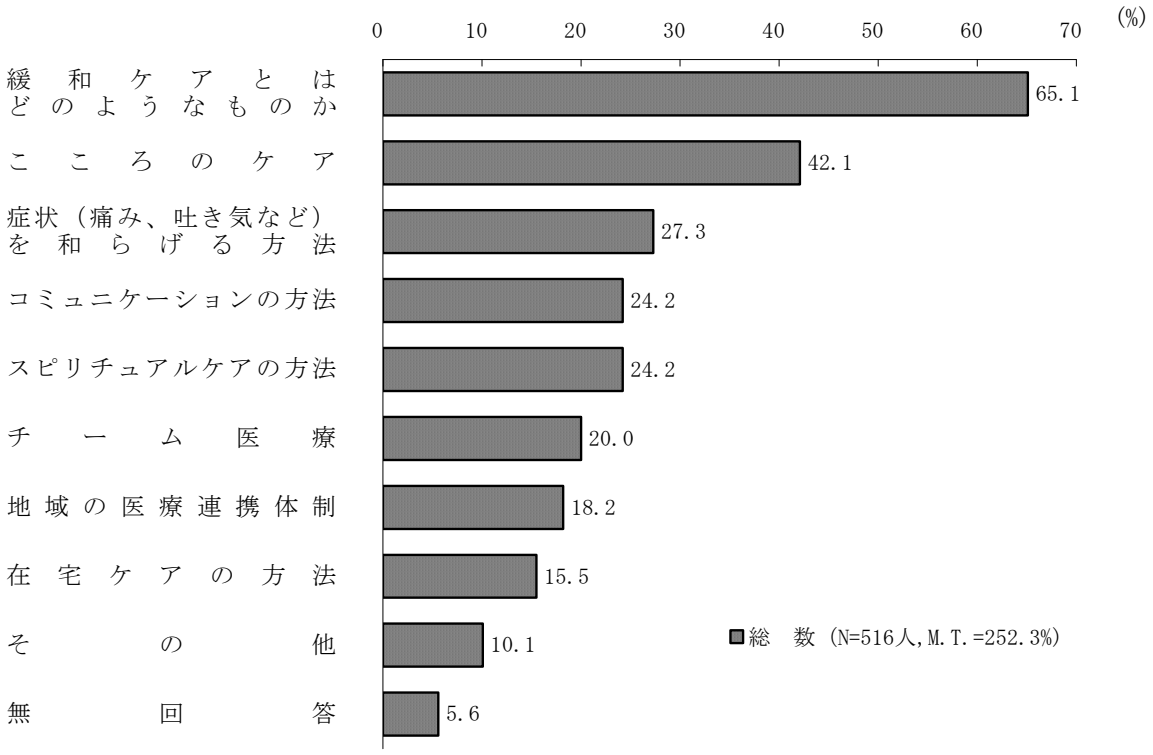
会場別では差はみられない。どのシンポジウム会場でも、８割前後の人が「役に立った」と回答している。

（２）－１　今回のシンポジウムで役立つと思う知識

問９－２　補問１　（問９－２で１「大変役に立った」、２「まあまあ役に立った」をお選びの方に）

シンポジウムの内容で役立つ知識だと思うものは何ですか。（**○はいくつでも**）

※　シンポジウムの内容によっては提供していない項目もあります



シンポジウムの内容で役立つ知識と思われるものは何かをきいたところ、「緩和ケアとはどのようなものか」が 65.1%と最も高く、以下、「こころのケア」（42.1%）、「症状（痛み、吐き気など）を和らげる方法」（27.3%）、「コミュニケーションの方法」（24.2%）、「スピリチュアルケアの方法」（24.2%）、「チーム医療」（20.0%）などの順となっている。

会場別にみると、「緩和ケアとはどのようなものか」、「在宅ケアの方法」は【神戸ハーバーランド】で、「こころのケア」、「症状（痛み、吐き気など）を和らげる方法」、「コミュニケーションの方法」、「スピリチュアルケアの方法」は【東京国際交流館】で、それぞれ最も高くなっている。

	総数	チラシ（患者会のお知らせを含む）	新聞	インターネット	ラジオ	知人からの口コミ	テレビ	その他	無回答
＊＊【　総　　数　】＊＊	623	18.8	16.7	14.4	14.1	13.5	0.3	14.8	7.4
〔会場別〕									
10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	114	16.7	21.9	21.9	－	14.0	－	21.1	4.4
12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽ	172	4.1	17.4	4.7	50.6	9.9	1.2	4.1	8.1
1月 25日 東京国際交流館	198	26.8	13.6	24.7	－	15.2	－	15.2	4.5
2月 7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	139	27.3	15.8	5.8	0.7	15.1	－	22.3	12.9
11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	－	－	－	－	－	－	－	－	－

Ⅲ　自 由 回 答 一 覧

（郵送調査用）

問２－１　補問１（問２－１で１「はい」をお選びの方に）
あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
（○はいくつでも）

「７．その他」の記入内容（８０件）　**※重複回答はまとめて記載**

- 義父（18 件）
- おば（14 件）
- 義母（9 件）
- おじ（7 件）
- 義親（4 件）
- 義姉（4 件）
- おじ、おば（4 件）
- いとこ（4 件）
- 嫁（3 件）
- 親類（2 件）
- 父方、いとこ、おば
- おば、甥
- 大叔父
- 親族、おじ
- いとこ、弟
- 義理のおば（友人の子供）
- 義弟
- 義姉妹
- 義父と姉
- 義祖母
- 義兄

問３－１　補問１（問３－１で１「言葉を知っていて、その内容も知っている」、２「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に）
「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになられましたか。（○は１つ）

「９．その他」の記入内容（５２件）　**※重複回答はまとめて記載**

- 本（5 件）
- マンガ「ﾌﾞﾗｯｸｼﾞｬｯｸによろしく」（2 件）
- 覚えていない（2 件）
- 学校（2 件）
- 大学の講義（2 件）
- いつの間にか、なんとなく（以下１件）
- おばがかかった
- がんに関する書籍
- がんの娘がホスピス病院に入院していた
- ケアマネをしている仕事上
- なんとなく
- ばくぜんと耳にはいってきた。
- マンガ
- 以前、介護福祉士として病院で働いていた
- 医薬品に関する職業の為
- 医療関係勤務者なので
- 医療機器を納品する時
- 医療事務の仕事なので
- 映画
- 栄養士
- 何時の間にか
- 嫁の叔母がホスピスで死去
- 家族
- 介護士、大学の授業
- 介護福祉士なので
- 学校の授業
- 義兄が自宅でお世話になったから
- 仕事＝生保
- 仕事で
- 仕事関係
- 私は医療従事者です
- 主人の闘病中の病院で
- 書籍
- 小説
- 職業上
- 生命保険
- 前、製薬会社勤務
- 大学の授業
- 地域で実施している所があるため
- 闘病記などの本他
- 日本尊厳死協会の催し物
- 病院で
- 本「緩和ケア」
- 鍼灸・指圧マッサージ師なので勉強しました。

問３－３　補問１　（問３－３で１「はい」をお選びの方に）
「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（○はいくつでも）

「６．その他」の記入内容（４件）

・医療機関の中でもある所とない所があると思う
・まだ受けられる医療機関は限定されている
・大学病院のような大病院
・ペイン外来

問４－１　あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何ですか。（○はいくつでも）

「10．その他」の記入内容（４６件）

・保検が適用するか
・病気になっていないのでピンとこないです…。
・緩和ケアが必要な事ならＮＨＫで放送してほしい
・ガンにならない情報
・電話の相談窓口、家族への説明、フォローその教育
・情報は限りなく必要と考えます。→従って相談窓口（ｗｅｂ含む）が必要と思います。
・公的補助があるのか
・ケアを受けた人の変化
・乳ガンになりましたが、身体の補整具やかつら等、患者の会など
・受け方・申し込み方法・状況など
・ほとんどに○をつけて、しまいました。やはり不安なことについてはしっかり説明を受けたいし情報がほしい
・食事療養
・終末期自宅ホスピスについて
・ケアされる方の教育
・問３－２で「病状に対するケア」とあるが、それは医者の薬物治療を除く、患者の「がん」に対する恐怖心を取除く精神療法なのか？
・家族（がんになった人の）のケアについて
・病名を告げられた時点で死の覚悟の意識が働くと思う
・がん告知（本人自身に）してから時期も本人の意志を望む。
・がんの患者さんが必要としてるものなのか？新たな実験的医療なのか？医療を行なう側に必要なものなのか？その全てといわれるのか？
・病院（病室）についている設備なども
・緩和ケアとは何かを知りたい
・本人以外の（特に家族）人が本人に対する接し方
・全部です
・家族の心、体のケアの情報
・完治しないと意味がないのでは…

・緩和ケアと言うモノについて
・今の所考えたことありません
・義父ががんと宣告されてからかなりのつらい経験があった。良いと思うものは何でも考えて実行しようと思ったが、なかなかうまくいかなかった。専任の「緩和ケア」の方がひとりついてくれるだけで助かる。上記のすべてにまるをつけました。
・緩和ケアとはどう言った内容か知りたい。
・緩和ケアとは何か？
・がんや緩和ケアなどの治療への専門的な知識や技術をもつ医師や看護師・薬剤師のいる施設
・緩和ケアの拠置内容とその効果
・そもそもなぜ緩和ケアがとりあげられる？
・在宅緩和ケアーの診療費はどれ位かかるのか
・ガンの告知が必要である為に本人に言いにくいです。
・今のところがんになったりしたくないので考えたくない
・体験者の緩和ケアの様子や利点、欠点
・同じ病を持つ人同士のネットワークなどの窓口
・患者さんとの接し方と言葉の選び方、また実際の痛みはどのようなものかという具体的な感覚
・具体的な場所（施設を知りたい）
・食事で進行するガンをおくらす方法はありますか。どんな食品ですか。
・ほとんど全部いろいろおしえていただきたい
・がん以外の病気にもあればと思うが！！
・患者の家族が心身のケアを受けらける所があるのか
・家族としての対処方法
・家族の対処方法

問４－２　「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
（○はいくつでも）

「13. その他」の記入内容（１６件）

・○○老人クラブの会合で説明
・でんわ
・ハガキ
・ＮＰＯ（患者）
・マンガ
・パンフレット
・口コミ
・電車の吊広告
・企業指導
・携帯電話メール
・病院や相談室でのパンフレット配布
・看者会のような集まり
・同じ病を持つ人同士のネットワーク
・気軽に行ける場所（専門の相談者が居る）
・電話相談
・薬局などで知識を得られるようにすれば、ききやすいのではないか。というのも患者さんは医師や急しそうな看護師にはききづらいことでも、薬剤師には質問されるという話をよく耳にするから。それに、実際病気になった人のほうが、こういう問題を身近に感じるものであるから、より役立つと思う。

問６－１　補問１（問６－１で１「はい」をお選びの方に）
「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになられましたか。
（○は１つ）

「９．その他」の記入内容（５件）

・気球に癌撲滅のアドバルン黄色打上げて宣伝する
・私の家では、看護の仕事をして居る者が３人も居ますから何となく知りました
・学校の授業
・ラヂオ波治療中
・学校の講議で

問８　緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

記入内容（６１１件）

・緩和＝（イコール）ホスピスのような、みんな同じイメージがあります。いたみをとることともうすぐ死んでしまうことのはっきりした違いがわかれば癌患者にも話しやすいと思います
・ますます拡めていただけることを心から願います。自分が応援できることがあればさせていただきたいと思います
・「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉を、今回初めて聞きました。ドラマで麻薬パッチを貼ってるのを見ますが、それぐらいしか『ガン』に対しての知識がないので…。一定の病気だけでなく他にも苦しむ病気はたくさんあると思うので、がんにのみに手をさしのべるのも何か抵抗がありますが…。わが国は病気に多数決があるような気がします。小さいから…年寄りだから…たくさんいるから…等と…平等な保障を望みます。小さな病気でも、今後一生薬を手放すことができない病気はたくさんあると思います。記事で言えば○○は、甲状腺の病気が多いと思いますよ。私も、ずっと血液検査しながら、薬をのみつづけないといけない状況なのに医療費は継続治療？とかいうこうもくで料金請求するシステムのようだし。おかしい。糖尿病でも、高い治りょう費、薬代がかかる訳だし…。費用面で、今後の不安はたくさんあると思うので、病気の理由がわからない人にも、手をさしのべてほしいと思いますけどね。長期療養に関して、易しい日本のシステムになってほしい
・知らない人が、まだ多いと思うのでＴＶなどを通じて情報を広めて頂きたいと思います。
・ひとりでも多くの人達に知ってもらい、理解を得られるように「オレンジバルーンプロジェクト」の存在を広めてほしいと思います
・プロジェクトが全国的に知られ国の目的が達せられるように期待しております
・このような事業があることを知って、もし、自分がガンになったとしても、少し気が楽になるような気がします。どんな人でも、より良く生活できるようにこれからも頑張って事業をすすめて下さい。
・父はこうとう癌母は胃癌で亡くなりましたので痛みがよくわかります
・緩和ケアの受け入れがまだまだ少ない様に思います。もっと身近に受け入れられる場所が増えればいいなと思います。

・医療費がかかるがん治療ですので、緩和ケアも健康保険が使えるといいのになと思う。具体的にもっとアピールして（マスコミ利用）頑張って下さい。
・最後に苦痛なく一生を終える事が今一番の望みです。望む者すべてが叶う様御努力下さい。
・一ツの事業を普及するためにはＰＲや宣伝、報告等する事には大変な工数や金がかゝりますが、一番金のかからない方法を考えて国民に知らせる事が大切ではないですが、知って悪い事は一ツもないと思います。全国のシルバークラブを活用したらどうですが
・緩和ケアをもっと市民に知らせる必要がある。
・ガン患者さんにとって必要なことはわかります。その患者さんを看病したりする家族の者にも緩和ケアは必要だと思います。そんなこともプロジェクトに含めて、考えていってほしいです。終末期の家族がいると、支えてくれる人がいないと気持ちが続きません
・○○新聞の○○といつも読んでいます。亡くなる方の１／３はガンとうかがっています。将来生きていればガンになる可能性は大だと思います。一般の市民が互いに協力し合って生きていく為に緩和ケアを多くの人に知らせて考える機会をどう協力できるかと市民のものにしたらよいと思う
・誰でもがんになる可能性はあると思うので、もっと緩和ケアについて、緩和ケアの内容について広知していただけたら良いと思います。
・内容が良く理解していないので、何とも言えません。
・ガン患者自身が望んでも医師の理解が（同意が）えられず、またそこで悩むというイメージがある。もっと安心して「緩和ケア」を選択できる環境をととのえてほしい
・新しい言葉が出る為何の勉強もしらないので困っている
・アンケートと言われても緩和ケアという意味は何ぞやと説明してわかりやすく話してから始まらないとわかりませんと近所の方が言っていましたけど私もちょぴりその方です。
・がんは年代を問わず、発症する所が恐い。出来る限り早い時期での活動実施と普及を期待する。
・若い世代の人達の多くは、がんに対する関心か知識が乏しい為、家族ががんと診断されて初めて治療法かケアの方法を知る事になるので、「緩和ケア」について興味を持つことができるよう、ＴＶＣＭか医療機関での広告、都市部でのＰＲイベントなど、親しみやすくわかりやすい説明があれば少しずついろんな世代の方達にも浸透していくと思います。
・ガンの治療を受けた方が、薬剤の副作用で大変苦しみました。治療のための薬剤を入れることで正常な臓器の弱体につながり、薬剤以外の治療を求めて奔走したようでした。私は体に変化があった時は、まず玄米菜食・生姜湿布などで体を整えるようにしています。家には飲み薬はありません。夫も子供も大変健康で“緩和ケア”という言葉さえ知りませんでした。が、いざガンになったら、病院にたよることになりますので、ガンの初期のうちに身心健康でいられるケアを知りたいと思います。
・「オレンジバルーンプロジェクト」を今回はじめて知りましたので、これから気をつけて勉強したいと思います。
・家族にも妹にもガンになって今治療中ですがガン細胞を撲滅して少しでも元気で命ながらえることが出来るように薬や化学療法の研究して頂きたく切にお願い致します
・９３才の母を自宅で１０年、本人は静かに旅立ちました。先生、ヘルパー様方のお陰です。何事も本人が安心出来るまで説明を受けることが出来ました。この様に心の中の不安な心、身体をいためます。何の病気でも、何人でも知ることが出来る様に普及に心より気体致します。御苦労様でございます。よろしくお願い致します。
・人が死ぬ原因の１／３は「がん」だと思うともっと緩和ケアが進んで苦しみを取ってほしいと思

う。
・今回、このアンケートを見て初めて、緩和ケアなることを知りました。ガンなどの病気以外でも、人間である以上、心のケア、精神的なケアは必要だし、医師や看護師は、一見やってくれそうに見えても、なかなかできないと思います。世の中、サラリーマン化しているので。韓国のドラマチャングムや、日本の二宮金次郎の「仁」の精神で、あなた方も取り組んで下さい。決してサラリーマン根性だけは持たないで。
・もっと身近になるよう普及に期待しています。よろしくお願いします。
・オレンジバルーンプロジェクトの言葉などは、始めての事なので知りませんけど此の度のアンケートは、色々な知る為にも約に立てれば良いと思います
・昨年３月に肝ぞうガンで肝臓を半分切り取り、１ヶ月の入院で無事退院し現在は元気に暮していますが、本日の様な質問を頂いても全く判りません。あしからずお許しの程を
・主人が１２年度ガンで苦しんできましたが最後の９ヶ月自宅介護で亡くなりました。始めは病院で麻薬をいただいていましたが、病院生活はもう嫌だと自宅介護を致しました。近くの診療所の先生が引き続き、全身のガンも自分でのむ量をコントロールしながら苦しくてもいつもにこやかに私に接し、天に召されていきました。
・人は病気をすると不安になるのでケアをする事はとても良い事だと思います。緩和ケアによって一人でも多くの患者さんを救えたら良いと思います。
・本人や家族の不安を取り除き、希望を与えるものであるよう、期待したい。
・がんで亡なる方が多いなかその人らしく生活できるように少しでも、その方に寄りそっていけるように学んでいきたい。今、介護職について働いていますが、私でも出来ることはと思っています
・闘病中の方々が勇気付き、安心して療養できるように、経済的なアドバイス等も含む、ＱＯＬ期待をいたします。
・色々なグループの中でも、この言葉を聞くことがありません。良い事業と思いますので、もっとＰＲをして下さい。
・がん治療、がんの撲滅のため、積極的な活動を推進されることを期待したい。
・ピンクリボン＝乳がん撲滅というのは気が付いたら知っていた。「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉は今回初めて知ったけど、長たらしくて、何日かしたら忘れそう…。オレンジ〇〇〇…ともっと短縮した言葉で、タレント起用で多くのメディアを利用して広く知らしめて欲しい。自分がなったら他人から、回りの他人にいたら自分がしてあげられることを是非教えてもらいたいです。
・いたづらに生命を永らえることは得策でないと思う。
・テレビのＣＭで放送してください。
・私自身、医療職に就いているものの、「オレンジバルーンプロジェクト」の事業について、あまり知らなかったので、これからは、緩和ケアをもう少し勉強してみて、この事業にも理解を深めていきたいと思います。緩和ケアは、がんの患者さんにとって、とても大切なケアだと思っています。患者さんが安心して、治療にのぞめるように協力したいです。
・がん患者はがんの症状以上に精神的に心が病んでいると思う。がんという現象にとらわれ過ぎず実相完全円満の自分を見つめることによってきせきの様な状態も起り得ることをがん患者に話すことも必要だと思います。心を明るく笑いのある毎日の生活をして行くことが、（細胞活性化）の一因にもなると思いますが…。
・「緩和ケア」認識度調査は大変役立つと思います。

・「オレンジバルーンプロジェクト」がある事をもっと新聞テレビ等で広くみんなが知る機会を作る事が大切と思う
・たとえ、がんで死に直面することになっても、人生の生活の質をなるべく落とさずに過ごせる事は、本人にとっても、周囲の者にとっても大切なことと考えます。しかし、以前に調べた○○病院のホスピスは、私などが使うことのできない高額のスペシャルスウィートみたいな物でした。緩和ケアがもっと、あたりまえのものとして普及してくれることを望んでいます。
・緩和ケア普及をもっと進めて下さい。身体だけでなく、心のケアも対応していただけるのは素晴らしいと思います。日本では医療用麻薬の使用は非常に少ないと聞いています。もっと普通に使用できるようになればと思います
・オレンジバルーンプロジェクトと言う言葉を初めて知った。期待する前に内容が分からない。もっと新聞などで名称、内容を広めて欲しい。
・がんによるきょうふはあるので緩和ケアを増々発展させてほしい。誰でもふつうにうけられるようになるとよいと思う。
・もっと広く事業内容・活動の紹介及び内容を新聞&テレビ等のマスコミを通じて取り上げることを希望します。
・オレンジバルーンプロジェクトについてのことが分かりませんから記入することは、ありません。
・私は寿命が短くなるとしても、緩和ケアは必要だと思います。私の父がガンで亡くなるまで、興味がありませんでしたが、今は、とても大切な事だと思います。ぜひとも普及してもらいたいです。
・有る事も知りません
・高齢者（→叔母の場合）にはがんは治らないと思ってがんと診断された時に心の病気になり外科的には治っても心のケアがうまくいかなかった。緩和ケアがもっと、もっと一般に普及する様テレビなどで高齢者にも解りやすく知る事が出来るといいと思います。これからのこと期待しています
・正しい情報を伝えることが大切だと思います。たとえ肉体は病に犯されようと心が前向きな人はきっと、病も良くなる確率は高くなるだろうと思います。前向きでいるためにも正しい情報は大切ですから。
・緩和ケアという言葉は知っていましたが、普及事業があることを知らなかったので世間の認知度が低いような気がします。もっとメディアを通じて広く知れ渡るようにし、医療関係者を介して全てのガン患者が緩和ケアを受けられるようなシステムを確立していって欲しいです。
・情報があまり知られていません。是非受けたいです。心のケアが必要です。家族も大変ですしもっともっと広めてほしい
・少しでも苦しんでいる人が減少することを期待します
・緩和ケアＣｏｎｆｅｒｅｎｃｅの拡大（ボランティアも含め）を求める。
・もっとテレビとか使ってＰＲすべき（アンケートの内容がわかりませんでした。）
・緩和ケアを普及するため病院を多くつくり、病床をふやしてほしい。
・その言葉を知りません
・緩和ケアを対応出来る医療機関が少ない。充実される事を望みます。
・新聞は万人が目を通すもの。新聞に取りあげ定期的に載せるといいと思う。年輩の人は疼痛コントロール＝薬にたよりたくない、頼らせたくないとの思いが強い。そんな「だんかい世代」から情報を流さないとなかなかしんとうしないと思う。
・自分は、無知なので存在すら知らず…さらなる普及を願います。

・組織を充実し、税金のムダにならぬ様進めて下さい。
・肺ガンと診断され、３ヵ月で父は他界しました。痛みと戦かっている父の背中を母がさすっていました。緩和ケアが家庭でできると良いのですが
・どんな人も、簡単に思いやりのある形で経済的にも無理なく、受けることが出来、正しい知識をすべての人に行き渡るようにしていただきたいと思います。
・期待しています
・医療用麻薬の使用において、血中濃度とその効果が適切に管理（モニター）されているのか？薬剤の使用方法について、具体的なガイドラインがあるのでしょうか
・もっと世間一般に広報活動をして広くなかみが知られる様にしてほしいです
・乳がんのピンクリボンは知っていましたが、オレンジバルーンプロジェクトは知りませんでした。ピンクリボン同様、オレンジバルーンプロジェクトも普及するといいと思います。
・個々の状況によって、メディアを変え、あらゆる痛み、心の痛み、できれば周囲の痛みまでとれるような、内容とシステムをつくって欲しい
・がんを宣告された時、緩和ケアを含めて充分に説明されているのでしょうか。「オレンジバルーンプロジェクト」が、看者に医者に代ってくわしく説明してくれると安心すると思います。どうも医者の説明だけでは不安です。
・最近、身近かで「がん」になる人が多くなっています。特にこころの悩みをかかえている人がいるので、「緩和ケア」病棟がふえるのとそういう施設があるという広報（新聞等で）をふやしてほしい。（今は終末期が主になっているので、もっと早くの人でも受けられるようになってほしい）。緩和ケア施設が少なすぎると思います
・緩和ケアと言う言葉を初めて聞きましたが、このアンケートを答えても、「症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。」としか書かれていないのでさっぱり分かりません。まずは、どういう活動をしているのか？資金は、どこから出ているのか？ケアを受けるのにお金がかかるのか？を具体的に説明できるようにしてから広めて下さい。
・国のがん対策でいいって事は、税が使われているとゆう事なんですか？出来るだけ、色々な人に、どんな活動をしているのかを知ってもらって下さい。そして、緩和ケアが受けれる施設を普及に近づけるようにと願います。
・がんを知って自殺する人もおられるので、そんな事がない様になったらいいと思います
・どこの医療機関であっても緩和ケアを行なえるような組織改善（財政的な補助等）をしていただけるようおねがいします
・親が大腸ガンでしたが、初期だったこと＋本人がまったく気にしてなかった（ガンだってことを）ので「緩和ケア」に関することを知る機会がありませんでした。緩和ケアが何なのか…よく分かりませんが、ガンで苦しんだり悲しんだりしている人達の助けになる事なら、もっと普及してほしいです。
・がんと診断されたショックで症状が重たくなることがあるそうですが、気持ち、心のケアとあわせて、東洋医学やカウンセリングをもっと一般に広く使われるようになれば、がんと共に生きる方法の選択しが増えると思います。
・今回初めてこの事を知りました。もっと多くの人に知らせてほしいと思う
・三十年程前のこと、胃の不調を訴えた祖父が病院で診てもらったときには既に末期であった。気丈だった祖父は大量の吐血で亡くなるまで痛みを押し殺していた。その時、痛みを和らげる方法はないものかと思ったものである。
・強い痛みを併う疾患はガンだけではないと思う。麻薬などによる緩和ケアをガンにひってきする

痛みのある疾患に対しても受けられるようにして欲い
・緩和ケアの内容を知っていると思っていましたが、細かい所まで理解（認識）できていない事がわかりました。もっと目にふれる仕方で緩和ケアに関する情報を提供して頂きたいです。
・正しい情報普及により、がんの苦痛（痛み：身体、心）から救われる患者さん、及び家族が多くいると思います。積極的活動をお願い致します。
・私も糖尿病でインシュリン打っておりますが、お蔭様で癌に縁がなく医師に云われた、運動４食事療法３酒タバコ３規約を守ること。老骨に鞭打って頑張っています（暴飲暴食）
・知ってる人が少ないならばプロジェクトも不本意な結果で終わってしまうのではないでしょうか？メディアなどを通じて、たくさんの人に知ってもらった方がいいのでは？と思います。
・ガンと告知された時、本人はなおの事、家族も又言葉に出来ない。いろいろな不安があります。そんな不安が身体の痛みになり、心の痛みにもなると思いますので、さりげなく、多くの所で目にしたり耳にしたり出来る様な活動をしていって下さい。
・オレンジバルーンプロジェクトという名称を始めて知りました。がん患者が『一人の殻』にとじこまらない様心の治療を望む
・今現在家族健康でありますが、いつがんになるかわかりません。そのような時、緩和ケアの事を知っていれば家族の心のケアになると思います。テレビとかで放映すれば医療関係者以外の人にも知って頂けるのではと思います。
・身近にがんの患者がいないので、情報に接する機会があまりない。テレビ、新聞、ラジオ等で、とり上げてもらえると、もっと認知されると思います。
・緩和ケア受けることによって、最後安らかに回りの人達めいわくをかける事無く、生活送れたらいいですネ。頑張って下さい。
・「オレンジバルーンプロジェクト」を知りませんでした。もっと多くの人に知ってもらうための活動をして頂きたいと思う。
・不安や迷いが少しでも無くなる、正確な情報をテレビ等で、伝えてほしいです。
・新聞、ＴＶ、インターネット、病院等で広報活動を積極的に行う事。
・どんな人も気軽に相談でき、緩和ケアを受けるかどうかを自由に選択できるようになったらいいと思う。ガンは、病気の痛みや苦しみはもちろんであるが、それ以上に精神的なつらさや恐怖心が何よりも大きい。身近でささえる家族も、精神的につらい。病気になった時に、その後の人生をどう生きるかが一番の課題と思う。いつ自分にそんな時がくるか、家族にくるかわからない。力になってもらえる事を希望しています。
・がんの痛みをコントロールする事を病院は積極的に行っていないように思います。緩和ケアを普及するプロジェクトには、医療を受ける側だけでなく、行う側へのアプローチも、もっと必要ではないかと思います。
・解らない。今までガンについての関心が薄かったのでアンケートへの答えもはっきりしないことが多かった。
・がんと診断されると本人は勿論の事家族や囲りの者も心配、動揺、不安でどうしたらよいか解らなくなると思うので緩和ケアの普及はとてもありがたいと思うので、世の中に広く知らせてほしい。気楽に利用出来るものであってほしい。
・もう老々人なので発病したら程々にして静かに眠らせてほしい
・緩和ケアと云う言葉は初めて知りました。ガンの治療方法は相当改善されているのは承知しておりますが、やはり恐怖であります
・このアンケートを頂いて、初めてネットで「緩和ケア」を検索し、癌に伴う苦痛の解放が快適ラ

イフと延命につながる医薬療法の一つと知りました。今の所健全に暮していますが、体内の癌爆弾がいつ産声をあげるか判りません。貴重なお知らせ有難うございました。
・１人１人の命を大切に！その人らしく全うに生きるための援助が個人の経済力を問わず行なわれることを希望します。
・オレンジバルーンプロジェクト自体はまだ全然知られていないと思うので、まずはそういうプロジェクトがあるのだということを広めてほしい。がん告知＝死というイメージを変えられるようなプロジェクトになってほしい。「がん告知→緩和ケアによるＱＯＬ維持・向上」
・主人の胃がんで２／３切除したのが昨年１０月で術後１年検診で腸の検査をする様にと言われ、１２月に行うのですが現在気持的にショックの用で大変です。そんな時の緩和ケアをと感じます。
・景色の良い施設で終末医療を受けて天命を待つ。
・このプロジェクトの活動が、自分の住む、いかなるところでなされているか全く分らない。目的が素晴しいだけに、その普及に一段と努力してほしい。
・どんな人でも、簡単に質問ができて、ケアがうけられ、安心して治療に専念でき、人生が最後まで、おくられることを願います。今が心配ですね。高齢になっていくので、すばらしい、プロジェクトを期待しています。
・緩和ケアと言ふ言葉は全然知らない。私は今から４年位前にゼンリツセンがんになり手術しましたが今現在結果良好です。３ケ月に１回血液の検査を受けていますが良好でございます。○○県○○病院で手術したのですが今は個人病院に行って居ります。私と同時に手術した人は今後病院に来なくても良いと言ふことですが個人病院は出来ないものでしょうか。薬も飲んでいません
・私は１５年前胃癌で胃を全摘しました。たまたま風邪で病院に行った時、日頃係り付けの先生に一度は胃カメラぐらいのんでみる事を勧められそれで、本当に初期の癌を見つけてもらい、内側に広がっる癌で用心に用心を重ね全摘しました。その後、抗癌剤も投与する事なく、未だに少はの貧血とダンピング症状に付合わされてはいるものの、４・５ヶ月に１回の定期検査をつづけて、元気に生活しています。現在身近かに相談する係り付けの医師などみつかりません。医療費は高くなるばかり、初期で見つかれば確実に治るのです。医学は進んでも、身近かでケアするドクター不足では改善も出来ません。期待します。
・誤解や先入観にとらわれず、正しい情報を発信して必要とする人々に提供し、ＱＯＬを高いレベルで維持できる事業であることに期待したい
・世の中の周知が必要（ピンクリボンの様に)。また費用についても国からの補助金を受け、患者の負担を減らして多くの人が受けられるように
・情報をもう少し広げてほしいと思います。
・テレビでの広報や、市の広報誌などに、日常にもっと広報活動で知らしめるよう期待したい。
・ぜひ、緩和ケアして下さい。２０年前姉は乳ガンで終末期のみだけでお願いしたい。
・身近で容易に受けることのできるシステム作り
・薬剤投与が多くなると患者自身が正常な判断が不可能となる恐れがあり不必要な延命治療につながると思われる
・現状では、がんの末期になってから「緩和ケア」について聞かされる事が、ほとんどだと感じている。できれば、がんと診断された時点で、詳しく説明していただけるような環境を整えてほしいと思う。
・とても良い活動だと思いますが高額にならないか不安。保健はきくのか？知らないだけに良くわからない
・緩和ケアをもっと良く知りたい。

・「オレンジバルーンプロジェクト」の存在すら（若い方は特に）知らない人もたくさんいると思うので緩和ケアを普及するためにもその活動をどんどん身近なところから増々、ひろげていって欲しいです。
・緩和ケアはよくわかりません。けれど、少しでも患者の痛みが押えられるのなら、使う事はしかたないと思う。ケアに関しては、患者本人はともかく、家族にもしてほしい。（患者を）支える事は…どう接っすればいいかむつかしいので
・今後、緩和ケアは「ガン」だけではなく、全ての病いに適要できる様になってもらいたいです。
・本人及びに家族への精神的ケア。最善（最良）の治療推進とがんの早期発見の為の事業推進。医療費負担の軽減アドバイス（家族への）
・緩和ケアが普及することを望む。
・オレンジバルーンプロジェクトなる言葉を聞いたことがありません。もっと積極的に広報すべきと思います。緩和ケアはだれもが受ける可能性があることですので
・お金がかかるかもしれないけど、メディアでみんなに知らせたらいいかと思います
・どんなにすばらしい技術や知識も、それを扱う人によって、プラスにもマイナスにもなると思います。最終的に、人だと思います。
・まだ知名度が低いと思うので、より幅広く知られるよう活動して頂きたいです。
・私が住んでいる所には緩和ケアを受けれる病院とかが少ないのではないかなあと思っています。知っている所は３市しかなく、もし私がガンになり、利用したくても出来ないんだろうと思っています。地元の新聞に緩和ケアの施設の先生のコラムが載っているのを読んでいて『こんな先生にあえたらいいのに』と思うことがあります。○○県には病院も少ないので、それ以前の問題なのかもしれません。
・一般の人がもっと緩和ケアを知ってもらえるよう啓発活動を進めてほしい
・私自身、まだ病気をしたことがないのですが、病気になった不安感、特に痛みとの戦いを想像すると緩和ケアーをより充実させていってほしい。
・「オレンジバルーンプロジェクト」と云う活動がある事が一般的に知られてないと思います。今後広く広報等の活動をよろしくお願い致します
・其のオレンジバルーンプロジェクトと言ふ言葉も私にはあまり知りませんでした
・ガンにかゝってからの処置も必要ですが、未然に防ぐ運動が、もっと活溌化されるよう、願っています。ますますの御発展を深く祈念して居ります。
・オレンジバルーンプロジェクトのことばは、はじめて知りました。内容も意味じぜんぜん分かっていません。もっとＰＲしてもらいたいと思います
・現在の日本では、がん患者数に対して「緩和ケア」が受けられる場所が少な過ぎると思う。家族の不担や心労を考えてみても、十分な看病ができにくい状況にある。私の勤務する○○(医療機関)では、病院の敷地内に『○○』という宿泊施設があり、ご家族や通院で集中的に治療を受けられる患者に大変喜ばれている。今後、「緩和ケア」の場所を増やしていただくことはもちろん、家族に対するケアも希望する。そして、その治療に携わるエキスパートの医師・看護師の教育・人選には慎重であっていただきたい。技術のみならず人間的に優れた人格者をお願いしたい。患者さんの立場になって考えると、「緩和ケア」でいちばん緩和してもらいたいのは、やはり“心”であると思うから…。
・とにかく、痛みを軽くできる様にする事が第一希望です
・緩和ケアは「がんの痛み」のみに限定したものではないと思う。膠原病、リウマチその他でも多発します。この辺も啓蒙しては？

・私は「オレンジバルーンプロジェクト」を知りませんでした。もっと広くみんなが知る事が出来るように情報を提供してほしいと思います。
・今回のアンケートではじめて「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知りました。がんであると告知されただけで精神的苦痛だけでも大変なので薬で痛みをなくせるなら積極的に肉体的苦痛からだけでも解放されるようになってほしいと思います
・国民への周知撤底
・資料を送付下さい。
・ＯＢＰが早く皆の知ることとなり一般の病院でも緩和ケア（心の病）が受けることが出来る様になってほしい（がんセンターがとおくにある為）
・私は、手と、アゴのコッセツで退院してきたばかりです。まわりは、口の中のガン、骨のガンと、ガンの人たちばかりでした。一日中口を押さえて「イタイ」と言ってる８０代のおばあちゃん、とてもかわいそうで見るのがつらかったです。「イタイ」と言うと座薬を入れられておわりです。これでいいのかと、ギモンに思いました。少しでもガンの人たちのイタミを、やわらげてあげてほしいです。
・ホスピスとか緩和ケアは入りたいとか受けたい人がなるべく経済的な負担をなくしてほしい
・「緩和ケアとは」具体的に知る方法を聞きたい。現在関心がうすいので勉強したい！
・心を大切に痛み（心の）に対応しているという事をもっと広めてほしい。
・今自分の周りにガンなど重い病気にかかっている者がいないので深く考えもしなかった事ですがいずれかは自分が又は身内の者が必ずそういう事になるだろうと思っています。その時になってあわてないために色々知っておく必要があると考えます。色々な方法で皆にわかるように知らせてほしいと思います
・言葉も内容も知りませんでした。広報活動を期待しております。（※必要な事だと思うので）
・新聞などで、もう少しわかりやすく説明してほしい。
・１．がんの苦しみは患者さん本人だけでなく、周囲の家族の苦しみも大きいと思います。緩和ケアで人生の質が改善され、患者も家族も笑顔が見られる様になるなら、たとえ早く終末を迎えたとしても、悪い思い出は少ないと思います。日本はがまんが美徳、他人の痛みには無感じな面があると思うので、緩和ケアの普及に期待しています。
・自分の父親が食導ガンで放射線を使用した治療し約２７回通院しました。後は本人の生命力にかかっています。父も年齢も８０才を過ぎてます。今後このプロジェクトが色々なかたちで広めていってもらいたいです。国民に分かりやすく説明出来るかたちで。
・オレンジバルーンプロジェクト、緩和ケアについての情報は一般の方は殆んど得られないと思います。もっと病院、地域など身近な所で情報を流し、現在癌で苦しまれている方が身体的、精神的な適切なケアができるようにしてもらえればと思います。又緩和ケアが受けられる施設、専門職など地域で宣伝する必要があると思います。緩和ケアについての具体的内容、ケアの方針について各病院に発信して欲しいです。
・緩和ケアという言葉は知っていても、どういう事なのかがよくわかっていませんでした。私も含め、国民に正しい知識が一日でも早く浸透する事を願っております。
・近辺で緩和ケアを行っている場所があればその資料が欲しい。
・へんな名前をつけるのはやめた方がいい。どこの広告代理店にだまされているのか。リベートのバックでもあるの？痛くもない腹をさぐられるよ
・来月に胃ガンの手術をします。そんな現在ですので、ガンという語を聞くと気になり聞き入ってしまいますが。実に多くのテレビ、新聞などで扱っているのがわかります。不治のガンになった

時に人はどんな事を思い、考えるか暗い思いになってしまいます。希望は持てないまでも何らかの目標なりを持たないと、自殺したくなったりしてしまうのかなと思います。そんな時、何かの手をさし伸ばしてくれればどんなに心の支えになるのでは、と思います。オレンジバルーンプロジェクトがどんなものか知りませんが、やんだ人の心のささえになる事業はすばらしいと思います。

・緩和ケアの普及に大きな役割をになうものと思います。
・期待をします。
・誰しも自分の死を目前にしてうろたえず、不安がらず、痛がらず、悩まず、怖がらずに過ごせる訳は無いと思います。でも、精神的苦痛が残っても“体の痛み”さえ取り除く事が出来れば、何とか１日１日を何らかの形でプラス思考に向わせようとする力が沸いてくるものと考えています。命が消える“定命”の日までを安らかな心で保て、とげの残らない最後であるように、薬などの開発をしていただきたいです。
・一部特定の人だけでなく望む人全てが受けられるようにしてください。
・緩和ケアを受けられる医療施設の充実をはかってほしい。
・痛みは本人はもちろんのこと周りの人にもつらいものである。少しでも緩和できるのであれば進んで受けたいと思う。“がまん”することが美という日本人の意識を少し変える必要があると思います。かんたんに情報が得られる様に（自治体や近くの病院など）してほしいです。
・活動を進めてほしい。
・２年ほど前から購読している雑誌に「○○」という題で○○先生の記事が載っています。先生は○○でホスピスの研修を受けられ’９５年○○クリニックを設立、院長に。現在は○○理事です。この記事を読んでいると自分や回りには病人は居ませんが病人の気持を心から考えて、本当に押しつけでない幸せな最後を迎えてもらうにはどうしたら良いかということを考えていらっしゃるのが分るような気がします。このような施設が全国に出来ればいいなと思います。
・もっといろいろな人にわかりやすく広げていくべきだと思います。（私は、今回こちらをいただいてはじめて知りました。）
・緩和ケア、オレンジバルーンＰＪという言葉自体を全く知りませんでした。医療に携わっていない人、身近な人が「がん」にかかっていない人に対しても取組みが理解されるよう、ＰＲをよろしくお願いします
・治療費を心配せず身近かで受けられるようになることをぜひにと期待しております。追伸、このアンケートを書いた後、夕刊で当地の緩和ケアについて“指定地になっていること、○○病院でチームを作って努力していること”を読みました。しかし、私の知人でこの春からガン入院をした方が数ヶ月毎に病院を転々せざるをえない状況におかれているのをみていると現在の医療制度に大きな怒りをおぼえています
・このようなケアが広くひろがればよい
・がんになった人が皆緩和ケアを受けられるようになることを望んでいます。
・間違った認識かもしれませんが、緩和ケア病棟やホスピスは高額な負担が伴うと聞いています。裕福な人だけが緩和ケアを受けることができるのではなく、全ての国民が受けられる体制整備を望みます。
・老人にも分かりやすい説明を。医療従事者に対する細かな勉強会。地域浸透させてほしい。差がない普及
・営利団体の利潤追求だけはさけていただきたい。
・医師等医療従事者にこの事業を撤底していただきたい。現状ではまだ適切な応対や相談に乗って

もらえそうにないと思いますが。
・緩和ケアという言葉は知っていても具体的な内容は知らないという人が多いと思うので、色んな広告媒体で広めていって欲しいと思う。
・私はその存在を知らないので、皆が知るように宣伝にもう少し力を入れて下さい。
・今回の事についてまったく知識のない自分がアンケートに答える事の意味がわからないが、少し認識してみようとは思いました
・新聞広告では症例を示して（簡単なタイトルをつけて目をそいてから）下さい
・子宮とリンパ１つを摘出された１人ですが○○（ストッキング＝弾性ストッキングのこと）のおかげで日頃病院の清掃に頑張っています。私と同じ悩みの人におすすめしたいですね
・大勢の方々に緩和ケアがスムーズに受けられ、安心して最後の時を過ごせますようにがんばって活動して下さい
・姉を「がん」で亡くしました。緩和ケアの体力面でも精神面でも、支えがあれば病人、家族共々どんなに助かる事でしょう。つらい時間が少しでも緩和できればと期待しております
・「緩和ケア」どっかで聞いたことがある位の程度でよくわかりません。もっともっとマスコミを利用して情報を発進していただければ「がん」＝「緩和ケア」と結びつくのでしょうが、今の所は知らない人の方が多いと思われます。健康な内に興味を持ったり、参加できたり、考える機会があればもっと違がってくるのかなと思いました。
・安楽死…。ガン告知…。
・病気になれば、最も悩み心身共に最も病んでいるのは本人なので、その心境を理解したケアが必要だと思います。病いと寿命は別のものなので、取りまきの暖かい対応が望まれます。
・テレビ（教育）で見たことがあります。現在住んでいるところではあまり知ることはできません。老人会に入っていますがお話を聞いたことはありません
・緩和ケアが、患者さんにとって「ぜいたく」ではなく、必要であり不可欠な治療ということがあたりまえになり、少しでも患者さんのＱＯＬが改善することを願います。
・今月（１１月）に乳がんの手術して、退院したばかりの時にアンケートが届き『無作為の抽出』なのかと驚きました。リマンマやかつらのパンフ等もらいましたが、皆さん、どう工夫されているのかそういうことを知りたいです
・今まで言葉でしか「緩和ケア」を知りませんでした。２年程前、叔父が胃ガンで亡くなったのですが、もっと身近にこのケアがあったらもう少し違う最後を送る事が出来たのではなかったのかなあと今、思います。私も家族もいつガンになるかわかりません。少しで速く第一のガン対策になる事を望みます
・情報の発信。スタッフの育成に関することｅｔｃ
・麻薬以外での治療薬を普及させてほしい。
・この質問紙の内容が非常にわかりにくい。「緩和ケア」について知らなかった人に問７でイメージをきかれてもわかるわけがない。「緩和ケア」について知らない人が問３－５のように周囲の人が受けたかどうかわかるはずがない。知らない人にわかりやすく説明をした上で質問してください
・告知する、宣告されるという怖いイメージだけがあるので、がんに対して無知な人間に対して、もっと教えて下さい。
・施設内だけでなく在宅で緩和ケアを受ける方々が増えてくると思う。開業医、訪問看護師等在宅ケアを支える人達の緩和ケアの認識の壁がまだまだ厚い。その様な医療従事者への枡しい知識の普及が一般の人達への普及の近道であると思う。

・趣旨が途中で変わり天下り先とならないよう期待する。
・乳ガン左全テキ後２１年現在に至って居ります。(痛み)、吐き気、だるさを和らげる医療用麻薬によってコントロール出来るとあらばたとへ短命になることがあったとしても治療を受けたいと私は思います。終末期であればなおの事苦しみつつ生きる価格など人間の尊厳に反します
・実父、実母がガンだったのでガンの末期は身体障害者１級よりもたいへんなことだと国は考えなくてはならないと思います。(生きたくても生きられない)
・実際にがんになっている（苦しんでいる）本人の身になって、本人の希望に沿って進められるととても良いと思います。
・一般の人は「緩和ケア」「オレンジバルーンプロジェクト」について、ほとんど知らないと思う。看護する立場の年齢層に対するアプローチが重要であるのに、不足している感がある。中学、高校のカリキュラムに入れても良いのではないか
・何も今は、元気なのでわかりません。緩和ケアがどんなもか、ガンがどんなものかも知りません。毎日運動を１００分以上しております。(ランニング、鉄棒その他)
・私個人としては、自分の母を肝臓がん（←C型肝炎から）で亡くしている事もあり、その時の事を考えると、このプロジェクトは、とても本人だけでなく、それを支える家族の支援につながる物として期待しています。現在住んでいる近くにも、ホスピスがあり、ＴＶ等で情報は目にする事はありますが、利用できるのは余命１ヶ月にならないとダメ等の情報や、費用の事も考えるとあくまでも理想的な支援であり、誰もが受けられるのか、それが疑問でもあります。在宅の時は、今思えば何もしてあげられてなかった事もあり、〇〇センターに入院の時も、疑問を持つ事が多かったです。年令的にも決して人事ではなく身近な人も何人も、病気と戦っているので、末端までぜひ自治体を通して普及させて下さい。
・突然のアンケートで自分がガンに対して緩和ケアに対して何も無知であってビックリしましたが本当に自分がその状況にならないときょう味をもって勉強しないものだと思いました。日々の生活でボランティア等にまるで接していなかった事にもビックリでした。ボランティアじたいにきょう味がないわけではないのですが日々の生活で自分自身の事で精一杯なんだな～と感じました。反省して皆様にはがんばって頂きたいと思いました。
・がん末期ケアではなく看者が生きる希望を改めて持てる、持たされる医療行為だと広めてほしいです
・患者本人のケアはもちろんのこと、その家族もサポートしてやれるようなシステムを考えて欲しい。痛みのない、おだやかな最後を誰もが望み、それを手助け出来るのは医療しかないとすれば、どんな人にも公平に緩和ケアを受けられる施策が必要かと思う
・心のケアが、大切なのはもちろんだと思います。少しでも不安がとりのぞかれるための運動なら応援したいものです。
・更なる広報、周知をお願いします
・本人は体が不自由なので配偶者が書きました
・できるだけ多くの人に知ってもらえるために必要なことだと思います。自分も生活の中で気をつけていきたい（気にかけていきたい）と考えます。
・１人でも多くの人に理解してもらえるよう、がんばって下さい
・知っている人は知っているのでしょうがもっともっと「オレンジバルーンプロジェクト」の知名度が上がるといいと思います。その内容についても知りたいと思います
・心や体の痛みの緩和ケアを地域特に自宅で受けられる様になればと思います
・緩和ケアは信頼関係がもっとも重要なことであり、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得

るのは難しい。ボランティアなどの協力を得て行なうとしたら、ボランティアの人々の高度の教育をしてほしい（特に人としての心）。家族の心のケアーもしてほしい。

・痛みだけでなく、恐布、不安に対して対応できる体制を強化して初期の患者のケアにも充分に対応してほしい

・一人でも多くの方が、がん等の痛みを克服出来る様願っております

・私自身、もしもガンになったら、寿命が短くなってでも痛みやくるしいのは嫌なので、是非緩和ケアは受けたいと思っています。まだまだガンは痛いもの…と思っている方が多いので緩和ケアを普及してほしいと思っています。テレビなどでもそのような番組はよく見ています

・がんの専門医（薬にも）を充実して欲しい（特に地方）病院からの情報がないので病院の専門医がわからない医師の情報が欲しい。受診するため、渡り歩く人が多いと思う。病気の人を助けて下さい。お願い致します。

・がんの体験がないのでよく分からない

・義妹（大腸癌）、義弟（胃癌）を本人の希望で看病致しましたが、末期の苦しみは心痛みました。モルヒネが使用されたと記憶しておりますが、意識混だくで見舞って下さる方々も理解出来ない様子でした。命が絶える時には、痛みを緩和し、周囲の方々と笑顔で「ありがとう」と「さようなら」を伝えられたら、癌も恐くないし、嬉しい気が致します。御尽力賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

・まったく認知されてないと思う。テレビその他メディアを使って知られるべきだと思う。痛みに対する治療は医療の重要な行為と思う。

・広告が足りない。病床が足りない。国の援助が足りない。

・「ブラックジャックによろしく」をアニメ化して下さい。

・もっとＰＲしてほしい。

・私の友達にもがんになっている人が数人います。これだけ身近にいるということはいつ自分にも可能性が出てくるとこわい気持ちになります。そしてそういう人達にどう言葉をかけていいのかわかりません。なるべく多くの人がケアを受けられる様推進してほしいです。

・病院及び、在宅でもその方がその人らしく人生をまっとうされることが望ましいと思います。人はその家（その方が住んでいたその家、その場所で愛着のある布団の中）でくらしていけるのが本来であると思います。緩和ケアも訪問医療看護もあれば…。家族に見守られて旅立ち、悔いのない（ご本人の痛みをまわりの者はどう受けていけばいいか？）もありますが本人がまっとう出来る人生を見守りたい為に、その為の公能援助も必要だと思います。①のケア、それは大切な事だと思います。その方の心に寄りそおう！！ここにいますよ！と。そうしてその方のまっとうした人生送れますように―

・「がん」になっても治療すれば治ったり、長く生きる事が出来ることは知っていますが、もう自分が「がん」だと宣告されたら、「もう…死んでしまうんだ…」って思ってしまいます。そんな時の「心のケア」は、とても大事だと思います。言葉１つで、つらい事も楽になる事はたくさんあると思うので１人でも多くの方の心を癒してあげてほしいです。「心」の問題はとてもデリケートで難かしいところも多いと思いますが「緩和ケア」を少しでも多く広めて下さい。私も今回のアンケートで「緩和ケア」を知り、いろいろ考えさせられました。ありがとうございました。今後も頑張って下さい。

・プロジェクトの存在と事業内容が多くの人に知られるようつとめ、多くの人に利用されますことを望みます。

・いくら緩和ケアといっても、ガンの人が本当に心を開ける個々に合った人材を選ばなければ、成

り立たないと思いますので、慎重に（信頼関係を築くことのできるのうな相手）を選び、それぞれの担当者にするべきだと思います。
・少しでも痛みがやわらぎ、がんに対し前向きに病気と戦う気持ちが持てたり、不安を解消できたら良いと思う。
・私は１５年前に乳がんにかかり手術をしました。術後いつ転移するかの不安と心の不安を聞いてもらえる人がいませんでした。生活におわれながら自分なりに立ち向って年１回位の海外旅行でストレスを解消しました。長年やっていたフォークダンス（３２年目）社交ダンス（２０年目）も楽しんで続けています。仕事も現役です。
・まちがい問１－４ではいに丸したがいいえが本当の所
・痛みはつらいものです。痛みを取る方法があるのなら取ってあげて下さい
・私は幸にも痛みを知らずにおりますが多くの患者の皆さんに痛みのない生活を送って頂けるよう願っております
・がん＝（イコール）死という概念があるのが正直な気持ちです。もうそこできっと病気に負けてしまっていますね。精神的な部分をケアしてもらうことは、非常に大事なことと感じます。オレンジバルーンプロジェクトが成功することを祈っています。
・４人兄弟のうち、３名がんになり、それぞれ胃がん、食道がん、ぼうこうがん、そして私は末っ子、まだがんにはなっていませんがそれぞれの状態を見てきました。痛みは人を変えます。私は上手に緩和ケアを受けたいと願っています。―。兄弟は皆健在です。皆、達感した生き方をしています。普通に目にし、普通に会話できるようになればいいナと思います。
・良くわからないので情報が広く浸透すれば良いと思う
・今年の夏、おばあちゃんが、がんになってしまいました。緩和ケアというのは知りませんでした。早く普及できたらいいと思います。
・心と体、両方のケアを望みます。患者さんが安心して生活できるようサポートして頂きたい。
・医師不足、病棟閉鎖など、いろいろ大変な問題があると思いますが、地域格差が出ない様にして頂きたいです。祖母は、大変苦しんで亡くなったと聞いています。「緩和ケア」という言葉も知らない方も沢山いらっしゃると思います。誰にでもわかるよう横文字でなく、判り易い言葉で広めて、祖母の様に苦しい思いをする人が少しでも減らして頂くようお願いします。
・がん治療、緩和ケアについて多くの情報を提供して欲しい
・ＯＢＰがよくわからない。
・“ガン”と言う病気は、大判が食事からきていると思われます。食事についての徹底管理ストレスの廃除方法など、心と体のアドバイスをきちっとしてほしい。またガンにならないための告知もしっかり行ってほしい。
・自分だけは、ガンにえんがないと思っていたのに見つかった時はショックで泣きました。「オレンジバルーンプロジェクト」と言うことばも始めてです。もっと身じかな所へ分かる様にしてほしいです
・がん以外の難病等による、心の悩みや疼痛に関しても対応しているのか？
・未則患者には痛止を打ってやらないと、見て居て苦しさうで打ってもらいました。母も打ってと云って居りました。出来るなら、間をおいて打ってやりたいと想って居りました
・患者本人だけではなく、患者の家族の心のケアができる機関もあるといいと思いました。少しでも多くの方の救いになる様、どんどん広めて欲しいと思います。
・身近にがん患者がいないので、「緩和ケア」と言ってもどういった事なのか分かりません。がんの痛みと治療の際の副作用は苦痛をともなうと聞いているので、少しでもその苦痛が和らぐよう

にしていただきたいです。
・癌イコール死ではない。それが、まだまだ誤解されていて、癌を恐れているあまり正しい情報を得ようとせず無知でいる事に疑問ももたず多くの方が平然として生きています。本当に必要な重要な事には、困難がつきものです。それでもあせらず、緩和ケアを大きく普及推進していって下さい。
・一般に認識度が低いように思われるので、もう少しピーアールすべきと思います。
・正しい知識と情報が広くにわたるようにしてほしい
・事業内容に関心を持ちたい。
・モルヒネ等を正しく使用できる医師の養成を早くして下さい。都会のガンセンター等へ研修に行けるようにして、田舎の病院でも使ってほしい。（現在は、まだ少ししか研修に行ってないようですので数を多くしてほしい。）モルヒネにまだ否定的な医師もいるようですので、そういう頭の固い医師にも研修を受けさせてほしい。患者が希望しても、そこでｓｔｏｐしてしまうとかわいそうです。妻の母が肺ガンでしたがモルヒネでずいぶん救われたようです。
・父は腺癌の診断を受けました。手術はせずに抗癌治療ですが、副作用で、手・足の感覚を失っています。Ｄｒに訴えても、「癌と副作用のどちらを取るか。」という様な返答、大学病院等ではＤｒとクライアントの間に入っていただける様な活動をしていただければ、患者もより多くの撰択肢が選べると思います。在宅で末期口腔癌のターミナルケアをしました。麻薬も切れた時の痛みはとても、つらそうでした。でも最後までご主人の介護して他界された、その生涯は充実したものだったと思っています。麻薬の使える量と時間の細かな調整は必要だと思います。
・「緩和ケア」という言葉はよく耳にするようになったが、その本当の内容を正しく理解していないと自分では思うので、その意味を正しく広めることをまず期待したいです。
・緩和ケアそのものをよく知らなくて申し訳ないです…。アンケートにも満足に答えられません…◆…。広くひろげてくださる事を期待します。
・緩和ケアを普及することにより、特にガンと成った人の勇気ずけるケアが（＋）に成ると良いです。
・痛みがなくて、心安らかに、最後まで充実した生活がお送れたら、幸福だとお思います。緩和ケアの普及は是非進めてほしいとお思います
・特ニ終末期には薬剤を使用して下さい
・繰り返し緩和ケアとは何ぞやから、周知すべきと思う
・１．「オレンジバルーンプロジェクト」が国のがん対策の一環であり、その内容が理解されているとは云えない現在、（がん治療中の方、家族、友人、その患者の方の地域の方々は認知していると思いますが)、「オレンジバルーンプロジェクト」に何を期するかと言うより、前記の設問を考えることなく、回答出来る状況に、ＰＲ活動の一考を希みます。
・病院の統廃合により、身近に医療機関が少くなって来ている状況なので、地域の方々が安心感が得られるよう、プロジェクト事業が幅広く住民に理解され応えていただけるよう取組んでもらいたい。
・ＺＩＰ－ＦＭ主催の日本臓器移植ネットワークのイベントに以前参加した事があり、臓器移植について考えるいい機会でした。オレンジバルーンプロジェクトでも、こういったイベントを行うと、若い人にも関心を持ってもらえると思います。
・もっと知名度が上がることを期待します。
・緩和ケアという言葉を知らない人が多いので、もっと広く、テレビ、雑誌などで、アピールしてほしい。

・「オレンジバルーンプロジェクト」と活動がある事初めて知りました。知らなかった私が遅れているのでしょうか。もっと広く新聞、テレビで広報してほしいと思います。高齢者はインターネットにはちょっと手が出ないので…。
・都市部にくらべると地域での格差があり対応がどうしても遅い事と年齢の高い人々の理解のわかりやすいバイタイや人員が多く仕事のできる社会システムを作成、実行していただきたいです。
・問７の「緩和ケア」の意味不明の為解答出来ない。このアンケートを提出し実際に何を実施するのですか。書類提出だけでは意味がない
・○○市○○地区に○○(施設名)があり病気によっては○○病院又は○○病院へ医師より手続きをしてくれます
・ごはんをいただいても、なにもあじがない。それがつらいです
・たとえ癌で死を迎えようと、良い一生だったと思える様な指導、勉強を期待したい。私は、今すばらしい人生を歩みつつあると日々感謝しています。（大腸癌術後５年が経過しました。）
・不安解消のためにも、その患者のための正しい情報の発信をお願いしたい
・メディア特にＴＶや地域の広報誌などを通じて緩和ケアに対する人々の認識をもっと高めていってほしい。なぜなら一番身近に吸収できる情報だから。
・国外で使用されている。ガンの薬（医社と患者の了解で）を国保で使用できるようにしてもらいたい。それも緩和ケアの一つではないでしょうか！
・もうすぐ年金生活のみで生計を立てなくてはならない夫婦です。一番には金銭の問題で困る様になります。病院にも夫婦で毎月行ってます。それ以上の医療代はきびしいです
・もっと興味を持てば、身近にあって費用面、ひとり暮しの人などいろいろ問題は発生すると思います。介護と同じ様にひとりでは何も出来ません。心のケアがあれば、グッと救われる人が多数いると思います。おじが受けていたのを思い出しました。１年で亡くなりましたが。
・友人で同じ歳の人が、乳がんで現在治療を受けています。身近なところに“がん”の患者がいるのに、私も友達も知識不足で接し方にも苦労しています。他人事ではなく、もう少し勉強する必要がありそうです。人の命を対象とした大切なお仕事、頑張って下さいね。
・問７・キについて兄がＨ．１９年肺がんで亡くなりました。緩和ケアを受ける為その施設に（病院に）入院しましたがガンの治療はあきらめて下さいと言われました。兄は最後まで治療を望みました。〇〇センターは末期ガンの患者には緩和ケアの為の入院しか言わず兄がとてもかわいそうでした。緩和ケアの病院でもはっきりと言わず治療薬の投薬をして欲しいと思いました。緩和ケアの病院には、バラつきが多くおそまつな病院も多く充実した施設の対応を望みます
・緩和ケアという言葉や考え方については、何となく取っているものの、具体的にどこまで（どの様な医療機関で）どの様な療法（料金なども含めて）が行われているのか、情報がないので、そういった具体的、実用的な情報が欲しい。もしくは、その様な情報の普及に力を入れてもらいたい
・オレンジバルーンプロジェクトのことを知りませんでした。情報がもう少しほしいです。
・はじめて聞く言葉なので、もっと多くの人に知ってもらうように活動して下さい。頑張って下さい。
・医者の薬物治療と「緩和ケア」はその方法、効果においてどのように違うのか？知りたい。
・緩和ケアということを初めてしったのであまりわかりません
・続ける事は大変だとは思いますが、がんばって欲しいです。
・私の姉が肺ガンになり（２０年前）痛い痛いの毎日で忘れられません。その時病院内に痛み止めの注射によりちゅうどくになっていた男の人を見ました。現在はいかがな物なのでしょうか？…

・最近は、がん告知があたり前のようになっているが、やはりショックを受ける人も多いと思う。そのためにはこのプロジェクトは大変必要なことと思われる。日本は心のケアをすることがアメリカなどに比べ非常に遅れていると思うので期待は（大）です。
・緩和ケアにより毎日の生活が充実できるような効果を期待します。１人で悩むのではなく、廻りの人々から生る力を与えられればと思います。
・意味が解らないので、期待もなにもないけれど、ガンについては多くの人がもっとくわしく知りたいと思うので、テレビやポスターなど、みんなの目につくとこで広報活動してほしいです。
・知らない事（身近な人ががんにならない限り）が多いのでもっと説明等の機会があればいいと思います。
・数多くの人が“緩和ケア”と言う言葉、内容を知ってもらえる様努力して下さい。
・２２年前に父親ががんになり、手術をしましたが、幸い、再発することなく元気に過ごしておりますので、緩和ケアについてもほとんど関心がありませんでした。今回の調査に答えることにより、これから気をつけて情報キャッチしていこうと思いました。
・まだまだ認知度は低いと思う。もっとメディアを使って国民にアピールするべきだと思う
・私はあまりオレンジバルーンプロジェクトは知らないのですが小さい頃から、ずっと体がすごく弱いため、今、毎年病院通院してるため、子宮筋腫のため、その他の病気毎月医療費や薬代がすごくばかにならない。鼻から、点鼻薬、口から漢方薬、おしりから坐薬、それに便秘薬、腸の薬などで３、４万かかるから、もっと国民の生活がすごく楽になれば安くなればいいのに、毎年不安に思ってます。これから先病院に通院できなくなるかも、生活がすごく苦しいです。正直言うとね、国民に対して弱い物いじめですよ。考えてほしいですよ。日本のせいじかは、世の中まちがってますよ。消費税にしろ、６０すぎたら皆さん年金ぐらし、病院だって毎月・毎年行けなくなるかも。死ねと言わんばかり正直言って、すごく頭にくる、はらが立つ毎日。このいかり、国民をだいひょうして、なんとかして持らいたい。問題です。何かいいかいけつさくはないのかと思う毎日この頃です。国民の皆様も私と同じ思ってると思いますよ。これが私の今の本音です。この先不安に思ってることです。わかって下さい。ごりかい願います。
・緩和ケアについての勉強したいと思うので、身近かなテレビなどで特集番組があるといいと思います。
・身体の痛と、心の痛みを少なくしてくれることを特に希みます
・病にかかることはつらいものだと思います。緩和ケアを、つらい思いをしている人すべてが受けられる様になることを期待します。
・最近マウスの実験で栄養食品を投与したら癌細胞が増殖しないと云う内容の記事を知った。この実験と並行して緩和ケアを実施すればその実績によりけりであるが癌患者に対して多くの期待を与えることが出来るのではないか！！
・地域（地方）と都会での格差が出て来ると思うのでその問題にも取り扱って欲しい。もっと広く緩和ケアを広げて欲しい
・未だ具体的なイメージを持っていません。
・２０年前父は肝臓ガンを患い、７ヶ月間の入院生活を終え、他界しました。当時独身だった私と母の２人が付添っていましたが、どう介抱して良いのか悩んでいた時、ある１人の看護師の方を手本にしました。ガンや薬の副作用による痛みやだるさにより、元来、辛忙強い父が、人が変わったように荒れだしたのですが、そんな父を大らかに受けとめ、専門職としての、多くの知識や助言を下さり、本人との信頼関係を築いて下さりました。父とその看護師さんとの関わりを側でじっと観察し、私自身もまねをさせて頂きました。お陰様で、終末期の父は本来の辛忙強さと精

一杯の穏やかさを私達に見せてくれました。何をどうすれば、『緩和』できるのか。患者ご自身の症状、性格、家族関係により、様々だと思われますが、患者と接する機会の多い『看護師』さんが一番多くの答えを持っていらっしゃるのではないでしょうか。ただ、多忙な業務の中で、自らが声を上げるのは困難だと思います。しかしながら、本当に必要とされる『緩和ケア』を充実させる為には、是非とも、現場看護師さんの声を拾い上げて頂きたいです。病院の方針や直属上司の嗜好にじゃまされることなく…。この事業に、心より感謝します。

・まだまだ知らない事が多いのでわかりやすく告知をしてほしい
・「緩和ケア」の情報が提供されていない。
・もっと多くの人に知ってもらう運動が必要だと思う。
・国民に知らせることは大切だと思うので、十分な予算をつけて実施してもらいたい。しかしそれよりも何よりも、がん治療・予防を含め、医療や保険全般に対して国が充分な予算をまわして国民が安心して生活できるようにすることの方が重要だと思います。
・国民にもっと知ってもらえる様に広報等に力を入れてほしいです。
・事業が拡大すれば、細かい気づかいがおろそかになる傾向が出てくる。これらは、初期の段階で対応を考えるべきである。
・草の根活動を継続し、マス＝メディア（とりわけテレビ）に取り上げられるようにする。
・介護の仕事についています。今年７月で余命１年と宣告された方の通院介助に同行し毎回本人以上に結果に安堵します。今のところ痛みも無くお元気にされてます。２、３年前にも肺ガンの利用者の方の末期を自宅でとの事で介護し痛みを訴え続けられました。ポスピスに行かれたのですが１週間でお亡くなりになりました。少しは頭のスミに緩和し精神的なやすらかになって頂く位の知識しか無く勉強しなくてはと痛切にその時思いましたがもっと広く又なおかつわかりやすくこのプロジェクトが進む事を願ってます。
・実際に患者になった事も無いので、良く分からないが以前家族の者が医大の先生の話しを聞いた時、終末期の患者さんでも痛みさえ取ってやれば最後まで、おだやかに暮らせるとの事を聞くと、「副作用とか寿命が短くなったとか」が無いのならもっと現場の医療者の生を声を多く聞けば、普及するのではないかと思われます。
・今回始めて聞く言葉でしたので、もっと多くの広報が必要
・この言葉は全く知りませんでした。会社では、２．５万人の健康をみている部長ですが聞いたこともありません。娘も医療技師ですが、知りませんでした。もっと社会に知らしめるべきです。必要ならば。
・医療者にももっと緩和ケアについての周知や教育（麻薬の使用をためらう人もいるときくので）と行政にもケアセンターの増設や専任の人の配置などもふくめはたらきかけてほしい。
・言葉もはじめてきいたので、よくわからなかった
・痛みに対してもっと手軽に麻薬の使用を緩和してほしい。
・まずは知名度ＵＰから
・ガンの痛みは人によってそれぞれ感じ方が違う。医者から『これだけの痛み止めを出しているのに痛いはずがない！』と又、『あなたは気にしすぎるから痛いのではないか』などと言われた。もう少し患者の痛みや、気持ちをわかってもらえたらと思った。また私達は、治療は医者にまかせておけばよい、と思っていたが痛み止めが合わない時など、患者外から『薬を替えてみてほしい』と言えばよい。実際薬を替えてもらい痛みが和らいだ。人まかせでなく、自分達も知識を持っていることが大切だと思う。
・身近な癌患者がいないのであまり関心がありませんでしたが、いざという時の為にも知っておき

たいという気持ちがわきました。
・自分には他人事のように思っていましたが色々と考えてボランティアでも、色々な人々の協力のもとで助け合うという事は良いのではないでしょうか？はじめて聞く言葉で何も言えません。申し訳ありません
・詳しいことがもっと知りたい場合はどうしたらよろしいのですか。いずれにしてもまったく知らなかった事が少しショックでした。ケアーは大切な事だと思う。まずは言葉が早く普及することだと思う
・なんで、横文字にする必要があるのか？率としては、年を取った人の方が末期ガンにかかりやすいと思われる。夫が、妻がといった場合、日本語でわかりやすく、手助けはできます。と書けば、年を取った人には穏切だと思います。
・活動内容など広報をもっとしてほしい。分かりやすくお願いします。
・がんは他人事ではなく、この活動はとても重要だと思うので新聞の全面広告などを使って広くアピールしてほしいと思います
・患者の痛みが少しでもへるのであればどんな治療もして頂きたいと思う
・延命措置よりも、人生を最期まで豊かにすごせるケア方法だという事を周知させてほしい。祖父がホスピスでいい最期を迎えられたと思います。
・ガンは告知される事によって心残りのない人生の終えんを迎える事が出来ると思う。段階に寄ると思いますが、手術が可能ならするべきです。自身なら７５歳以上なら手術したくない。
・もっとわかりやすく
・前日テレビで大都市で在宅で訪問治療を受けておられる方を見ましたが地方のどの自治体においても受けられるようにしてもらえる事を期待します
・どんどん広報で知らせて欲しい。
・自分ががんになったと想像した時１番不案に思うのはお金の事だろうと思います。保険がつかえるかどうか、どれぐらいかかるのか。医療費に関する不案も相談できるといいかなと思います。
・父が脳しゅようで５年前に外界しました。短期間だったのであまり苦しまず（？）旅立っていったように感じました。―が本人は、さぞつらく、痛く、不安だったと思います。だれでもが、正しい知識をもって、安らかに幸せなさいごが送れるようサポートしていただければうれしいです
・緩和ケアという言葉を全く聞いた事が無かったのでもし自分が将来ガンになった時に緩和ケアを受けられるように認知度を上げてほしい。
・医学が発達したとしても心の痛みは医者では治せない心の療養は不可決と思う。心の緩和の方が大事と思う
・がんと聞くと、どうしても“辛い”“死んでしまう”という暗のイメージが強いので、当事者を含め、まわりの人は不安になる。症状によっての正しい知識や治療法などが、世の中にも、もっと広がっていくと良いなあと思う。
・上記のプロジェクトの名前すら知らなかったのでもっと多くの方に知ってもらい参加出来る場を作るべきだと思います。
・よりよい研究をしていただきたい。緩和ケアもよろしいですが病気にならないためのケアも大切なのではないでしょうか？主人も手術をしましたが主治医の先生の指導がよろしかったせいでもう満７年たちました。その後元気にすごしています。手術もあまり高齢（８０才以上）ですとたいへんなのではないでしょうか
・緩和ケアを受けたい時に、迅速に受けられるように、施設の充実と豊富な情報提供を期待する。誰もが必ず受けられることが大前提であると思う。

・私はこの事業が有り事、初めて知りました。一般市民へのＰＲの強化が必要と思われます
・研究の結果１日も早く善い特効薬が結集される日を望んでおります
・ガンの末期は激しい痛みに襲われると聞いてます。その為医者用の麻薬もやむおえません。最終的に助からないのなら苦痛なく死んで行きたいものです。その為にこのようなグループを通して真剣にとりくんで行ってほしいものです。
・がん患者が安心して生活できるような社会形成に努めて欲しい
・是非、早急に普及して欲しいと思います。妻は現在○○の○○病院外科にて治療していますが、家から遠く近くに無く、困っています。治療費も高額で、この先が不安で一杯です
・緩和ケア―の言葉そのもの又中味が一般的に不明であり全々不明（わからない）事が多い。庶民のかんかくでなじみがうすい
・患者家族が緩和ケア情報を身近で入手しやすい事を望む（医療と費用も含む）
・普及の為の障害が何かあるのでしょうか？それが予算なら予算獲得の為頑張って頂きたいし、一般市民の認識不足、誤解ならＮＨＫなどマスコミを利用して正しい知識を広めてほしい
・もっと、地域の人が緩和ケアについて知ることができる場をもうけてほしいです。
・理学療法士として勤務しています。緩和ケアに対する理学療法にも興味があり（がん性疼痛など）研修会にも参加しています。今後、医師、コメティカルも含めた勉強会、研修会ができれば患者さんに対する包括的な治療が充実できると思うのでよろしくお願い致します。所属団体は○○協会です
・問７で「正しいと思う」なんて、自分にはわからない。今の医学は薬に頼りすぎという傾向があるから。がん治療はさておき、日頃のちょっとしたことでも大量に薬を出す医者が、がん治療緩和ケアに限って少量に有効な、自然治ゆ力（本来の生命力）をひきだすような、薬を処方するとは、常識的に考えてみればありえないし、患者のたいていはわかりようがないではないか。そう、あなたも思いませんか？←父親は、薬の大量投与で黄ダンになったが入院費は自分持ち。泣きねいりってのですね。
・年令があがるにつれ、近い人達にがんの人が増え身近な問題になり…緩和ケアも含め、尊厳死や告知の問題など不安、もしも自分がと考えるだけで強い恐怖さえ感じます。実際には自分で能動的な気持ちにならないと、情報を入手したり、真剣に学び考えたりはしないでしょうが、そんな気持ちになった時はいつでもすぐ、その情報に触れられるよう、機会があるごとメディアでとりあげたり、ネットや図書館など身近な場に常にまとまった情報を置いておいて頂きたいです。
・今の主人は、命はいつかなくなるのだからほっておいてほしいと言います。私はケアは大切ですが本人を苦しませたくないです。がんの出きる部位により考えたいですね。○○にあるのは知っていますが…利用するでしょうか？ボランティアの人の参加はこのみません。
・本人はもちろんつらい！回りの家族もつらい！今も心が痛い…。自分だったらたえられるだろうか…こわい！！
・日常生活を普通にすごしながら最後をむかえられるケアを期待する
・各自治会を通して頂く事が、間違いなく自分自信に一番身に付き、分りやすいのではないでしょうか。
・あまり緩和ケアがどんな事なのかわかりません。病気になってる方が少しでも何か期待になるような事があれば「オレンジバルーンプロジェクト」の活動を期待したいです。お役になれなくてすみません。がんばって下さい。
・患者さんの不安や痛みが少しでもなくなれば嬉しいと思います。家族の皆の大変さもケアして頂けたらいいですね。頑張って下さい！

・ガン患者以外に家族への心のケアも大切だと思う。ガン患者のワガママもできるだけ受け入れる。「もう終り」（死ぬ）という言葉に対して適せつに受けこたえのできる医療者を育てる
・いなかの町では病院の維持もままならない状態です。病院を利用する、お見舞に行く等の交通の便も不便です。その上、高齢者でしめる地域は、情報を収集する事も難しい事だと思います。緩和ケアを受ける人、受けたい人はたくさんいると思います。オレンジバルーンプロジェクトも、都会だけでなく、いなかの高齢者の方たちにも普及していただけるよう、これから期待しています。
・もっと一般の人達にも緩和ケアを理解しＰｔ自身が治療を選択していければいいと思う。そういう施設（緩和ケア）がもっと増えればいい。活動頑張って下さい。
・緩和ケアを普及するためにもメディア等を利用してほしいと思います。
・期待というよりも「オレンジバルーンプロジェクト」という事業を知らなかったので、どういった内容なのかを知るチャンスや場所があるのなら、まずそこから入ってみたいです。近年、「がん」という病気も多くなり、よく身のまわりでも耳にすることもあります。少しでも力になることができればとも思います。現在、介護の仕事に携わっているのですが、医師や看護士とも協力できる部分があるのならとも思います。〇〇在住、H
・私の父は２００５年に余命を知らされる事なく肺ガンの術後６ヵ月でこの世を去りました。緩和ケアが普及していれば、家族としてもっと何かしてあげられる事が、そして本人も残していきたい事があったのではと思います。多分私もガンになるでしょう。その時自分の行く先があれば安心です。地方にも施設又は知識をもった方が一人でも増える事、期待いたします
・「緩和ケア」という存在を今回初めて知り、少し興味を持ちました。まだまだ普及されておらず、今後期待したい内容であると思いますので、ぜひ普及させていって下さい。もっと身近な存在になればと良いと思います。
・自分が緩和ケアを受けたいと思った時、どこにコンタクトすれば良いのか知っていると安心感をもって暮らせる。
・緩和ケアは医療的なケアのことか心のケア、または福祉的なケアかよくわかりません。問７の質問に関しては、私達のあまり知識がない事に対してはむずかしい問題だと思いました
・主人を２２年前ガンで亡くしましたが、まだ緩和ケアもあまり知られていなく、大変でした。本人だけでなく介護する者にも色々な情報があると助かると思います。
・緩和ケアの普及のためのＰＲを期待している。
・緩和に付いて何も知りませんでした。もっといろいろと知りたいと思いました
・新聞、テレビなどで特集をくんでもらい、一般の人々に理解しやすく広めてほしい。
・がん＝死のイメージがあり、死に至るまでの苦痛を考えるととてもこわい。緩和ケアがどういったものかわからないけど安心できる治療につながるのだろうか。もっと内容を知らせて行って下さい。
・患者の苦しみを少しでも和らげてあげたいと思う気持は誰れも願っている事と思います。
・病院のホスピスにはコネクションがないと入れないと聞きました。平等に権利が与えられる様にして欲しいと思います。
・どんな場合でも都会は病院も多く、恵まれている面が多いと思う。地方では病院も施設も遠方まで出向くということが多いと思う。又親族の介護は家族がするのが常識という思いがまだまだ強い。たくさんの人に緩和ケアの事を知ってもらうことが大切なのではと思います。
・もっと広く深く内容を広めて欲しい。どんな点が良くて、問題点、改善点はあるのか、現在の状況はどうなのか…わからないので。今回のアンケートで興味を持ちました。

・がんは、２人に１人はかかる病気だと新聞で読んだことがありますが、実際には、家族や周囲にがん患者がいるような場合以外には、そのかかる痛みや精神的、経済的負担、苦しみ等理解されるのが難しいところがあると思います。○○氏や○○氏のようなマスコミの顔がその体験を語る姿には関心をひきつけられます。
・日本の医療体制を見直す必要がある現在、何故緩和ケア事業の「オレンジバルーンプロジェクト」が特出するのか理解できない。天下り団体を増す為のプロジェクトですか？
・がんばって下さい。
・がんは誰もが経験する可能性のある、とても大変な病気なので、心の痛みも含めてケアを受けられる事はとても心強い事だと思います。ぜひ活発な活動をお願い致します。
・緩和ケアは自宅よりずい分遠くの病院に行かないと受けられないというのではなく、通院する病院だったり近くの施設でうけられることが望ましいと思います
・心のケアを期待します。
・緩和ケアが普及することがよいことであると言えるほど理解はしていないが、選択支の１つとして、多くの方がふたんなく取り入れることができるようになると良いと思います。
・このアンケートの意味がわからない。もっと他に金の使い方があると思う。
・事業についての普及、啓もう不足で不明な点多し
・緩和ケア、オレンジバルーンプロジェクト等の言葉を広く知ってもらう必要があるのではないかと思います
・私もほとんど緩和ケアの事は知らない事の方が多いので、もっと普及してほしいと思います。
・普及拡大を願います
・いたくて、いたくて、くるしんでいる人がいるとききました。もし私だったら早くナントカしてもらいたいと思います。（きたない字でゴメンナサイ）。本人だけではなく、身内の人がかわいそうと思う。
・新聞やインターネット・シンポジウム等では興味や感心のある人しか情報を得ようとしないのでＴＶ（特にゴールデンタイム）で実際にガンで緩和ケアを受けた人・受けてる人・ガンの方（特に芸能人）に出演してもらい、生の声を聞いて、良い面や悪い面、又改善面や課題面等もかくす事なく知らせていく事で少しでも多くの老若男女に知ってもらえるのではないかと思います。言葉だけでも知っているけどいざ自分の身近な所に来た時に何らかの対応ができるのでは？と思います。
・「オレンジバルーンプロジェクト」を今まで知らず申し訳なく思います。私を含めて多くの人に緩和ケアの正しい知識を普及させて欲しいです
・「がん」の痛みを解消するために尽力していただきたいと思います
・患者自身もそうだが、医療の立場にいる人達が理解すべきだと体験的に思う。痛みや恐れを甘え、とか我ままとしかみていない。私は○○北部に住んでいるが、緩和ケアを受けるためには都内まで行く必要があるのかな、と考えていた。地方でも安心して受けられるようがんばって欲しい
・自分は今、その団体がある事に初めてわかりました。
・少しでもがんが無くなって欲しいし、がんを１００％「治る」って言えるようにガンバって欲しい。
・緩和ケアという言葉を初めて目にしました。広くみんなに知ってもらいたいと思いました。
・「オレンジバルーンプロジェクト」については全く無知なので、これから覚えたいです。
・問７はいずれもなってないのでわからないです
・この言葉を若者でも知っている、どんなことをしているのかなどの内容も分かるようにしていく

ことで安心して病院に行けると思いました。
・なんで私が選ばれたのかがガテンがいきません。私はこれについては何も分りません
・ガン患者やその家族の為に広く宣伝して下さい
・もっと多くの人が知るように、テレビ等で宣伝して下さい
・痛みや不安感から日常生活に支障をきたし、ささえる家族もご苦労なさっているのをテレビで見ました。見近にガン患者がいないため緩和ケアについて日常の会話に出てきた事もありません。私はテレビで紹介していただければ勉強したいと思います
・あまり名前を聞く事がありません。医療機関などにポスターを貼付けするなど人の目に付く様にしてほしい。
・第一線を退ぞいた６０才以上の男の方も女の方でもお元気な方で人様のお役に立ちたいと思っておみえになる方々が各地域で少しでも多く教育を受けてボランティアーをして下さったら嬉しいと思います。
・都会だけでなく、地方にも力を入れて下さい。こういうプロジェクトがある事を全く知りませんでした。
・公的なキャンペーンなどを期待します。
・医師は患者さんに対して、今後病気の治療方針がきまた時には、緩和ケアについてわかりやすく、明確に説明してほしいですね。がん告知された時は、手術後から緩和ケアと平行して治療をしてもらいたいと思います。
・病気が直る見込みがあるなら緩和ケアみいいと思うが、見込みが無いのなら、自分なら安楽死を希望する
・緩和ケアの事がいまひとつよくわかっていませんが、主人が死をむかえるまで、あまり苦しまずにしずかに逝ったことは、ありがたいと思いました。前もってお願いをしておきましたので…半年というみじかい？期間でありましたが…私もあの様にと願って居ります…が
・未だ一般的に余り知られていないと思うので、ＴＶドラマ化するなどもっと露出度を上げた方がいいのではないでしょうか？勉強不足でしたのでこれを機会に少し情報収集してみます。
・緩和ケアは主人がガン末期の時知ったのですが、本人が家へ帰って床（たたみ）の上で死を迎えたいと言った時、こちらのケアの方々にお世話に成り、私も心強く感じました。しかしながら私の心の準備がなかったので、死後少し苦しかったのは―早目に自分の（家族）のケアが必要大と思い知らされましたので。早くからケアを受けることを進めるべきと思います
・だれもが受けられると良いです
・「緩和ケア」一般市民の多くは認識不足であると思う。勿論私は「はじめて」です。
・自分も知らなかったように、多くの人が知らないと思います。もっともっと世間に知らせて下さい。
・近い将来自分も体験すると思いますので緩和ケアの充実を希望します。無駄な延命治療ではなく自分の意志で病気と向きあいたい。
・緩和ケアの番組をテレビでみました。もし自分がガンになったら、と考えるととても必要なことだと思います。もっとマスコミを通じて、世間にひろがればいいと思います。
・地域によるケア・医療の質の差がなくなる様望みます。
・広く広報してほしい。
・「緩和ケア」を初めて知りました。医療的なこと以外に心のケアは特に大切だと思います。一緒にがんばれる人がいることで、生き方が変わると思います。死ぬときに、たくさんの人に感謝しながら死ねればいいなあと私自身思います

・知っている人はまだまだ少ないと思うので、もっと積極的にアピールして、まずは多くの人たちに知ってもらう事が大事だと思う。自分もよく知らない人のうちのひとりである。
・このたびアンケートが届いて、緩和ケアというコトバを知りましたが、このことがガン医療の中で、どのような役割をになうのかわからないので、その具体的な内容について知りたいので、早急に、ＴＶや新聞あるいは、自治体の広報誌等を活用してＰＲしてもらいたいものです。
・患者の心の心配、不安ごとをとりのぞくアドバイスがほしい。外出してはだめなのかとか、食事は何を摂取すると予防によいとか、がんにならない生活スタイルとは？など、様々な視点で、広報してほしい。
・治らない段階に来たら、痛みだけをとり、静かに有意義な時間を過ごすのがいいと思います。
・もう少し身近な活動があっても良いと思います。私の父は３年前に胃・肝臓がんにて他界しました。その時はモルヒネを使用し、病院に行っても、いつもうっつら状態でした。最後にもう少し充実した日々を送りたかったと思います。緩和ケアを受けようにも近場ではなく金銭的負担もあり、出来ない状態でした。もう少し、「オレンジバルーンプロジェクト」を病院等でも取り上げて欲しいです。最愛の人と少しでも多く一緒にいられるように…お願い致します。
・「オレンジバルーンプロジェクト」という活動自体聞いたことがない。もっと浸透させるべきだと思う。
・オレンジバルーンプロジェクトという言葉を初て聞きました。もっと身近な言葉になるように、普及させてください
・がんばって下さい。
・ガンで苦しんでいる患者さんが少しでも充実した日々を過ごす事が出来るよう願います
・初めて聞く言葉でした。もっと、もっと広めてわかりやすい情報を身近に知らせてほしい。
・今回のアンケートで初めて知りました。もっと認知を高めるにはテレビなどのメディアに多く取り上げられるべきだと思います。がんの不安がある人達や病にかかっている人や、その身内などは興味があり、ネットなどでも情報を得ようとするでしょうが、それ以外は自らの意志では知ろうとしないのではないかと思いました。
・個人的には事業を知らない人の方が多いように思う。もっと様々なメディアを活用して世の中に認知されるようにすべき。
・ＰＲなされてない様に感じます。その言葉さえ知りません。私自身いつ「がん」になるかわかりませんので不安がいっぱいです。☆このアンケート返信するのにずいぶん悩みました。本当にまともな所なのだろうか―と。台帳より選出されたという事ですが―。ちょっと不安でなっとく出来てませんが―。思い切って返信してます。もう、ハガキなどは出されない様に願います。
・がんの治療の薬品とが良くわからない。ケーアに付いては自治体などで、勉強の機会を是非もうけてほしいです
・もっと一般の人々がこの事業の事を知る様に、又、この事業を利用できる様にして下さい。
・都会であろうが田舎であろうと、住んでいる所がちがっていても同じ緩和ケアが受けられて当り前、と言う事になる様に呉々も願います。又少しでも気持良く日々が過せるそんな最後が迎えられるといいと思います
・今回のご縁がなければ、「緩和ケア」というものを知らないままでした。もっと身近に広まる活動を期待します。
・もし自分や家族がその場面に当面したとき積極的に医療関係者から情報提供してほしいです
・オレンジバルーンプロジェクトは、はじめて聞いた言葉です。メディア等で、もっととりあつかって、たくさんの人に知られるとよいですね。

・私はオレンジバルーン～。を知らなかったので、もっと宣伝して全国民に知ってほしい。この世からがんという病をなくしてほしい。がんの痛みも１００％とれて、副作用がない様な薬を期待します。がんの早期発見ができる様になる事を期待します。宜しくお願いします。
・もっとＴＶや広告を！！講習会などを開いて下さい。
・「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉をこの調査表を見て初めて知りました。こういった良い取り組みをもっと周知して頂き、誰れでも知っている言葉（内容も）にして頂きたいと思います。
・全国的に足期的に全メディアを使い、特集を組み継続していくこと。又、市町村単位で啓発活動を（市広報紙等で）行うこと
・期待出来るのは病院です
・「緩和ケア」という言葉を初めて聞いたので、マスコミ（新聞、テレビ）などを使って、活動内容を紹介してもらいたい
・今まで“緩和ケア”とゆう言葉すら知りませんでした。今回をきっかけにネットを通じてがんに対する興味を持ち、もっとたくさん知りたいと思うようになったので、身近で（ＴＶ等）いろいろな情報をもっと知りたいなと思いました。
・本人の意志によって受ける事が出来るならとても本人にとってありがたい事です
・どの病院に入っても受ける事が出来る事を期待します
・ＴＶ等で特集番組など、もっと放映してもらいたい
・“がん”という病気に対しての不安や対処法を自分の事となった時に、どこの聞けば良いのか、どこに行けば受けられるのか、という事が情報として身近にあってほしいと思います。身体だけではなく、心の痛みや不安をケアする事の普及を大切に考えて下さい
・「緩和ケア」を普及させるのであれば、このアンケートの封筒に緩和ケアに関するパンフレットを入れるなど、効率の良い方法をとってほしい。
・がん患者の肉体的、精神的苦痛を少しでも軽く出来る事業であって欲しい。又、金銭面でも、お金持ちしか受けられない様なら意味がない。皆が平等に気楽に受けられるものであって欲しい
・この活動は当事業者や、その周りになってから分かる様な気がします。もっと健常者で、Ｈ／Ｐに行かなくても普段の生活で、「あー、こういう活動もあるんだ」と分かる様に、色んな所に通知活動をされていかれるといいと思います。
・緩和ケアアンケートを受け取り、ガンが発見されてもおかしくない年齢だと改めて思いました。年齢が増す程人生には楽しみがなくなり不安は増していきます。健康面だけでも病気になっても不安を感じず、精神的に楽にできれば幸せな事だと思いました
・実際現時点でどの様な活動をしているのかわかりませんが、自身が「がん」と診断された時、自分だけで悩まずにすむ様、（家族にも相談するのは難しいと思うので）相談窓口を気軽に（←？）利用できる様に情報を広く伝えてほしい。主治医の考えによって知らなかった、なんて事にならない様に願います。
・今後はこのプロジェクトについての情報収集に意識してゆきます
・私の知らないことがたくさんあるようです。生命について、一人一人が大切に考え直すことのできるケアだと思います。多くの人に知ってもらうことは大切ですね
・まったく知りませんでした
・私の住んでいる所は田舎なので、都市部からするとこういう情報は遅れていると思います。ガン患者は地域は関係なく居るでしょうから、これからどんどん情報が広がってくれて患者さんの役に立てたらよいかと思います。

・「緩和ケア」という言葉をそもそも知らなかったので、今回の質問の中にも、どこの項目にも考えがあてはまらないものがいくつもあった。特に、問７は知識がないので、ほとんどわからない。もっと、言葉を広く普及させること、ガン患者やその家族だけでなく、多くの人に周知させる必要性があると思った。私自身、もっと知りたいと思った。
・身体と心（本人と家族）のフォローが今の日本ではまだまだ不十分だと思う。がんのみならず、もっといろいろな患者さんに対しても金銭も含め、病院に払う医療費以外のフォローも考えてほしい。
・がんなどの病での終末期医療の手段として、痛みを緩和することはとても大切であると思っています。体や心の痛みを少しでも少なくする事ができれば、病気に対する治療にも良い結果が期待できるのではないかと考えております。
・新情報がまとまりましたら一般市民に何らかの方法で提供して下さい。
・緩和ケアについて、以前たまたまほんの少し知る機会がありましたが、アンケートの内容だけでも『…そうなの？』という部分がありました。「オレンジバルーンプロジェクト」についてもっと詳しい情報を広く一般の人間が知る事の出来る取組みを期待します。
・緩和ケアのＰ．Ｒ活動を広くして下さい。緩和ケアの内容が分りずらい（質問７件オ～ケ）又、費用の件？
・患者本人だけでなく、その家族や周囲の人々の心痛等を柔らげるためのケアも同時に必要だと思います。特に本人に告知しない場合は、周囲の方々の精神的負担は図り知れないものがあると思います。
・三月義兄が亡くなりました。病院で緩和ケアを受け安らかに亡くなりました。近くにこの様な病院を探しておかねばと考えています。主人が前立線ガンの手術をうけ４年になり元気ですが年を考えるにつけ、何時も心がけねばならない事と痛感致します。
・オレンジバルーンプロジェクトそのものを全く知らないので、緩和ケアを普及するための事業とは思われない。もっと一般市民にアピールすべきだと思う。（経費を出来るだけかけない様に！！）
・地域住民に広く、わかる様に、新聞等、色々の面でアピールして載ければ幸いと思います
・広く、知識をわかりやすい言語で伝えて、誰もが正しい情報をもつようになることを願います。（「どう生きるか」は「どう死ぬか」と同じ意味であると思う。痛み苦しみの中で死を見送る家族は、本人同様の苦しみをもつと思う。）
・夫に付添って毎週検査と抗癌剤投与の為に病院へ通っていますが、必らず新らしく癌であるか否かの検査を受けに来られる人が数名居られ癌患者は日毎に増えているように感じられます。夫は昨年１１月あらゆる検査を受けてｓｔａｇｅＮの末期膵臓癌で手術不能の告知を受けました。癌が出来た原因は不明とのことですが、自分が注意をして予防できるのであれば、広くその予防方法を一般市民に判かりやすくいろいろな方法で広めていただきたいと思います。まずは癌患者を作らないことだと思います。
・オレンジバルーンプロジェクト自体がわからないので申し訳けありませんがお答えすることができません。
・「緩和ケア」について、ほとんど知らないので、周知をすべきだと思います
・幸いにもガンの経験がないので良く答えることが出来ませんでした。もしその時にどう思うかで○をつけさせていただきました。
・最近まわりの人でガンになる人がふえてきています。私もいつなるかわかりません。妹がなったときは動ようし悩みました。今は、おばがこれから治りょうをはじめようとしています。心身の

痛みをとりのぞけるものがあるのならおしえてほしいですので、情報をもっとくわしくもっと身近に提供していただければと思います。聞きやすい話しやすい環境もおねがいします。

・「がん対策基本法」聞いた事もなくなんのことですか？国が行う事は何ごとについても、国民のために思って実践されているのかよくわからない？下もじもの事をほんとうに考えているのか？信用出来ない。一般市民々と言っているが表面だけの様で中身が無いように思われる。[「緩和ケア」は何のために行うのか] ただ国が行うからやるのでは意味がないと考える。“がん～入院費等こまっている人々は多い緩和ケア―以前の問題？”

・緩和ケアや「オレンジバルーンプロジェクト」がどういったものなのかが、いまだにちゃんと理解できないので、まずはそれぞれがどういうものなのかが国民にしんとうする必要があると思う。

・私自身、医療事務の仕事をしていた経験のある者でも、緩和ケアに関する情報はほとんど持っていないのが現状です。もっと世間に広く知られるような広報活動が必要だと思いますし、知ることで少しでもがん患者とその家族の身体と心両方で楽になれると思います。

・自分の事を書かせていただきます。私５９才夫６１才年金生活者です。認知症の介護５の９４才の姑を自宅介護しております。姑の状態からでは受け入れ施設が少なくあっても経済的に負担が大きく自宅介護を決めております。年金生活者にとって選択出来る道はわずかです。もし夫が私がガンになったら緩和ケアを望みます。安心して選択出来きるよう道を作っていただきたいです

・自分がんになった場合は、ＱＯＬにたよっていきたいし、もし生命が短かくなってもよいと思うし、家族も助かると思います

・国民一人一人に特に中高年令者対象に広く深く浸透するように地方公共団体の広報、ＴＶ、新聞、雑誌等に情報提供を望み度い。私自身結構、各種の情報に興味を持ち目を通すとかＴＶ等には注意を払っていましたがオレンジバルーンプロジェクトを見逃していた。

・具体的知識なく答えられません

・望めば誰でも手厚い緩和ケアが受けられる制度に育つ事を期待します。

・住んでいる地域によって情報や協力がかたよらない事を願います。

・患者が求めている様なら、積極的に行なってほしいです

・緩和ケア、オレンジバルーンプロジェクトの言葉をもっと多くの人に知ってもらう事が大切、多くの人が利用できるように認知度をまず高める事を期待したい。

・日本人の２人に１人ががんにかかってしまう時代です。おだやかでやすらかな終末期を過せるように、緩和ケアを行える施設（ホスピス、緩和ケア病棟）がもっともっと増えることを期待します。がんにかかってから、知るのではなく健康なうちから知っておきたい。そして、上手に選択していきたい。

・その「ＮＰＯ法人」そのものが、本当に存在し、サギ的な活動でなく本来の目的に使用されるかが不安です。私、個人としましては「ＮＰＯ」という文字がついていると、逆に「あやしい団体」という認識があります。

・緩和ケアとは事例を含めて良い点とお互いに受け入れやすい環境づくりなど知ることができるよう普及に努力してほしいと思います。

・問７は、「緩和ケア」についてよく知らないので、正しいと思うというよりそうあってほしいという意味あいでつけました。上記のプレジェクトは、病気そのものは治ゆの方向に向かわなくても、充実した生活が、送れるのであればすばらしいことだと思う。ぜひ、世間に広めて頂きたい。（これはがん患者のみのプロジェクトなのでしょうか…？）

・分かり易い形でのＰＲ活動を望む

・私の親戚や知人のかなりのひとが自身の考えも言えないまゝ病院のするまゝにまかせて、苦しん

で苦しんで小さくなって死んで行きました。以前苦しんでいる場に居合せて、モルヒネの打つ時間間隔の為、苦しんでいた姿は今も忘れられません。がんの種類や個人差もあると思いますが、回復治療とどちらかを選ぶではなく、両立させる事はできないだろうかと考えるのですが、良くわかりませんが、がんの治療に緩和ケアをもっと近づかさせて、取り入れて、人がなくなるまでの間を永く楽くに過せるかを在宅等を取り入れて行く治療方法に重点が置かれる様に、この事業の期待したいと思います。私の関係者が病院がおりますが患者さんは意識を下げられただけで、なくなっていくそうです。

・比較的若い世代、特に働きざかりな世代への認知が深められることを期待します。まずは知ること、知らないという人を減らすことが先決だと思う。知る人がいれば知らせることができる、広めることができる。そうすることで緩和ケアを受けようとする人たち、そして現時点で受けている人たちの何か助けになると思います。

・私は緩和ケアについてあまり理解出来ていないのでもっとわかりやすく情報が伝わるといいと思った

・（祖母の話ですが）在宅でのホスピスケアを診察先の病院や担当医から勧められ（→本当は本人の意志が最重要視される気がするのですが…。）ましたが、正直、本人、家族はとまどい、不安になる事が多く「病院に入院して安心したい」気持ちが強くあった事を覚えています。慣れ親しんだ家で看取られたい看取りたいという理想と、いくら地域の内でケアに対するチームが組まれていたとしても、本当に細かく教えて頂いたり説明してもらえないと、分からない事だらけで、「緩和ケア」以前に不安になる事が多い気がします。今後、きっと在宅においてのケアが中心となってくると思うのですが、もっと対象になる方に分かりやすく、不安になる要素を減らせるような支援をして頂けるとありがたい気がします。よく分からない文でスミマセン！！

・安楽死も認めてほしい。

・患者本人が痛みをやわらげ緩和出来るのならそれは賛成ですが費用の面で保健が摘用するのかが心配です。私も身内でがんで亡くしているので苦痛を緩げるのは一番だと思います

・何か期待する事があれば？期待するも何も〔オレンジバルーンプロジェクト〕なるものの存在すら今回始めて目に～自身が現在週３回の（ラウンド）をこなし、７０、８０代の方達との交流もあり、それぞれに病いを抱え乍らも、元気な姿に接し正直（がん）に対する知識も漠然としたもので今回の（アンケート）機会を得た事で改めて真摯に向き合わざるを得ないという事を痛感しました。

・よろしくお願いします。期待してます。

・まずは「オレンジバルーンプロジェクト」の活動について調べてみます

・詳しくわかりません。強勉不足です。もっと色々な事を知りたいです

・はじめて聞く情報だったので、アンケートにも答えにくかった。本当に良いものであるのなら、年齢に関係なく、もっと分かりやすく伝えるべきだと思う。何かが分からないと期待もできない。

・身近に患者や緩和ケアを受けた人がいない限り知る人も少ないと思います。メディアなどで、もっと取り上げていただけるとありがたいです。

・医療機関で、緩和ケアについて、必要な人には説明する。テレビＣＭで、又はラジオ、新聞広告で、広く一般の人に解りやすく広報する。必要な人にはなるべく低料金で提供する。

・多いに期待します

・「緩和ケア」初めて「目」にしました。身近な人ががんにかかった人は、知っているのかもしれませんが、広く知られるように活動して下さい。又、「緩和ケア」名前が良くないんじゃない！

・もっとくわしく緩和ケアについて知りたいと思う。問７も正解がわからず今後不安

・もっと広報活動をして欲しい。医療機関において麻薬の使用を積極的に行って欲しい。自分の父親のガン治療を見て感じました。さらに自分がガンと診断され、回復の見込みがない場合は、延命治療は断り、緩和ケアを希望する。
・企業内（職場内）での指導がおこなわれるように各企業（職場）に指導・はたらきかけをおこなう。
・病院内などの広告、それ以外の場所でも多くの人の目につくものがあり、言葉の意味を一般の人にも知ってもらう事からだと思います。
・専門看護師の育成にもっと力を入れて欲しい。現場では専門看護師が育つまでには時間とお金がかかり、個人ではなかなかできない。認定看護師でなくてはわからないことが沢山あります。認定看護師により啓発した医療現場や地域の人々に情報を知らせて欲しい。そして癌で苦しむ方々を早く精神的に楽にさせてほしい
・緩和ケアはがんの終末期に行うもの、というイメージがまだまだあるので、新聞やテレビなどのメディアを通して、患者のＱＯＬを向上させ、病気を改善するものであるということを啓発していってもらいたい。また、緩和ケアが広く一般に行なわれ、「がん＝痛み」というイメージが払拭されることを期待している。
・「オレンジバルーンプロジェクト」というもの自体があまり知られていないと思うので、一層のＰＲ活動などで、まずみんなに知ってもらう事から始めるのが良いと思う
・緩和ケア自体が何なのか？５ＷＩＨに基づいた説明が必要。また医療との連けいはどうか？何なのか全く知識がない（問７はあるべき姿）を書いた。本当に必要なら義務教育のカリキュラムに組み込むべき。食育との関連も大きく広い目で見ればありそう。がんの予防としての。
・患者の療養生活の質の向上の為医療従業者のみならず、以外の色々な人々の協力が得られますように期待します
・いいもわるいも、もっと広く知ってもらう必要があると思う。がんと診断されてからではなく、世の中の常識として、学び知っておく、考えておく必要があると思う。将来がんになる確立からいっても、堂々と世の中にアピールすべき事だと断言できる。
・身体と心は一本であることに対する配慮が医療の現場では足りないことが多すぎると考えています。死についても積極的に勉強することで、いたずらに死を恐怖と捉えなくなり、結果身心に安定をもたらすのではないかと思います。心が安定し平和であれば、身体状況にも必ず好影響を及ぼすはずです。
・ひとりひとりが、人としてより苦痛を伴わない、その人らしく日々を送ることができるための選択肢があることを暮らしの中で自然に知っていく機会を地道に作ってください。新聞とＴＶの特集は、私のまわりの人にも注目すると思います。
・低所得の方も緩和ケアを受けられるような体制を作ってほしいです
・「緩和ケア」について何も知らないので回答しにくい点があった。アンケートの質問項目が「緩和ケア」が世間に周知されていないことを導き出そうとしている意図があるように思えた。「緩和ケア」に対する情報発信が足りないように思う。以上
・緩和ケアについて具体的に理解できるような広報活動（ＴＶなど）を行って欲しい。又、地域においても勉強会やセミナーなどあると良いと思います。言葉は知っていても具体的なことはわからないことが多いと思います。
・まったく知りませんでした。テレビや雑誌などもっと情報をして下さい。
・積極的にすすめて下さい
・正しい理解を深めるＰＲ、教育を強化してほしい

・がんばって下さい
・もっと宣伝して誰もがわかるようになってほしい。ネットも良いと思うが高令者になると一部の人しか見ていないと思う。テレビ・新聞・ポスターなどが見やすいと思います。とにかく、情報を知る機会が当人や家族は一番ほしいと思います
・父が終末期、自宅で過ごしさいごを自宅でむかえました。さいわい痛みはさいご以外はたえられる（たえた）程で本人の意志により、モルヒネ等は使用せずおえました。家族で支えあい、あたたかい時をすごしましたが、本人の死への恐怖は相当のものだったと思います。その部分、すこしだけでも恐怖がやわらげたらまた自宅で過ごす上でのこわさが軽くなるとよいです
・緩和ケアという言葉などは知っていましたが「オレンジ…」は今回のアンケートで初めて知りました
・緩和ケアというものを知らない人が多いと思うので頑張ってください
・私の友人ががんで二人亡くなりました。最後まで様子を見ていたので、大変死というものは残こくだと思いましたが、二人共たくましく病気と戦っていらっしゃいました。私にはそんな強さはありません。そのような素晴らしい活動をされている組織があることに安心感を覚えます。是非心のケアに力を入れて下さい
・もっと広報活動を積極的に行い、緩和ケアやホスピスなどのことを詳しくしる機会を作ってほしい。
・リボンマグネットの様にチャリティーで一般人が参加できるグッズなどあればぜひ参加したいです。
・近くに大きな病院がありますが、緩和ケアと言うことは最近テレビで知りました。患者さん１人１人に対して身近かなものであってほしいです
・緩和ケア＝がんの治療にかかわる事というのがわかりにくい。その道のプロの方、実際に治療されている方にとっては「ガン」にかかわる言葉なのがあたりまえかもしれないが、一般に広く知らしめようとするなら主語が必要だと思う
・「オレンジバルーンプロジェクト」を知らないのでもっと皆に知られるようにテレビや新聞で教えて欲しいと思います
・まわりにがん患者がいないので本音のところよくわかりませんが、いろんな方面にもっともっと伝えていって自分の事として考えていけるような社会になるといいと思います
・緩和ケアーを希望する人が、誰でも平等に受けられるような公的支援制度を設けるよう、行政に提案してゆく（今年、友人がガンで亡くなった。彼女は早くから緩和ケアーを望んでいたが費用の点で諦めざるを得ず、苦しみながら亡くなったのを目の当たりにした）
・世に広めてほしい。
・県、市の公協の病院などで聞けると良いと思います
・以前と違ってがんを患っても隠す人が少なくなっていると思う。がんを認め、自分に出来る事、得られる情報、他の人の意見など、様々考え、前向きな人が増えた。オレンジバルーンプロジェクトも、ますます皆に必要とされる事業だと思う。がんと共に生きる為にも全ての皆に認知される組織になって欲しいと思います
・最近は、横文字が多く、意味がわからないです。オレンジバルーン…についてわかる人はいるのでしょうか？
・もっと広く知られる様に活動をしてほしい。分かりやすい活動と、多くの施設の開設
・全く知らなかったので、ＴＶなどでの告知で、広く知れわたると良いと思います。
・広く万人にわかりやすく認知される様、ＰＲ活動を行って欲しい。緩和ケアの技術等、それに従

事する人々の向上を願う。
・このアンケートが届いたことで緩和ケア・オレンジバルーンプロジェクトというのを初めて知りました。
・あまりオピオイドにたよらない緩和ケアが望ましいと思います。針灸など東洋医学も含めた治療をもっと推進すべきかと
・緩和ケア自体の意味が解らないので、資問に答えるのは少しむずかしい。
・ガンの方の心の痛みが少しでも和らげれば良いと思う
・「緩和ケア」という言葉を知らなかったので、テレビやインターネットなどでより情報を流してもらいたいです。
・両親をがんで亡くしています。最後はとてもつらい別れになりました。人として人間らしく、最後を迎える為に、是非医療関係者にも緩和ケアを患者さんに進めるような診療体制ができれば良くなりそうな気がします。まだまだ、お医者さんは、治療を進める事を優先して、なかなか緩和ケアを進めていただけないような気がします。患者に選択できるような、治療体制を切に希望します。
・そういった事業があるということを知りませんでした。「オレンジバルーンプロジェクト」という名前だけでは、聞いても何をしているのかも分からないと思います。身近な場所（駅、街中など）でポスターなども目にする機会があれば少しずつ普及するのではないかと思います。
・経済的に裕福な階級の人達だけが受けられるというのではないサービス。誰もが受けられる権利であってほしいです。
・初めて聞く言葉です。もっとＴＶや広報、雑誌などでアピールしてもいいのではないかと思います。（老人はインターネットを使わない方が多いので多くの方に知ってもらう為にも）
・はじめて聞く言葉であり、内容も詳しく知らないため、広報に力を入れてほしい。
・緩和ケアをどんどん広げていってほしいです。
・情報の徹底化
・緩和ケアにたずさわる人は、本当に心から人の気持ちを考えられる人だけについてほしい。資格のみが重要ではないと思う。自分だったら心からやさしい人にしかケアしてほしくない。
・緩和ケアによって患者さんが救われる事を祈って居ります。
・限られたＨＰのみでなく、幅広い分野でだれでもが知っている事ができるようにしてほしいです。医学は、医者だけでなく、心のケア、薬も抗癌剤にたよるのではなくもっと広い視野（代替医療）の分野も医師が研究し、認められる事を願います。そういった事で心の安心、信頼を得てこそ、このプロジェクトも生かせるのではないでしょうか
・もっとこの事業を国民の多数に知らせる必要がある。あまり知られていないのでは？
・ガンという病気は健康な人にとっては「自分はならないだろう」といった類の考えを抱いてしまうような病気で、非常に感心を持ちにくいときいたこともあります。だから、緩和ケアというと様々な偏見を抱かれている方も多いので、その考えを訂正してもらいたいのが１つ。２つ目は、医療用語を用いないで一般にこの緩和ケアというものを伝えてもらえると、とっつきもよく、関心も持ちやすい（物事はいくらでも難しくできる）ので、一般に浸透しやすいと思います。そしてＯｒａｎｇｅｂａｌｌｏｏｎＰｒｏｊｅｃｔには一般人と医療人のかけはしになって頂きたいと考えます。拙文ですみませんでした。
・もっと良く解る様にしてほしい
・緩和ケアとかオレンジバルーンプロジェクトの言話を知らないのですみません
・多くの人が参加してほしいです。

・普及を望む
・私は幸せにもガンに直面することなく来ました。これから先のことは解りませんがこのアンケートを機に自分のこと大事に生きなければと思っています。緩和ケアプロジェクトの方々の一層の御尽力をお願いいたします
・もっともっと人々に普及するように知らせていってほしい。いろいろな場面で目に出きるようにアピールしてほしい。活動を期待しています。
・わかり易く、家族や患者本人の不安を具体的に一般の方にも広めてほしい。「緩和」ということば自体わかり辛い気がします
・病める人、どうする事も出来ない。苦しみ、なやみ今後よろしくお願い致します
・情報をすんなり受け入れる媒体は人によって異なると思います。聞く、見るの両面からのアピールが必要と思います
・私が無知のせいもあるのですが、その様な事業があることすら知らなかったので、そんな人達も沢山いると思うのでもっとわかるような取り組みをしてもらいたい
・だれでも緩和ケアを受けれるようにその為にはだれでも選択の１つとて考えられるようにわかりやすく情報を流してほしい。
・知らない人の方が多いと思うので情報が広まりみんなが当たり前のように知ることが大事でとても必要でいい事業だと思います。
・一人でも多くの人々に広く知ってもらえる事を願って、今後の皆様のご活躍を期待しております。頑張って下さい。
・気軽に情報が得られる様になるとよい
・心のケアをふくめて、多くの方々に知ってもらい、受ける方も安心してまかせられる事業にしてもらいたい。ご苦労様です。ありがとうございました。
・オレンジバルーンプロジェクトについて余りＰＲがなされていないのではないか。種々の手段によりＰＲすべき。
・私には弟がいて水ぞうガンで半年ももちませんでしたが生活がはなれていた為一部しか見えませんでした。ホスピスがありましたが聞くだけであって入院できませんでした。もっと情報が身近かにあり知識があったらとくやみます。
・実際に自分の祖父母が肝ガンで痛そうにしているのを目のあたりにしてきていますので、もっと一般に普及して痛みのない治療、終末をむかえられる方が増えるとよいと思います。もし自分が当事者になった場合や家族がガンになった場合、諸事情により出来な場合以外は「緩和ケア」希望したいと思っています。
・もっと広く人々にアピールしてほしい。
・名前が横文字だと、高齢者の方々がわかりにくいと思いますが…。簡単な事業名を考えなおすことから…を期待したいです。
・がんばって下さい。
・もっと今まで以上に普及活動を頑張って欲しい。
・返信遅れてすみません。これからもがんに苦しむ方々のため、がんばって下さい。
・若い世代の人への普及もするべき。ＴＶＣＭで言葉を広めるとか、新聞でとりあげるとか。
・すばらしい企画だと思います。２４才の時母を胃癌で亡くしました。その時にこういう企画があったらと…これから益々、日進月歩で癌患者にとって残された人生を納得して（こわがらず）終えられるのではないでしょうか？期待しております
・がんに関わらず、疾病に対して緩和ケアは必要だと思います。私はすべての病気の予防に取組む

ことを毎日の仕事の中で感じており、実行に向けての支援をしています。常に今さらでなく今からでも遅くないと…

・緩和ケアは本人だけの希望ですか？家族か本人に告知（知らせない時）は、家族に対しての精神的ケア…はあるのでしょうか？

・この用紙がお送られるまでは、私の家族にガンになったのが義父だけであまりガンの痛みで苦しんでいるのを見た事がありません（同居でしたが）。周りの人には苦しんでいる人を何人か見てきましたが、本当に自分の身にかかっていないので関心もなく本当に人事でしたが、ガンになっている人もそうでない人も、もっと緩和ケアに取り組んで勉強をして一人でも苦しんでいる人の相談になれたり少しでも役に立てるようになれたら良いと思います

・事業の発展を期待します

・私の住む市では難しい癌の場合対応できず、車で１時間半の○○まで行かなくてはなりません。○○では緩和ケア病棟で数人の知人、友人が手厚い看護のもと家族に見とられて亡くなっていきました。緩和ケアの重要性は痛感していますが、それが地元で家族友人がしょっちゅう見舞いに行ける状況で為されるべきだと思います。心のケアで一番大切なのは家族の情愛です。緩和ケアにおける地域差をなくすことができたらと願います。医療従事者の意識も大都市と僻地ではどうも差があるようで、地域でももっと緩和ケアの勉強会をして頂いたら、医師、看護士の患者さんへの対応、心遣いも変わってくるのではないでしょうか。末期癌患者のＱＯＬを考慮してくれる地元の病院があれば、私は迷わず我が家の近くで生をまっとうしたいと思います

・薬物の適正な処分によるＱＯＬの向上は、ガンに限ったことでないので、普及に向けてがんばって欲しいです。

・今の時点では何ともいえない。そういった経験をしてみないとわかりませんが、知識として色々知りたいです。

・がんになってからよりもなる前の検診などにも力を入れて欲しい。もっと気軽にかんたんに検診を受けれれば…

・心のケアは難しい。当事者が若いほど、悩みは不安が大きくなるから。どんな人でも同じようにケアを受けられる様、制度を充実してほしい。

・多くの患者さんが少しでも苦しみをやわらげるように期待します

・去年母を在宅（訪問看護）で看取った者です。それは母の希望でもありましたが、最期は厳しいものでした。普段は飲み薬・座薬で疼痛をコントロールしていましたが、遺書からかなり我慢していた事が判りました。深夜激痛に見舞われ訪問看護師に連絡を取ったものの、モルヒネは鍵のかかった別所にあるという事で、いつもの倍もの時間、駆け付けにかかりました。医療用麻薬で個々の看者に見合ったコントロールが出来るのは余程修熟した医師で、まだまだ不足していると思います。近年老齢人口の増加で、病院（入院）から在宅療養へと流れが推進されていますが、自宅での介護者不足、訪問診療可能な医師数不足。しかもがんとなると、本人がどこまでその厳しさを知っているかに因って、周囲の勧め方（緩和ケア）にも困難が伴います。“オレンジバルーン”という、一見何の事やら判らない命名も多分そこも含んでの事なのでしょう。緩和ケアの正しい知識普及の為にという趣旨には賛同出来ても、まだ受け皿が整ってない段階での在宅への動きに加速させるものではあってほしくはないです。がんも種類によってはペインコントロールで眠る様に逝ける場合もあれば、そうでない事もあるという事。訪問診療で死亡診断書を書くと１０万円という報酬になるという事。（その都度、最後の危急の際にも病院搬送でなく自宅で看取る事を奨められてたのか…）等の現実の問題点も明確にさせながらの普及啓発事業であって戴きたいと望みます

・御苦労様です。
・がんにより２人の伯母を亡くしました。痛みなども見てきましたが、体だけでなく、不安など心の痛みも相談できればと思いました。家族、親類には言えない事もあったかな？とも思いました。現在、脊髄骨折により、身体障害２級、要介護の主人と２人暮し、痛みにたえ（１日ボルタレン５０㎜２～３個）生活をしております。がんだけでなく、色々な病気の方でもケアが受けられれば幸いと思います。これからもがんばって頂きたいと思います。返信が大変遅くなり申しわけございませんでした。
・経験、知識等がないので、えらそうな事はいえないですが身体の痛みは心の痛みにも直結していて人間的生活に大きな影響があると思う。痛みが和らげると不安がとれ考え方も変わって、いい方向にいくのではないでしょうか…。ただ薬剤の情報（副作用）を詳しく知る必要性があるだろう…。遅くなり大変申し訳ございません
・緩和ケアを望みつつも麻薬の副作用がどの程度か不安がつきまとうものだと思う。間違った認識であるならば、やはり広く情報を提供してもらいたいと思う
・患者さんの受ける心身の痛みは残念ながら本人もしくは経験者しかわからないと思います。自分が経験して感じた事ですが、まず患者さんの緩和ケアはすごく重要な事だと思いますが残念ながら大切な人をガンで亡くした家族の心のケアをする施設があればいいなと思いました。あと緩和ケアを特集したＴＶ番組などあればすごく普及するのが早くなると思います。誰もが知っていると言った物にならなければ何の意味ないと僕は思います。最後に誰も苦しみながら死んでいく家族の姿など見たくないと思います。大変なプロジェクトだと思いますが頑張って下さい。
・「緩和ケア」については、事業内容などをＰＲし、広く国民に周知することが必要であると考える
・医療の知識や、選択は（地方もしくは年齢に対応して）基本的に得ることはむずかしいです。倫理観に立って理想的に行っている活動ならば応援します。ただ、その情報は少なく、私ども地方にいる人間は存在すら知りません。がんに対して厚生労働省の薬に関する認可の遅さや、実働の医療機関との温度差に対しては、認識しております。がんの治療に少しでも良い働きが、この日本の医療の変化、改善に期待します。
・ＱＯＬの向上は、患者にとって必須だと思っています。（私の祖母はがんで亡くなりましたが、当時の治療には“緩和ケア”などなく、末期がんであったにもかかわらが、非常に苦痛をともなったと今でも思っています。）これからも広く一般の方に知ってもらうよう、活動をピーアールしてほしいです。
・緩和ケアが行える病院の数を増やしてほしい
・「緩和ケア」も「オレンジバルーンプロジェクト」も正直、全く知りません。良い事であれば、どんどん広めてもらえばと思います。
・答えに反しますが緩和ケアーを普及させる以前にガンにかからない健康療法をもっと広くの人達に学んでもらえる様にする事が大切であると思う
・病院のベットで最後をむかえるよりも、好きな場所で好きな人達と最期をむかえる事は、とても有意義だと思う。みんなに普及する様にがんばって下さい。期待してます。
・がん＝死というイメージを拭い去ってほしい。
・期日を過ぎてしまい申し訳ありません。
・ピーアールが必要と思う。
・がん患者本人だけではなく、その家族も精神的にも肉体的にも大変になってくると思うので、一緒にケアしてあげて欲しいです。

・もっと広く知られるようにアピールしてほしい。
・返信が遅くなりました。申し訳ありません。アンケートを読みながら、ホスピスに会いに行った友人を思いました。友人はとても苦しんでいました。皆様の活動を期待しております
・緩和ケアが医療側の都合によって選択／非選択されることのないよう期待したい。

Ⅲ　自 由 回 答 一 覧

（シンポジウム調査用）

問２－１　補問１　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）
あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
（○はいくつでも）

「７．その他」の記入内容（４６件）　※重複回答はまとめて記載

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・おじ（3 件）
・おば
・義姉
・義妹、いとこ
・おじ、おば

11 月　9 日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ

・義親（2 件）
・おじ
・おじ、いとこ
・おば
・義弟
・義父
・義姉

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・おば（3 件）
・おじ（2 件）
・おじ、おば

1 月 25 日 東京国際交流館

・おじ（3 件）
・義父（3 件）
・義母（2 件）
・いとこ（母方）
・おおおば
・おじ、おば
・おば
・義姉

2 月 7 日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・おじ（4 件）
・義父（2 件）
・義母（2 件）
・いとこ
・おば
・義母、父
・曾祖母

問３－１　補問１（問３－１で１「言葉を知っていて、その内容も知っている」、２「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に）
「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになられましたか。（○は１つ）

「９．その他」の記入内容（５６件）　※重複回答はまとめて記載

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・本（4 件）
・パンフレット
・医薬品メーカー
・学校、大学
・学校の授業
・雑誌
・仕事上で
・大学での講義
・大学の講義（２００２年）
・大学の講議
・大学の授業
・本、冊子
・本を読んで

11 月　9 日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ

・書籍（5 件）
・本（3 件）
・雑誌（2 件）
・雑誌・本
・病院勤務のため
・父の治療中
・ずいぶん前のように思います。忘れてしまいました。

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・○○市のガンのイベントで　・大学の研究室で　・大学
・センモン書　・まんが
・働いていないが看ゴ師であるので関心がある　・緩和相談センターの印刷物で

1 月 25 日 東京国際交流館

・学校の授業（2 件）　・学校（大学）　・仕事を通して
・大学の講義（2 件）　・看護学校　・職場（製薬）
・本（2 件）　・雑誌、がんレポート　・病院、本
・がん情報誌など　・仕事で知った　・忘れるほど前に知った
・医療事務　・仕事の研修←…ガン保険

2 月 7 日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・大学の授業　・看護師職だった為

問３－３　補問１（問３－３で１「はい」をお選びの方に）
「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（○はいくつでも）

「６．その他」の記入内容（２件）

1 月 25 日 東京国際交流館

・緩和ケア病棟および緩和ケア病棟以外の病棟やそうした病棟のない病院でも緩和ケアに理解のある医療機関やそうしたＤｒのもとで在宅。どこでもできると思うが実際にはいやがるドクターもいるので（いたので）

2 月 7 日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・自宅でも

問４－１　あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何ですか。（○はいくつでも）

「10. その他」の記入内容（１７件）

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・ＰＵＩでは実際にどのようなケアが受けられるのか、ＰＣＵでの実際のところ、また一般病棟とのちがいがいまひとつ分からない。
・麻薬を上手に使える医師がどこにいらっしゃるか

11 月　9 日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ

・①予約のとり方（ex. 数ヶ月前に TEL でなど）②ベッド数、いつ頃ベッドが空くかを知る方法
・関末期で痛みや不安なく生活できるか？
・医師の経験年数など

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・ガンの副作用の少ないガン治療薬や緩和ケアへの治療のいろいろなど
・本人のみでなく家族のこころの問題　・がんの予防等

1月 25日 東京国際交流館

・緩和ケアとがん治療方法の関係について、自分ががんになった時にそのがんについて納得できることとして。

・医療者への教育、特に医師　　・ＣＡＭ

・在宅緩和ケアの指導・推進について～窓口など

・医師が緩和ケアをどのようにとらえているのか

2月 7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・家族（遺族）ケアの方法と実際について　　・がん難民

・グリーフケアについて　　・地域連携

問４－２　「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
（○はいくつでも）

「13. その他」の記入内容（６件）

10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・一般の学校

11月 9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ

・保健所　　・経験者の方の話　　・患者の会等

12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・家症医学　　・薬局

問６－１　補問１（問６－１で１「はい」をお選びの方に）
「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになられましたか。
（○は１つ）

「９. その他」の記入内容（１０件）

10月 26日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・リレーフォーライフ　　・雑誌

12月 21日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・病院でのチラシ　　・イベント会場　　・大学

1月 25日 東京国際交流館

・いのちの会　　・仕事上　　・病院の抗がん剤をうつ部屋

・日本緩和医療学会　　・職場（製薬）

問８　緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

記入内容（３１８件）

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・心のケアについて体制を確立していただきたい（本当の専門家の養成、ただの臨床心理士ではなく病気についての知識もともなう専門家）
・（予定）研修・講習・シンポジウムの開催をネット等で知れるとよいと思う。知りたい・勉強したいと思っていても、いつどこで開催されているか分からないことが多い。年月日・内容・開催地で検索できるｅｔｃ。
・上のキについて…追伸・ホスピス病棟又は緩和ケア病棟に入棟する時はガンに対する積極的治療はできない…と言われています。一般病棟ｅｔｃでは緩和ケアはがん治療は共にうけられるでしょうが緩和ケア病棟ではガンの治療はだめでしょう。緩和ケア＝その病気になっての苦痛をよりとりのぞく…という意味であるという事を説明なされていましたがもっと広めていただきたく…現状がそうなるようにお働き下さいますようお願いいたします
・とにかく情報が不足していると思います
・Ｈｐ専問スタッフを増やして、早くたくさんの人が緩和ケアを早めにムリなく受けられるシステムをつくって欲しい。→スタッフ数の増加、教育を整えて
・今はモルヒネに対する悪い印象は殆んど無いと思います。医療者側の云いのがれと思う。それより緩和ケア体制が弱わ過ぎと思います。各地域の緩和ケア体制の説明会の開催などが望まれていると思う。
・ホスピスと緩和ケアの違いを明確にしてすすめてもらいたい。当会の緩和はＳｏｉＰａｌｌｉａｔｉｒｅでＨｏｓｐｉｃｅは、貧困、社会的弱者、迎礼の行き倒れの方などの癒しとＦＲＡＮＣＥの辞書に出てます。フランス語で説明です。
・終末期医療、ターミナルケアのイメージが強いのでその払しょくをお願いしたい。医療用麻薬という名称がイメージ悪い。緩和薬等に呼称を変えた方がいい。緩和ケア病棟の普及
・病院だけではなく、在宅などで受けることができるよう、区市役所などがわかりやすく広告して欲しい（一般の人はわからないので）
・緩和ケア＝ホスピス、末期医療のイメージが全くないとは言えません。緩和ケアという言葉をもっとイメージの良いもの、わかりやすいものに変わるというのも、考えていいのかなと思います。ＴＶコマーシャルでも流されたら良いと思います。
・患者様やご家族に対する相談事業。緩和ケア医療者へのリエゾンなど。緩和ケア教育セミナー、実践の場の提供
・新聞を良く読んでいるので、新聞にもっとのせてほしい。
・国民に緩和ケアを普及するためにテレビやインターネットを通して紹介する。また、麻薬に対してのマイナスなイメージをなくすようにアピールして欲しい。
・もっと一般的に認知される方法（広報）を考えた方がいいと思いました（これからだと思いますが)。緩和ケアが特別なことでなくなるといいなと思っています
・緩和ケアが広まらない理由を分析され、幅広い広報が必要と思います。患者と医師の力関係が等しくなれるような社会を目指して下さい。また。ＱＯＬ高めるための具体的な情報をどう伝える

かＨＰのみならず、多方面のメディアで知らせて下さい。
・もっと周知をしてほしい。今回初めて知りました。病気を軽く考えている人、重くとらえている人のすべてに知って欲しい事だとこのセミナーに参加して思いました
・一般市民だけでなく、多くの医療従事者にも、正しい緩和ケアについて普及されることを願いたいです
・緩和ケアのあり方やとらえ方をマスコミ等でとり上げてもらうことや、イベントを企画して広く普及してほしい
・テレビＣＭなども利用していければ、一般の方（患者さんも含めて）への普及にもつながるのかな、と思います。
・父は今春、尿管がんが肺、血液に転移して脚の骨の痛みに耐えられず私たち家族、医師に緩和ケアを勧められ、麻薬治療に入り、三日目に亡くなりました。父の為に薬は正しかったのか？とても不信です。医師の知識や（失礼ながら）力量のレベルアップも期待したいです
・もっと緩和ケアについて一般（医療従事者含め）に広く知らせてほしい（癌治療学会や癌学会などでも）
・どこのホスピスに行けばいいのかどこなら入れるのか、病院内で緩和ケアチームが有効に機能しているのか、などの情報を一般に周知してほしい。それは行政へのアプローチになるのでしょうか？
・インターネットの使用率が下がってきている（不況のため）と聞いています（←特に個人（家庭）の）。患者会に参加しても高令者の方が、どこから情報を得られるのかわからないと言われます。もっと級媒体で昔のように情報を広めていくことが求められる気がします。〇〇に少し関わっていますが、緩和ケアの知識、技術の普及、を目的に活動しても「それ以前に、緩和ケアをわかってない」という壁が現状で、今の時代はまだ発展の前に普及なんだと思います。ぜひとも終末期のケアではなく、誰でも受けられるケアの正しい概念を浸透することを願っています。
・このプロジェクトについて全国の患者会に理解をひろげることが、「緩和ケア」の普及に有効と思います
・たまたま実母は〇〇にある〇〇病院の緩和ケア病棟に入院する事が出来、本当によかったと思います。ただもっと早く本日の講演のように、早期から病院でも家でも受ける事が出来たらよかったと感じています。又、治療が開始していく間までの外来通院時の主治医との治療になかなか進めてもらえず、それだけが心のこりでしたが放射線治療がはじまる事になり、スタッフからのインフォームドコンセントがしっかり行え、そこからの日々は納得出来る日々をすごせました。死を受け入れながらもやはり死ぬ直前に死ぬのがこわい、とホワイトボードにのこしたのが母の最後の言葉です。どんなに最善の環境におり死を受け入れた母でも人間としての本音を出して下さいました。つらかったが気丈に生きて来た母がやっと本音、弱音をはきだせたという事は母の苦しみとしてとらえなければいけないと痛感しながらも生き様を考えたら、その言葉を最後に言える環境でよかったとも感じます。ぜひ、在宅、施設どこでも安心して緩和ケア受けれるように活動ぜひお願いします
・初めて知った事業でした。“やがていく道”である事を認識して、緩和ケアをもっと一般的に考えていけたらと思います。
・緩和ケアの知識は多少あると思っていましたが、末期の方々が受けるイメージがありました。私の周りで緩和ケアを知る方でもそのイメージは強いと思います。初期段階から受けられるものとして広くイメージが広がることを願っています
・周知徹底してほしいし、緩和ケア病棟をもっと増やして、希望者が待たずに入院できる体勢を整

えるべきと思う。差額ベッド代のいらない病室も増やすこと。がん難民を増やすな！地域と大病院との連携をもっと密に！
・①積極的な普及活動を切望します②家族が出来る具体的な例を示して欲しい③緩和ケアーを実施している病院・医院等の施設の開示を望みます
・情報提供。イメージ（先入観）の切り変え。緩和ケア先進国の事例などの積極的な紹介
・より多くの人々に緩和ケアを知ってもらえる機会をどんどん作って欲しいです。
・一般の認知度はかなり低いと思う。認知度を向上させるための施策を様々するべき。メッセージがわかりにくい。①「オレンジバルーン」＝②「緩和ケア」＝③「がん痛みケア」。①～③まで相当距離があると思う。まだまだプロモーションが必要。また、医師の教育
・緩和ケアのイメージアップ
・私の様に緩和ケアの言葉は知っていても、内容については知られてないのが一般的だと思います。痛みのコントロールだけではなく、心の問題の対応という事をもっとアピールしてほしいです
・市民はもとより、医療者にもっと緩和ケアのことを知ってほしい
・まず医療者の医療用麻薬に対する誤解を解いていく事を期待します。一般の方よりも専門職へのアピールが先だと思います
・「緩和ケア」を知る機会を多く作ってほしい。インターネットを利用しない年代の方にも伝わるように
・緩和ケアの充実は場所ではなく「人」だと思っています。麻薬で痛みが９０％コントロールできるといっても、そういう方もいらっしゃいますし、うまくいっていない方もいらっしゃいました。そこに関わるスタッフの力量による差がないよう体制を組んでいただければと思います
・もっともっとマスコミ等利用して認知させてほしい
・ペインクリニックと麻酔科医の増加を期待します
・緩和（ケア）という語の印象が終末期、他に手段がない、いった印象を与えるので、別の印象を持たせてくれるようなイメージ作りを期待します。（実際には治療と同時に早期から用いられるものだと判ったのが今日の収獲です）
・高齢者にも広く理解していただけるよう進めていって欲しいです。
・地域に密接に関わって普及させてほしいと思いました。地方にも事業を拡大させられれば良いと思います
・緩和ケア→現在、適応外として用いられている鎮痛補助のくすりが早く認可がおりるようになればと思います。ピンバッチやノートやらグッズを作ることで、ピンクリボンやゴールドリボンなどの他のガンと同じように多くのヒトに知ってもらうことが大切だと思います（ボールペンなどの文房具やキーホルダーでもＯＫだと思います）。がん基本法の施行日を緩和の日のようにして東京タワーやいろんなタワーをオレンジにライトＵＰする。キャンペーンをメーカーもまきこんで行う。
・一般の人々の多くが緩和ケアという言葉を知り、内容を知ることによって誤解がなくなること（がんについての）
・緩和ケアの重要性を改めて認識致しました。私自身オレンジバルーンプロジェクトの事を知りませんでしたので、けいもう活動等を通してもっともっと輪を広げていって欲しいと願っています
・緩和ケアはやはり積極的な治療を止めた（あきらめた）患者に施すものという意識が根強くあり（医療者も誤解されている人もあるのではないでしょうか）、まず、この考え方を早くなくすことをしていただきたい

11月　9日 東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ

・本日知ったばかりなので実態が理解できないが、このような活動は今後も推進してほしい。私も１１年前（４０代前半）でＳ状結腸癌を患ったが、医療よりも「心」や「治療費」にとても悩まされた。この事業には是非この２点についても取り扱ってほしいと期待する。
・緩和ケアは癌だけに限った治療法であるとは思わないが主治医に麻酔をお願いしたが拒否された実例もあるので緩和ケア「オレンジバルーンプロジェクト」はより広く、より深く、より永くケイモウを続けるべきである。
・これからも普及のため、がんばって下さい
・緩和ケアについて余り詳しい事は知らない。まとまった知識として冊子の様なものがあればよく読んで勉強したい。ガンの知識情報と緩和ケアの知識・情報を一体としてトータルを知り勉強し認識してゆく事が必要ではないか。
・オレンジバルーンプロジェクトの件、始めて認識致しました。現在、自分自身が癌と戦っている身もあり、その上情報を得る為に病院（かかっている）以外の方向から個人的に提供していけるなら、心強いし、又気分的に安心感も得る事出来る。○○癌を治療するなら○○病院とか？
・「がん」治療を実際体験して、抗がん剤治療は、とても辛いものでした。治したい一心で、辛い治療は避けられません、戦いでした。気持ちが負けそうになることもしばしばありました。（治しているのに身体は、どんどん弱っていく…感染症におびえたり…）そのような気持ちを支えてくれる事業がもっと身近にあると、患者の方々は救われると思います。医師は治療はしてくれますが、多忙もあり、なかなか心の辛さまでは目を向けてはくれませんのでその橋渡しをしてくれると良いと思います。
・緩和医療の充実に期待。緩和ケアの拡大・侵透・発展が待たれます。地域で身近かに早期に利用出来る様になり、在宅で治療に努めながら、ガンと共生出来ること期待。ガン患者になった時点で、家族を含め緩和ケア治療の説明の機会が（地域などで）セットされるようにならないか。
・普及させるレベルを目標を定めて、いつまでにどの位とするか、明らかにしてもらいたい。痛みなく過せれば、がんもこわくなくなると思います。
・人それぞれ状態が違うので、それぞれに合う満足のいく対応を希望しますが、それを相談できる所が今現在ない（主人が現在肺がんですが、妻としてどうことばをかけたらいいのかすらわかりません。）
・「オレンジバルーンプロジェクト」についてもまだ十分な知識がありません。（自身、がん発症から満１年ですので）これから少しずつ勉強して理解していくつもりでおります
・いろいろな情報を多方面から提供して下さい。
・多くの人の認識が高まるように、有効な、方法と思います。
・これからも、もっと勉強していきたいです。
・ネットワーク、と、近域の広がり（特に地方）
・今日開催された時のパンフレット等で初めて知りました。これから、老齢化する中で大いにとなるうる事なのでもっと多くの人に知り得る機会をふやして行く必要があると思います。私自身、家族のガンで初めて知ることとなり、もっと早く知っておけばなどと思います。本日参加して大変よかったと思います
・自分は転移再発なので条件が悪いかと今ホスピス、その費用など現実の課題に悩みをもっております。
・緩和ケアは終末期のみと考えている人、又医療用麻薬が長期間使用していると習慣性が出ると考えている人が多い。ぜひＰＲして周知を計ってほしい。疼通をやわらげる薬材を色々と開発して

ほしい。
・病気になった関心を持つようになったが病気になる前の人達にももっと身近に感じる事ができる位に広めて欲しい。
・ガン手術を行える病院全てが出来ることなのでしょうか。ＪＰＡＰとのちがいは
・ピンクリボン、ゴールドリボンのように、もっと誰もが知っているという環境を作るべき。私も新聞、雑誌をよくみる方だが知らなかった。もっと、癌患者に正しい理解を知らせる場他もうけるべきである。
・医師のだれもが緩和ケアの心がけをもつようにフォローアップをお願いします。
・緩和ケア＝ホスピス的な意識が根強くあると思います（現時点で母ががんを患っています…そう母も強く思っています)。主事医の先生や外からのネットワークで体・心の痛みをとるもの…情報が欲しいと思います（情しい情報）
・現状理想的面と現実面とのギャップがありすぎるように思う。普及により正しい緩和ケアが浸透して国民ががんを恐れず治療に当り又ボランティア等も気楽にできるようになるよう事を強く願います。
・どんどんＰＲをしていただきたい。
・広く皆が理解することだと思います
・そのような名前の“プロジェクト”は政府のどんな組織・機関がどのような手段・方法で、どんな事を行っているのか、知りたいものです。他のこの方面での先進国の取りくみ状況も知りたいと思います。
・費用の援助、心と体の緊張感が取れるよう医療や施設かんれんの者の言葉の使い方、受け止められる人間の養成
・できるだけ多くの方に「緩和ケア」の知識が広まることを希望します。
・緩和ケアをされる専門の方が各自治体（市、町、村）単位に置かれることを希望いたします。
・「死」を受け入れる普段の心情が必要と思います。そのために学習、ＰＡが必要です。心（メンタル）面のケアが遅れている現状を改革する必要。
・今年７月母を肺がんで亡くしました。緩和ケア病棟で、先生に最後は苦しまないでいけると約束して頂いたことで、不安と苦しさと闘いながらも、最後は本当にやすらかに息をひきとったことは、本人にとっても家族にとっても救いでした。緩和ケア＝終末というイメージがいまだあるのでもっと早くから緩和ケアを受けた方が看者も家族も楽になれると思います。そういう意味でもオレンジバルーンプロジェクトの普及は大切です
・多くの人に知ってもらえるチャンスを多く
・目にすることがないキャッチフレーズなので、もっと説明が必要。又は、メディアへのアピールが必要
・もっと大々的にＰＲすべし
・地域の病院でも普及し、相談し易くしてほしいと思います。緩和ケアのパンフレット等身辺に手に入るとよいと思います。費用等
・がんの終末期に最後に入るという暗いイメージがまだあるように思われます。もっと広い意味で、がん患者がいつでも出入りできる場にして頂ければ、明るいイメージの前向きな場所として、皆の集まれる所にして頂きたいと思います
・医師が都内でも少ないといわれている中で地方ではガン患者とゆっくりと（予防)、治療について話合いができているのでしょうか？先生方も大変苦労されている事、日々努力されている事、患者をいかに痛みからとり除いてあげられるか、やさしい手術の仕方等勉強になりました。あり

がとうございました
・一般庶民への啓蒙活動を広く積極的に進めて頂きたい。
・「緩和ケア」という考え方はまだ一部の人のみの知るところだと思います。もっと広く多くの人がその考え方を知り「もしもの時」の不安が少しでも少なくなるような「周知」に期待します
・緩和ケアのプロを育成する専攻科目が医科系大学に無い（ｏｒ僅かにある）と聞いています。ガンだけに限らず、ますます高齢化する社会事情にあって、病院のような専門的施設に限らず、在宅での緩和ケアも支援できる人材の育成とその機能を発揮できる制度・システムの整備が急務ではないでしょうか。
・新聞テレビ、ラジオ等あらゆるマスコミの手段で全国民にＰ．Ｒしていくべき。学校教育（小学校、高学年、中学校）でもっと教育していっては如何ですか
・相談窓口があることを期待します。
・今後、益々活動されんことを期待します。一般の人にもっとＰ．Ｒして下さい。
・がんの告知と一緒にこのプロジェクトも説明し心の不安とＱＯＬ改善の施策に取り組んで下さい。
・もっと広くマスコミ、政治を活用して国民に周知活動をしていただければ幸いです。
・出来るだけきめ、こまやかな普及宣伝を期待
・もっともっと一般的にアピールして存在を知らせてほしい
・緩和ケアをどの地域でも受けられるようなシステムに早くしてほしい。
・各人の症状に合わせて出来る限り速やかに安価に受けられるようになる事を望みます。
・患者本人が少しでも楽になるように緩和ケアを受けられる病院を増やしていただきたい。これは家族にとっても安心につながるものとなる重要な課題と思います。
・医療費の軽減を望みます。葬式無用です。（年金の８割が医療費です。（国保負担３０％なので３万円―おクスリ代、１万円―ＣＴ代、６０００円～１００００（超音波代、診察代。現在Ⅳ期ですが末期になると貯蓄で支払い切れなくなるのではと経済的負担にも心が痛みます。１ヵ月…￥５００００円
・緩和ケア病棟に入院はなかなか出来ないと聞いていますがどうなのでしょう。希望してもあきがないと入れないとか
・認識度を高めるため、もっとＰＲしてほしい
・益々の発展を祈ってます
・誰れもがガンになる可能性はあるので、緩和ケアにより笑顔で治療を受けられることは良いことであり、年令に関係なく多くの人が自分でできる範囲で、ボランティア養成で住いの近くの人達がかかわれるようなシステムを作ってほしい（○○市の○○病院のホスピスのボランティアを受けたいが、日程があわずに残念に思っている）。今回は緩和ケアにひかれて応募した。
・現在では、ガン患者の多くの事は現実的恩恵を受けていない。“ガン”とは、苦しいもの、痛いものとの概念が患者、医者、一般人に残っていて、払しょくされていない！！
・費用の問題です。たぶん費用のことで受けることはむずかしいでしょう。残念ながら
・ボランティアについては疑問がある。スキルが低ければ、かえってケアどころか患者がキズつく。人材の育成がきちんとなされてるのだろうか？がん治療にあたっている医療者でもスキル・モラルが低い人がいる。素人で大丈夫？緩和ケアについて関心が有りますが、まだ情報が少ないです。痛みのケアとせんもうのケア、どのようなタイミングで、どのような症状があるか、どのように対応するのか等、具体的な事を知りたいです。
・もっとセミナーや講演会を開催し広く日本に浸透することを期待します
・緩和ケアは病状の痛みだけを取り除くと思われている人が多いと思う。もっと心の不安ケアもあ

ることをもっと広めてほしいと思う。又、その機関を増加して欲しい
・緩和ケアを選択又は受けた患者数のうち生存年数（又は月数）についての統計が知りたい。全国の緩和ケア専門病院数と所在地は？その他、緩和ケアーの実情を示す、グラフなど視覚を通じての実情認識を普及のメリットにしたい
・ガンバッテ下さい。
・今まで全く無縁と思っていて「ガン」という病に主人がかゝりいろいろと初めて知ることばかりです。今は抗ガン剤、放射線と治療の効果が出ており希望を持って治療中です。今後またどの様な形で緩和ケアが又身近になるかわかりませんがこの病に光があてられより良い生命、人生をおくれる様になりますこと期待しています
・まだそこまでいきません
・恥ずかしながら今日はじめて知ることになりました。ピンクリボン、オレンジリボン、ブルーリボンと同様にもっとメジャーになることを希望します。
・種々のツールを用いてもっともっと社会への普及に力を入れていただきたい。
・病院の相談窓口等と連携して多くの人の目にとまるよう活動して欲しいです。
・妹が大腸ガンのＯＰ後痛みで長く苦しみました。医師に訴えても、精神的なものとうけとられ、精神安定剤のような薬しかもらえませんでした。医師の理解を深めるけいもう運動を深めてください。今後はかんわケアの場所をしらべてがんの治療と併行してケアを行っていけると思います
・担当医とのかかわり方がわからない。地域での情報収集法がわからない
・高寿命化により増々がん患者は増加方向と考える。従ってがんの治ユと同様緩和ケアの必要性は高まるはず。行政はもとより、種々のサポート体制の確立は不可欠である。「オレンジバルーンプロジェクト」の果す役割は小さくないと考える
・医師もまだ麻薬についての誤解があるため、正しい情報の普及を望みます
・現在、がん治療中です。手術後から今日まで痛みがとれません。（約８ヶ月）毎日痛みがあり仕事や眠れない日々です。落ち込むこともあり何とかしたいと思っています。くすりにはあまりたよりたくないので処ほうされたくすりは飲んでいません。こんな場合はどうしたら良いのか相談場所が分かりません。分かりやすいＨＰなどあればと思いますが。
・緩和ケアをする病院があまりにも少ない現状でもう少し医師、看護士、ボランティアなど人数をふやして緩和ケアをうけられる人が一人でも多くうけられるようにしてもらいたい
・終末期だけでない、幅広いケアを期待している
・もっと一般市民に知せる必要あり
・ガンのぼくべつに努力されており感謝いたしております。今后も一層のご活躍を期待しております。〇〇県内の一住民より（８０才）
・末期だけでなく初期段階から緩和ケアの受けられると言う考えを医療機関や従事者に全国的にもっと広めて欲しい
・緩和ケアの認知度が日本国内において低いことがいなめない。それは患者、家族に対してももちろんだが、がん診療拠点病院の医療者においても精通しているとは言い難い部分がある。やはりがん治療における「緩和ケア」の重要性の認知度を上げることが、まず国内においては課題であると思いますので、その成果をこの「オレンジバルーンプロジェクト」に期待します
・町会誌などより身近なものを使って回数多く記載され浸透するように…
・情報が得られ易い社会になり、患者側の認識が高まっていると思いますが、まだまだそれに応えられる医療者が十分ではないと感じます。医療者への普及（人間性の充実も含めて）も具体的にすすめて頂きたいと思います

・ラジオ、テレビ等一般的メディアでの報道、周知を期待する。
・実は知りませんでした。誰もが理解して必要なとき利用できて、不幸な治療生活の中で一時でも心安らぐときがあってほしいです。
・すべての医療関係者により看者にプロジェクトのある事を知らせてほしい。治療法がないと言われてからどの様な生活を送れば良いかアドバイスをしてもらえなかったので在宅治療をさせたかったが間にあわなかった。自分の逸強が足りなかったのかもしれませんが？
・ガンにかかる人々が増えている今、もっと（力強く）（早く）事業進めてほしい
・啓発活動にとどまらず、実際の療養生活に役立つように、医療関係の整備を急いでととのえてほしいと思う。
・より積極的なＰＲ。内容、施設の紹介
・情報の集収の仕方を知りたい
・いつでも、どこでも、がんが見つかった段階から心・体のケアが受けられる社会基盤作り
・○○市内で、ガンのシンポジウムを何度か聞いて、今回は東京にも聞きに来ました。広く、この様な機会がある事を情宣して下さい
・地方の医者および関係者への周知が、まず大切だと思います。（母親の場合、いつも痛がっており楽にしてあげられたらと思っていました。痛止めの薬も頂いていましたがあまり効果がなかったのではないかと思っていました。）
・各病院で知らせて欲しい、掲示も
・ケアも大切であるがガン撲滅の国民運動、医療技術の向上が大切
・より一段の広報・教宣活動が必要と思います。私は残念ながら、この言葉を聞いたことがありません。
・もっと多くの人に理解できるように普及していただきたい。
・緩和ケアを受けたい人が適切な治療費で十分な治療を受けられること。

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・多くシンポジウムを通し広げられて下さい
・私の伯母は５年前直腸がんの手術を受け、再発して再入院し、一般病棟で痛みがとれず、帰宅して、モルヒネを１週間毎にもらいに行き、近所の医師に応診をたのんで、服用したが大変な苦しみであった。その後めいである私が日本在宅ホスピスケアの全国大会に参加して、元○○病院ホスピス医師が在宅ホスピスをされていることを知り、紹介した。○○先生はお盆も休まず応診して下さって、伯母の苦しみは少し楽になったが亡くなったのが４年前。在宅で伯父が看とったが、早くに知っていたらあそこ迄苦しまないですんだのに…と“知らない”“知ろうとしない”ことを悔やんだ事と思う。
・もっと身近になるよう、官民が強力して広報活動をしてほしいです。
・緩和ケアについての正しい知識を身につける機会を増やしてガンになった際に実際に受けられる病院を情報提供してほしいです。
・総合病院等で、どんどんＰＲしてほしい。
・ありがとうございました
・○○県○○病院で４年前と３年前手術を受けました。今私は検査を受けながら通院中です。現在みつかっているがんはありませんがいつか私でも私以外でも役立つことがありわざわざやってきました。ぜひこのプロジェクト○○県でもお願い致します
・地方でも緩和ケアがうけられるような体制をよびかけてほしい
・私の父が肺がんにかかって死にましたが、死ぬ１年ぐらい前から生活があれはじめ酒を大量に飲

んで、暴れる等、家族は大変でした。ですから、緩和ケアを受ける本人だけでなく、家族もサポートする体制を作ることが大切だと思います。
・在宅でのケアに期待します。できる限り自宅ですごしたいし、すごさせてあげたいので
・全く情報がないので病院などの窓口での告知等して下さい
・ガンの治療に対する正しい知識を得る機会として
・とう痛緩和の治療は、患者さんや世間的な抵抗感や誤解がもとで広く浸透していない事は以前から聞いた事がありましたが、その誤解を解いて知ってもらうというキャンペーンは意義のある事だと思います。今回は日頃聴いているラジオ番組での呼びかけで興味を持ったのですが、まず興味なかった人に興味を持ってもらう工夫が大事かと思います
・もっとあることをアピールする
・まだまだ知らない人も多いみたいなので、まずはテレビの情報番組などで、紹介してみてはどうか。
・もっと多くの人に知ってほしい。笑いを作る芸人の人とのれんどうとかもしてはいかが？
・より多くの方々に、現代の大病「がん」に関する正しい知識と治療を認識できるように、今後とも多くのメディアなどで取り上げてもらいたい。
・緩和ケアのことを広く世間に知らしめて、医師に緩和ケアのことを相談しやすい環境を整えて下さい。
・麻酔、ペインクリニック外来勤務しています。各科より疼痛コントロール目的で紹介を受けます。しかし、元科の医師は“痛みに関してはペインにまかせた”という考えが強く、なかなか連携が保てていない状況です。元科である外科や内科等の医師にも緩和についてもっと広く理解して頂きたい。広めてほしいです。
・患者本人だけでなく、家族の者のケアについても、知ってほしい。
・地域によって、このプロジェクトを知っている人の差が出ないようにしてほしい
・はじめての取り組みで注目も高いでしょうから、ぜひ成果を残して下さい。予算の方も気になります。
・心のケア
・これからも多くの方に緩和ケアについて、知って戴けるような広い活動を期待しております。
・ＰＲ活動！
・一般の何も知らない人にも情報が分かるように身近なところで宣伝してほしい
・メディアへの露出を増やしてほしい。
・言葉を聞く限りは、「苦痛からの解放」のような、末期的症状に対する手だてのように思える。私自身としては、根本的な部分に対して治療ができる手だての研究を期待したい
・これからも現代医療のために貢献してほしい
・〇〇という土地柄なので、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ベトナム語の資料があれば、ありがたいです。
・医師に対して、もっと広めていっていただきたいです。医師の緩和ケアに対する意識が少ないことに驚くことが多いです。私は薬剤師ですが、もっとチームとして患者さんの痛みを取り除く活動をしていきたいと思います。
・これから、色々な場所でイベントを行って頂いて、「オレンジバルーンプロジェクト」の事をたくさんの人に知ってもらう事をして頂きたいです。インターネットが普及したとはいえ、やはり実際にふれあう事により、広がっていくと思うので…。あと、マンガ化するのも良いと思います。「文字だけの本は読みにくいけど、マンガなら読める！」という人もいるので（実際、私はそう

いう知識を主にマンガから仕入れています―介護保険、メイク・ア・アィッシュ、白血病、骨髄バンクなど)。
・ＯＢＰの事をより多くの人に知ってもらえる様にする
・プロジェクト自体を知らない人が多いと思うので、もっと色々な所で開催してほしいです。
・どの医療機関でもある程度等しく受けられるようにしてほしい。対応している病院をわざわざ選ばないといけないのはめんどうではないかと思う。ふだん看て頂いている主治医に対応してもらえれば安心ですし。
・医師の教育をのぞむ
・「２４時間テレビ」への出演
・病院等の医療施設での緩和ケアだけでなく、今后家庭、在宅での看護緩和ケアについての現状や方向性について知りたい。それを広げて欲しい。
・だれでも気軽に身近に利用できる様になることを期待しています。
・どこの病院でも受けられるように
・まず、緩和ケアという方法があって、それがどういう状況で受けられるか、という事自体僕もそうでしたが全く知られていないと思います。第一にそれを打破する事が、次のステップに移行する第一歩であると思います。このプロジェクトを通じ、１人でも多くの人に緩和ケアを「知って貰う事」が出来る様、期待します。
・病院は３ヶ月たつと追い出される（治療費、国の制緩）とよく聞かされてこわがっています。有料老人ホームはお金が足りなくて入れそうにない。家でも一人ぐらしではくらせない。病院で３ヶ月といわずにみとってほしい。だったら死まで安心してすごせます
・全ての病院でも緩和ケアを相談し、受けられる体制になるようお願いしたい。〇〇先生の言われたような、あたりまえのこととしてケアを受けられるようお願いします。
・テレビなどの公共放送で活動を紹介してもらう様にしてもらいたいです。
・在宅での整備
・市民に対してのシンポジウムを行って、啓発活動をしていてすばらしいと思います。今後も多くの場所で何度も開催していってほしいと思います。
・緩和ケア病棟の充実。在宅ホスピスの質の向上のために医療関係者の研修の充実や、ＴＶなどによる家族や本人の学習のチャンスを増やすような啓発活動
・どうしても、患者側から緩和ケアを受けたいと主治医に話すと、治療をあきらめられるのではないかと言う不安があります。まず医療関係者の側があたりまえの事だという様になって、すすめていかないと不安です
・父が２年前にすいぞうがんで亡くなりましたが自分はこれということはできませんでしたが、先に知っていれば何かやれたこともあったかと思いますので、知識を広めるためにがんばってください
・軽い気持ちで参加している者の意見だということをおわびしておきます。『メディア展』医療マンガ花ざかりの昨今、取りあげてもらわない手はないですよ。あ、でも「Ｄｒ．コトー診療所」とか「ブラックジャックによろしく」とかのダウナー系はダメですよ。「スーパードクターＫ」や「ラディカル・ホスピタル」等、お笑い要素もありながらしっかりした取材をされている作品がオススメです。
・がんは、「そんなに恐くない病気だ、大丈夫」と、本人、その家族が前向きに治療に取り組んでいけば、いいですね
・周知。世の中の意識改革。「(患者が「痛い」と言えば「ガマンが足らない人」「帰りたい」と言

えば「ワガママな人」と人格が貶められないように）
・医療従業者内、特に医師に対する意識改革をして欲しい
・もっと皆に知られ、一般的になるといいと思う。日本はとにかく我慢するのが美徳とされている国なので
・こういうシンポジウムを中心に、口コミで「緩和ケア」という言葉を広めていって下さい

1月 25日 東京国際交流館

・イメージがよく浮ばない。
・地方の来場の医療機関にも広くこの主旨を伝えて、各患者に広めて先々の不安を少なくして欲しい。
・施設、方法を含め情報の入手手段（特に地方に住んでいると…）が少ないように思われます。より広範囲なＰＲを望みます
・心理士にできることはあるのか…。
・私は母が緩和ケアのお世話になりました。ですので、緩和ケアを知ってはいましたが、やはり家族など、身のまわりの人ががんにならないと、なかなか、緩和ケアというものを知ることができないと思います。いきなりがんの告知を受けたら、治療ばかりに気がいってしまい、緩和ケアまで考えが及びにくいと思います。健康である時は、それが当たり前に感じてしまい、医療についての知識はなかなか知ろうとはしないと思います。ですので、そういう健康な人でも興味をもてるように、少しでも多くテレビや新聞で紹介していただけたら、いざ病気になった時に、役立てられるのではと思います。
・１．パネリストの方からも、在宅で痛みが出た時に問題である」旨あり、また、市民の意識啓もうの面からも、厚労省等から予算を得て、ＣＭのスポット放送を行ってはいかがでしょうか。２．前々から患者さんの闘病記録等に接することが必要だと思っていましたが、ますます重要であると感じました。
・このような、市民向けの啓発をすすめてほしい（各地域で）
・①がん対策推進基準計画で２つの目標の１つに緩和ケアにかかわって、患者・家族の生活の質の向上があげられているが、死亡率については数値目標があるが、ＱＯＬについては何の指標もない。ぜひ大規模な患者家族へのアンケートによって、ＱＯＬ改善を見えるようにとりくんでほしい。緩和ケア医療学会が中心になって進めてほしい。②緩和ケアの年寄が減っている、あるいはふえていない。ぜひ厚生労働省に働きかけて下さい
・米国なみの痛み止めができるようにしてほしい。（くすり、ケア一法など）
・シンポジウム開催を定期的に行っていただきたい。家族も同伴すればよかったと思いました。（次回より一緒に参加したい）
・ＴＶで特集などあればぜひ見たいと思う。ドキュメンタリーなど。
・医学生や一般市民だけでなく、コメディカルやケアマネージャーに対する緩和ケア普及のための講座を開いてほしい
・看護師を対象とした研修・勉強会を是非お願いしたいです。緩和ケア、心身の支援の実践的な方法、症状のメカニズム、薬剤についてなど
・（乳癌患者の立場から）（殊に骨転移について）外科の先生は「症状が出てから治療はおそくない」とおっしゃり整形の先生は「症状が出ている状況は、相当骨が破壊されているので、良い状態にもどしたいと思っても手を打てないことも有ります。だから、症状がないうちから（＝早期の段階から）定期的な骨の検査は必要」とおっしゃります。→術後の定期検診の考え方も、いっしょに考えてゆく必要があるように感じております。（痛みを出てからの対処のみだけに視点を置か

ず、少し手前のことにも口をはさんで頂きたいと思います）
・緩和ケアということばのもつイメージを、明るく、あたたかいイメージにしていってもらいたい。安心感につながるような
・地域の中の医師の教育に力を入れて下さい。住民が相談に行ける場所を明確にして下さい。地域差をなくす（拠点病院が機能することなど）
・一般病院でも緩和医療がうけられるよう、Ｄｒ、Ｎｓへの理解を深めて下さい
・市民だけでなく、医師等医療者への啓発を行ってほしい
・セミナー等に参加できない人、インターネットを使える人達への活動
・今回のような講座の開催を今後も期待しています。
・このようなシンポジウムの開催を定期的に行って頂きたい
・緩和ケアの普及
・がんに罹患された患者さんと家族によりよい医療が受けられるように日々活動を行っていっていただきたいと思います。
・①患者自身、家族に対する、今以上の同プロジェクトの周知②さらに患者自身に希望感・安心感を与えるための、そのプロセスの追求
・医療従事者の中でも、緩和ケアのがいねんがあいまいであるので、病院などでも講えんしてほしい。
・ガン拠点病院の分院に現在夫が入院中ですが、緩和ケアへの取り組みはないとのことでびっくりいたしました。今日常生活のＱＯＬが注目され始めましたが、癌に限らず病全般に緩和ケア精神の必要性を感じます。今日はよく学び緩和ケアの必要性を広めてゆきたいと思います
・知らない人が大勢いるので、もっと広げてほしい。どんな内容なのかを拡めてほしい。広めるチャンネルが少ないのではないでしょうか？
・緩和ケアはどこでも受けられると言われましたが、まだ一般の病院の医師に普及していないと実感しています。私達の身近にいる一般の病院医師（全国どこでも）が緩和ケアについて正しい知識を持ち、実行できるよう、至急行動して戴きたい。
・「緩和ケア」という言葉は、割合知っている人は多いと思いますが、中味について十分理解されていると思えませんので、プロジェクトの意義はとても大きいと思います
・医療者がもっと知識を深め積極的に緩和ケアにとりくめるよう普及させてほしいです
・医療従事者への認知
・緩和ケアがいつでも受けられる様、病棟、病床を増やし、待ち時間などというものがなくなる様、ケアの充実の為に頑張って活動していただきたいと思います
・色々な団体といっしょになって、国民の全体に正しい知識を拡げていってほしいです。
・本日のようなシンポジウムや講演会を地方の都市や地域で、その地方の専門家とともに開催できる様に後押しをしていただければ…と思います
・緩和ケアを理解でき、大変有意義な時間を過せました。ご苦労だと思いますが全国でこのような会を開催し、万人の共通知識になればと思いました。
・家族にがんをわずらった人たちに（本人も含めて）、正しい情報やサポートをよろしくお願いします。
・緩和ケア病棟をもっとたくさん作るよう働きかけて欲しい。ケア病棟に入るのに順番を待つ必要がないように。これからがん患者が増えてゆく（高令になっていくに従って）ので、疼痛治療をもっと宣伝して欲しい。そして医者の再教育を。
・もっと多くの人に知ってもらうためにも公民館など身近な所で勉強会を行ってほしい

・継続して行って欲しい
・まず一般の医師に医療用麻薬の正しい知識を持って欲しい
・一般市民に良く理解される様けいもう活動が期待できる
・認知度がまだ高くないので広報活動を増すこと
・緩和ケア病棟が少ないと思います。もっと沢山あれば順番待ちなどしないで済むと思います。
・都内だけでなく、地方や医療が届きにくい所でも在宅の緩和ケアができる体制を国が作っていって欲しい（予算を付け、事業として行っていく。）
・がんの患者様が苦痛がなく普通の生活ができるよう病院のＤｒも知ってほしい
・もっともっと地域に患者さんが生活する身近かな場所で痛みや不安を軽減する場所（施設）と人（正しい知識を持って相談を受けられる）機関が増えるよう、活動を広げてほしい
・オレンジバルーンに限らず公益性公共性をもつ団体の活動は広く社会的拠金によって支えられるべきで、現に米国はじめ多くの国でそのようになっている。日本は税法がこれを大きく妨げているが、税制を改めて、そうした拠金はすべて課税対象額からの金額控除を務めること。受取る側も所得税は免税とすることにより、必要な領域に長ある人々からの資金流動を妨げない事が、社会が人々を支えることが出来るシステムには不可欠で、所得再配そこの観点からも望ましい。ＮＧＯや市民は連携してそのような主張を行うべきと思うが、オレンジバルーンもこのことについて熟考し声をあげられたい。
・福祉・臨床心理・哲学・宗教等、その人（患者）にとって最も効果的なケアチームの組み合わせを組織化するのは誰で、そのようなリーダーシップを発揮すべき役割はどの職種なのか。多分、ガン（→ガンにかぎらず一般論としても）の進行状況によって変化していくものと推察されるが役割が分かっていれば組織化もスムーズになるのでは
・医師でも薬に対して間違った認識を持っている方がいるので、もっと啓発してほしい
・自分は一航病棟で勤務するナースです。緩和にはとても関心があります。当院もがん拠点病院ですが、実際「緩和ケア」の大切さを認識している現場の医師は数少ないです。医師がわかっていないので、目の前に患者さんを早く「緩和ケア」にかけれずもどかしい日々が続いてます。とにかく、医師にもっと「緩和ケア」のことを知ってもらいたいです。皆さまの広告と活やくを期待しています。
・地域差をなくすべくさらに活動して欲しい。ここに来ている人は関心のある人達なのでさらに広く普及するよう願っています
・趣旨はわかるがもう少し緩和ケアがターミナルと同じだと考えている方々にも受け入れやすいキャッチコピーのポスターを作ってほしい
・わかりやすい、聴覚に訴える勉強会をぜひ企画していってほしいです
・まだまだ、社会に普及していないのが現状だと思います。病院で勤務してますが、緩和と聞くと終末期、もうダメだと思うようです。正しい認識をまずもってもらえるようにしてほしいです。広告を多くするとか、こういうセミナー等がふえるとか、病院でせんでんするとかですかね。
・緩和を専門とする医師ではなくガン治療に関わる医師が緩和に興味がもてるように
・緩和ケア病棟に入院するには、保険外のお金がかかること、特に室料が高いこと（都内は特に）は知られる必要があると思います。その周知をぜひおねがいします。緩和ケア病棟のすばらしいことはかなり周知されてきたと思いますがお金もかかるのだということを知らないと実際に必要な時に利用できない人がたくさんいます
・身体疼痛とともに、スピリチュアルペインについて、啓発活動に力を入れてほしい。全人的ケアに取り組むことが、緩和ケアであることをどこの都市でも、情報が得られるような窓口があれば

良い。行政が担うべきと思う
・緩和ケア、医療用麻薬に対する悪いイメージを、良いイメージに変えさせ、患者が苦しみを取り除くことに早い段階から積極的にかかわれるよう啓もう活動を宜しくお願いしたい。
・無理かもしれないけど患者さんの生の声を聞いてみたい
・身体や心のケアについて多くの人に理解普及して貰いたい。まだまだ国のＰＲが不足しているので、このプロジェクトに大いに期待して居ります。医師、看護士、医療従事者へのけいもう、普及活動推進を期待しております。現状まだまだ不充分と思います
・医師達の学ぶキカイが増える取り組みに、力をそそいでほしい
・先ず病院、医師に広く普及して欲しいと思います。
・医師が正しい緩和ケアの知識を持っているのか？持っていても患者や家族に知らせてくれなくては、どんな良いケア方法があっても有名無実。是非、医師への啓発をもっと強く行って欲しいです。地方でも等しくこの事知るｃｈａｎｃｅ与えて欲しい。
・啓発・普及を目的にするということは理解できるが、「緩和ケア」の内容自体が充実することを望みます。活動の歩み具合が遅いのではと懸念されます。個人的には「緩和ケア」についてはわかっているつもりなので、１日も早く具体的なケアを気軽に便利に安価に受けられるようになりたい。現在かかっている病院には緩和ケアチームはない。精神科にかかっているが、がんの緩和ケアの視点を持っているように感じない。
・チラシ等は乳癌検診や子宮癌検診時などの時にも配りまだ癌になっていない若い人達にも知ってもらうようにして欲しい
・認知度の向上…言葉すら知らない人がまだまだいる。誤解をなくす…緩和ケア＝末期治療のイメージ
・「緩和ケア」という言葉に対して、まだまだ拒否的な人が多く患者さんよりも患者さんの家族が特に多いです。多くの人に緩和ケアの必要性を知ってもらいたいので、普及させてほしい。医師のやる気のなさを感じるので、もっと医師に緩和ケアを広める方法をさがしてほしいです。
・緩和＝最期、モルヒネ＝死期が近い、怖いというイメージがあると思います。病院で働いていて思うのですが、緩和ケアチーム対象になったからではなく、化療中など早期の段かいから関った患者さんとは互いに緩かい心ケアができたと思います。がんとわかった時点から不安を聞いてくれる、痛みやわらげる方法があることを知って頂き、安心して緩和ケアを受けられるようになればいいと思います
・緩和ケアに熱心なドクターが増えてきたのはいいことですが、病院によっては、緩和ケアに熱心なドクターと仲が悪いドクターがいて、たまたまその人が主治医になってしまうことがあるとうまく紹介してもらえない。複数の友人のケースで、友人の親ががんを発症したとき途中で友人が親の主治医に緩和ケアとかホスピスとかいう言葉を出して質問したとたんに嫌な顔をされたり、否定されたりしたということをききました。せっかく一般人の認知が上がってもこれでは困ると思います
・Ｄｒ．に対する意識改革、看護師、薬剤師の育成。オピオイドから消炎鎮痛剤へ変更してＥＮＴしたｐｆがいます。もっと痛みを和らげられたはずが…理解なく残念に思っています。
・地道にシンポジウムや研修会をひらき、医療者、国民の理解を促進して欲しいです
・思っていたよりも、緩和ケアが医療現場に普及しているようで、心強く思いました。私のお世話になっている病院では身体的痛みには、すぐ対応して下さいますが、精神的な痛みについては、相談する糸口がありません。もっと、医療現場、患者ともに、使いやすい緩和ケアの進歩に期待します。

・特定の病院のみしか普及されていない感じ。癌難民を減らしてほしい。
・がん拠点病院を中心に緩和チームの在り方や緩和ケアに対して具体的なスキルの教育を実践していってほしい。県単位での勉強会を是非設けてほしい。又、患者教育を同時に行ってほしい。
・認知度アップ。５年間に１０万人の医師に緩和ケアの教育をするとのことですが、具体的に、どの様な教育で、１０万人の医師がどのくらいのボリューム（インパクト）なのか、イメージがわきません。その辺りを明確にすることを期待します。
・Ｄｒ．Ｎｓの方々が熱心に活動しておられることに感激しました。特にＤｒ○○の山本リンダの写真（映像）。
・より多くの啓発活動を行って下さい。
・誰もが普通に情報を得られるようになること
・緩和ケア＝ターミナルケアの誤解をとくこと。ケアが受けられる施設の紹介
・緩和ケア＝終末というイメージをなくしてほしい。忙しい医療者に普及してほしい
・看護をする側の看護師が介護の大変さからか、手のかかる患者に対して発するぐちや不満の言葉を軽々しく発する看護師の姿勢やあり方の教育をして欲しい。医療業界には、プロ意識の足りない看護師が多すぎると思う（目立つだけかもしれないが…。）。そういう看護師がはびこらない世界であって欲しいと強く思う。
・まだまだ「終末期」の医療のイメージが強すぎ、抵抗感のある人が多い。啓もう活動の強化が必要。
・緩和ケアの総論～一般論は良く情報が入ります。しかし、私の自宅の地区での具体的情報がなかなか入りません。実体は近隣の方で実際に受けている方に話を聞く必要があると思う。
・最低限の知識（医療的緩和ケアの方法）が日本中の医師・病院に共有されることを祈ります。医者はあきらめないで欲しい。緩和ケアと同時に治療にも力をいれて欲しい（見放さないで欲しい）
・“緩和”という言葉にまだまだ抵抗のある人が多い。娘の私が医療者でありながらも私の父母もそんな一人だ。早く一般的になってくれればと思う。また、私自身もプロジェクトの末端で参加していければと思う
・（どこの病院でも緩和ケアを受けられる様に。専門医を多く（ケア、治療共に）。専門医忙しすぎる。と国へ提言して欲しい。病院内の連携システムが硬直している。医療部門間のコミュニケーションを。
・たまたまインターネットで情報を得ました。○○市に住んでいても、詳細は全く伝わってきていません。もっと地域に密着したものにして欲しいと思います
・緩和ケアにおける心の問題への対処法（患者と家族・知人友人とのあいだでの）についての具体的な情報の発信。
・ホスピスや緩和医療を受けれる病院の紹介。終末期も大事だが「がん」になった初めの段回で患者が冷静にうけとめて対処できるようにするための運動などもしてほしい。
・全国各地で頻回に今回のようなシンポジウムを行って欲しいです。また、学生向けのもあれば嬉しいです
・各病院レベルまで緩和ケアの考え方を徹底して欲しい
・「緩和ケアはがんの初期から受けることができる」「心の痛みにも対応する」となっていると思いますが、実際には緩和ケア病棟には末期状態でないと入院できなかったり、病院側（特に医者）が、緩和ケアをする意識が低く、がんの治療をすればよいと考えている人が多いと思う。また、看護師の人数が足りず、話を聞いたり、世話をしたくてもできないように感じます。医療者への援助・教育が必要と思います

2月7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・医療者はみな余裕がない。現場は多忙で労働環境も恵まれていないのではないか。労働に見合った報酬は必要。国の予算をもっと医療現場へ、そそいで欲しい。医療者の育成に投資して欲しい。より良い緩和ケアを提供するために、より良い医療制度にしてくれないと。
・○○県（地方）の新聞にも紹介していただきたい
・多くの方が緩和ケアの存在をわかってもらい一人の人間として尊厳される医療を目指してほしい。
・○○での緩和ケアのでき病院を増やして欲しい。上手に痛みのコントロールのできる、医師や、施設を増やして欲しい。家族の負担（介護・経済・精神面ｅｔｃ）を和らげられる制度を増やして欲しい。メンタルケアをもっと、もっと頑張って欲しい。
・今回の様な市民フォーラムをもっともっと講座を開いてほしい
・医師によっては、鎮痛剤の使用方法を理解していない人もいる。基本的に医師が疼痛の勉強会を全て受けることが大切だと思う→在宅で過ごせるためにも
・どこでも、どの病院でも、同じようにレベルの高い緩和ケアを受けることができるようになってほしい。
・患者が緩和ケアを受ける抵抗感がやわらげられるような情報提供のあり方を示してほしい
・緩和ケアの質問にはやはり人それぞれなのでその人のケースをみないとわからないが基本論念は必要だと思いますのでその人に合ったプロジェクトができればいいと思います。
・医療者にもっと考えを普及させて頂きたいと期待しています
・緩和ケアをうけることによるデメリットがあるのかないのかも情報提供すべき
・もっともっと“緩和ケア”について宣伝を通し情報提供して頂きたい。“医者”“看護師”とくに“医者”に緩和の早期からの介入の重要性を伝えてほしい
・病院での講えんを接極的にやっていってほしい！！
・マスコミの報道がイメージを終末期にしている印象がある。治療の初期から、何をするか、何をしてくれるかという広報をしてほしい
・緩和ケアにあたる人材育成
・地域でコツコツと頑張っている。医療従事者、患者さんに焦点をあてて下さい
・もっと人々が認識ができるようテレビ等マスメディアを活用して普及して下さい。例へばがんのケアについての映画化して放映するとか
・一般の方への啓もう活動（教育支援、講演など）
・○○さんの講演を聞いて、医者の言葉（１言１句）は患者の精神的苦痛は計り知れないものがある（常識）。私も医者の１言で約３ヶ月で３kgやせた事がある。医の技術も必要だが、性格指導がもっと必要だと思う。医者に対しては…。こう云う講演は体験にもとづいているので本当に素晴らしかった。ご苦労様でした
・田舎にも十分なサービスが提供できるように進めていってほしい
・よく病院でポスターを目にしますが、患者がどう動けば良いのかを分かりやすく示すともっと興味を引いてもらえるのではないでしょうか。例えば「相談」といっても何を相談してよいのか、具体的な事などを示すなど
・Ｎｓのスキルアップのためにもとても役立つかと思いますので、今後も参考にさせて頂きます。
・気軽に参加できる、わかりやすいセミナーを受けたい。映画などにすると（緩和ケアの基礎的な事でも）皆でみられるし、理解しやすいと思う。
・国民の間にオレンジバルーン（プロジェクト）が浸とうするよう、ずっと続けて欲しい
・診料報酬について、考えてほしいですね。在宅へ移行に関して困っている方々がいる中、政府の

方針に憤りを感じています。がん患者・家族によって発展していっているものの、止っている感じがします。それを打開するのに、ぜひ、このプロジェクト頑張ってほしいです！！
・同じ医療者でも「緩和ケア」を取り違っていることがあり、けいもう活動をもっと行ってほしいと思います。
・癌難民時代と言われている現在なのでもっと、もっと、国民にアピールしてほしい。
・自治体の広報紙で常に状態を流して欲しい
・地域住民・医師・看護師・メディカルスタッフへの啓発

問９－１　今回のシンポジウムの情報は、最初に何でお知りになられましたか。（○は１つ）

「７．その他」の記入内容（７２件）

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・会社（2 件）
・職場（2 件）
・ＣＮＪ
・ＣＮＪから
・ＣＮＪからのＭＬ
・ＣＮＪからのメール
・ＣＮＪからの案内
・ＪＭＣＡからの案内
・医療タイムス
・院内の掲示
・院内掲示
（製薬企業からの案内）
・会社からのメール案内
・会社で
・事務局からのれんらく
・職場の紹介
・大学の授業
・大学の先生の紹介
・大学講師より
・日本メディカルライター協会
・メディカルライター協会からのお知らせ
・大学の講義を受け、担当の教員のパンフレットをいただきました

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・通りがかって（2 件）
・院内のチラシ
・病院のポスター
・ポスター

1 月 25 日 東京国際交流館

・職場（2 件）
・いのちの会
・がんサポート
・ジャパンウェルネスで
・メールングリスト
・看ゴ師
・勤務先
・職場で
・前回の会場のパンフで
・東大のポスター
・当会のセミナーにて
・病院で
・病院での広告
・病院のポスター
・病院の勉強会
・病院内のポスター
・病院内緩和チームで
・病院看護部よりのお知らせ
・病院内の科学療法室の受付で。
・シンポジウム会場での資料配布において
・シンポジウム。平成１９．１０．１９疼痛ゼロ
・院内の緩和ケアチームからの知らせ
・職場の緩和ケア科からの情報にて

2 月 7 日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・学会誌（4 件）
・学会（3 件）
・学会参加（2 件）
・がん看護学会に参加して
・沖縄看協会より
・学会のプログラムで
・学会の市民公開講座
・学会プログラム
・学会への参加（がん看ゴ）
・学会講演等
・学会参加したため
・学会資料
・職場
・職場のポスター

問９－２　補問１　（問９－２で１「大変役に立った」、２「まあまあ役に立った」をお選びの方に）

シンポジウムの内容で役立つ知識だと思うものは何ですか。（○はいくつでも）

※　シンポジウムの内容によっては提供していない項目もあります

「９．その他」の記入内容（５１件）

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・がんの痛みを軽減させる方法
・一般には、まだ認識が低いということ
・緩和ケアの現状
・患者さんの立場からの痛みへの考え方
・患者さんの気持ちが少しながらも理解できた
・患者（家族）の立場でできることについて
・パネルディスカッション
・取り組みの姿勢
・緩和ケアの取り組みの現状
・がまんをしないと言う事！
・死について受け止め方を考えさせられました。
・患者さんの想いを知ることができた
・患者さんの気持
・緩和ケアにおいて心も対象となりつつあるとわかったこと
・○○先生の話、飾らない内容がよかったが実用性は低い。
・普及の妨げとなっているものは何か、患者さんの現状や気持ちについて少し理解できたと思います。

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・専門職として、緩和ケアを推進していく方法を知ることができた
・今かかえる問題
・緩和ケアの普及の程度
・緩和ケア普及の活動方法
・費用の面

1 月 25 日 東京国際交流館

・ちりょうとかんわケアーのパラレル
・それぞれの先生の使命感が伝わってきた
・緩和ケアのエッセンス
・費用負担の現状や福祉制度
・患者さんの実例
・市民に対する講義内容について。

2 月 8 日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・当事者の声
・癌体験者の情報
・他病院での現況
・がん医療について
・Ｐｔのとらえ方
・法体制について
・患者の気持ち
・患者の生の声
・患者の体験
・Ｐｔの本音
・患者の想い
・患者さんの体験談
・医療の相談支援
・がんを体験した患者さんの講演
・がん患者自身の経験すごかった。
・患者さんからの視点での思い
・患者さんの気持ち、本音を聞いたこと
・患者の思いが伝わってきた
・患者さんの心を知ることができた
・国のがん対策、患者の意見等
・Ｐｔがどのようなことで苦しむのかを知れた
・市民や国民にどう私達が行っていることを伝えるか可視化の大切さ
・○○さんの闘病生活について話されたは会合のすべて
・患者側の目線で見える・感じることの実話。尊げん死→人間らしく死ぬということの難しさの実現を知った。

問９－３　今回のシンポジウムに参加されてのご感想をお聞かせ下さい。

記入内容（２９４件）

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・家族のガン治療に際し、少なからずも緩和ケアにたずさわった。もっと早くから知識があれば、もう少し笑ってすごせたかもしれない。今後、まだ兄弟にがん末期者がおりケアする側の緩和に対する接し方を勉強していきたい
・考えさせられる、大変良い機会でした。
・表面的なものだけでなく深くまたあたたかく真しにとりくまれていると感じます。これからも御活躍下さい
・手術後のいたみ緩和の入口がわかったような気がします
・昨夜友人から今から○○病院に転院するムネ伝えられた時、緩和ケアを充分していただける病院の方がいいのでは？と言えなかった私は今日のご講演を聞いて少し安心しました。「緩和ケア」を知っているようで実はよく知らなかった事がよく分かりました。
・この時間内でめいっぱいの情報が提供されたと思います。ただ、時々、寒くなり、免疫機能のおちている患者さんが風邪をひかないか心配しました。
・病院での「チーム治療」が行なわれている所では「最後まで治療」路線で進められていると思います。この場合は「治療の為に悪化し、その病院でなくなる」ケースが多い。本人が気はくか、「チーム治療からの緩和ケア」路線が望ましいと思う。
・がんで依がん退職を強いられるとは…！！ホスピスに入ることはインドウを渡されることと同じでは…悲しいことだ、と思う
・緩和ケアの重要性について、よく理解できました
・内服によるコントロールだけではなく、精神的なケアも合わせて治療を行っていく大切さが良くわかった。薬を上手よく使用していくことが大事なことがわかった。
・オレンジバルーンの活動が良くわかりました。患者さん本人のお話、関わっている先生方、薬剤師の方、看護師さん、チームになって活動されている方々のお話を伺えて、とても勉強になりました。
・一般市民に緩和ケアについて現状・問題点等に広く理解を深めるために必要なシンポジウムであると感じた
・がんを体験されている方の生の声を伺うことができ、たいへん考えさせられました。
・もっと多くの人々（含患者）がこのようなシンポジウムに参加できると人生が楽になるのではないかと思います。
・私はナースですが緩和ケアにかかわっていない、かかわったことがないので、詳しく知らなかったので、とても興味をもちました
・緩和ケアという言葉は聞く機会が増えましたが、具体的に何を指しているのかよくわからない部分があるので、今回のようなシンポジウムは必要だと思いました。緩和ケア＝痛みの緩和ということなのでしょうか？
・○○先生に質問させていただく時間がなく残念でした。
・この場所へ来るのも遠いので考えました。私の住んでいる街ではこの持ち物がありません。いろんな場所で開催される事を願います。参加して良かったと思っています

・もっともっと、一般市民に理解され普及していけば、と思いました。緩和ケアを提供する側（Ｄｒ、Ｎｓ、薬剤師…）の育成も進んでいけば、と思います
・治療実績だけでなく、緩和ケアへのとりくみ方も、病院を選ぶ際の大きなポイントになると思った。
・もっと緩和ケア医（専門医）が増えてほしい。診療科として地位を得られれば、なる人はもっとふえると思う。Ｎｓ．も緩和ケアをやりたい人は多いのに確立した科にならないからではないだろうか
・患者の視点からとらえた緩和ケアの現状はとても参考になりました。緩和ケア普及のために患者の声は大切だと思います。パネルディスカッションで各分野のパネリストから具体的な緩和ケアの話を聞くことができ参考になりました。
・療養型の病院に勤めていますが､高令者でＣａの末期の方の相談が増えていると感じている時に、チラシを拝見し今回参加してみました。確かに、積極的な治療が終了もしくは困難もしくは希望しない、という方が緩和ケア目的に療養型へ移ってくるケースがほとんどです。療養型では積極的な治療をする機能がないのでやむを得ないことだとは思いますが、高令者に限らず大局的に“緩和ケア”をとらえた場合、治療の段階から緩和ケアを行っていくべきという点が、目からうろこのような気付きを頂きました。
・参加対象者を限定してより実践的な内容にして欲しい。タイトルと内容があまりマッチしていないと思いました
・各講師の皆さんがそれぞれのジャンルでとてもプロフェッショナルであると感じました。そのため、講師の話の内容が濃く、興味深く聴けました。
・とても地道な活動と思いますが、大切だと思います。緩和ケアをテーマにいくつかセミナーや学会やシンポなどありますが、ここは、とても患者さんの側に立った現実的な活動をされていると感じました。
・患者会の皆様に「緩和ケア」について正しい知識・情報を提供出来ます
・患者の家族として訪問ＮＳとして本日の内容もう一度ゆっくりマンツーマンでお話をさせていただきたい気持ちでした。なぜなら先日緩和ケア病棟で他界した実母との日々、をふり返り自分自身も家族として受け入れる貴重な時間になりました。母らしい人生を終えられました。家族も絆が深まり、強く生きていこうと心にきめました。そこに致るまでには緩和ケア病棟、それにつなげてくださった方々の力がどれだけ支えてもらえたか痛感しています
・治療からの一環として緩和ケアが加わってくるといいなと思った
・緩和ケア＝がん末期というイージを医療側が作っている部分もあるように思います。今日うたわれていた初期からの緩和ケア、それに追いつける施設等の充実を願っております
・緩和ケアを終末医療と同じに受け取っているケースがまだまだ多いが、そのイメージをなくしてほしい
・医療従事者として反省すべき点が多くあると考えさせられます。すぐ明日から変えるのは難しいかもしれないけど、今、自分のいる所で何ができるか、何をしていけるか、考えたいと思います
・医療者の立場、患者の立場としての意見が聞けて良かったです。緩和ケアが特別なものとして考えられるようにではなく、あたりまえのように全ての人が選ぶことができて、受けられる事が出来るような世の中になって欲しいと強く思いました。
・もう少し具体的に紹介してほしかった。現場での活動報告など、意欲的な取り組みをしている医療機関や医師の紹介がほしかった。総論だけでなく、各論もききたい。
・具体論に欠く。患者はどのように痛みを医師に相談すればよいのか？理解のない医師が担当の場

合どうすればよいのか、どのような緩和ケアの方法があるのか？その辺が知りたかった。
・医療用麻薬は使用者（医者）の腕によって副作用の出方が違うと聞くが、その点も正直なとこ聞きたい。医療用麻薬を使えば皆疼痛からまぬがれるのか？ディスカッションの中で聞きました
・緩和ケアはまだまだ発展途上にあると思いました。もっと広くがん患者に広まればいいです。体の痛みについてはよくわかりましたが、心の痛みについてもう少しふれてほしかったです
・先づ緩和ケアについてもう少しシステマティック、概論的に説明して頂きたかった。それぞれのプレゼンをもう少し関連づけて欲しかった。（例．序論、本論、（事例等）、結論。）
・がん治療の初期から緩和ケアが出来ることを強く認識した
・緩和ケアについてもっと深く知りたかった。薬剤についても、医療関係の仕事のため土曜日が休みではないので、土曜講座が多く、中々出席できなかった。日曜日開催大賛成です
・今後もこのようなシンポジウムを続けてお願いします
・ＱＯＬの維持、向上のために必要なこと。「緩和ケア」についていろんな立場の方の声をきけて良かった
・以前からなかなか変えられない医療者の意識。もし自分ががんになった時にどんな医療者に出会うことができるのか、治療の場所を積極的に考えていきたいと思いました。又、今後いくつかの点で期待できるお話も伺えたので参考になりました。
・大変良ったです
・この種のシンポジウムには最初の参加なので、その意味では役立った
・自分の考え方、患者さんとの接し方に反省点があると考えるきっかけになりました。
・会場が寒く残念でした。
・〇〇先生のお話がとても分かりやすく楽しくきくことができ、よかったです
・さまざまな立場からのお話を聴くことができて、今、の緩和ケアの現状や求められていることがわかった。今回、シンポジウムに参加しないと聴くことができないので、とても貴重な時間となることができた
・まだまだWHOのスケールを知らない医療スタッフがいることが不思議です。
・緩和ケアという言葉やその内容は大まかに理解していましたが、今回のシンポジウムによって、より深く緩和ケアについて理解できましたし、より興味を持てるようになりました

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・緩和ケアについて、終末ケアという感じに取られていましたが終末ケアだけではなく、というのがわかりよかったです。
・ホスピスや在宅ホスピスについて、もっと知らせていかないと思う。
・現場の医師の方々が、緩和ケアに対して、ここまで真剣に取り組んでおられたのを知って、安心しました
・緩和ケアについてわかりやすく説明して頂き、とても参考になりました。
・くわしいお話がきけて為になりました
・無料でこれだけの知識が与られるのはありがたい。
・Al escuchar todo esto me da recuerdos de cuando estudiasa y de las cosas importantes como el dolor del corazon que siente cada paciente.
・緩和ケア病棟の先生が患者さんと３０分もお話されることにおどろきました。その先生と診察を受けるのはむずかしいのかなぁーと思いました（これは感想と違いますね）。緩和ケアというのは治療中の人は受けられないと思っていました
・アナウンサーたちが喋りすぎ。

・大変良かった。今後もこうした社会的イベントを催してほしいと思います。
・いままで全くしらなかったことですのでいろいろな人に知らせてほしいです
・自分又は家族がガンになった時の不安や絶望感をいやす手段があるということを知っただけでも安心できました。
・とう痛緩和の治療は、患者さんや世間的な抵抗感や誤解がもとで広く浸透していない事は以前から聞いた事がありましたが、その誤解を解いて知ってもらうというキャンペーンは意義のある事だと思います。今回は日頃聴いているラジオ番組での呼びかけで興味を持ったのですが、まず興味なかった人に興味を持ってもらう工夫が大事かと思います
・良かったです
・「緩和ケア」というものに触れられて良かったです。
・そんな運動があるのか！！とびっくりした
・まだまだ知られていない活動ですが、今後、全ての医療で必要不可決なことなのだと確信しました。
・緩和ケア＝治療しても無駄であるという誤解を自分もしていました。それが解けて良かったです。家族にもがんになったものがいるので身近なことです。
・少しだけど、緩和ケアについて知りえたと思う。でも、これってボランティア活動でやってほしいです。経済的に苦しい家では、とても医者に見てもらうなんてできないですよね。
・とてもよかったです
・地元の総合病院でプロジェクトを知り、なんかの役に立ってみたいと思った
・現場で働くお医者さんの話を聞き、がんに対する不安が和らぎました。
・左の頁までの回答はシンポジウムに参加する前の、緩和ケア、という言葉から膨んだイメージのままに書いたものです。身近にケアを受けた者はなく、あまり知識もありませんでした。今回、参加してみて、大変大きく、一力で細やかなものであることを知りました。身体と精神は切り離せないということを改めて知った思いです。
・まあまあ
・ある程度はためになった
・この様なシンポジウムに参加出来てよかったです
・緩和ケアの説明で、「あなたと一緒にいますよ」という約束しかできないという話が印象的でした（Ｄｒ．○○）
・がんの痛みには病態により痛みだけでなく、心のいたみなど様々なものがある、ということを現場でご活躍されている先生のお話しから感じました。あらゆる痛みを取る、少しでも力になりたいと思いました。もっと緩和ケアについての知識をふかめたいです。
・知っていれば、もし身近に必要な事がおきたらきっと、役に立つと思います。大変参考になりました。
・参加して、良かったと思います。母を乳ガン転移で亡くしたのでラジメニアのイベントと共に軽い気持ちで聞きにきましたが…。脳に移転した時が、見ている私と父も、一番辛かったので…。今回聞かせて頂いた事が、今後、何かの役に立ちますように。覚えておきたいと思います。ありがとうございました。
・親類等が高齢化する中、啓蒙に価する結構なお話をうかがえました。今回のお話、知人等に話させていただきます
・大変勉強になりました。
・良かったです。またシンポジウムやってほしい

・今回の事でまだまだ知らない事が分かったので、今後共、色々勉強していきたいです
・今日のシポジウム（がんの緩和ケア）に参加させていただき大変勉強になりました
・パネラーの先生の説明はわかりやすかったが、結局は医師一人々のパーソナリティにケアのクオリティが左右されると思う。自分は今までの経験から医者というものには悪い印象しか持っていないので、自分がケアを受ける立場になったとしても現状ではあまり期待できないと思う。
・近親者または自身がそういう立場になった時の方法論が見えて有意義でした
・とりあえずの大枠はわかった感じがします。がんの治療と別のものでなく、その一環として「わざわざ別に受ける」という風にはしてほしくないです
・がんに限らず、普段の生活や生き方についてもいろいろと考えるきっかけとなりました
・よかったがどこで相談するのか？
・実際の現場で仕事をしているＤｒの意見を聞くことが出来て、現状や問題点について知ることが出来た。
・見識が広がった
・もっとおもしろおかしくというか、単調な話が続いて眠たくなる。メリハリがあるというか、眠くならないよう工夫してほしい。
・知る事が出来た、その事が一番大事だと思いました。恐らく今回の内容だけでは十分な理解に至ってはいないのでしょうが。それでもいざその立場になった時に「緩和ケア」という選択が出来る様になった、それだけで非常に意味のあるシンポジウムだったと思います
・入院しなくてよい。高額医療費でおせわになれそう。あとはどの病院が緩和ケアをやってくださるのかと病院選びが大変みたい。どうしよう…
・緩和ケアの現状を知った
・専門の先生方の考えを直接きくことができてよかった。緩和ケアと精神科に近いものを感じたが精神科の医師やＮ．Ｓは関わっていないのか疑問をもった
・医療従事者の医師、看護師の方からお話を聞くことができ、緩和ケアについての知識だけではなく、あたたかい人柄も垣間見ることができたように思います。〇〇先生の『私たちは「良くする」ということは言えない。「そばにいますよ」ということしか約束できない』というお言葉が印象に残りました。ありがとうございました。親子連れの方々が座る席がなく、２階でみられていたことがちょっと気になりました。
・なやみ（痛み）を共ゆうし、共にのりこえていく事の必要さを教えていただけてよかったです。
・私は肺癌（ステージ４）診断９日にされましたが今日の話を聞き前向生ていきます。
・具体的な話が、聞けてよかったです
・参考になりました。ありがとう
・緩和ケアというものをまったくしらなかったのでその事を少しでも知れたのは有意義だったとおもう。ラジオのイベントで来たが興味深い話を聞くことができた
・私は、今回初めて「緩和ケア」というものが有る事を知りました。もっと多くの人々に私のように知ってもらえる様にして欲しいです
・良い試みだと思う
・役立ったと思います。今後回りにガンになって、緩和ケアのことがやくにたてると思います
・今ホームヘルパーの資格取得のため研修を受けているのですが、同意する点が多かったです。今日知った事を今後の研修にも生かそうと思います。
・いろいろと気づかされ参考になりました
・叔母はガンで亡くなったのですが、周囲の知人以外には秘密にしていました。現在の健康状態に

かかわらず、家族や知人と緩和ケアについて話す機会をもちたいと思います。
・いままでに知らなかった分野ではありましたが、大変に勉強になりました
・もしかしたら今後起こりうることに対して、不安が少なくなった。あとは、がん告知とのかねあいについてが課題の１つかと思う
・緩和ケア＝終末期医療ではないと言うことは、わかりました
・食道・胃・大腸と前立腺ガンを経験したが、すべて痛みを知らずに済んだ。この１２月１日に「すい臓ガンの末期」の宣告をうけたばかりで、かかりつけ医師も初めての様で、とても重要だったので今は参加した
・大変有用でした。ありがとうございました。
・本人とその家族も緩和ケアをしてもらえる事は、嬉しいです
・とてもがんのケアによる知識を得た事と思います。
・“病気に関心を向けるのは緩和ケアと”言えないという言葉が心の残りあらためて頑張りたいと思いました
・とても良かったと思う
・緩和ケアという言葉を今回初めて聞きました。痛みを和らげながら治療するという考え方はすばらしいですね
・これまで緩和ケアというのは全然知らなかったが、このシンポジウムに参加して知識が深まりよかったです。

1 月 25 日 東京国際交流館

・全人的疼痛の中のスピリチュアルペインに関する対応の仕方（コミュニケーション、薬剤）に関する内容の話が特に勉強となりました
・痛みを緩らげる方法その機疔なども具体的に示していただき、大変勉強になりました。勉強会に出たりこうしてシンポジウムに参加したりなど機会が増えることでより理解が深まると感じます。（ただ、会場が寒かったです…。これ以上寒いと風邪ひきそう…、と思うくらいに寒さを感じました。）
・基本的なことは理解できたと思いますが、いざ、実際に…となると、未だ、不明な点が多い…。やはり治療も含め、個々オリジナルな対応が必要と痛感。
・どこからどこまでが、「緩和ケア」か？はい、やります、お願いします、といってやるのも変なのだろうか…。
・死から生を考える事の重要性
・プロジェクタも使っていて、わかりやすかったです。
・高度な内容についても分かり易く発表していただきありがとうございました。
・緩和ケアというものの基本的なことが理解できました
・大変わかりやすかった
・こういう市民向けのシンポジウムを広く行っている努力にけい意をおぼえます。
・乳がんと診断された患者には、診断される時点で、「緩和ケア」に参加するようなシステムを作る
・再び、緩和チームに戻りたいと感じました。（受け入れて頂ければ…ですが）
・看護師です。大変わかりやすく学ばせていただきました。日頃考えていることがすっとふに落ち確信を持て患者・ご家族に対応できそうです。当院でも緩和ケアに対する認識はまだまだ低いですが人々の幸せのために頑張ります
・痛みの分析で説明され自分の悩みの位置づけがよく分った。

・〇〇先生の話し方が穏やかで眠くなるような感じがして緩和ケア病棟の先生なんだなと思いました。安心できる感じがしました。
・予防や早期がん治療に対しても緩和ケアは非常に有効であるということを今回改めて認識しましたが、同時にシームレス・パラレルケアをするにふさわしい地域医療連携整備がこれからますます重要になると思いました。また、スピリチュアルについても多くお話いただきとても貴重なシンポジウムでした。
・現場の緩和ケア医の方や専門の看護師の方のお話を聞くことで緩和ケアが身近なものであると思うようになりました。全国のどこの施設でも質の高い緩和ケアをあらゆる患者が受けられるように頑張っていただきたいと思います。私も看護師なので自分が関わる患者家族が安らかであるよう心身の支援ができるように頑張っていきます。ありがとうございました。
・〇〇先生のご講演は、実際にケアを受けられた方が多く出ていらっしゃり、緩和ケアがより身近かなものとして感じることができました。
・緩和ケアがどういうものか、ということだけでなく、患者さんがどういうことを考えるのかということがわかって、よかったです
・各先生方のお話で重複する部分が多くて残念でした。１つのお話をより深く堀り下げて、また伺うことが出来たら幸いです。
・現時点で自分自身、家族に癌患者がいるわけではありませんが、高齢者もおり、先に向けての心構えができたと思います。
・〇〇Ｄｒ、〇〇Ｄｒのプレゼンが面白かっただけに…。もっと〇〇ＮｓのプレゼンでＮｓとしてのこだわりや大切にしていることなど葛藤などを知りたかった。ミニパネルで一般市民の声がきけてとても勉強になった。貴重な体験談は宝物だと思いました。
・医療麻薬の教育のプログラムがスタートしたばかり。コミュニケーションまでまだまだですね。会場から出ている意見にパネラーのコメントがほしかったです。司会者のまとめ過ぎ
・病院で働いていると癌による死以外の場面も多く体験しますが、そのようなシンポジウムに参加することでどのように生きて、亡くなっていくか、考えるよい機会となりました。病気で死をむかえる時は緩和ケア！と思った。
・〇〇先生のお話が非常にわかりやすかった。がん治療を行う際に医師からこのような説明があるといいと思う。〇〇先生のまとめ方も非常によかった
・母（７９才）に対して出来るだけ痛みのない生活という事を目標としていたので、とても役立ちました。本日は有難うございました。
・当院でのＤｒは薬、テープの使い方が今いち、このようなシンポジウムに参加してほしいと思います。今日は、大変ためになりました。
・いつでも、どこでも今日、話しがあったような緩和ケアが受けることができるように、一日でも早い実現を待っています。現実に目を向けたとき、厳しい状況を感じます。
・最初の〇〇先生の話しに引き込まれ、感動しました。今回、先生の話しが聞く事ができ良かったと思いました。
・仕事上終末期の患者様やガン性疼痛と闘っている患者様と多く関わっています。緩和ケアも多々導入されてはいますが、自分自身薬だけにたよりすぎているのではないかと感じました。もっと精神面、スピリチュアル面に向き合いながら、薬のみならず気持ちの面からも痛み・苦しみを和らいでいけるよう患者様と関わっていけるようにしたい、と思いました。少しでも患者様と多くの時間を過ごし会話する機会を作っていきたいと思います。
・大切なことを大切にすることが「緩和ケア」なんだということを再認識できました。緩和ケアに

たずさわるもの自身でいやされたり、支えられたりすることが多いとふだん感じています。講演して下さった先生方もそうなのだろうとなあと思いながら聴きました
・今回のシンポジウムで市民の多くの人達にも「緩和ケア」のイメージが分かったと思います。それぞれの先生、又は看護師が分かりやすい講議をされていたと思います。
・恥ずかしながら、今日このシンポジウムに参加するまで、「緩和ケア」という単語を知りませんでした。今日の生活、その中でも、○○先生のお話は、実際の患者さんとその家族、そして医療従事者との関係・やり取りが紹介されていて、非常にリアルで考え深いものがあった。今日のシンポジウムのために、大変お忙しい中、献身的に準備して下さった先生はじめ、チームのみなさまに感謝いたします
・近年の癌Ｐｔの増加や、若年層Ｐｔの増加につれ、医療も変化してきていると思った。Ｐｔでなく人としての生き方を大事にするのが１番よいことなのだと改めて感じました。
・夫が今癌で入院中です。ＯＰも抗ガン剤もしないで克服というより共生・共存を目標にしています。これからの生き方に大きな安心と方向性を示していただき、とても有意義でした。
・アメリカ映画などで末期医療・緩和ケアの確立されている様子を知り、日本でもそうなって来たら良いと願っていました。想像以上に緩和ケアが進んでいることを知り、安心した。ただ、どこでも誰でも受けられるのでしょうか？まだ少し疑問です
・緩和ケアが大切である事は良くわかりました。しかし、まだまだ緩和ケアに対する正しい知識を私達も含め、医療者さえも持っていないのが現実ではないかと思われます。緩和ケアをもっとアピールしてほしいと思います
・緩和ケアについて知識を深められたことが良かったです
・より深く、緩和ケアの役割が理解できたと思う
・緩和ケアについては地域格差があり、医療従事者が勉強不足。自分も、もっと勉強し、ＤｒやＮｓと、Ｐｔと話しをしたい
・オレンジバルーンプロジェクトのアナウンスがうるさく感じられた。あまりにも繰返しすぎる（スクリーンに写すだけでよい）。休憩時間中ずっと流されてて不快。ほとんどはすでに知っていたことだったが、定義の変遷がわかり興味深かった
・全人的ということの大切さを実感しました。
・○○先生の講演が一番印象に残りました。パネルディスカッションについて、司会者ばかりしゃべっていてディスカッションになっていないと感じた
・がんに関連したお話を一般市民対象にも専門的にする必要がある事を感じた。具体例がありわかりやすかった
・前述のように大変有意義な時間を過ごせました。但し、私はがん患者なので、色々自分なりに知識を得ており、目新しいテーマがあまり多くなかったのが、少々残念でした。
・看護をする家族の立場から、患者にどういう対応をするか、心のケアをすれば良いのかということがわかりました。気持ちに余裕がなくなったときに、今日聞いた話しを思い出して落ち着こうと思います。実際、会場の人の話しも聞けて勉強になりました。
・疼痛治療を知って良かった。
・専門家の方々のお話は分かりやすくとてもききやすかったです。緩和ケアの正しい知識を知ることはとても大事だと思います。たとえ自分や家族に直接かかわらなくても周りの人達にも伝えることができます。まだまだ多くの人が緩和ケアに対した誤まったイメージをもっているので、このようなシンポジウムをぜひ多く開催して頂きたいです
・緩和ケアを不採算を理由に廃止した病院があります。安定した医療サービスの供給の必要性とい

う観点からも取り上げていただきたいと感じました。
・昨年、父がガンと診断され、家族として何が出来るのか、何をしなければいけないのか、なやんでいた所、このシンポジウムを知りました。これから父がどの様になっていくか分かりませんが、今回のシンポジウムに参加し、なにかひとすじの光がさした気がします
・非常に有益であったと思います
・たいへん親切な役立つ内容の催しで有意義でした。特に○○先生のスピーチの素晴しさに敬意を表したく思いました
・再度理解を深めるため聴講したい
・初期より精神、痛み的にもかかわりが必要。オピオイドを上手に使用していくことの必要性がわかりました
・○○先生の話で、痛みをガマンすると、よけいに痛くなるということを聞けた。これを知ることができてよかった
・家族の生と死に正面から向き合うことの大切さを認識しました。
・２年前の緩和ケアと今の状態がかなり進んでいる事を感じました。でももっと国をあげて進めて行ってほしい医療だと思います。
・痛みを和らげる方法は大変わかりやすかった
・いくら要点（内容）をメモしようとしても、聞きながらでは難しい。ポイント（レジメ）がほしい。
・全てのガンに関る医師が講ギをして下さった先生のようであって欲しい
・とてもよかった
・急性期病棟に働らいていますがなかなかスピリチュアルなケアを進めていけなくて悩んでいますが、１日ひとつでも自分が満足出来るケアを実践していこうと思いました
・緩和ケアが終末期医療でないことを知った。（ホスピスとは異なる）
・スピリチュアルなケアについて理解が深まった。ただ、患者へのスピリチュアル・ケアに話が集中していたように思われ、家族や患者をとりまく非家族の人達に対応すべき、取り組むべきケアについても事例報告があれば一層分かり易くなると思った。
・いろいろな情報があるなか、誰もがそれをえられるがその中で医療者からの情報というのにＤｒ、薬剤師しか提供してないのかなと思った
・大変、勉強になりました。患者様への対応など、すぐに実行できるものから早めに実施していきたいと思います。
・○○先生の講話がとてもよかったです。○○先生の「強い痛みに強い薬（→いい表現をしることができました。今までうまく説明し、伝えることができなかったから。ＮＳとしては、もちろんわかっていたけど、知識のないＰｔ・ｆａへの説明に使わせていただきます。)」という表現は非常にわかりやすかったです。ありがとうございました。
・以前のシンポジウムで忘れていたことを思い出し有意義だった。○○Ｄｒの話は２回目、○○Ｄｒの話はすばらしかった。○○さん、さらに期待しています
・心や体の痛みを緩和できるＮＳとして存在したいという思いが大きくなりました。「自分はわからないでやっている」という思いが強かったのですが勉強しながら患者さんの力になりたいと思います。
・緩和については興味がありというか、病棟、病院でも、緩和ケアチームが活躍してます。いろいろな動向についても理解できました。先生方のお話はとてもすばらしく心をうたれました。希望を持てるようにスピリチュアルな部分でももっと支えていけるようにしたいと思います。

・緩和ケアチームで活動している薬剤師です。チーム活動が行き詰まり○○先生に元気をもらいにきました。基本にもどり、様々なことに気づかされました
・実際の症例をふまえての話を聞くことができて大変参考になりました。
・症例を聞いたお話が多く聞きやすくてとても勉強になりました。ありがとうございました。
・とても良いシンポジウムだったと思います。出席させていただいて本当に良かったです。具体的なお話が聞けて特に良かったです。本日は大変ありがとうございました
・自分の日々のくらし、生き方を見直すきっかけとなった。とかく身体疼痛を緩和ケアと思いからであったが、生きる力を取り戻すための全人的ケアであることが納得できた。素直に橋渡ししてくれる医師・看護師が医療連繋の重要な役割と思う。市民は理解するだけでなく、緩和ケアを納得すれば自ら行動するものです
・疼痛を和らげることの大切さ、また、疼痛を和らげる方法を知ることができ、勉強になりました。現在、製薬メーカーで鎮痛薬の開発を担当することになり、本シンポジウムに参加しましたが、その責任の重さを痛感しました。
・スピリチュアルケアの話はちょっといや
・○○先生のお話に感動し心から賛同致します。（ご３人方のパネリスト）素晴らしいスピーチ感謝です
・○○先生の話しはとても心にしみわたってきました。○○さんの話は、Ｎｓがどう関わってくれるのか、どのような制度があるかを分かりやすく話して下さり、訪問看護を行っている私は、とてもうれしかったです。○○先生のコミュケーションの基本は感情！！本当に強くうなづきました
・がんで入院治療中の夫に、少し希望が持てるようになりました。患者に対する接し方を変えなければと大変勉強になりました。
・大変良かったです。ありがとうございました。
・ターミナル期のＱＯＬを上げる事に緩和Ｃａｒｅがこんなに役立つとは知らずに来た。今日は来られて大変良かったです。
・心のケアに関心があるため講演はものたりなかった。ケースの紹介の時ももっと患者自身の発言を取り入れて紹介してほしい。客観的な紹介だと心に響かない。パネルディスカッションは司会の○○さんの意識が現実に即していて取りまとめの進行に納得できた。もっとパネルディスカッションが長くてもよかった。各先生とも講演時よりよかった。会場で配布されていたマンガに出てくるがん患者がすごく弱々しい老人に描かれていて不快に感じた。
・終末期の往診での担当医や看護師のすべての人がスピリチュアルケアのスペシャリストであって欲しいという思が残った。積極的治療を希望する初期で緩和ケアを受ける自身の心の持ち方のむずかしさを感じる
・父（８１才）のケアについて知りたく、このシンポジウムに参加しました。実際には自分自身のケアに大いに役立つと思いました。手術後放射線、化学療法、現在ホルモン治療中です。再発、転移の恐怖があり、生き方について色々考えさせられました。
・とてもわかりやすく、心に響くお話で、良かったです！
・私は病院の中で緩和ケアチームに入っていますが、一般の看護師の意識や知識もまだまだ不足していることを感じます。もちろん、私自身も不足を感じていましたが、「痛み」についての情報を得ることができ大変勉強になりました。医療者と一般の市民の方の意見をきけてよかったです。
・「がんの痛みが強い＝悪い」のではない。一人一人痛みの感じかたが違うから「痛い」時は「痛い」、そう言ってよいのだと。患者さんは安心すると思ます。私たち医療者にできることは「患

者さんの思いに尽す」ことだと今日の先生方の話から思いました。
・言葉は知ってましたが、ある程度知識を得る事が出きた
・先生方のお話は、貴重なお話ばかりでした。日本のすべての先生（ドクター）が今日お話して下さった先生（ドクター）の方ばかりだと幸せな事（国）だなと思います。今の日本は悲しいけど、今日のドクターより、利便な事や自分勝手なドクターばかりだと思います
・〇〇先生のお話がとてもよかった。〇〇さんも。ドクターやナースは、あくまでも医療の専門家であって、人の生き方について他人に説くことができる専門家ではないはず。人生については個人個人が自分の人生の専門家なのであって医療者も患者も家族も対等。だから生き方についてドクターやナースに説教されたくない。「希望を支えたい」「本音を話してもらいたい」「患者の心にむきあいたい」なんて大きなお世話だ。全人的ケアも心理支援も結構だが、人生訓を説かないでほしい。〇〇先生の話は、〇〇先生自身が人々からなにを学んだか、という話であってほしかった。「not doing but being」と言う意味は、医療者はそこにいる“ｂｅ”ことしかできずなにもできないのだというけんきょな原点を示している。“ケア”しているというおこがましさをやめてほしい
・大変よかったです。これからのＣＭの仕事に役立てたいと思います。ありがとうございます
・初めて参加させていただきました。家族にはがん患者はいませんがとても身近に感じました。もし、身近にそういった人がこれから先、できたとしたら、今日のセミナーを思い出し接したいと思いました。それとは別に、今自分が健康でいられる事に感謝しました。少しでもそういった方の力になれるよう生活して行きたいと思いました。→〇〇県内、来年学所、ケアマネ。
・もう少し具体的な話をして欲しかった
・場所が遠い気がします。ゆりかもめに駅員がいないので、何かあったら（参加しようとする患者に）困ると思いました。
・〇〇先生のお話に感動しました。乳ガン、全摘手術後３年近くになります。再発を怖れています。同時に、夫との間に問題をかかえています。しかし先生のお話をききながら、もっと、自分の今までの人生、これからの人生を考えようと思いました。アメージンググレースをききながら涙が出ました。
・友が肝がんで〇〇センターでお世話になった。Ｓｐｅａｋｅｒの方々のような素晴しい医療者だけではなく、治療途中で放棄され、がん難民となり〇〇、〇〇、〇〇と転々とし、その間、彼の痛みは激しいものだった。最後は脳転移→昏睡で、破裂して亡った。現場のＤｒ．次第で緩和ケアの質があまりにも違う。一日も早く、緩和ケア専門医を多く育てていただきたい。
・〇〇先生の緩和ケアの姿勢に素晴しいと感動しました。
・実際の患者さんの実例を伺えて、具体的なイメージがわきやすく、ためになりました。
・基調講演１―〇（感情）、２―△（現場）、３―◎（学問）この組み合わせは良かった。緩和ケアの最後の遺族ケアについての説明がほしかった。死亡する事で全てＳＴＯＰの現状
・今後の自分自身の癌治療方法方針を立てるのに有効であった。
・全人的苦痛についての知識を得る事ができました。「価値感を大事にし、希望や目標を一諸に探す」
・資料（パンフレット類を含め）をもっと提供してほしかった。
・誤解と言いながら、ターミナルケアを連想しました
・命の大切さ、重みを考えさせられました。
・大変役に立ちました。痛みについてが一番の心配でしたが痛みに合せて薬は使ってもよいという事を聞き少し安心しました

・私達の住む地域での緩和ケアの普及は、私達の手で行いたいと思いました。病院でしていることを地域の方々へ伝えていきたいと思います
・医学知識をもたない「市民」に対し、どのレベルの話をしたらよいのか参考になった。
・現在、地元の大手病院で良い治療を受けています。満足しています。しかし病状が相当悪化しないと、チーム医療の話も、緩和ケアの話もありません。地元に在宅緩和ケアの体制があるのか、まだ不明です。本日は理想的な緩和ケアの話をうかがいましたが、非常に限定されたサービスなのでは…と思います。
・緩和ケアは痛みをとるためのものであることは、情報として知っていましたがこころのケアが共に入ることは知りませんでした。実際今かかっている病院では、どこまで、緩和ケアを受けることができるのかたずねるきっかけになると思います。
・パネルにより症例が示されたが、更に部位ごとに紹介されればよかったのだが…
・医師がスピリチュアルケアやコミュニケーションを、私の想像以上に大切にしていた（こだわっていた）ので、ちょっと驚きました。
・だれかの役にたちたいと思うようになった。今、お友達が乳がんで治療中なので何か役立つことが出来ればと参加。県外より来て良ったと思います
・緩和ケアのことを詳しく知ることができました。患者さんの人生を感じさせて頂きました。
・私自身も医療者の一人として今后、緩和ケアをどう取れ入れていったらよいのか、どう向き合っていけばよいのか改めて考える機会となりました。
・大変勉強になり、はげまされました。
・わかりやすくてよかった。スピリチュアルに関しては難しい。一般病院に勤務しているＤｒの緩和ケアに対する知識は非常に低いと思う。医学生や研修医の教育は行っていくにしても現医師などはどうしていくのか？
・現状を知ることはできたが､今後具体的にどうしたらよいのかということはよくわからなかった。
・緩和ケアでの実際の患者さんの話や、痛みについてなどいろいろな話がきけてよかった。
・今回、どの講演においても、スピリチュアルケアは重要な項目として、挙げられていたが、日本人の原教観や個々の宗教観がベースとなるこの痛みに対するケアについて、医学だけでなく、宗教学など他の分野からの意見もとり入れて検討していく必要があると思う。他のケアのように学校等で教育され、習得する「専門的ケア」とは違うと思うので、慎重に確立していって欲しい。
・緩和ケア＝終末医療と考えていました。今回、緩和ケアの正しい知識を少しですが知ることが出来、よかったです。特に、○○先生の講演は素晴らしかったです。私は現在、大学３回生で、看護の勉強をしていますが、将来はがん専門看護師になりたいと思います
・今回講演して下さった先生方みたいな医師、看護師であって欲しいと思います。現在の診察は、患者の目線でというより、パソコンのデーターを、のぞきながらで患者を見てくれ、長い間待って、２～３分といった感がある。ガンに限らずやはり病人を安心させる診察を望みたい
・緩和ケアの定義、痛みを和らげる５つの方法、ＷＨＯ式疼痛治療法等のメインなものについては印刷した資料として欲しかった（ＯＨＰだけでは記帳する時間が足りない。カメラで写す者が多くフラッシュが邪魔だった）
・どこに住んでいても身近な病院・在宅で緩和ケアがうけられるようになるといいと思いました

２月７日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・受講（参加）してよかった。感謝
・情報の収集に役立ちました
・市民講座の内容が濃くはじめてのシンポジウム大変よかった。ご講演、体験で談よかった

・患者さんと家族、医療者がともに変わるためにも、今後もこのようなスタイルを取り入れていただきたい。様々なニーズとその制約の中で一人一人最大限の力が発揮できるように願っています
・がん患者への「社会的痛み」の是正も大切。
・今回の○○さんの体験談は、患者側・医療者側との人間としての接し方を、お互いの信頼関係が持てるよう、お互いが頑張らないといけないと感じた。（双方の気持ちがわかり合えたら素晴らしいと思う。そして、良い方向へ向かえたら、更に素晴らしいと思う。）
・人間を尊げんする
・「国民が声をあげていけば医療の改善を」本当にそう思います。（外来看護師は看護料にならないのでどんどん手薄な状況です。１００人のＰｔに対応しているＮｓに声をかけられないＰｔはたくさんいます
・参加者が少なかった。もっと広報すればよかったのでは。
・○○のがん医療、看ゴをもっと盛り上げて発展させ、研究発表を多く出すよう願う
・実体験等が聞けて、あらためてＰｔと接する際言葉づかいや対応に十分気をつけてしていかないといけないと感じた。忙しい中で忘れがちになることが多いため、Ｐｔが少しでも不安を軽減できる様、気持ちを表現できる様環境づくりを行っていきたい
・よかった
・わかりやすかった
・○○さんの講演を聞いて医療従事者の１人として、今までの自分を振り返えり患者様の対応に対して、もっともっと患者様に寄りそう人間対人間の看護の重要性、必要性を再確認する事が出来ました。ありがとうございました。
・一人の人間をそん重するあたり前の事を関わり方の大切さを痛感した。
・対談のテーブルのレイアウトですが患者ＶＳ医師、看ゴ師という雰囲気を風船をはさむことで生み出しているなと感じました。もう少しレイアウトは考慮してもよいのかなと思いました。
・医療現場の方と、患者や家族のコミュニケーションというか声を出す事の大切さ。患者の立場の考えをしっかり持つ事の大切さ
・痛みを持った患者に対して少しでも役にたてる思いやりをもったＮＳになりたいと思います。患者さんの感じる事、希望することをどんどん医療者が知ることができる場は必要と思います
・がんｐｔの生の声が聞けたことがとても貴重でした。特にＥＮＴ后の生活の話が…今までなかなか見えない部分だったのでこれからもっと目を配って見ていきたいと思いました。
・ガン医療を働きかけが人生をかえられる事を知った
・がん看者の体験された話を聞くことが出来ありがとう
・勉強なりました。ありがとうございます
・参考になった
・緩和ケアーのあり方を患者を取り巻き介護看護する家族へも充分に理解してもらう事も大切だと思います。緩和ケアー病棟で家族がおろおろしている様子がありました
・日頃から疑問に感じていた事も解決でき、患者、医療従事者のそれぞれの立場から意見や考えがきけ、今後の看護に活かしていきたいと考えます
・“患者さんの声”心に痛くひびきました。医療の現場を反省しつつ、人としてかかわり人として尊厳を持ち、更に専門的な介護（？字が雑で解読困難）が必要であります
・時間が短かかった
・がんに関する法律が制定され、国の責務が明確化されたこと。住民・患者・家族に希望がもてるのでないか。がんは治らない治りにくいという認識が変り、自分の健康を自分で作っていく気持

は強くなった
・〇〇さんの医療者への意見ありがとうございました。がん医療に係わる看護師として心をみがいて行きたいです
・患者さんの声を実際に聞いて患者さんの思いを理解でき良かった。
・Ｐｔの声はいいですね！
・参加してよかったと思います。緩和ケアという言葉は始めて知りましたがガンと云われ１４年位なりますが、最近ある病院で間違った診断をされて、（大きなガンが発生していると云われて）長い間心理的にまいりました。ガンと云う言葉は医者は簡単に云うべきではないと思う
・患者さんの生の声をストレートに素直に話された事に感めいを受けました。医療者の１人としてフィシュデスカッションに期待がもてました
・Ｐｔの本音を聴けるというのは、看ゴの姿勢・態度をもう一度見直すためにはとても重要かと思います。個人の問題ではなく、Ｎｓ全体の問題として考え、今後も取り組む必要性を実感します。ありがとうございます
・基本法が制定され平等に治療が受けられるようになって来た。〇〇は陸つづきでない分、地域的な差別があると思う。どうしても本土に行かなくてはならない状況もあると思う。
・市民がもっと参加することを望みます
・患者さんの声が心に響きました。患者さんや御家族に寄り添い、支えるケアをしていきたい
・２題目の、〇〇さんのお話しは、現実に同じ場合を体験されている方が多いです。告知はするけど再発転移は、中々本人へ伝えない現状があります。また、看護師も多忙勤務の中、つい感情を現わしてしまうこともあります。本当にその点を改善しなくてはいけないし、職場環境の改善が必要だと思いました。一度の改善は難しいですが１歩１歩進んでいると思います。
・短い時間で、国のがん対策や患者さんの立場でのご意見等とてもよかったです。当日のプログラム、講師のプロフィール、配布資料があるともっと良かったです
・患者さんの思いを聞くことができたと思いますが…。現場のＮｓ、Ｄｒは業務におわれていて、「自分が患者だったらどうしたいか、家族がそうなったらｅｔｃ」「どうしてほしいか」を考えて対応することが大切だと思いました。
・業界用語で何で（ｎｅｔとか）調べたらわかるかなども教えてほしい。
・〇〇さんの体験や話は心に残り、また勉強になった。〇〇さんのコメントが上から目線で聞きずらかった（Ｎｓに対するコメント、〇〇さんに対するコメント）。
・〇〇さんの体験。共感を得る場合が多々ありました
・何年か前に〇〇さんの講演を聴いた事があったが今回元気な姿をみて、嬉しく思いました。
・緩和ケアについてあらためて考えることができて良かった。自分の日ごろの対応についても考えることができた
・大変良い勉強になった
・一般講演会だけ参加したので、もの足りなかった
・市民公開講座というよりは、医療者むけの講座になっている感じがした。
・お金が充分にあり、人手が充分にあり、そうでないとがん患者の期待の為にとかできないのでしょうか。私は医療、看護における態度、モラルの取組が今も重要と考えます

問９－４　今後、シンポジウムで取り上げて欲しいテーマがありましたらご記入下さい。

記入内容（１４７件）

10 月 26 日 東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞﾎｰﾙ

・問４－１の１～９
・精神腫瘍科の先生のお話をききたいです
・在宅緩和ケアでは実際にどこまで対応できるのか（最近は看取りまで対応できる在宅医とそうでない所の差が大きい。在宅療養支援診察所だとしても。）
・私は高齢者で、ガン友も多くいますが、病院まかせで最後まで治療の方が殆んど。しかし、若い方の場合はチーム医療～緩和ケアで十分に対応出来る体制にして上げたく思う。地域の緩和ケア体制の現状等が知りたい。
・小児についての緩和ケア、院内学級について
・重粒子線での治療法、その保険適用への手段。
・在宅医療について、病院から在宅へスムーズに移行出来るノウハウについて
・ＮＳＴについての現状を教えて下さい。緩和ケアの中で食（事）をどうするのか、ＱＯＬのいちばん大切な点です。
・もう一歩踏みこんで、具体的な緩和ケアの方法・症例を紹介する機会があればいいと思います。薬の使い方等。各々の経験に基いての知識・関心で参加されている方が多いと思いますが、様々な部位のＣａや症例を知ることで、理解が多角的になると思います。
・シンポジウム参加対象者を限定してより専門的な内容を伝えた方が麻薬に対する偏見はなくなるのでは？と思います。
・医療費等、経済的な観点についてもとりあげでいただきたい。
・緩和ケア第２弾をやってほしいです。
・なぜ普及しないのか、のバリアを明らかにしてほしい（死生観とか麻薬に対する拒否感とかソフト面じゃなくて。）
・「前立腺がん」や「転がん」などについて。「がん」治療中や「その後における好ましい食生活や心のケアなどの問題について
・地域にこのような活動セミナーを普及してもっともっと１人１人が理解活用していけるような身近なものなるようなテーマ、で必要な情報が手に入るには　など
・こころをケアするということに大変興味をもちました。患者様が病を受け入れるまでに経験される様々な心の痛みについてお話いただけると参考になります
・心のケアについて、死生観について、緩和ケアの実情（問９－３のような）、治療法、薬の種類、薬の効く仕組も知りたい。
・症状を緩和するのに麻薬以外の方法
・日本の現状と海外の事例の比較
・緩和ケアの具体的内容（麻薬の種類やその他の方法）について教えてほしいので、それに関するセミナー
・在宅での緩和ケアについて
・「乳ガン」に関しては多くの情報があるように思われますが、『卵管ガン』についても是非取り上げていただきたいと思います。
・緩和ケアに従事する医療者の意識を変える為にどんなことが必要なのか

・内容をより深めて取り上げてほしい
・在宅での具体的ケアを教えて欲しいです。
・代替医療の関わり方について具体的なやり方をご提示頂ければと思います
・胃がんについて
・医療者、患者の立場から、これからの医療について、行政に対し求めること、とは
・WHOには疼痛のくすりの他に鎮痛補助のくすりを適応外でつかうことがあります。これらについても認可がとれればもっと痛みをとることができるのにと思います。

12 月 21 日 神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ

・地域の医療についてどのような方法があるのでしょうか
・やはり気になるのが費用…どのくらいかかるのか取り上げて下さい
・緩和ケアを受けておられる方の体験談などを聞いてみたいです。
・心のケアーに関する知識。家族の協力に付いてのシンポジウム
・Como podemos nosotros como familia del enfermo ayudar Doctor para que se le haga mas fa ‘al el tratamiento del enfermo.
・どんな人が緩和ケアを受けることができるのか？
・抗がん剤治療について
・オレオレさぎやねずみ講等、若年者達も引っかかる犯罪についても、注意をうながすイベントを行なってほしい。
・どのようにしたらサポートできるか（家族などが）ということ
・笑いと病のかんれんせい
・今後、医療ごとで必要とされるケアの方法や、活動の広げ方の考え。
・“ガン”とのつきあい方。お薬の飲み方で治り方が違う。どこに行けば、緩和ケアって受けられるの？
・現在病の一つである。うつや、心身疲ろう
・コミュニケーション方法について（音楽・芸術など）
・こどもの成人病
・このような為になるものであれば何でも
・もっともっとホスピスの充実とコストをやすく。
・在宅ケアについて、もっと知りたいです
・患者さんの体験談のようなものをききたいです。
・やはり、病気関連の事。あと、自分自身が長期のウツ症状で働けない状態が続いています。母が亡くなってから、発症して（祖母が亡くなり、祖父が亡くなり…）５年半になります。精神障害者手帳、障害基そ年金を取得しました。[精神的な病]は目に見えないぶん、誤解と偏見（結婚や仕事についてナド）もたくさんあります。その事について、取り上げて頂ければ嬉しいです。
・地域で医療ケアをうける際、具体的にどのようにすれば良いのか教えてほしい
・緩和ケア体験者の談。
・就職について
・本人以外（家族）のための心のケア
・実際のそうだん例を聞きたいです。
・さらに活動が進んでけば、実際の体験談などの紹介（患者ご本人が難しければご家族）
・終末期医療、ホスピスについて
・郊果の報告

・“医師が取り組む緩和ケアとは”
・心のケアについて
・まずは緩和ケアという言葉とどういうものかということを中心に広げていけばいいのでは

1月 25日 東京国際交流館

・医療者のチーム医療での各分野での役割分担を知りたい
・患者さんの実際に体験されたがん治療、家族との関わりについて
・偏りが生じてしまうかもしれませんが、それぞれの宗教観からの、生きる意味と死の考え方についてほり下げて説明して頂けるシンポジウムがあれば興味深いです。
・患者さんの闘病記録について
・患者の家族のケアについて
・がん全体の話
・５年間で１０万人の医師への緩和ケアの教育がどこまで進んだかなど、データを示し、完遂するようお願いします。チーム医療の実際を知りたい
・乳がん、特に、再発・転移のがんと「緩和ケア」
・在宅ケアについての情報があれば良いと思います。
・心のケアについて。最後まで希望をもって死ねるような心の持ち方についてなど。
・海外で行われている緩和ケア・ホスピスケアの実情についてききたい。小児がんの緩和ケア・ファミリーサポートについて
・看護師を対象とした研修・勉強会を是非お願いしたいです。緩和ケア、心身の支援の実践的な方法、症状のメカニズム、薬剤についてなど
・家族看護。在宅で最期を迎えることの素晴しさ（まだまだ在宅で最期というのは現実的には難しいので)
・困難と感じた症例の検討会をとりあげて欲しいです
・患者さんだけでなくその家族に対する医療者の関わりが知りたいですね。例えばグリークワークなども関わりも知りたいです。
・どこに相談したらサポートしてもらえるか、どんな相談があって、どういう効果があったか発表してほしい。
・スピリチュアルな面でのケアを重点的に取り上げてほしい。宗教感が薄い民族なので、多面からのケアが必要なのではないか
・在宅で出来ることをくわしくお話していたゞければと思います。
・医療側から情報を伝える伝達の仕方を知りたい。連けい室、相談室からのアプローチの仕方を知りたい。かんわチーム、ＤｒからＤｒ同志のかんわの入り方だけでなく連けい室から発信できる方法、Ｄｒ以外の場所からの
・もう少し自分に身近かに感じられる、上手にがん治療をするための緩和ケアについて知りたいと思います。
・病院でもなかなか話しあえない性の問題。病気になったら“治療が一番”と思うけど、いやいやその後にたいへんな性の問題があると思うが、手がつけられない
・「こころのケア」や「死の教育」について拝聴したいです。
・書類に書いてあることではなく、症例をたくさん出して、それについて議論してゆく。実際の医者と患者、看護師と患者、医者と看護師等、気持ちのすれ違いを正直に話して欲しい
・①緩和ケアを不採算を理由に廃止した病院があります。安定した医療サービスの供給の必要性という観点からも取り上げていただきたいと感じました。…病院の経験者へ行政担当者をまじえた

緩和医療のあり方②家族が担い手となった緩和ケアの方法
・緩和ケアの中のスピリチュアルペインへの対応など細かなポイントに合せたものも良いかと思います
・麻薬投与によるリバンドはない。薬理的特徴
・国内のホスピス施設数が少ないという問題について公的並びに民間で、この問題を解決する全国的な活動
・地域との連携、介護保険やホスピスなどの内容や実際面でのかかわりなど、専門職を対象としたものをもっと取りあげてほしい
・在宅支援について。病院←→在宅の連携について、患者の不安がないように自宅―病院のつきあい方など
・緩和ケアを進める地域連携体制について
・スピリチュアル・ケア
・具体的に事例研究の中から、深層心理的な取り組みがあれば、より理解が深まる
・心のケア
・音楽・アロマ療法等
・医療側と患者を含めた一般の人たちが意見交換できるような会
・痛みをしんしに受けとめ実際に緩和できる技術をもったＤｒ、Ｎｓがふえるようなシンポジウムをおねがいします。知識はあっても実際に緩和できないＤｒ、Ｎｓがまだまだ多いです
・予防的緩和アケ～末期の苦痛に対する具体的対応、緩和ケアについて
・スピリチュアルペインを緩和することが、希望が生まれると思うから緩和ケアが重要であることを、今後共強調してほしい。市民が最も理解しやすく、求めていることではないか。〇〇先生のメッセージ「メメンドモリ」
・①疼痛に対する東洋医学的アプローチと西洋医学はアプローチの違い、効果の違い、差などをテーマにしてほしい。②民間療法の是非について教えてほしい
・１．スピリチュアルケアに絞ったテーマ。２．末期ガンをテーマに。
・在宅医療でのがん患者さんのサポート、又、通院治療を含む連携医療について
・サプリメントでの緩和方法
・緩和ケアと家族、在宅緩和ケアと介護
・心のケア
・これから治療をする方々に、がんの治療を緩和ケアを含めて、広めていただきたい。病気の種類、症情もさまざまですが、スピリチュアルな面は共通していると思います。
・家族のケア（ファイナルケア）について。告知直後のケア、コミュケーションについて
・今後のドクター〈病院〉のあり方（⇒たらい回し等問題）／自分にあったドクターの選び方
・がんの医療費の問題。がん保険に入っておくことは得か？
・在宅緩和ケア、ギアチェンジ、意志決定
・家族との関係がうまくいっていないとき（発病前から）の心のケアにも言及してほしいです。世の中は「家族は必ず、患者のことを心配し、患者を支える」と考えているようですが、そうではないこともあります。
・医療従事者との信頼、がん治療の費用
・是非このようなシンポジウムを県単位で開催することを希望します
・経済的部分に関するもの―治療方法の選択との相関
・癌の種別毎の対応等。例、食道ガンの資料が少い

・個別の質問時間を多く設けて欲しい。
・在宅緩和ケア
・医療業界の経営面からの見解について
・地元での、在宅ケアが一番のぞましく思います。インターネットで情報や連係をとる方法など、教えてほしい
・医療者との上手なコミュニケーションのとり方
・地域での連携の実際を取り上げてほしいです。現在、クリニック勤務ですが、何をどこに相談していいのかわからずにいる患者さんが多くいらっしゃるので。
・家族とのかかわり方（看護師）
・ホスピスや緩和医療を受けれる病院の紹介。終末期も大事だが「がん」になった初めの段回で患者が冷静にうけとめて対処できるようにするための運動などもしてほしい。
・様々な分野の方による「日本人のためのスピリチュアルケアについて」というテーマ。
・今回、たくさんの事例を紹介していただいた中で直接、患者さんの体験談を聞けたら…と思いました
・日本全国の地域別の施設を細かに伝えて欲しい
・緩和ケアが必要な各ガンの具体的な進行度における病状

2月7日 沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ

・在宅ケアーの方法
・病気にならない体、未然に防げるものはないのか、笑顔いっぱいの元気な話題もほしい。
・患者さんが看ご師に求めるもの
・スピリチュアルケア、家族ケア、グリーフケア
・スピリチュアルケア
・患者だけでなく家族もサポートしていくとりくみ
・行政、政治、社会に呼びかけを
・がん難民について
・心のケア
・家族を含めての緩和ケアーの取り組み、スピリチュアルケアーの方法
・今日のような“患者さんの声”
・がん医療における地域連携
・外来でのケアについて
・もう少しマイクがはっきり聞えたらと思います。少し難聴のせいもあるとは思いますが…。マイクに声を近づけて…、もう少し大きく…、お願い…
・市民参加型の会を全国的に展開して下さい。期待しています。私もその１人としてとりくみます
・テーマとしては、新たなものよりもこの内容のくり返しも必要かと思いますし、資料があってもよろしいかと思います
・地域…在宅ケアの実際が知りたい。できれば自分の家でみとり、みとられたい
・しばらくこのテーマで続けて欲しいです
・県のがん対策やがん検診、予防の面も含めて、がん対策。地域がん拠点病院、がん相談支援センターの役割、現状。「緩和ケア」の内容、具体的に一般住民にもわかる説明。在宅での緩和ケア
・公開講座からの参加者に対するサービスがない。スケジュール表、パネラー名など書いたペーパーがない。あるのはアンケートだけ。？？？
・患者会の紹介

Ⅳ　調 査 票（郵送調査用）

［ 単純集計結果付 ］

一般市民を対象にした「緩和ケア」に関する認識度調査

質　問　紙（調査結果の%付）

※　nに表示のないところは2,215（人）を基数とする。
※　数字は%である。

【ご記入に際してのお願い】

1）宛名の方ご本人がお答えください。

2）ご記入は質問の番号にそってお願いします。

3）一部の方だけにお答えいただく質問もございますが、その場合は、(…の方に)
といった指示があります。

4）お答えはあてはまる番号に○印をつけてください。

5)「その他」に○をつけられた場合には、(　　）内に具体的にご記入ください。

6）ご記入は鉛筆または、黒・青のペン、ボールペンでお願いします。

7）記入上おわかりにならない点などがありましたら、下記の**新情報センター**まで
お問い合わせください。

ご記入いただきました質問紙は、**１２月１０日（水）まで**に返送用封筒（切手貼付済み）にてご投函くださいますようお願い致します。

平成２０年１１月

【調査主体】　NPO法人日本緩和医療学会
厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業 Orange Balloon Project」
調査責任者：内布敦子（NPO法人日本緩和医療学会理事）
（兵庫県立大学看護学部教授）

【調査実施機関】　社団法人　新情報センター
（問い合わせ先）　○○○○○○○

最初に、あなたご自身のことについて、お尋ねします。

問１－１　〔ご 年 齢〕

□□ 歳

２０代	8.1	６０代	22.2
３０代	14.8	７０歳以上	18.1
４０代	16.3	無回答	0.9
５０代	19.6		

問１－２　〔性　別〕

1	男　性	43.5	2　女　性	56.0	無回答　0.5

問１－３　〔お住まいの都道府県〕　あなたが、現在お住まいの都道府県はどちらになりますか。

（　　）都・道・府・県

北海道・東北	12.4	中国・四国	10.3
関東	30.6	九州・沖縄	10.2
中部・北陸	18.9	無回答	0.9
近畿	16.6		

問１－４　あなたは、がんを経験されたことはありますか。（○は１つ）

1	は　い	6.5	2　いいえ	93.0	無回答　0.5

補問１　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）　n=145

一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。（○は１つ）

1	６ヶ月未満	5.5			
2	６ヶ月以上１年未満	6.2			
3	１年以上３年未満	18.6			
4	３年以上５年未満	18.6			
5	５年以上	44.8			無回答　6.2

補問２　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）　n=145

あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。（○は１つ）

1	は　い	19.3	2　いいえ	77.2	無回答　3.4

問１－５　あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。（○は１つ）

1	は　い	38.4	2　いいえ	57.1	無回答　4.5

問１－６　あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。（○は１つ）

1	は　い	5.9	2　いいえ	89.6	無回答　4.5

次に、あなたのご家族について、お尋ねします。

問２－１　あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。（○は１つ）

1	は　い	43.1	2　いいえ	56.4	無回答　0.5

補問１　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）　ｎ=954

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

回答計＝124.2

1	（あなたの）配偶者	17.6	5	（あなたの）孫	0.4
2	（あなたの）子ども	1.9	6	（あなたの）祖父母	27.8
3	（あなたの）親	52.2	7	その他	8.5
4	（あなたの）兄弟	14.9		無回答	0.9

補問２　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）　ｎ=954

ご家族の方で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。（○は１つ）

1	は　い	42.9	2　いいえ	54.7	無回答　2.4

緩和ケアについて、お尋ねします。

問３－１　「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は１つ）

1	言葉を知っていて、その内容も知っている	23.1			
2	言葉は知っているが、その内容は知らない	33.3			
3	言葉もその内容も知らない	40.3		無回答	3.3

補問１　（問３－１で１「言葉を知っていて、その内容も知っている」、２「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に）　ｎ=1,249

「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになられましたか。（○は１つ）

1	インターネット	2.4	6	勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	2.8
2	新　聞	28.0	7	医療者	12.7
3	テレビ	40.7		（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）	
4	ラジオ	0.2	8	知　人	5.2
5	ポスターなどの掲示物	1.7	9	その他	4.7
				無回答	1.5

問３－２　「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。
「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（○は１つ）

1	がんの治療中から受ける	58.6	3	終末期になってから受ける	8.7
2	がんの治療が終わってから受ける	2.4	4	わからない	24.0
	無回答	6.4			

問３－３　お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。（○は１つ）

1	はい	21.9	2	いいえ	76.4
	無回答	1.6			

補問１　（問３－３で１「はい」をお選びの方に）　ｎ=486
「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（○はいくつでも）

回答計＝188.1

1	病院・診療所	48.1	4	在宅療養（往診、訪問看護）	23.3
2	緩和ケア病棟	54.9	5	医療機関であればどこでも	8.2
3	ホスピス	52.5	6	その他	0.8
	無回答	0.2			

問３－４　あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は１つ）

1	周囲の人のほとんどが知っている	4.7	3	周囲の人のほとんどは知らない	45.3
2	周囲の人のいくらかは知っている	44.7		無回答	5.4

問３－５　あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。（○は１つ）

1	周囲に緩和ケアを受けた人がいる	10.1			
2	周囲に緩和ケアを受けた人がいない	28.8			
3	わからない	58.5		無回答	2.6

「緩和ケア」情報についてお尋ねします。

問４－１　あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何ですか。（○はいくつでも）

回答計＝422.8

1	がんの治療方法について	47.2			
2	がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報	47.9			
3	がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報	41.5			
4	不安などのこころの問題への対処法について	50.8			
5	医療用麻薬の効果や副作用について	40.9			
6	緩和ケアを受けられる施設について	57.1			
7	緩和ケア病棟の診療費や入院費について	56.7			
8	自宅での療養方法について	41.7			
9	地域の相談窓口について	30.2			
10	その他	2.2		無回答	6.7

問４－２　「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
（○はいくつでも）　　回答計＝299.1

1	身近な医療者（医師、看護師など）	56.3	7	ビデオ、ＤＶＤなどの動画映像	6.4
2	病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）	51.6	8	図書館	3.5
			9	書籍（雑誌含む）	12.4
3	インターネット	39.6	10	ポスターなどの掲示物	11.5
4	新　聞	32.5	11	自治体などの窓口や広報誌	22.8
5	テレビ	40.8	12	勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	11.4
6	ラジオ	6.5	13	その他　0.9	無回答　3.0

医療用麻薬という言葉についてお尋ねします。

問５－１　がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。（○は１つ）

1　は　い　74.8	2　いいえ　24.0	無回答　1.2

問５－２　あなたは、がんの痛みの９０％は医療用麻薬によって取ることができると言われていることをご存じですか。（○は１つ）

1　は　い　33.6	2　いいえ　65.1	無回答　1.3

問５－３　あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。
（○は１つ）

1　強い抵抗がある　3.2		3　あまり抵抗はない　34.5		
2　やや抵抗がある　29.4		4　抵抗はない　29.3	無回答　3.6	

「オレンジバルーンプロジェクト（ Orange Balloon Project ）」という言葉についてお尋ねします。

問６－１　国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。（○は１つ）

1　は　い　3.4	2　いいえ　95.3	無回答　1.3	

補問１　（問６－１で１「はい」をお選びの方に）　ｎ＝ 75
「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになられましたか。
（○は１つ）

1	インターネット	14.7	6	勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	6.7
2	新　聞	24.0	7	医療者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）	20.0
3	テレビ	20.0			
4	ラジオ	－	8	知　人	－
5	ポスターなどの掲示物	6.7	9	その他	8.0

緩和ケアの考え方やイメージについてお尋ねします。

問７　次の「緩和ケア」について書かれている（ア）～（ケ）の各文章を読んで、あなたのお考えに近いものに○をお付けください。

（ア～ケまで、それぞれ○は１つずつ）

		正しいと思う	どちらともいえない	間違っていると思う	無回答
ア	緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する	1 80.7	2 13.9	3 0.8	4.7
イ	緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる	1 68.2	2 22.4	3 3.6	5.8
ウ	緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる	1 60.1	2 29.2	3 3.8	6.9
エ	緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている	1 55.2	2 32.3	3 5.1	7.5
オ	緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛（とうつう）の患者では中毒症状を起こさない	1 18.1	2 59.2	3 15.0	7.8
カ	緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない	1 38.3	2 49.0	3 6.1	6.6
キ	緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない	1 62.9	2 25.9	3 4.5	6.8
ク	現在の技術では、がんの痛みの９０％は薬剤によってコントロールできると言われている	1 38.0	2 50.1	3 5.4	6.5
ケ	緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、ＱＯＬ(※)は改善すると言われている	1 54.0	2 37.7	3 1.8	6.5

※ ＱＯＬ ⇒ Quality of Life（クォリティ・オヴ・ライフ）の略。生命、人生、生活の質を指す。いかに充実した生活が送れているかを示すもの。

問８　緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

以上、ご協力ありがとうございました。ご記入いただきました質問紙は、返信封筒（切手貼付済み）にてご投函くださいますようお願い致します。尚、質問紙も封筒も無記名で結構です。

Ⅳ　調 査 票（シンポジウム調査用）

［ 単純集計結果付 ］

一般市民を対象にした「緩和ケア」に関する認識度調査

質　問　紙（調査結果の%付）

－（シンポジウム参加者用）－

【ご記入に際してのお願い】

1）あなたご自身のことやお考えをお答えください。

2）ご記入は質問の番号にそってお願いします。

3）一部の方だけにお答えいただく質問もございますが、その場合は、(…の方に)
といった指示があります。

4）お答えはあてはまる番号に○印をつけてください。

5）「その他」に○をつけられた場合には、(　　）内に具体的にご記入ください。

6）ご記入は鉛筆または、黒・青のペン、ボールペンでお願いします。

7）記入上おわかりにならない点などがありましたら、ご遠慮なく会場内の係の者に
お尋ねください。

お手数をおかけいたしますが、ご記入いただきました質問紙は、封筒に入れて会場内の質問紙回収箱にご投函くださいますようお願いいたします。

※　nに表示のないところは　947（人）を基数とする。
但し、問 9-1、問 9-2 は、623（人）を基数とする。
※　数字は%である。

会場別で集計数(947 人)を見ると、以下の通りになる。		
10 月　26 日　東京ｳｨﾒﾝｽﾞﾌﾟﾗｻﾞ	114	
12 月　21 日　神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｽﾍﾟｰｽｼｱﾀｰ	172	
1 月　25 日　東京国際交流館	198	
2 月　　7 日　　沖縄ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	139	
11 月　　9 日　東京ﾋﾞｯｸﾞｻｲﾄ	324	（問 9-1 以降は無し）

厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業 Orange Balloon Project」
作業部会代表：内布敦子
（NPO 法人 日本緩和医療学会　理事）
（兵庫県立大学看護学部　教授）

最初に、あなたご自身のことについて、お尋ねします。

問１－１　〔ご 年 齢〕

□□ 歳

１０代	0.2	６０代	19.9
２０代	9.8	７０歳以上	13.1
３０代	17.8	無回答	4.1
４０代	18.6		
５０代	16.5		

問１－２　〔性　別〕

1	男　性	39.0	2　女　性	59.6	無回答　1.5

問１－３　〔お住まいの都道府県〕　あなたが、現在お住まいの都道府県はどちらになりますか。

（　　）都・道・府・県

北海道・東北	1.9	中国・四国	1.6
関東	62.7	九州・沖縄	9.9
中部・北陸	3.8	無回答	2.1
近畿	18.0		

問１－４　あなたは、がんを経験されたことはありますか。（**○は１つ**）

1	は　い	21.4	2　いいえ	76.6	無回答　2.0

補問１　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）　n=203

一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。（**○は１つ**）

1	６ヶ月未満	12.8			
2	６ヶ月以上１年未満	6.4			
3	１年以上３年未満	33.5			
4	３年以上５年未満	10.8			
5	５年以上	33.5			無回答　3.0

補問２　（問１－４で１「はい」をお選びの方に）　n=203

あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。（**○は１つ**）

1	は　い	14.3	2　いいえ	84.7	無回答　1.0

問１－５　あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。（**○は１つ**）

1	は　い	36.4	2　いいえ	54.4	無回答　9.2

問１－６　あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。（**○は１つ**）

1	は　い	26.3	2　いいえ	65.5	無回答　8.2

次に、あなたのご家族について、お尋ねします。

問２－１　あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。（○は１つ）

1	は　い	61.8	2　いいえ	35.9	無回答　2.3

補問１　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）　ｎ=585

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

回答計＝128.0

1	（あなたの）配偶者	19.8	5	（あなたの）孫	－
2	（あなたの）子ども	1.5	6	（あなたの）祖父母	22.7
3	（あなたの）親	55.6	7	その他	8.5
4	（あなたの）兄弟	18.3		無回答	1.5

補問２　（問２－１で１「はい」をお選びの方に）　ｎ=585

ご家族の方で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。（○は１つ）

1	は　い	34.9	2　いいえ	61.7	無回答　3.4

緩和ケアについて、お尋ねします。

問３－１　「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は１つ）

1	言葉を知っていて、その内容も知っている	55.3			
2	言葉は知っているが、その内容は知らない	30.1			
3	言葉もその内容も知らない	10.2		無回答	4.3

補問１　（問３－１で１「言葉を知っていて、その内容も知っている」、２「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に）　ｎ=809

「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになられましたか。（○は１つ）

1	インターネット	5.9	6	勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	20.4
2	新　聞	20.8	7	医療者	26.2
3	テレビ	9.5		（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）	
4	ラジオ	2.5	8	知　人	3.0
5	ポスターなどの掲示物	1.7	9	その他	7.9
				無回答	2.1

問３－２　「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。
「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（○は１つ）

1	がんの治療中から受ける	78.2	3	終末期になってから受ける	7.2
2	がんの治療が終わってから受ける	2.7	4	わからない	7.8
				無回答	4.0

問３－３　お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。（○は１つ）

1	はい	46.1	2	いいえ	52.3
				無回答	1.6

補問１　（問３－３で１「はい」をお選びの方に）　ｎ=437
「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（○はいくつでも）

回答計＝281.2

1	病院・診療所	68.4	4	在宅療養（往診、訪問看護）	52.6
2	緩和ケア病棟	74.4	5	医療機関であればどこでも	18.8
3	ホスピス	65.7	6	その他	0.9
				無回答	0.5

問３－４　あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は１つ）

1	周囲の人のほとんどが知っている	12.7	3	周囲の人のほとんどは知らない	35.3
2	周囲の人のいくらかは知っている	48.3		無回答	3.8

問３－５　あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。（○は１つ）

1	周囲に緩和ケアを受けた人がいる	24.7			
2	周囲に緩和ケアを受けた人がいない	39.1			
3	わからない	33.7		無回答	2.5

「緩和ケア」情報についてお尋ねします。

問４－１　あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何ですか。（○はいくつでも）

回答計＝480.1

1	がんの治療方法について	46.4			
2	がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報	60.4			
3	がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報	52.7			
4	不安などのこころの問題への対処法について	59.9			
5	医療用麻薬の効果や副作用について	45.3			
6	緩和ケアを受けられる施設について	59.0			
7	緩和ケア病棟の診療費や入院費について	55.0			
8	自宅での療養方法について	54.6			
9	地域の相談窓口について	41.6			
10	その他	2.0		無回答	3.3

問４－２　「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
（○はいくつでも）　　回答計＝375.7

1	身近な医療者（医師、看護師など）	59.5	7	ビデオ、ＤＶＤなどの動画映像	8.8
2	病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）	59.3	8	図書館	9.1
			9	書籍（雑誌含む）	25.8
3	インターネット	55.1	10	ポスターなどの掲示物	11.0
4	新　聞	36.6	11	自治体などの窓口や広報誌	22.0
5	テレビ	33.5	12	勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	42.3
6	ラジオ	10.0	13	その他　0.6	無回答　2.1

医療用麻薬という言葉についてお尋ねします。

問５－１　がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。（○は１つ）

1　は　い　86.7　　2　いいえ　11.8　　無回答　1.5

問５－２　あなたは、がんの痛みの９０％は医療用麻薬によって取ることができると言われていることをご存じですか。（○は１つ）

1　は　い　58.7　　2　いいえ　39.2　　無回答　2.1

問５－３　あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。
（○は１つ）

1	強い抵抗がある	3.5	3	あまり抵抗はない	27.0
2	やや抵抗がある	21.5	4	抵抗はない	45.8
				無回答	2.1

「オレンジバルーンプロジェクト（ Orange Balloon Project ）」という言葉についてお尋ねします。

問６－１　国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。（○は１つ）

1　は　い　30.1　　2　いいえ　68.5　　無回答　1.4

補問１　（問６－１で１「はい」をお選びの方に）　　ｎ＝ 285
「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになられましたか。
（○は１つ）

1	インターネット	12.3	6	勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	33.0
2	新　聞	6.0	7	医療者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）	18.9
3	テレビ	2.1			
4	ラジオ	6.0	8	知　人	3.5
5	ポスターなどの掲示物	14.0	9	その他　3.9	無回答　0.4

緩和ケアの考え方やイメージについてお尋ねします。

問７　次の「緩和ケア」について書かれている（ア）～（ケ）の各文章を読んで、あなたのお考えに近いものに○をお付けください。

（ア～ケまで、それぞれ○は１つずつ）

		正しいと思う	どちらともいえない	間違っていると思う	無回答
ア	緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する	1 91.4	2 5.0	3 0.1	3.5
イ	緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる	1 84.2	2 10.7	3 1.2	4.0
ウ	緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる	1 79.1	2 14.5	3 1.7	4.8
エ	緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている	1 72.7	2 19.9	3 2.4	5.1
オ	緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛（とうつう）の患者では中毒症状を起こさない	1 53.3	2 34.3	3 6.1	6.2
カ	緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない	1 63.5	2 27.9	3 3.6	5.1
キ	緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない	1 75.5	2 16.1	3 3.0	5.5
ク	現在の技術では、がんの痛みの９０％は薬剤によってコントロールできると言われている	1 62.4	2 28.4	3 3.5	5.7
ケ	緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、ＱＯＬ(※)は改善すると言われている	1 78.0	2 15.2	3 1.4	5.4

※ ＱＯＬ ⇒ Quality of Life（クォリティ・オヴ・ライフ）の略。生命、人生、生活の質を指す。いかに充実した生活が送れているかを示すもの。

問８　**緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。**

シンポジウムの感想についてお尋ねします。　　n＝ 623

問９－１　今回のシンポジウムの情報は、最初に何でお知りになられましたか。（**○は１つ**）

1	インターネット	14.4	5	チラシ（患者会からのお知らせを含む）	18.8
2	新　聞	16.7	6	知人からの口コミ	13.5
3	テレビ	0.3	7	その他	14.8
4	ラジオ	14.1		無回答	7.4

問９－２　今回参加されたシンポジウムはあなたの役に立ちましたか。（**○は１つ**）　　n＝ 623

1	大変役に立った	49.1	3	あまり役に立たなかった	1.8		
2	まあまあ役に立った	33.7	4	ほとんど役に立たなかった	0.3	無回答	15.1

補問１　（**問９－２で１「大変役に立った」、２「まあまあ役に立った」をお選びの方に**）

シンポジウムの内容で役立つ知識だと思うものは何ですか。（**○はいくつでも**）

※　シンポジウムの内容によっては提供していない項目もあります

n＝ 516　　**回答計＝252.3**

1	緩和ケアとはどのようなものか	65.1		
2	チーム医療	20.0		
3	在宅ケアの方法	15.5		
4	地域の医療連携体制	18.2		
5	症状（痛み、吐き気など）を和らげる方法	27.3		
6	コミュニケーションの方法	24.2		
7	こころのケア	42.1		
8	スピリチュアルケアの方法	24.2		
9	その他	10.1	無回答	5.6

問９－３　今回のシンポジウムに参加されてのご感想をお聞かせ下さい。

問９－４　今後、シンポジウムで取り上げて欲しいテーマがありましたらご記入下さい。

以上、ご協力ありがとうございました。ご記入いただきました質問紙は、封筒に入れて会場内の質問紙回収箱にご投函くださいますようお願いいたします。尚、質問紙も封筒も無記名で結構です。

V　2008年度メンバー紹介

作業部会メンバー

内布　敦子	（日本緩和医療学会）部会長
本家　好文	（日本緩和医療学会）
松島　たつ子	（日本ホスピス緩和ケア協会）
田村　恵子	（日本ホスピス緩和ケア協会）
高宮　有介	（日本死の臨床研究会）
蘆野　吉和	（日本ホスピス・在宅ケア研究会）
鈴木　志津枝	（日本がん看護学会）
荒尾　晴恵	（日本緩和医療学会）
川崎　優子	（日本緩和医療学会）事務局兼
成　松　恵	（日本緩和医療学会）事務局補佐

アドバイザー

江口　研二	（日本緩和医療学会理事長）
恒藤　暁	（日本緩和医療学会理事）
山崎　章郎	（日本ホスピス緩和ケア協会理事長）
渡辺　正	（日本死の臨床研究会世話人代表）
大頭　信義	（日本ホスピス・在宅ケア研究会理事長）
佐藤　禮子	（日本がん看護学会理事長）